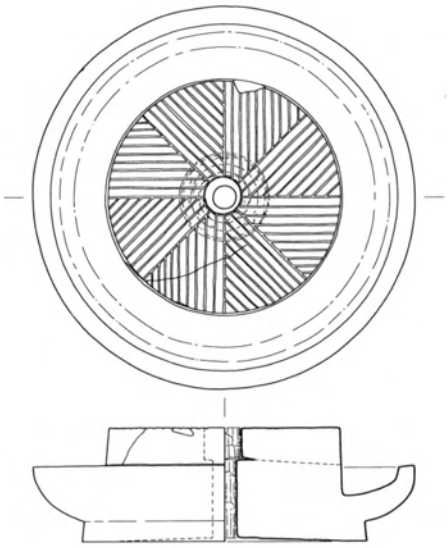
太宰府市の文化財第89集

大宰府条坊跡 31

—第233次調査—



平成18年

太宰府市教育委員会

○平成19年度発送報告書正誤表

■『大宰府条坊跡　31』太宰府市の文化財　第89集　正誤表

		誤	正
37頁	34行	同安窯系青磁Ⅰ－Ⅰb類	同安窯系青磁椀Ⅰ－1b類
44頁	14行	Ⅷ－1類の・・・・・・	Ⅷ類の・・・・・・・・
54頁	24行	灰釉陶器	青磁
54頁	28行	産地不明。	越州窯系青磁椀Ⅰ－2aエ類。

太宰府市の文化財第89集

大宰府条坊跡 31

—第233次調査—

平成18年

太宰府市教育委員会

序

本報告書は、平成16年度におこなった太宰府市五条２丁目における民間開発事業により埋蔵文化財発掘調査を実施した報告書であります。
今回報告する大宰府条坊跡233次調査地点は、平安時代と鎌倉時代からなる２つの異なる時代の生活面が重層的に検出され、各々から区画を示す溝跡や建物が確認され往時の本地域の都市的な様相を復原するために貴重な資料が得られました。

本書が、学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用されることを心より願います。

最後になりましたが、文化財に対しご理解頂きました皆様をはじめ、関係諸機関の皆様方に心よりお礼を申し上げます。

平成18年６月
太宰府市教育委員会
教育長　關　敏治

例　言

1．本書は、大宰府条坊跡第233次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．調査地点は太宰府市五条２丁目2724－30外５筆に所在し、調査対象面積は703.8㎡、調査面積は573.8㎡（文化層２面調査延べ1147.6㎡）である。調査は平成16年５月22日から10月27日にかけて実施した。

3．発掘調査は、太宰府市教育委員会の指導のもとに（株）玉川文化財研究所（所長　戸田哲也）が行った。

4．遺構の実測図作成および写真撮影は、北平朗久・香川達郎・中山豊が行い、調査地点の空中写真は、（有）空中写真企画が行った。

5．遺構実測の基準点は、国土調査法第Ⅱ座標系を基準としている。よって報告書に示す方位はすべて座標北（G.N）を指している。なお、現地周辺の磁北は座標北から６°30″西偏する。

6．本書に掲載した遺構番号は、以下の要領で理解される。なお、本書中では遺構略称の「条」を基本的に省略している。

条　233　ＳＥ　010

大宰府条坊跡　233次（調査次数）　遺構種別　遺構番号

7．報告書作成業務は、（株）玉川文化財研究所において行った。

8．遺物の実測・拓本は木村百合子・野木はる美・荒井陽子・唐原賢一・花本晶子が行い、遺物の写真撮影は赤間和重が行った。

9．本書の執筆は、戸田哲也の指導のもとに北平朗久・香川達郎が担当し、分担は以下のとおりである。
　北平朗久　第Ⅰ～Ⅴ章・第Ⅵ章第１節・第Ⅶ章
　香川達郎　第Ⅵ章第２節

10．写真図版（カラー）については付属のＣＤ－ＲＯＭに収容している。詳細はＣＤ－ＲＯＭ内のテキストデータ「ＣＤ－ＲＯＭをご使用にあたって」を参照のこと。

11．出土遺物および図面、写真等の記録類は太宰府市教育委員会が保管し、公開・活用していく予定である。

12．本報告書で用いた土器・陶磁器・瓦の分類基準は以下の文献に準拠した。また、陶磁器分類は山村信榮の指導のもとに香川達郎が行った。

土器・陶磁器・中世須恵器

太宰府市教育委員会　1983『大宰府条坊跡Ⅱ』

太宰府市教育委員会　1992『宮ノ本遺跡Ⅱ－窯跡篇－』

太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡XV』

日本中世土器研究会編　1995『概説中世の土器・陶磁器』

土師質・瓦質土器

山村信榮　1990「太宰府出土の瓦質土器」『中近世土器の基礎研究Ⅵ』日本中世土器研究会

瓦

石松好雄・高橋　章　1978「大宰府出土の瓦について（二）」『九州歴史資料館　研究論集４』

山村信榮　2004「宝満山出土の瓦分類について」『宝満山遺跡群４』

大宰府土器型式と国産陶器・貿易陶磁器編年

▲出現 ▮増加 ▽減少　　2005.5補訂

紀年銘	AD	大宰府土器形式	磁器区分	国産陶器型式（型式の上限）灰釉（猿投）	灰釉（美濃）	緑釉	標識磁器	準標識磁器
⑥	800	Ⅴ	(A古)	折戸O-10		長門？・畿内	白磁Ⅰ類 越州窯系青磁Ⅰ，Ⅱ類 長沙窯系青磁・黄釉 褐彩・褐釉	唐三彩・二彩 絞胎
	825	Ⅵ A		井ヶ谷1 G-78		長門・洛北・洛西・黒笹K-14？		
	850	Ⅵ B		黒笹K-14・黒笹K-90		洛西 黒笹K-90？		
		Ⅶ	A		光ヶ丘1号			青磁褐彩・褐釉 初期イスラム陶器
	900	Ⅷ						
①	925		(A新)	折戸O-53	大原2号			
	950	Ⅸ			虎溪山1号	近江		
	1000	Ⅹ	B	東山H-72	丸石2号 明和27号		越州窯系青磁Ⅲ類 白磁XI類	
	1050	XI		百代寺				
②	1100	XII A		東山HG-105			白磁椀Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ1～3，VI，XII，XIII類 皿Ⅱ，Ⅳ，Ⅴ，VI，VII類	初期龍泉窯系・同安窯系青磁0類 耀州窯系青磁 初期高麗青磁Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ類 青白磁
		XII B	C					白磁鉢Ⅲ類，椀XIV類
		XIII						
	1150	XIV					龍泉窯系青磁椀Ⅰ-1～4，6 皿1類 同安窯系青磁椀Ⅰ～Ⅳ，皿1	白磁椀VII，Ⅴ-4，皿III類増加
	1200	XV	D					白磁椀VII，皿VII-1類
		XVI	E				龍泉窯系青磁椀Ⅱ-a，b類	白磁皿VII-2類
③	1230	XVII					龍泉窯系青磁Ⅲ類 白磁IX類	
⑨	1250	XVIII	F					龍泉窯系青磁椀Ⅱ-c類 白磁X類 黒釉陶器
④	1300	XIX						
⑤	1330						龍泉窯系青磁IV類	
	1350	XX	G					白磁B，C類 安南鉄絵
⑦	1450							
⑧	1500							

紀年銘資料

① AD.927　延長５年，大宰府74次ＳＤ205Ａ溝
② AD.1091　寛治５年，平安京左京４条１坊ＳＥ８井戸
③ AD.1224　貞応３年，大宰府33次ＳＤ605溝
④ AD.1304　嘉元２年，大宰府109.111次ＳＤ3200溝
⑤ AD.1330　元徳２年，大宰府45次ＳＸ1200池
⑥ AD.784　延暦３年，長岡京102次ＳＤ10201溝
⑦ AD.1459・1465　長禄３・寛正５年，福岡市井相田ＣⅡ・ＳＧ16池
⑧ AD.1501　文亀元年，大宰府70次ＳＤ1805溝
⑨ AD.1265　文永２年，博多62次713土壙

文献

① 九州歴史資料館「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
② 田辺昭三・吉川義彦「平安京跡発掘調査報告書左京四条一坊」1975 平安京調査会
③ 九州歴史資料館「大宰府史跡昭和49年度発掘調査概報」1975
④ 九州歴史資料館「大宰府史跡昭和63年度発掘調査概報」1989
⑤ 九州歴史資料館「大宰府史跡昭和52年度発掘調査概報」1978
⑥ 長岡京市埋蔵文化財センター「長岡京市埋蔵文化財調査報告書第１集」1988
⑦ 福岡市教育委員会「井相田Ｃ遺跡Ⅱ」『福岡市埋蔵文化財調査報告書179』1988
⑧ 九州歴史資料館「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
⑨ 福岡市教育委員会「博多48」『福岡市埋蔵文化財調査報告書397』1995

目　次

Ⅰ．位置と環境 …… 1

Ⅱ．調査組織 …… 2

Ⅲ．調査経緯 …… 4

Ⅳ．調査方法 …… 4

Ⅴ．層　位 …… 4

Ⅵ．調査の概要 …… 17
1．遺　構 …… 17
1）溝 …… 17
2）井　戸 …… 20
3）掘立柱建物 …… 28
4）柵　列 …… 31
5）土　坑 …… 33
6）その他の遺構 …… 35
a）たまり状遺構 …… 35
b）小　穴 …… 36
c）不明遺構 …… 36
2．遺　物 …… 37
1）溝出土遺物 …… 37
2）井戸出土遺物 …… 55
3）掘立柱建物出土遺物 …… 66
4）土坑出土遺物 …… 66
5）その他の遺構出土遺物 …… 76
a）たまり状遺構 …… 76
b）小　穴 …… 82
c）不明遺構 …… 82
6）その他の遺物 …… 82

Ⅶ．小　結 …… 84

遺構番号台帳 …… 88
土師器計測表 …… 92
出土遺物一覧表 …… 106

報告書抄録 …… 巻末

Ⅰ．位置と環境

太宰府市は福岡平野の南東部に位置し、北に大野山を抱える四王寺山脈、東に愛獄山、宝満山などの三郡山地の山々が連なり、西には背振山地とその前山となる牛頸山、天拝山、基山などの低い山地が控える。その両山系に囲まれた狭い盆地状の小平野で、南東は筑紫平野と接している。

市内には大佐野川、鷺田川、御笠川が流れ、牛頸川などの幾つかの河川と合流しながら福岡平野を北流し、博多湾に注いでいる。

太宰府市は、古代の外交・軍事機能をもった官衙「大宰府」が置かれた地として知られる。市域とその周辺には、天智２年（663）白村江での敗戦により唐・新羅の侵攻に備えて水城、大野城、基肄城などの軍事防衛施設が築かれ、７世紀末から８世紀初頭には古代の西海道九国二島を統括する地方最大の官衙となり、条坊制を有する古代都市へと発展した。

大宰府条坊跡は、鏡山猛氏の『大宰府都城の研究』（1968）によって存在が指摘され、条坊復元案の提示により世に知られることとなった。その規模は南北二十二条（約2.4km）、東西十二坊（約2.6km）におよび、現在の太宰府市と筑紫野市にまたがっている。

大宰府政庁および大宰府条坊は、７世紀後半代に掘立柱形式の第Ⅰ期政庁が成立し、８世紀前半に朝堂院形式の第Ⅱ期政庁に改められる。政庁は天慶４年（941）の藤原純友の乱によって焼け落ち、その後、第Ⅲ期政庁として再建された。現在、地表に露出している礎石は第Ⅲ期政庁時のものと画期が示されている。第Ⅲ期政庁も11世紀中頃には機能を停止し、条坊の中央から西側は荒廃し、中世以降、都市としての機能は条坊左郭の観世音寺周辺や天満宮安楽寺周辺へと移行することが発掘調査から明らかになりつつある。

今回の調査地は鏡山条坊復元案によると左郭７条９坊にあたる。御笠川上流域左岸の河成低位段丘Ⅱ面に立地し、標高は現地表面で約38.7mを測る。調査区の南側では昭和53年に九州歴史資料館により調査が実施されており、鎌倉時代の溝などが検出され、東側の隣接地は大宰府条坊跡第157次調査として平成６年度に太宰府市教育委員会により調査が行われ、条坊関連の道路遺構、鎌倉時代の所産と推定される掘立柱建物、井戸、溝、土坑などが検出されている。

当該地が含まれる五条地区は、古くからの史料・伝承も多く、今川了俊居館跡の伝承地が調査地点西側に隣接し、中世都市の中枢の一画と推定されている。今回の調査では２面の生活面が確認され、平安～鎌倉時代の掘立柱建物、柵列、溝、井戸、土坑などが検出された。これらの遺構は、比較的良好な遺存状態で発見され、太宰府の古代から中世を理解する上で新たな資料が追加されたことは大きな成果と考える。

Ⅱ. 調 査 組 織

太宰府市教育委員会調査組織

（平成16／2004年度）

総括	教育長	關　敏治
庶務	教育部長	松永栄人
	文化財課長	木村和美
	保護活用係長	久保山元信
	調査係長	永尾彰朗
	事務主査	藤井泰人（～6月30日）
		齋藤実貴男（7月1日～）
	主任主事	大石敬介
調査	主任主査	城戸康利
	技術主査	山村信榮（調査担当）
		中島恒次郎（事前審査担当）
	主任技師	井上信正
		高橋　学
		宮崎亮一
	技師（嘱託）	下川可容子
		森田レイ子
		柳　智子
		渡邊　仁
		長　直信
		松浦　智

（平成17／2005年度）

総括	教育長	關　敏治
庶務	教育部長	松永栄人
	文化財課長	木村和美（～6月30日）
		齋藤廣之（7月1日～）
	保護活用係長	久保山元信
	調査係長	永尾彰朗
	主任主査	齋藤実貴男
	事務主査	大石敬介
調査	主任主査	城戸康利
		山村信榮（整理担当）
		中島恒次郎
	技術主査	井上信正
	主任技師	高橋　学
		宮崎亮一

	技師（嘱託）	下川可容子
		柳　智子
		長　直信
		松浦　智

（平成18／2006年度）

総括	教育長	關　敏治
庶務	教育部長	松永栄人
	文化財課長	齋藤廣之
	保護活用係長	久保山元信
	調査係長	永尾彰朗
	主任主査	齋藤実貴男
	事務主査	大石敬介
調査	主任主査	城戸康利
		山村信榮（整理担当）
		中島恒次郎
	技術主査	井上信正
	主任技師	高橋　学
		宮崎亮一
	技師（嘱託）	柳　智子
		下高大輔

（株）玉川文化財研究所調査組織

所長	戸田哲也
調査研究部長	河合英夫
主任研究員	小山裕之
主任研究員	中山　豊
主任研究員	北平朗久（調査・整理担当）
主任研究員	香川達郎（調査・整理担当）

Ⅲ．調 査 経 緯

今回の調査は、太宰府市五条２丁目2724－30外５筆に計画された共同住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。当該地は太宰府条坊跡内に所在し、昭和53年度に九州歴史資料館により調査が実施され、鎌倉時代の遺構が検出されていたことから、太宰府条坊跡第233次調査として本格調査が行われる運びとなった。調査の具体化に伴い、太宰府市教育委員会から株式会社玉川文化財研究所に発掘調査・整理報告業務の委託がなされた。調査対象面積は703.8㎡、調査面積は文化層２面の調査で延べ1147.6㎡である。調査は平成16年５月22日から10月27日の期間で実施され、その後整理報告に移行した。

Ⅳ．調 査 方 法

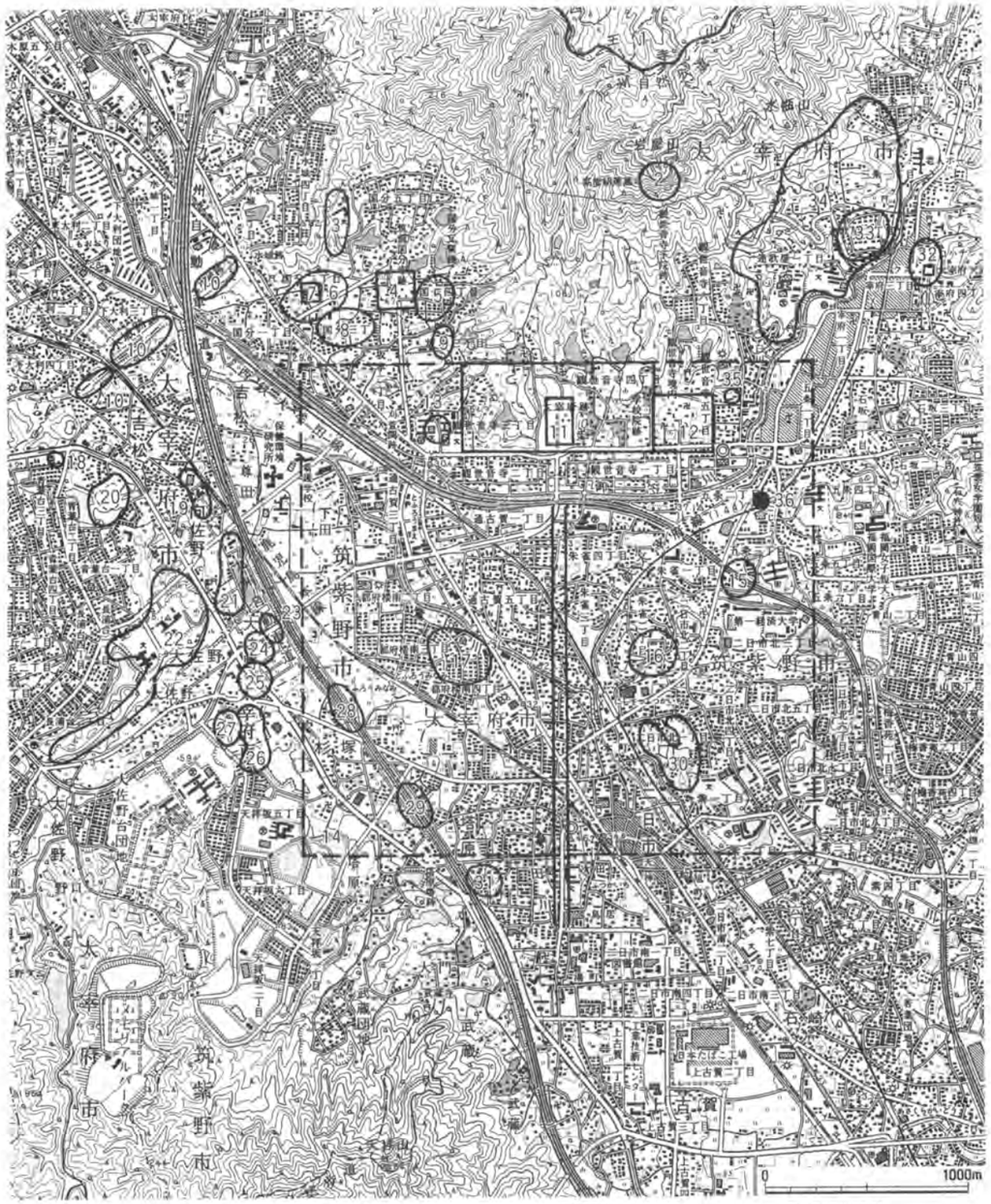
今回の調査地点は県道筑紫野・古賀線と西鉄太宰府線に挟まれ、西鉄五条駅のホームに隣接することから、安全対策として調査区域にガードフェンスを設置した。また安全面を考慮し、セットバックを充分にとり、壁面の崩落防止などを考えて調査区の壁は傾斜をつけて掘削した。

平成16年５月25日から表土剥ぎを開始し、遺構確認面（地表下1.7～2.0m）まで重機を用いることとした。また、調査の効率化を図るため、発生した土砂は搬出した。重機での作業が終了した時点で、調査区内に３m方眼を基本とするグリッドの設定と遺構の検出作業を行い、その後遺構検出写真撮影と縮尺1/100の略測図を作成し、記載済みの遺構から順次、掘削作業を開始した。遺物は土層ごとに取り上げを行い、遺構の完掘後に写真撮影と縮尺1/20の遺構全体図を作成した。遺構の状況によって適宜縮尺1/20の個別図も作成し、10月６日には上空からの全体写真撮影を実施している。

第Ⅰ面の調査が終了した10月13日に再び重機を搬入して整地層の掘削を開始した。第Ⅱ面も第Ⅰ面と同様に略測図、遺構全体図、個別図などの作成と写真撮影を行い、10月22日から埋め戻し作業を開始し、10月27日の重機搬出をもって現地におけるすべての作業を完了している。

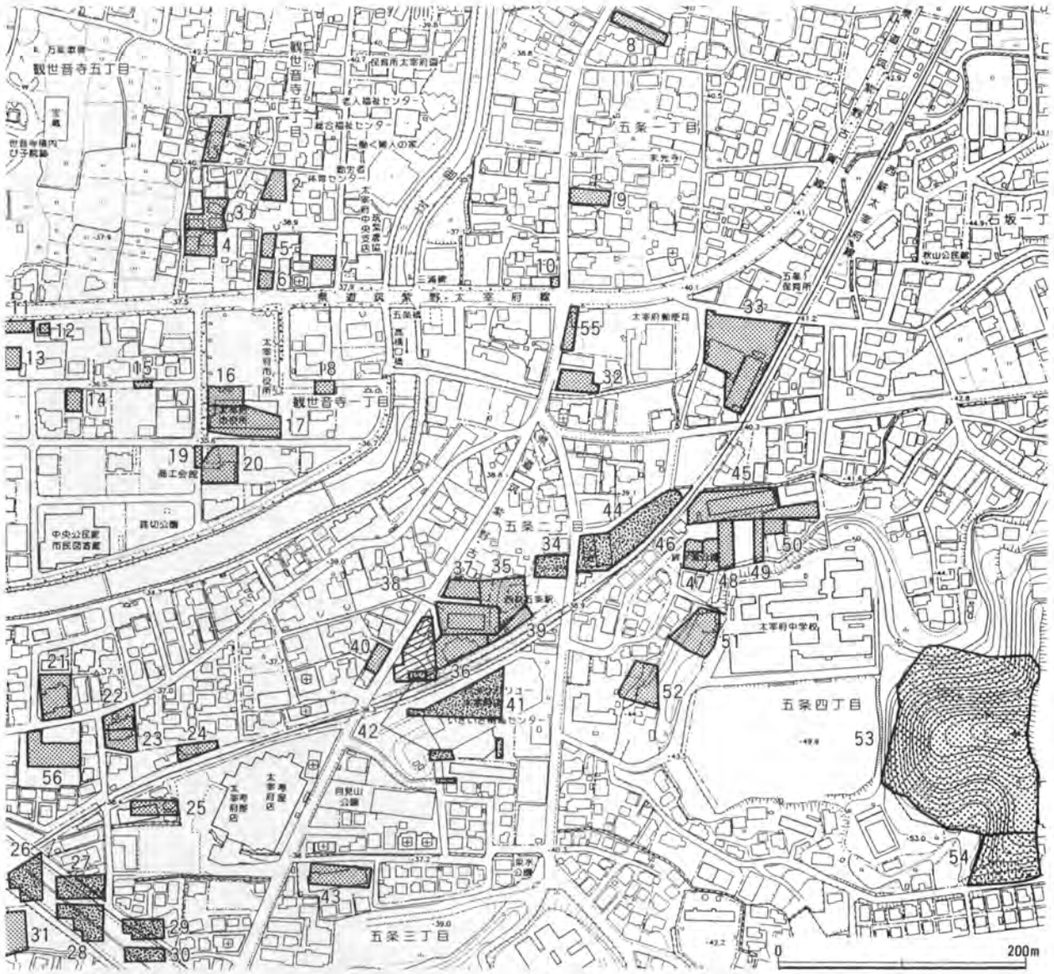
Ⅴ．層　　位

今回の調査区は御笠川左岸の氾濫低地に立地するが、現在では盛土されて平坦にならされている。盛土は黄褐色土（２層）で、層厚は1.7～2.0mを測る。それを除去すると昭和の後半まで耕作が行われていたと考えられる水田層の暗灰色土（３層）・暗茶色土（４層）・茶色土（５層）が現れ、層厚は10～40cmを測る。その下面からは褐色土（60・61層）の整地層と黄褐色土（65層）・暗黄褐色砂・暗灰褐色砂・褐色砂・灰褐色砂礫の地山層が確認され、この面が遺構検出面の第Ⅰ面である。褐色土（整地層）は調査区の中央から南側に分布し、黄褐色土・暗褐色砂・暗灰色砂（地山層）は調査区の北側と南西隅で確認されている。整地層を剥がすと、北側で観察された黄褐色土（地山層）が確認され、この面を遺構検出面の第Ⅱ面とした。さらにその下には御笠川の氾濫に起因すると推定される砂礫層（灰褐色砂礫・灰色砂礫・暗灰褐色砂礫・褐色砂礫）が確認され、井戸の掘り方の下位には橙色粘土層（風化花崗岩）が観察されている。



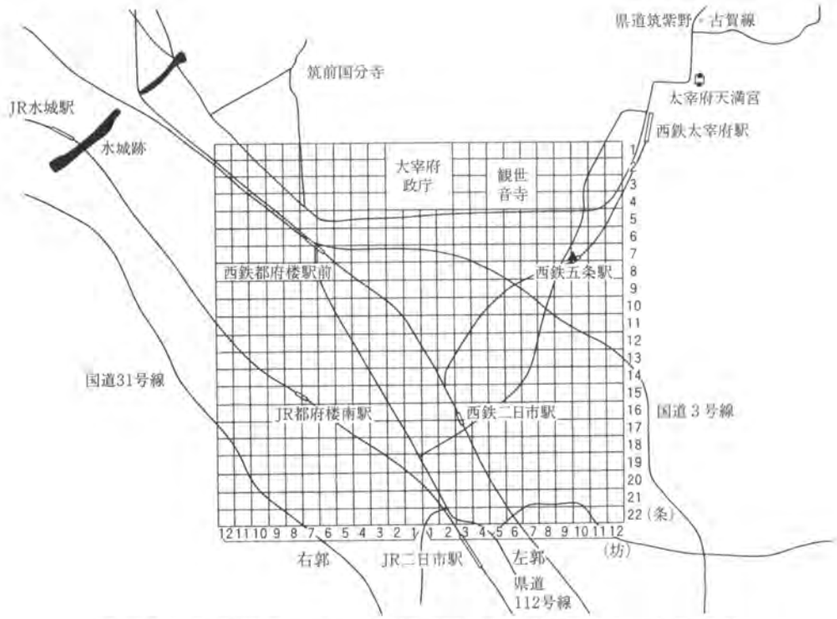
1．大野城跡
2．岩屋城跡
3．陣ノ尾・妙見遺跡
4．筑前国分寺跡
5．辻遺跡
6．国分松本遺跡
7．筑前国分尼寺跡
8．国分千足町遺跡
9．御笠団印出土地
10．水城跡
11．大宰府政庁跡
12．観世音寺
13．遠賀団印出土地
14．大宰府条坊跡（破線内）
15．君畑遺跡
16．般若寺跡
17．市ノ上遺跡
18．神ノ前窯跡
19．原口遺跡
20．篠振遺跡
21．前田遺跡
22．宮ノ本遺跡
23．雛川遺跡
24．フケ遺跡
25．尾崎遺跡
26．脇道遺跡
27．殿城戸遺跡
28．剣塚遺跡
29．唐人塚遺跡
30．峯遺跡
31．桶田山遺跡
32．太宰府天満宮（安楽寺跡）
33．浦城跡
34．原遺跡
35．大宰府条坊跡第244次調査
36．大宰府条坊跡第233次調査

第１図　太宰府市とその周辺の遺跡（1/30,000）

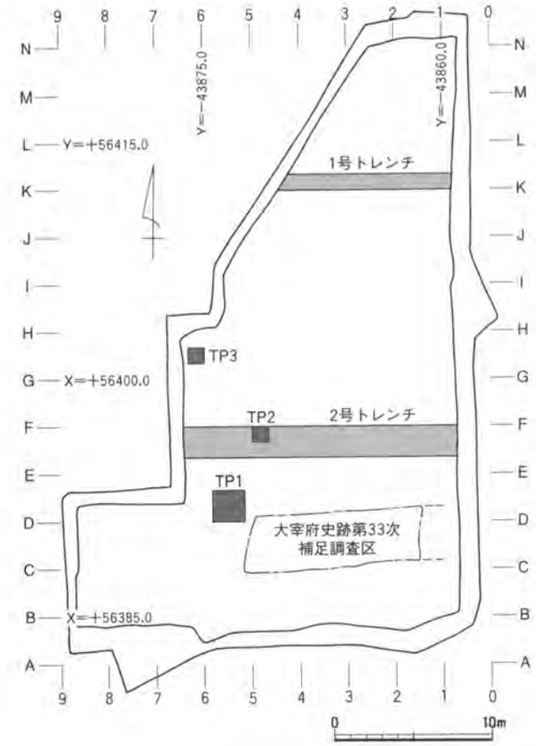


第２図　報告調査地と周辺遺跡（1/5,000）

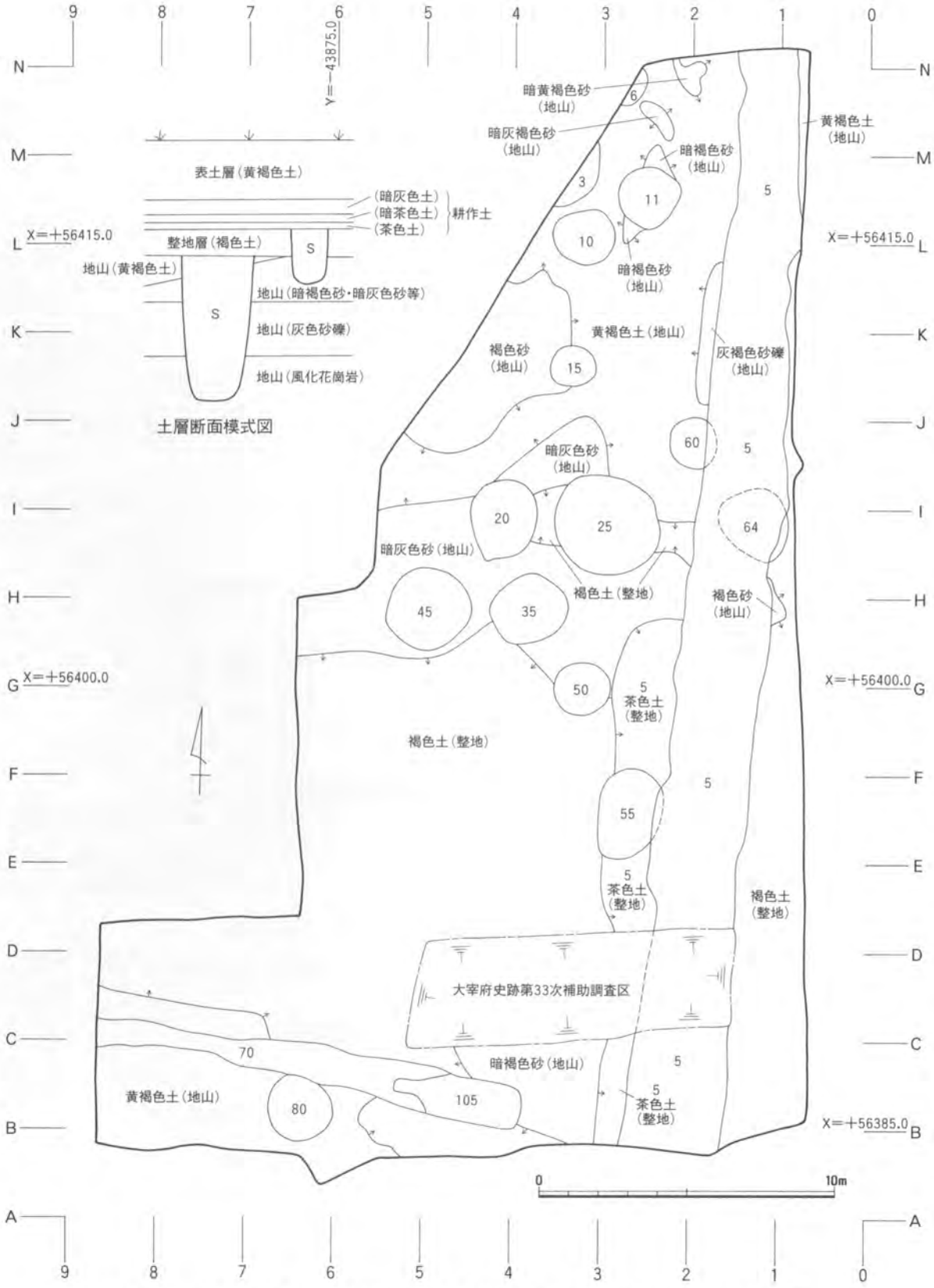
番号	調査遺構名	調査次数	掲載文献
1	大宰府条坊跡	55	太宰府市教育委員会2002『大宰府条坊跡XIX』
2	大宰府条坊跡	52	未報告
3	大宰府条坊跡	140	未報告
4	大宰府条坊跡	83	未報告
5	大宰府条坊跡	169	未報告
6	大宰府条坊跡	51	太宰府市教育委員会2002『大宰府条坊跡XIX』
7	大宰府条坊跡	159	未報告
8	大宰府条坊跡	100	未報告
9	大宰府条坊跡	105	未報告
10	大宰府条坊跡	78	未報告
11	大宰府史跡	39-1	九州歴史資料館1976『大宰府史跡-昭和50年度発掘調査概報-』
12	大宰府史跡	38	九州歴史資料館1974『大宰府史跡-昭和48年度発掘調査概報-』
13	大宰府条坊跡	14	太宰府市教育委員会1983『大宰府条坊跡Ⅱ』
14	大宰府条坊跡	79	未報告
15	大宰府条坊跡	12	太宰府市教育委員会1983『大宰府条坊跡Ⅱ』
16	大宰府条坊跡	35-2	未報告
17	大宰府条坊跡	35-1	未報告
18	大宰府条坊跡	11-2	太宰府市教育委員会1983『大宰府条坊跡Ⅱ』
19	大宰府条坊跡	11-1	太宰府市教育委員会1983『大宰府条坊跡Ⅱ』
20	大宰府条坊跡	42	未報告
21	大宰府条坊跡	46	未報告
22	大宰府条坊跡	147	未報告
23	大宰府条坊跡	125	未報告
24	大宰府条坊跡	130	未報告
25	大宰府条坊跡	57	未報告
26	福岡南バイパス遺跡	2	福岡県教育委員会『福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書』第8集
27	福岡南バイパス遺跡	5	福岡県教育委員会『福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書』第2集
28	福岡南バイパス遺跡	6	福岡県教育委員会『福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書』第6集
29	福岡南バイパス遺跡	3	福岡県教育委員会『福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書』第3集
30	福岡南バイパス遺跡	4	福岡県教育委員会『福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書』第3集
31	大宰府条坊跡	102	未報告
32	大宰府条坊跡	217	未報告
33	大宰府条坊跡	137	未報告
34	大宰府条坊跡	156	太宰府市教育委員会2002『大宰府条坊跡21』
35	大宰府条坊跡	158	太宰府市教育委員会2002『大宰府条坊跡21』
36	大宰府条坊跡	157	太宰府市教育委員会2002『大宰府条坊跡21』
37	大宰府条坊跡	163	未報告
38	大宰府条坊跡	37	未報告
39	大宰府条坊跡	138	太宰府市教育委員会1994『大宰府条坊跡VI』
40	大宰府条坊跡	116	未報告
41	大宰府史跡	33	九州歴史資料館1975『大宰府史跡-昭和49年度発掘調査概報-』
42	大宰府史跡	33補	九州歴史資料館1979『大宰府史跡-昭和53年度発掘調査概報-』
43	大宰府条坊跡	41	未報告
44	大宰府史跡	40	九州歴史資料館1976『大宰府史跡-昭和50年度発掘調査概報-』
45	大宰府条坊跡	47	太宰府市教育委員会2001『大宰府条坊跡XVII』
46	大宰府条坊跡	213	太宰府市教育委員会2001『大宰府条坊跡XVI』
47	大宰府条坊跡	111	太宰府市教育委員会2001『大宰府条坊跡XVI』
48	大宰府条坊跡	208	太宰府市教育委員会2001『大宰府条坊跡XVI』
49	大宰府条坊跡	204	太宰府市教育委員会2001『大宰府条坊跡XVI』
50	大宰府条坊跡	197	太宰府市教育委員会2001『大宰府条坊跡XVI』
51	大宰府条坊跡	132	未報告
52	大宰府条坊跡	131	未報告
53	五条遺跡	2	未報告
54	五条遺跡	1	太宰府市教育委員会1994『高雄地区遺跡群』
55	大宰府条坊跡	224	未報告
56	大宰府条坊跡	233	未書掲載



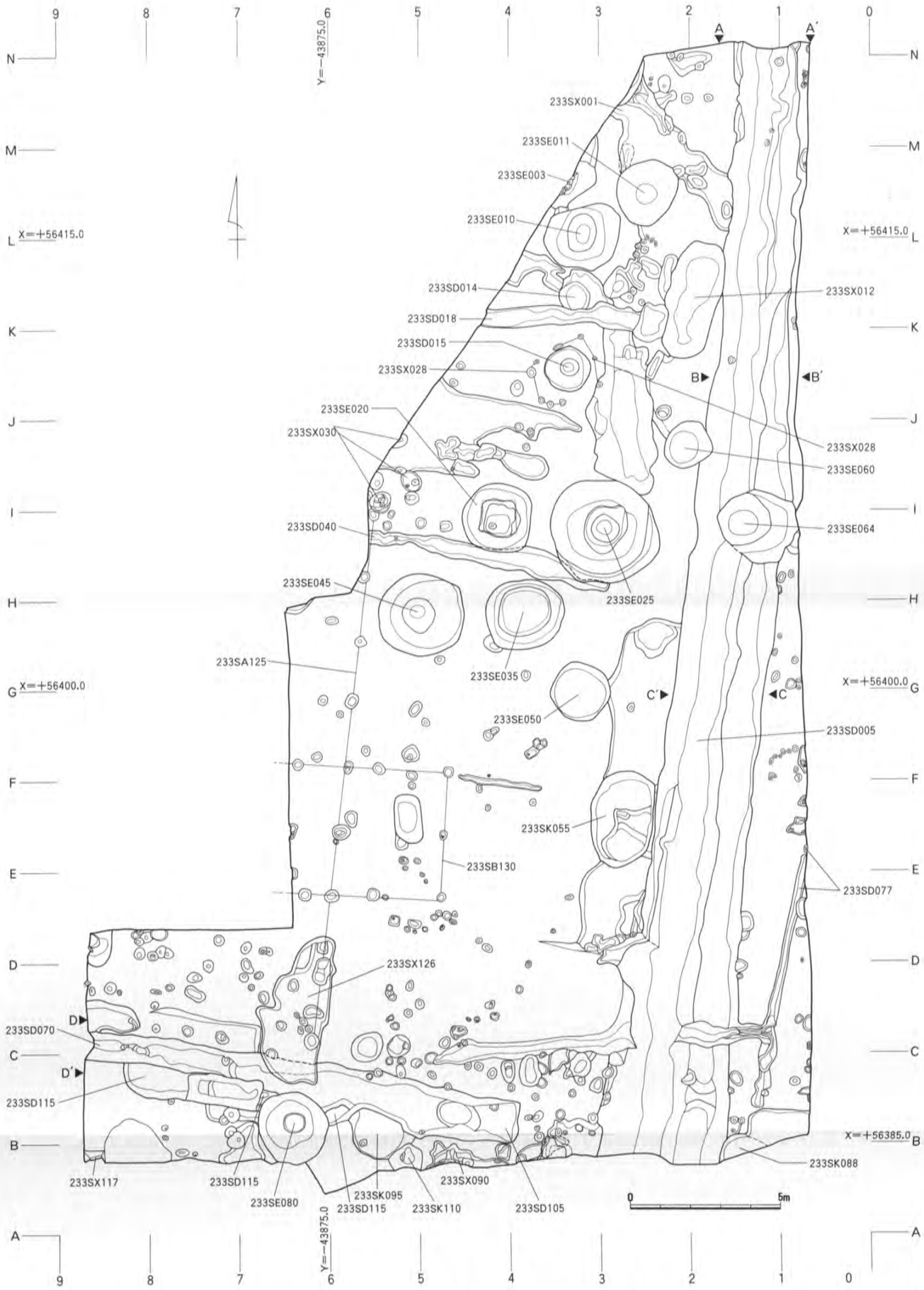
第３図　調査地点概念図（1/40,000　条坊は鏡山案　▲調査地）



第４図　大宰府条坊跡第233次調査試掘調査位置図（1/400）



第５図　大宰府条坊跡第233次調査土壌分布図（1/200）および土層模式図

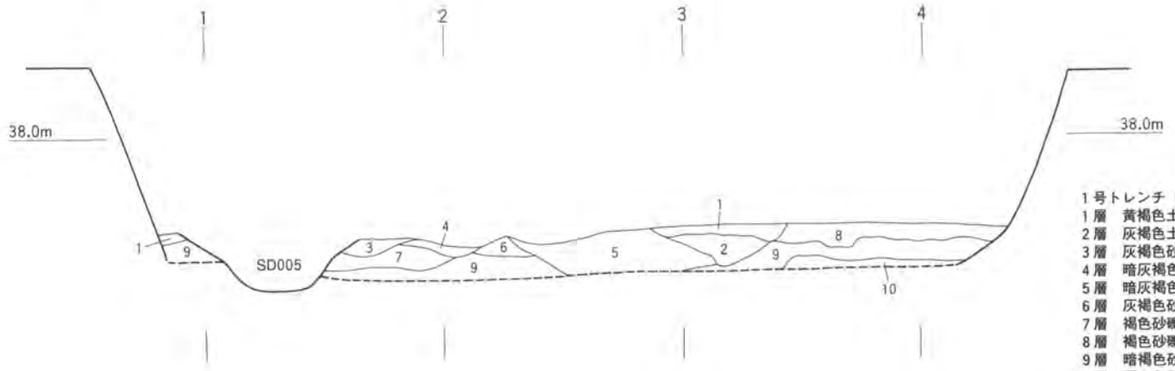


※▶◀のA—A′～C—C′は233SD005（第10図）、D—D′は233SD070（第11図）の土層断面図の位置を示す。

第６図　大宰府条坊跡第233次調査第Ⅰ面遺構全体図（1/150）

第７図　大宰府条坊跡第233次調査第Ⅱ面遺構全体図（1/150）

1号トレンチ（Kライン）



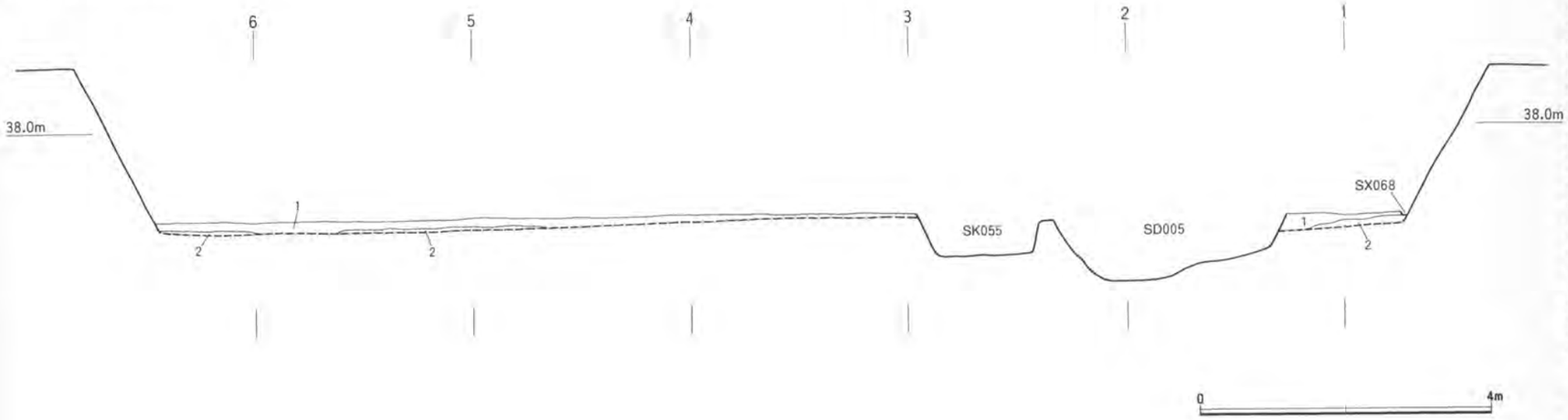
1号トレンチ（第8図）

1層	黄褐色土	地山層（粒径5㎜の礫を少量、斑紋状の酸化鉄を含む）。
2層	灰褐色土	地山層（1層に類似。酸化鉄を含まない）。
3層	灰褐色砂礫	地山層（砂5：礫5）。
4層	暗灰褐色砂礫	地山層（砂7：礫3）。
5層	暗灰褐色砂	地山層（暗褐色砂と灰褐色砂の混合）。
6層	灰褐色砂	地山層（斑紋状に暗褐色砂が混じる）。
7層	褐色砂礫	地山層（砂7：礫3）。
8層	褐色砂礫	地山層（砂5：礫5）。
9層	暗褐色砂礫	地山層（礫6：砂4）。
10層	灰白色砂	地山層（粒径5～20㎜の礫を少量含む）。

2号トレンチ（第8図）

1層	褐色土	整地層（斑紋状の酸化鉄を微量含む）。
2層	黄褐色土	地山層（粒径5㎜の礫を少量、斑紋状の酸化鉄を含む）。

2号トレンチ（Fライン）



調査区東壁・南壁（第9図）

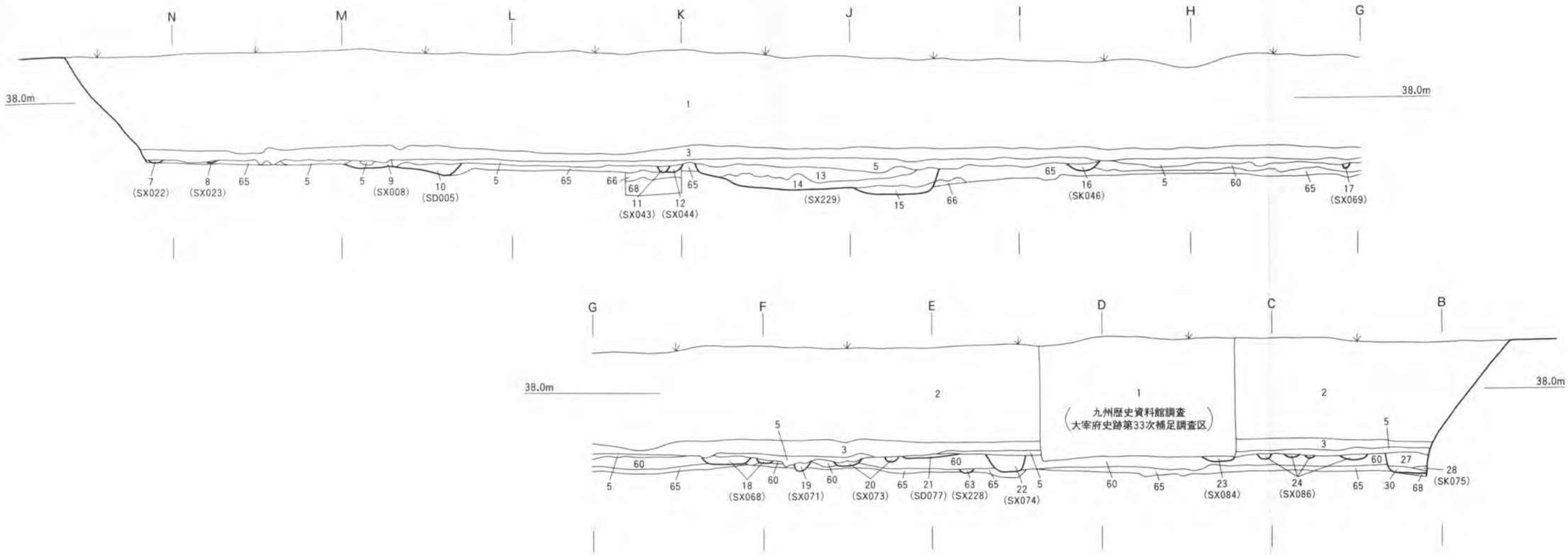
1層	黄褐色土	九州歴史資料館調査大宰府史跡第33次補足調査区。
2層	黄褐色土	表土層。真砂土主体の埋め土。
3層	暗灰色土	耕作土。
4層	暗茶色土	2層に類似。酸化し、茶色味がかる。（3・4層耕作土）
5層	茶色土	全体に酸化鉄が沈着。（水田田床）
6層	暗茶褐色土	粒径5㎜の炭化物を微量含む。粘性が強いが、粒子は粗い。
7層	暗茶色土	粒径3～5㎜の炭化物を微量含む。（233SX022）
8層	暗灰色土	粒径5㎜の炭化物を微量含む。（233SX023）
9層	暗褐色土	粒径3～5㎜の炭化物を微量含む。（233SX008）
10層	暗褐色土	酸化鉄を少量、粒径3～5㎜の礫を多く含む。（233SD005）
11層	暗灰褐色土	粒径3～5㎜の炭化物を微量含む。（233SX043）
12層	暗褐色土	粒径3～5㎜の炭化物を微量含む。（233SX044）
13層	暗褐色土	粒径3～5㎜の炭化物を微量、粒径3～5㎜の礫を少量含む。
14層	暗黄褐色土	粒径3～5㎜の礫を少量、黄褐色粘質土を多量含む。
15層	暗褐色土	粒径3～5㎜の礫・黄褐色粘質土を中量含む。（13～15層233SX229）
16層	暗茶褐色土	粒径1～3㎜の炭化物を微量、粒径3～5㎜の礫を少量含む。（233SK046）
17層	灰褐色土	粒径1～3㎜の炭化物・粒径3～5㎜の礫を微量含む。（233SX069）
18層	暗灰褐色土	粒径1～3㎜の炭化物・粒径3～5㎜の礫を少量含む。（233SX068）
19層	暗褐色土	粒径1～3㎜の炭化物を微量、粒径3～5㎜の礫を少量含む。（233SX071）
20層	暗灰褐色土	粒径1～3㎜の炭化物・粒径3～5㎜の礫を微量含む。（233SX073）
21層	暗灰褐色土	粒径1～3㎜の炭化物を微量、粒径3～5㎜の礫を少量含む。（233SD077）
22層	暗褐色土	粒径1～3㎜の炭化物・粒径3～5㎜の礫を少量含む。（233SX074）
23層	灰褐色土	粒径1～3㎜の炭化物・粒径3～5㎜の礫を微量含む。（233SX084）
24層	黒褐色土	粒径1～3㎜の炭化物・粒径3～5㎜の礫を微量含む。（233SX086）
25層	暗灰褐色土	粒径1㎜の炭化物・粒径5㎜の礫を少量含む。
26層	暗灰色土	シルト質。粒径5㎜の炭化物を微量含む。（25・26層233SK088）
27層	暗褐色土	粒径5㎜の炭化物を微量、粒径5㎜の礫を多く含む。
28層	黒褐色土	炭化物主体層。
29層	褐色土	粒径10㎜の炭化物を少量、粒径5㎜の礫を多く含む。
30層	暗灰色土	粒径10㎜の炭化物を微量含む。（27～30層233SK075）
31層	灰色土	粒径5㎜の礫を多く含む。
32層	暗褐色土	粒径3～5㎜の炭化物を少量、灰白色粘質土を中量含む。（233SX117）
33層	暗灰色土	粒径10㎜の炭化物を微量含み、遺物を多量包含。
34層	黒褐色土	粒径20㎜の炭化物を多く含み、遺物を多量包含。
35層	灰色土	粒径5㎜の炭化物・塊状の黄褐色土を微量含む。（33～35層233SK110）
36層	暗灰色土	粒径10㎜の炭化物を微量含み、遺物を多量包含。
37層	黒褐色土	粒径20㎜の炭化物を多く含み、遺物を多量包含。
38層	灰色土	粒径5㎜の炭化物・塊状の黄褐色土を微量含む。（36～38層233SX090）
39層	暗灰色土	粒径5～20㎜の炭化物を少量、塊状の茶色土を微量含む。（233SX146）
40層	暗褐色土	粒径5㎜の炭化物・粒径10㎜の礫を少量含む。
41層	暗灰褐色土	層下位に粒径100㎜の礫を多く含む。
42層	暗茶色土	粒径5㎜の礫を少量含む。（40～42層233SX145）
43層	灰色土	粒径2㎜の炭化物を微量含み、粒子が緻密。（233SX159）
44層	明灰色土	粒径10㎜の灰色土を塊状に含む。（233SX161）
45層	灰色土	粒径5㎜の炭化物を微量含む。
46層	灰色土	粒径20㎜の礫を少量含み、全体的に砂質である。
47層	暗灰色土	粒径3㎜の炭化物を微量含み、粘性・締まりが強い。
48層	灰色砂	層下位を中心に粒径4～15㎜の礫を多く含む。
49層	茶色土	粒径4㎜の黄褐色粘土塊を微量含む。
50層	黄褐色土	黄褐色粘土塊を多量含む。
51層	暗褐色土	粒径5㎜の炭化物を微量含む。
52層	茶色土	粒径5㎜の炭化物を微量含む。
53層	暗茶色土	粒径5㎜の炭化物を微量、粒径2㎜の酸化鉄を多量含む。
54層	茶褐色土	粒径20㎜の黒色土・黄褐色土を塊状に多量含む。
55層	暗灰色土	粒径20㎜の酸化鉄を少量含む。
56層	灰色粘土	管状の酸化鉄を少量含む。
57層	明灰色粘土	管状の酸化鉄を多く含む。
58層	暗灰色粘土	粘性・締まりが強い。
59層	黒灰色土	斑紋状の黄褐色粘土を中量含む。（45～59層233SD005）
60層	褐色土	整地層（斑紋状の酸化鉄を微量含む）。
61層	褐色土	整地層。
62層	暗褐色土	粒径5㎜の炭化物を微量含む。（233SX222）
63層	暗褐色土	粒径1～5㎜の炭化物を微量含む。（233SX228）
64層	暗褐色土	粒径5㎜の炭化物を微量含む。（233SX094）
65層	黄褐色土	地山層（斑紋状に酸化鉄を含む）。
66層	黄褐色土	地山層（粒径5㎜の礫を少量、斑紋状の酸化鉄を含む）。
67層	黄褐色土	地山層。
68層	褐色砂礫	地山層（砂7：礫3）。

233SD005の遺物取り上げ土層

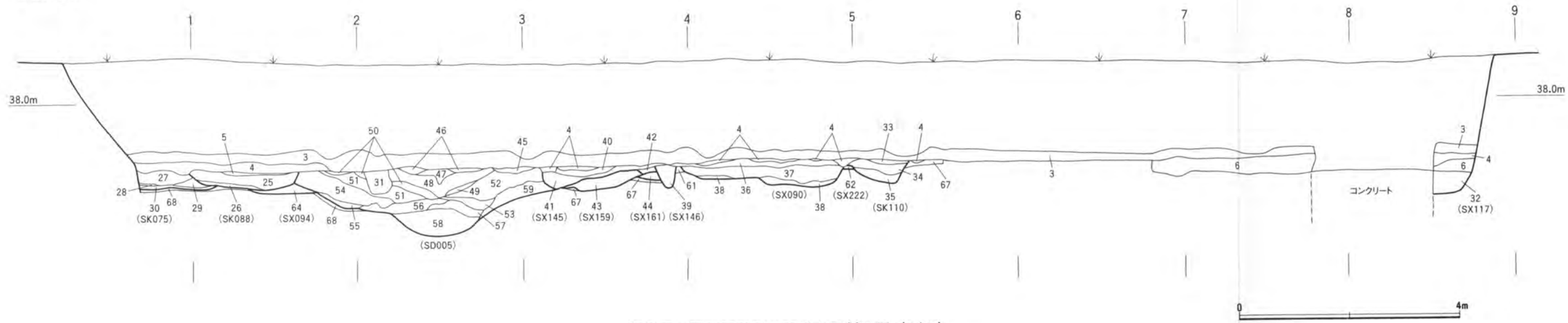
45～47層	明灰色土
48層	灰色砂
49～51層	明茶色土
52～55層	茶色土
56～59層	暗灰色粘土

第8図　1・2号トレンチ土層断面図（1/80）

調査区東壁



調査区南壁



第９図　調査区東壁・南壁土層断面図（1/80）

Ⅵ. 調査の概要

1．遺　構

今回の調査では２面の生活面が確認され、第Ⅰ面からは溝７条、掘立柱建物１棟、柵列１列、井戸12基、土坑19基、たまり状遺構、小穴群、第Ⅱ面からは溝３条、掘立柱建物２棟、柵列１列、土坑３基、たまり状遺構、小穴群が検出されている。

1）溝

233SD005（第６・10図、図版３）

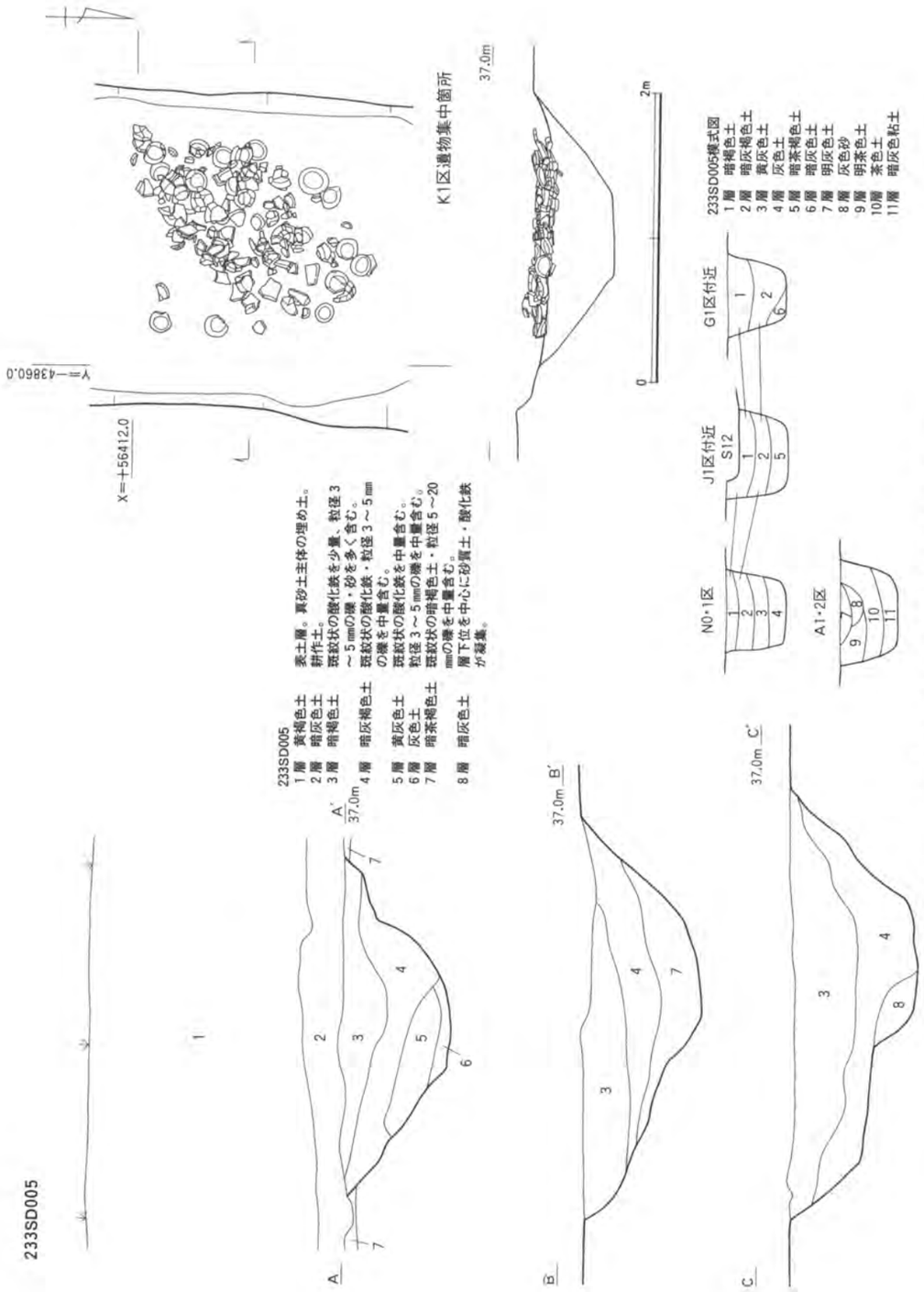
調査区第Ⅰ面の東端に位置し、Ａ１・２区からＮ０・１区にかけて南北に走る。両端とも調査区外に展開し、井戸（233SE060・064）を壊して構築されているが、土坑（233SK037・055）、たまり状遺構（233SX012・036・094）、小穴（233SX027・089・092・093・096）に切られている。最終的に検出された範囲は、長さ37.3m、幅1.8～3.5m、深さ75～120cmを測り、走向は中軸線でN－6°－Eを指針する。底面（中軸線上）の標高は北端（Ｎ０・１区）で36.27m、中央（Ｇ１区）で35.93m、南端（Ａ１・２区）で35.64mを測り、南側に傾斜している。断面は逆台形を基本形とするが、部分的にテラス状の平坦面を有する。覆土は北側の上・中層は暗褐色土と暗灰褐色土で形成されているが、下層は黄灰色土・灰色土・暗茶褐色土・暗灰色土に分かれ、若干の相違が認められる。南側では上層から明灰色土・灰色砂・明茶色土・茶色土・暗灰色粘土が観察され、北側とは異なる様相を呈している。また、Ｄ・Ｅ２区付近では上層の暗灰褐色土と下層の暗茶褐色土の間に炭化物・焼土を含む黒褐色土が堆積している。Ｋ１区の覆土上層（暗褐色土）からは一箇所に集中して廃棄された遺物が出土している。本遺構が切る井戸（233SE064）が12世紀中頃までの遺物を含むことから、構築はそれ以降であり、出土遺物の様相から、13世紀中頃～14世紀前半（大宰府XⅦ～XX期）頃の埋没と考えられる。

233SD018（第６図）

調査区第Ⅰ面の北側に位置し、Ｊ２区からＫ４区にかけて東西に走る。たまり状遺構（233SX033・034）を壊して構築されているが、土坑（233SK014）、たまり状遺構（233SX012）に切られている。東側は遺構間の重複により消失し、西側は調査区外に展開している。最終的に検出された範囲は、長さ5.65m、幅45～85cm、深さは３～19cmを測り、走向は中軸線でN－87°－Wを指針する。底面（中軸線上）の標高は東端で36.72m、西端では36.84mを測り、わずかに東側に傾斜している。覆土は暗灰褐色土で構成され、出土遺物の様相から、大宰府陶磁器編年（以降略）のF期（13世紀前後～14世紀初頭、大宰府XⅦ～XIX期）頃の埋没と考えられる。

233SD040（第６図）

調査区第Ⅰ面のほぼ中央に位置し、Ｈ２区からＨ５区にかけて東西に走る。井戸（233SE020・025）に北側の一部を壊され、東側は途切れ、西側は調査区外に展開している。最終的に検出された範囲は、長さ8.2m、幅20～98cm、深さは２～10cmを測り、走向は中軸線でN－77°－Wを指針する。底面（中軸線上）の標高は東端で36.7m、西端では36.82mを測り、わずかに東側に傾斜している。覆土は黒褐色土で構成され、出土遺物は僅少で、埋没時期は井戸（233SE020）に先行する平安後期か。



第10図　233SD005土層断面・遺物集中箇所実測図（1/40）

233SD070（第６・11図、図版３）

調査区第Ⅰ面の南側に位置し、Ｂ４区からＣ８区にかけて東西に走る。溝(233SD115)を壊して構築されているが、井戸（233SE080）、溝（233SD105・120）、土坑（233SK095）、たまり状遺構（233SX118・126）、小穴および小穴群（233SX123・133・162・166）に切られている。東側は遺構間の重複により消失し、西側は調査区外に展開する。最終的に検出された範囲は、長さ12.2m、幅85～150㎝、深さは30～55㎝を測り、走向は中軸線でN－78°－Wを指針する。底面（中軸線上）の標高は東端で36.32m、西端では36.21mを測り、わずかに西側に傾斜している。断面形は逆台形を呈する。覆土は下層から灰褐色土→暗褐色土→黒褐色土の順に堆積し、出土遺物の様相から、C期（11世紀後半～12世紀前半、大宰府XII～XIII期）以降の埋没と考えられる。

233SD077（第６図）

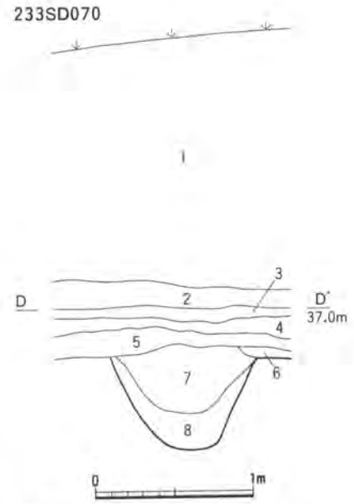
調査区第Ⅰ面南東側のＣ１区からＤ０区にかけておおむね南北に走り、小穴（233SX074・076）に切られている。北端は調査区外に展開し、南端は途切れている。最終的に検出された範囲は、長さ6.15m、幅20～35㎝、深さは３～11㎝を測り、走向は中軸線でN－12°－Eを指針する。底面（中軸線上）の標高は北端で36.7m、南端では36.69mを測り、高低差はほとんど無い。断面形はU字形を呈する。覆土は暗灰褐色土で構成され、出土遺物は僅少であるが、土師器供膳具の底部には糸切り調整が施されることから、12世紀中頃（大宰府XIV期）以降の埋没と考えられる。

233SD105（第６図）

調査区第Ⅰ面の南側に位置し、Ｂ４区からＢ５区にかけて東西に走る。溝（233SD070・120）、土坑（233SK100）、小穴（233SX221）を壊して構築されているが、土坑（233SK095）、小穴（233SX149）に切られている。両端とも途切れ、規模は全長4.75m、幅135～165㎝、深さは５～36㎝を測り、走向は中軸線でN－83°－Wを指針する。底面（中軸線上）の標高は東端で36.68m、西端では36.51mを測り、わずかに西側に傾斜している。断面形は逆台形を呈する。覆土は下層から灰褐色土→暗褐色土の順に堆積し、出土遺物の様相から、E期（13世紀前後～前半、大宰府XVI～XVII期）以降の埋没と考えられる。また、本遺構は前述の溝（233SD070）の延長上に位置することから、同一遺構の可能性も考えられる。

233SD115（第６図、図版３）

調査区第Ⅱ面の南側に位置し、Ｂ５区からＢ８区にかけて東西に走る。他遺構との重複関係では本遺構が最も古く、溝（233SD070）、井戸（233SE080）、土坑（233SK095）、たまり状遺構（233SX134）、小穴群（233SX127）に切られ、北壁は遺存していない。両端とも途切れ、最終的に検出された範囲は、遺構間の重複で途切れるが現存長８m、現存幅70～110㎝、深さは７～45㎝を測る。走向は中軸線でN－



233SD070
1層 黄褐色土 表土層。真砂土主体の埋め土。
2層 暗灰色土 耕作土。
3層 茶色土 全体に酸化鉄が沈着。（水田田床）
4層 暗褐色土 粒径３～８㎜の礫を含み、粒子が粗い。
5層 暗褐色土 塊状の灰白色土を少量含み、締まりが強い。
6層 黒褐色土 焼土・炭化物粒子を微量、粒径３～５㎜の礫を中量含む。（233SX118）
7層 黒褐色土 粒径３～10㎜の炭化物少量、粒径５～20㎜の焼土・粒径３～10㎜の礫を中量含む。
8層 暗褐色土 斑紋状の灰白色土を中量含む。

第11図　233SD070土層断面実測図（1/40）

79°－Wを指針する。底面（中軸線上）の標高は東端で36.47m、西端では36.62mを測り、東側に傾斜している。覆土は下層から灰白色土→灰褐色土の順に堆積し、出土遺物の様相から、B期（10世紀後半～11世紀初頭、大宰府Ⅹ～Ⅺ期）頃の埋没と考えられる。

233SD120（第６図）

調査区第Ⅰ面の南側に位置し、Ｂ５区から検出された。溝（233SD070）を壊して構築されているが、溝（233SD105）、土坑（233SK095）、小穴（233SX162）に切られている。溝（233SD105）とほぼ重なり、同一遺構の可能性もある。両端とも途切れ、規模は全長3.75m、幅55～155cm、深さは29～53cmを測り、走向は中軸線でN－83°－Wを指針する。底面（中軸線上）の標高は東端で36.32m、西端では36.35mを測り、高低差はほとんど無い。断面形は逆台形を呈する。覆土は暗灰色土で構成されるが、前述の溝（233SD105）と平面形がほぼ一致することから同一遺構の可能性が考えられる。遺構間の重複関係および出土遺物の様相から、E期（13世紀前後～前半、大宰府XⅥ～XⅦ期）頃の埋没と考えられる。

2）井　戸

今回の調査で検出された井戸は12基で、すべて第Ⅰ面から発見された。その中で、石組井戸が２基（233SE011・015）、井戸枠および井戸枠痕跡が確認されたものが６基（233SE020・025・035・045・050・080）で、残りの４基（233SE003・010・060・064）については、井戸枠は確認されず、形態や規模等から井戸と推定している。調査区の中央から北側にかけて主に分布し、南側からは１基（233SE080）が確認されたのみである。また、北端の１基（233SE003）は調査区の制約から全容は捉えきれていない。

233SE003（第６・12図）

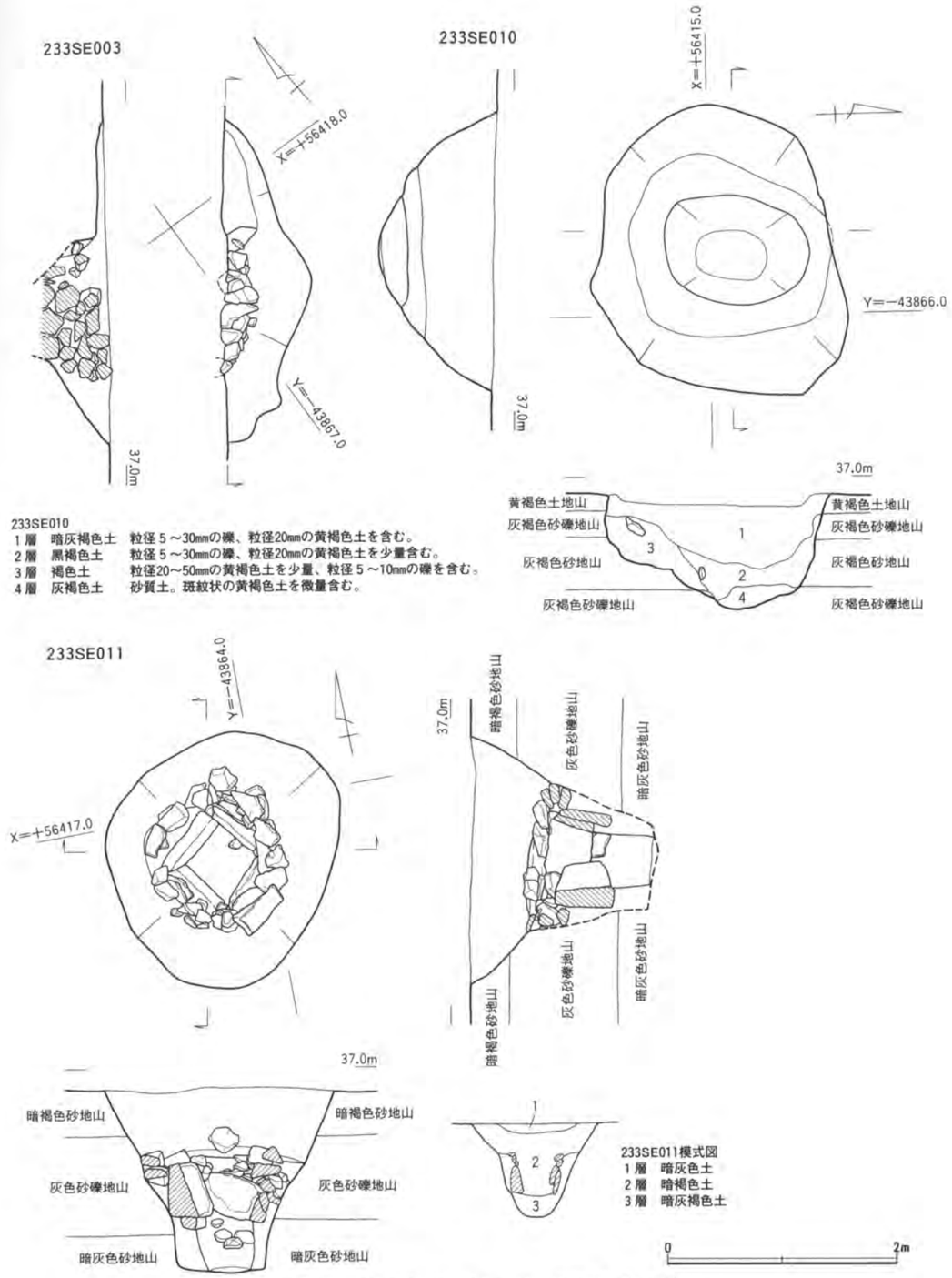
調査区北端のＬ３区から検出され、小穴（233SX017）を切って構築されている。北西側の大半は調査区外に展開し、全容は不明であるが、掘り方の平面形態と礫の出土状態からここでは井戸（石組）として扱うことにした。掘り方の平面形は楕円形と推定されるが、規模は不明である。覆土は上層から暗褐色土→褐色土の順に堆積している。出土遺物は僅少であるが、供膳具の底部調整において糸切り、ヘラ切りの両者が混在することから、12世紀中頃（大宰府XⅣ期）以降の埋没と想定した。

233SE010（第６・12図）

調査区北側のＫ・Ｌ２・３区から検出され、小穴（233SX017）を切って構築されている。掘り方の平面形は不整楕円形を呈し、規模は長径（東西）2.5m、短径（南北）2.2m、深さは1.0mを測る。覆土は上層から暗灰褐色土→黒褐色土→褐色土→灰褐色土の順に堆積するが、井戸枠の痕跡は認められなかった。最深部の地山層は灰褐色砂礫である。出土遺物の様相から、11世紀前後～12世紀前半（大宰府Ⅹ期～XⅢ期）頃の埋没と考えられる。

233SE011（第６・12図、図版４）

調査区北側のＬ２区から検出され、たまり状遺構（233SX016）、小穴（233SX024・026）を切って構築されているが、上面の一部はたまり状遺構（233SX001）に覆われていた。掘り方の平面形は楕円形を呈し、規模は長径（北東－南西）2.2m、短径（北西－南東）1.95m、深さは1.6mほどを測る。井戸枠は石組で、開口部は楕円形を呈し、規模は長径100cm、短径80cmを測り、拳大から人頭大の花崗岩で乱



第12図　233SE003・010・011実測図（1/50）

石積みされる。下段は断面を長方形に加工した花崗岩の切石を用い方形に組み上げられ、長軸48cm、短軸43cm、深さは最上段から最大113cmを測る。井戸枠内の覆土は上層から暗灰色土→暗褐色土→暗灰褐色土の順に堆積し、裏込めは井戸枠内の最下層と近似した暗灰褐色土が充填されている。最深部の地山層は暗灰色砂である。出土遺物の様相から、11世紀前後（大宰府Ｘ期）頃の埋没と考えられる。

233SE015（第６・13図、図版４）

調査区の北側に位置し、Ｊ３区から検出された。掘り方の平面形は略円形を呈し、規模は径約1.5m、深さは1.5mほどを測る。井戸枠は石組で、開口部径は約80cmを測り、拳大の花崗岩で乱石積みされる。中～下段は断面を長方形に加工した花崗岩の切石を２～３段方形に積み上げ、長軸52cm、短軸48cmを測る。深さは最上段から145cmほどである。井戸枠内の覆土は上層から暗褐色土→褐色土→暗黄褐色土→茶色土→灰色砂の順に堆積し、裏込めは上層から暗黄褐色土→褐色土→暗茶色土が充填されている。最深部の地山層は灰色砂礫である。出土遺物の様相から、Ｅ期（13世紀前後～前半、大宰府ⅩⅥ～ⅩⅦ期）頃の埋没と考えられる。また、後述する小穴群（233ＳＸ028）は本遺構を取り囲むように検出されたことから上屋施設に関わる遺構であった可能性が指摘される。

233SE020（第６・13図、図版４・５）

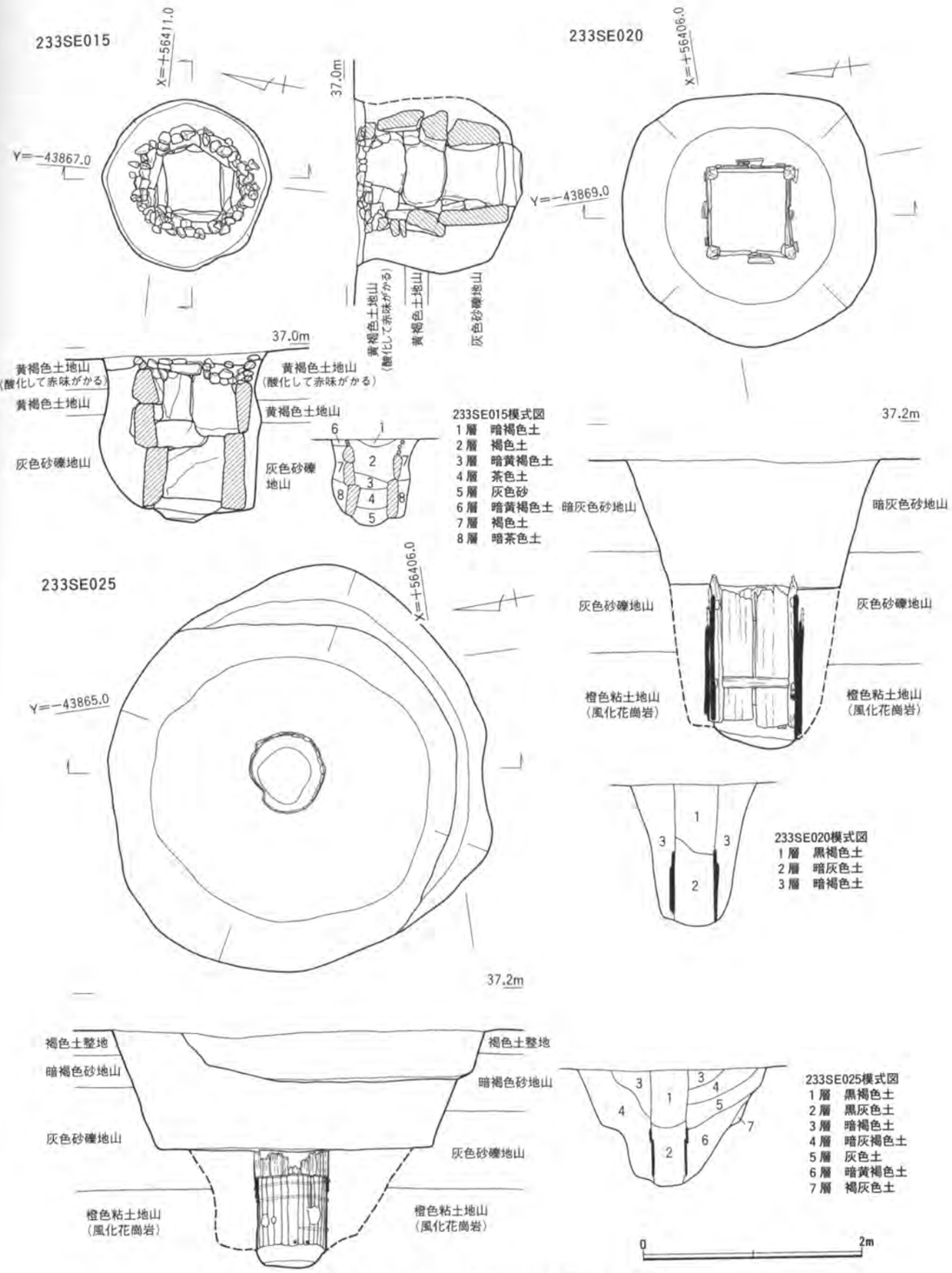
調査区ほぼ中央のＨ・Ｉ３・４区から検出され、溝（233SD040）を切って構築されている。掘り方は径約2.3mの略円形を呈し、深さは2.6mほどを測る。井戸枠は方形を呈し、四隅に柱を立て、横桟を渡し枠組を作り、各辺に３枚の縦板を張り付けている。規模は一辺約70cm、枠材の残存長は約130cmを測る。井戸枠内の覆土は上層から黒褐色土→暗灰色土の順に堆積し、裏込めは暗褐色土が充填されている。最深部の地山層は橙色粘土（風化花崗岩）である。出土遺物の様相から、11世紀前後（大宰府Ｘ期）頃の埋没と考えられる。

233SE025（第６・13図、図版５）

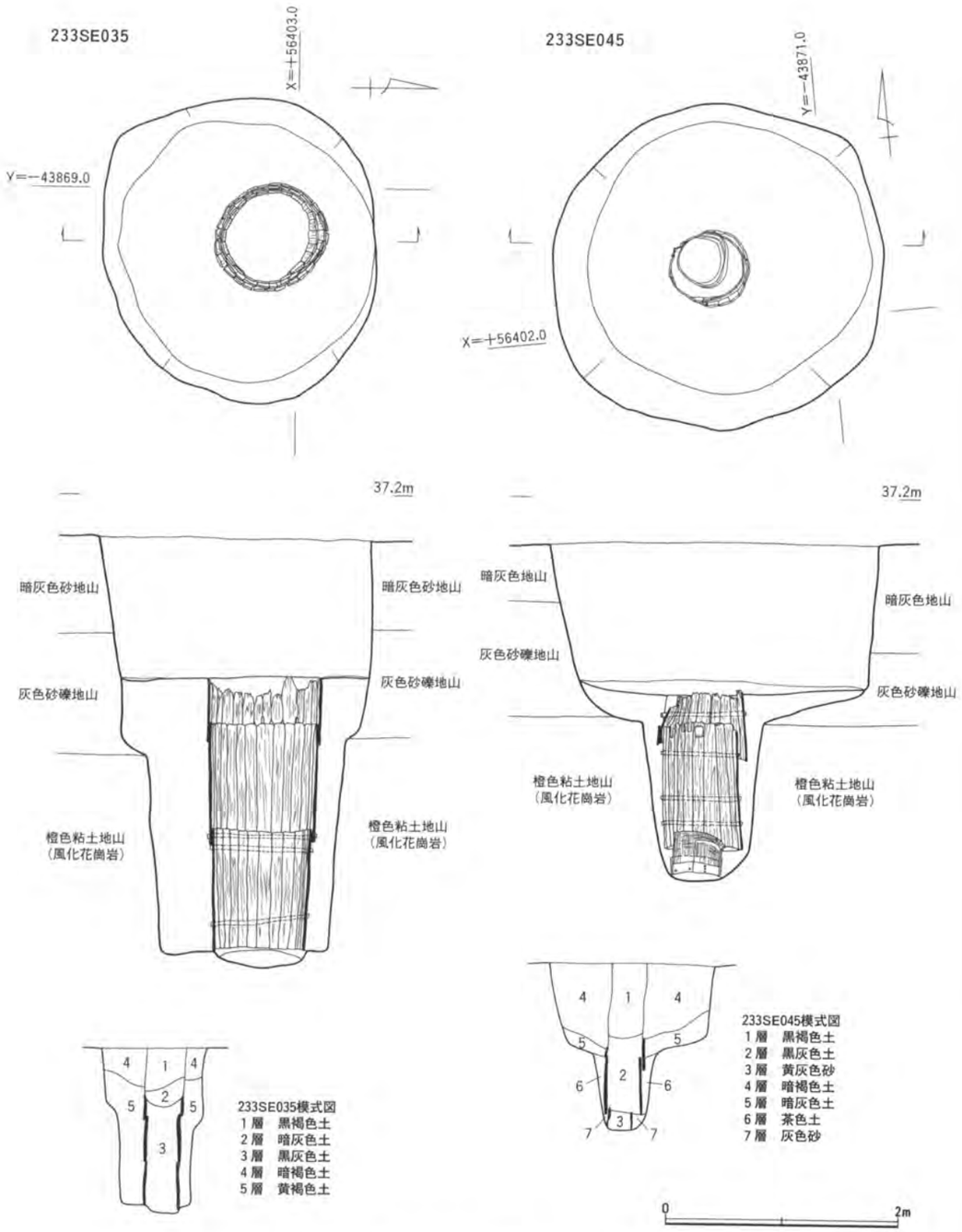
調査区ほぼ中央のＨ・Ｉ２・３区から検出され、溝（233SD040）、たまり状遺構（233ＳＸ033）を切って構築されている。掘り方の平面形は楕円形を呈し、規模は長径（北西－南東）3.8m、短径（北東－南西）3.6m、深さは2.15mほどを測る。枠材は円筒形の結物で２段が確認され、１・２段目とも28枚の板材で構成されている。一部が歪むが、径約72cm、残存高は約90cmを測る。井戸枠内の覆土は上層から黒褐色土→黒灰色土の順に堆積し、裏込めは上層から暗褐色土→暗灰褐色土→灰色土→暗黄褐色土→褐灰色土が充填されている。最深部の地山層は橙色粘土（風化花崗岩）である。出土遺物の様相から、14世紀前半～後半（大宰府ⅩⅩ期）以降の埋没と考えられる。

233SE035（第６・14図、図版６）

調査区ほぼ中央のＧ・Ｈ３・４区から検出され、土坑（233SK101）を切って構築されている。掘り方の平面形は楕円形を呈し、規模は長径（東西）2.6m、短径（南北）2.38m、深さは3.7mほどを測る。井戸枠はやや北側に寄った位置から検出された。枠材は円筒形の結物で３段が確認され、上段が28枚、中段が25枚、下段が23枚の板材で構成されている。径約95cm、残存高は約235cmを測る。井戸枠内の覆土は上層から黒褐色土→暗灰色土→黒灰色土の順に堆積し、裏込めは上層から暗褐色土→黄褐色土が充填されている。最深部の地山層は橙色粘土（風化花崗岩）である。出土遺物の様相から、Ｆ期（13世紀前後～14世紀前半（大宰府ⅩⅦ～ⅩⅨ期）頃の埋没と考えられる。



第13図　233SE015・020・025実測図（1/50）



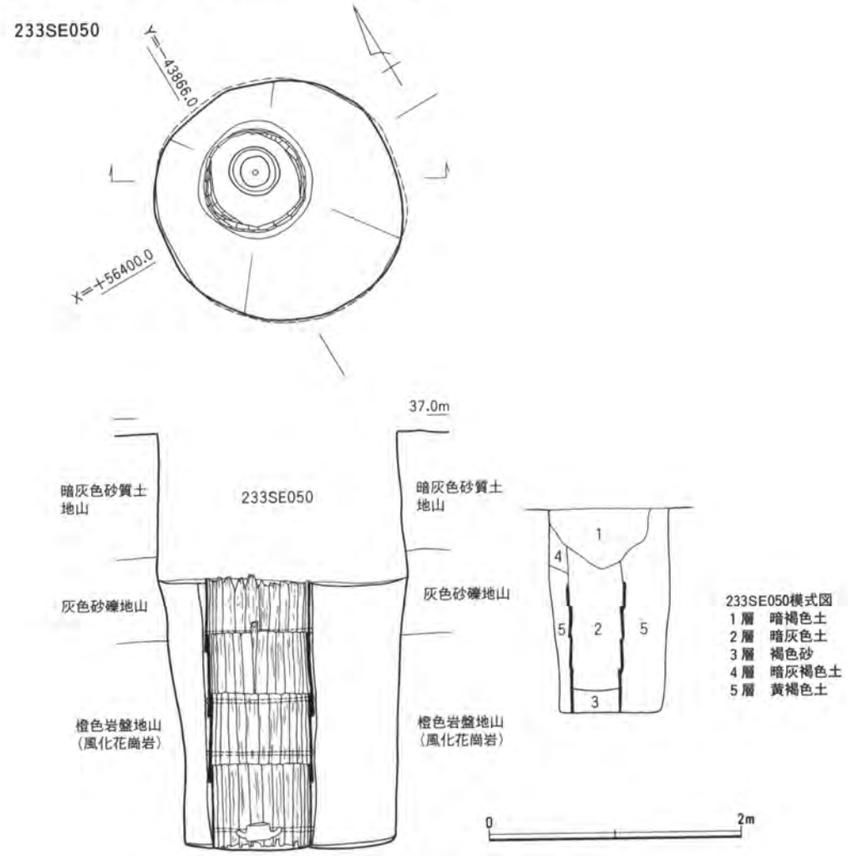
第14図　233SE035・045実測図（1/50）

233SE045（第６・14図、図版６・７）

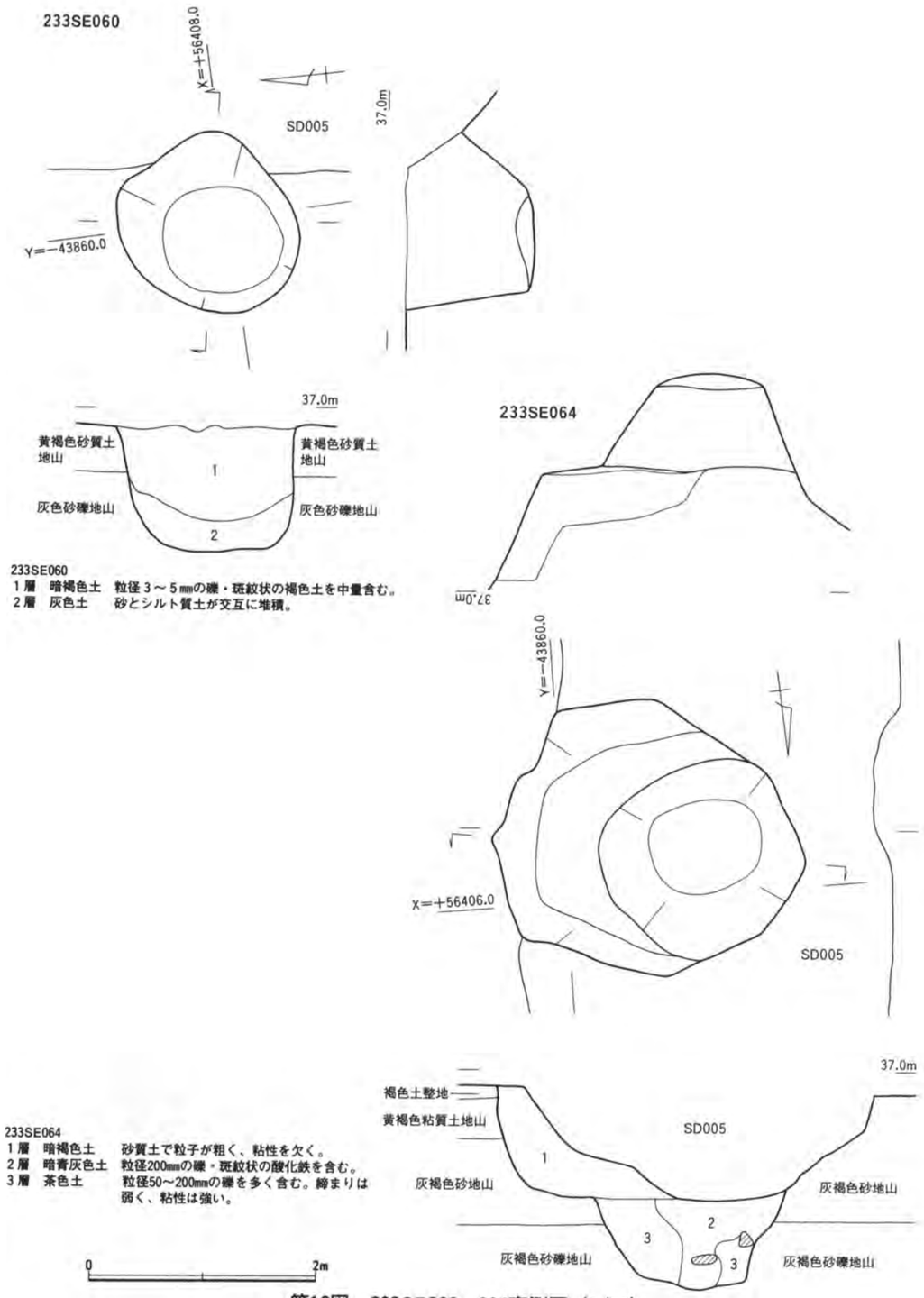
調査区中央のやや西側に位置し、G・H４・５区から検出された。掘り方は径約2.8mの略円形を呈し、深さは2.9mほどを測る。枠材は円筒形の結物で２段が確認され、１・２段目とも24枚の板材で構成されている。径約70cm、残存高は約135cmを測る。水溜には径40cm、高さ35cmほどの曲物を据えている。井戸枠内の覆土は上層から黒褐色土→黒灰色土→黄灰色砂の順に堆積し、裏込めは上層から暗褐色土→暗灰色土→茶色土→灰色砂が充填されている。最深部の地山層は橙色粘土（風化花崗岩）である。出土遺物の様相から、F期（13世紀前後～14世紀前半、大宰府XⅦ～XIX期）頃の埋没と考えられる。

233SE050（第６・15図、図版７）

調査区ほぼ中央のF・G２・３区から検出された。掘り方は径約1.95mの略円形を呈し、深さは3.3mほどを測る。枠材は円筒形の結物で４段が確認され、上から１段目は25枚、２段目は27枚、３・４段目は各24枚の板材で構成されている。径約85cm、残存高は約215cmを測る。井戸枠内の覆土は上層から暗褐色土→暗灰褐色土→褐色砂の順に堆積し、裏込めは上層から暗灰褐色土→黄褐色土が充填されている。最深部の地山層は橙色粘土（風化花崗岩）である。出土遺物の様相から、F期（13世紀前後～14世紀初頭、大宰府XⅦ～XIX期）以降の埋没と考えられる。



第15図　233SE050実測図（1/50）



第16図　233SE060・064実測図（1/50）

233SE060（第６・16図）

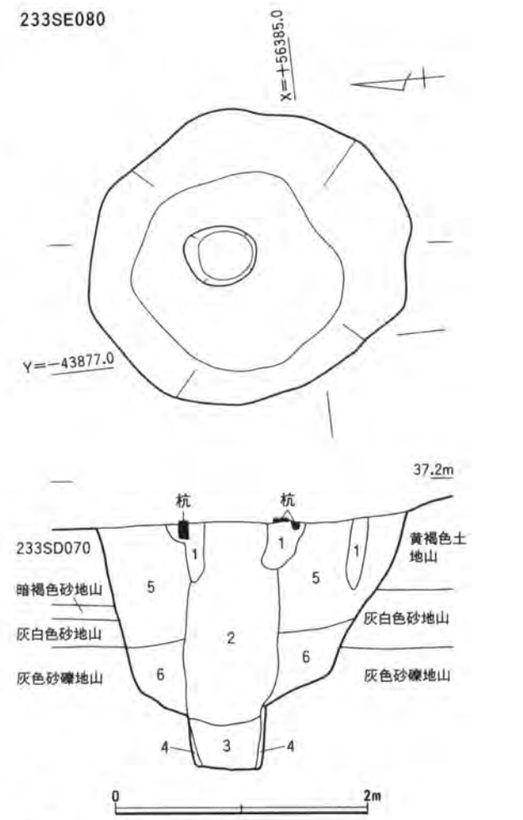
調査区北側のＩ１・２区から検出され、溝（233SD005）、たまり状遺構（233SX012）に一部を削られているが、たまり状遺構（233SX033）を切って構築されている。掘り方の平面形は楕円形を呈し、規模は長径（北東－南西）1.6m、短径（北西－南東）1.4m、深さは1.1mほどを測る。覆土は上層から暗褐色土→灰色土の順に堆積するが、井戸枠の痕跡は認められなかった。最深部の地山層は灰色砂礫である。出土遺物は僅少であるが、土師器供膳具の底部は糸切り調整が施されることから、12世紀中頃（大宰府XIV期）以降の埋没と考えられる。

233SE064（第６・16図）

調査区東側のH・I０・１から検出され、溝（233SD005）、土坑（233SK046）に一部を切られている。掘り方の平面形は不整楕円形を呈し、規模は長径（東西）2.8m、短径（南北）2.45m、深さは1.75mほどを測る。覆土は上層から暗褐色土→暗青灰色土→茶色土の順に堆積するが、井戸枠の痕跡は認められなかった。最深部の地山層は灰褐色砂礫である。出土遺物は僅少で、土師器供膳具の底部は糸切り調整が施される。埋没時期は重複関係にある溝（233SD005）も加味して判断すると、D期（12世紀中頃～後半、大宰府XIV～XV期）頃の埋没と考えられる。

233SE080（第６・17図）

調査区南端のA・B６区から検出され、溝（233SD070・115）、たまり状遺構（233SX134）を切って構築されている。掘り方の平面形は楕円形を呈し、規模は長径（南北）2.6m、短径（東西）2.35m、深さは1.95mほどを測る。井戸枠は径約50cm、深さは約45cmを測るが、板材・曲物は検出されず、壁面に沿って暗褐色土（４層）の腐植土（井戸枠痕跡）を確認している。覆土の最上面には現代の杭列（１層）が確認された。井戸枠内の覆土は上層から暗褐色土→黒褐色土の順に堆積し、裏込めは上層から灰褐色土→暗灰褐色土が充填されている。最深部の地山層は灰色砂礫である。出土遺物の様相から、13世紀前半～後半（大宰府XVII～XVIII期）頃の埋没と考えられる。



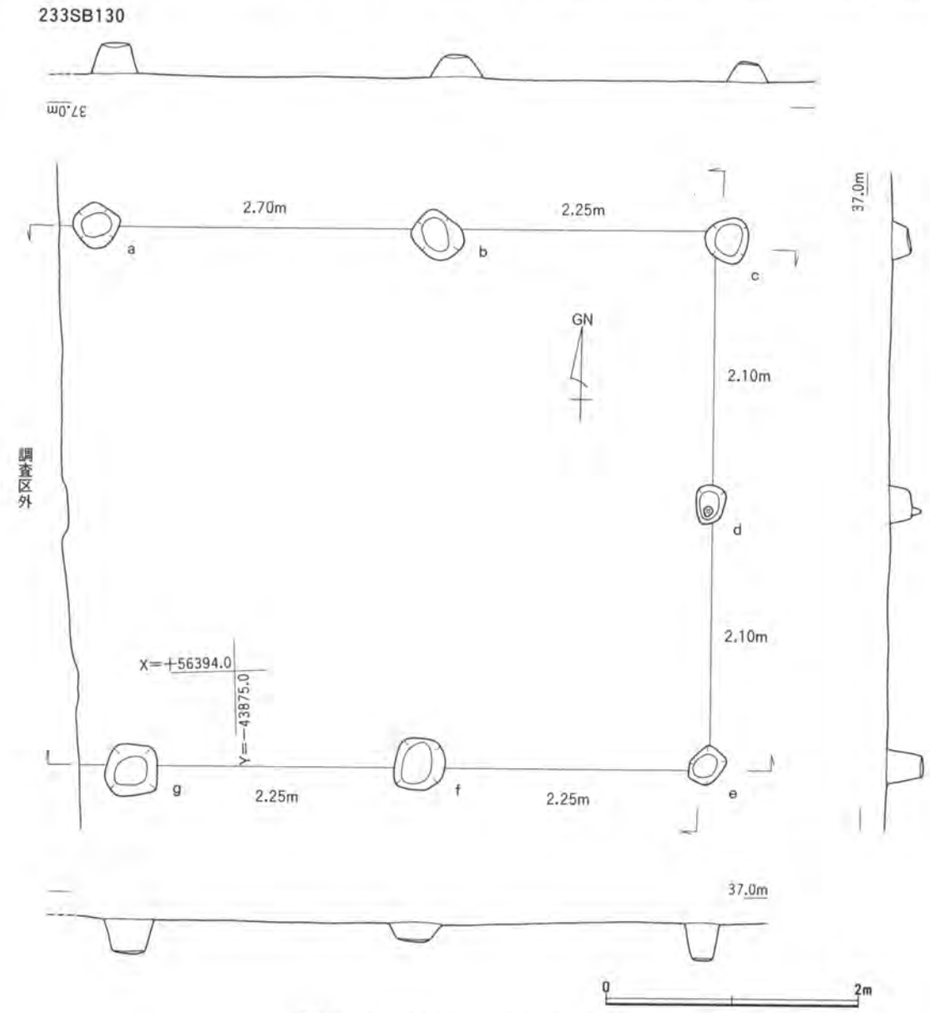
第17図　233SE080実測図（1/50）

3）掘立柱建物

今回の調査で検出された掘立柱建物は３棟で、第Ⅰ面から１棟（233SB130）、第Ⅱ面からは２棟（233SB135・140）が発見されている。調査区の制約や遺構間の重複により全容を捉えられたものはないが、構造的には側柱建物が２棟（233SB130・135）、不明ではあるが、総柱建物の可能性を残すものが１棟（233SB140）存在している。また、検出面は異なるが、側柱建物の２棟はほぼ同位置から検出されている。

233SB130（第６・18図、図版８）

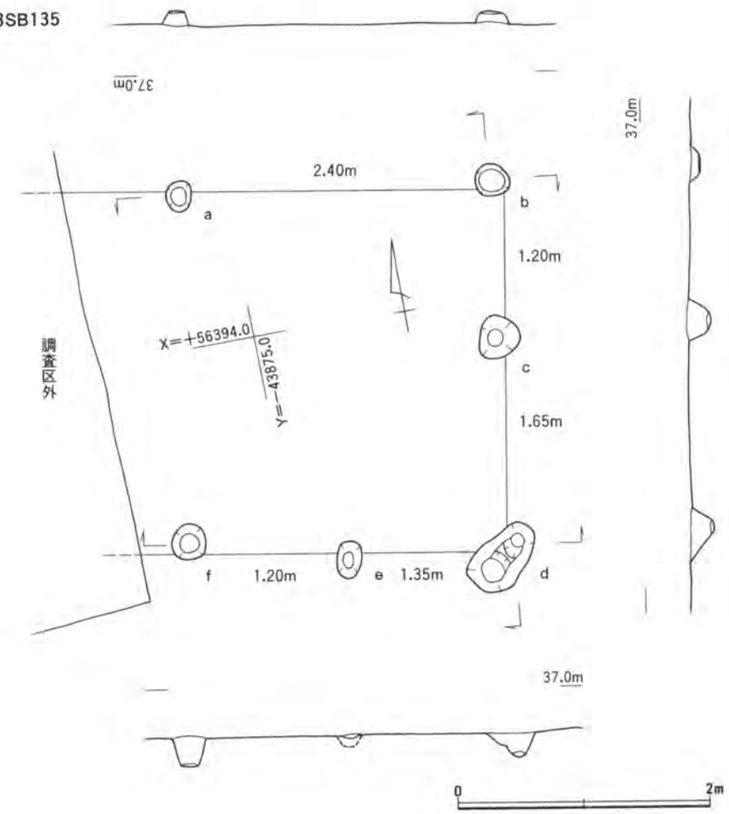
調査区の西端に位置し、第Ⅰ面のD～F４～６区から検出され、西側が調査区外に展開している。溝（233SD231）を切って構築され、柵列（233SA125）と重複するが、直接的な切り合い関係は認められない。調査区の制約から全容は不明であるが、東西棟の側柱建物と推定され、最終的には梁行２間、桁行は２間までの検出となった。柱心々間の梁行総長は4.2m、確認された桁行の長さは4.5～4.95mを測る。東側梁行の柱間は2.1m（７小尺）（１小尺≒0.297mで計算）等間に収まる。北側桁行は西からa～b間は2.7m（９小尺）、b～c間は2.25m（7.5小尺）となり、南側桁行は2.25m（7.5小尺）等間に収まる。主軸方位は桁行（柱穴a～c）を基準とするとN－89°－Wを指針する。柱穴の掘り方は楕円形を呈し、規模は長径で28～42㎝、深さは13～30㎝を測る。覆土は暗褐色土・褐色土・暗赤褐色土で構成され、遺物は検出されていない。



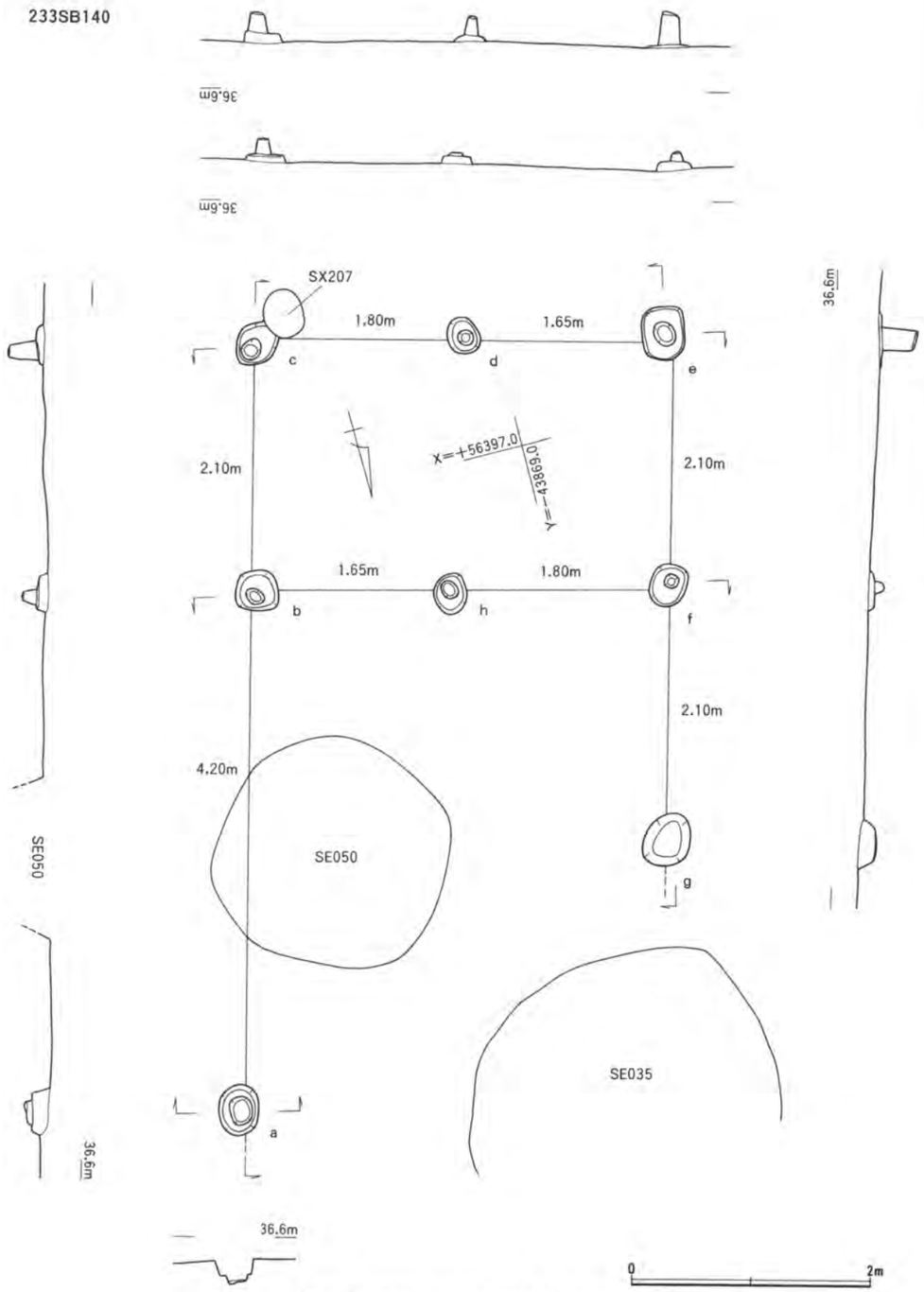
第18図　233SB130実測図（1/50）

233SB135（第７・19図、図版８）

調査区の西端に位置し、第Ⅱ面のD・E５・６区から検出された。西側が調査区外に展開し、全容は不明であるが、東西棟の側柱建物と推定される。最終的に検出された範囲は梁行２間、桁行は１間であるが、南側桁行のd～f間には小穴eが確認されている。柱心々間の梁行総長は2.85m、確認された桁行の長さは2.4～2.55mを測る。東側梁行の柱間は北からb～c間は1.2m（４小尺）、c～d間は1.65m（5.5小尺）となる。北側桁行はa～b間が2.4m（８小尺）、南側桁行は東からd～e間は1.35m（4.5小尺）、e～f間は1.2m（４小尺）となる。主軸方位は桁行（柱穴a～b）を基準とするとN－82°－Wを指針する。柱穴の掘り方は略円形または楕円形を呈し、規模は長径で23～62㎝、深さは８～23㎝を測る。覆土は暗褐色土で構成され、出土遺物は僅少である。



第19図　233SB135実測図（1/50）



第20図　233SB140実測図（1/50）

233SB140（第７・20図、図版８）

調査区のほぼ中央に位置し、第Ⅱ面のE～G３・４区から検出された。井戸（233SE035・050）、小穴群（233SX207）に壊され、全容は捉えきれていない。直接的な切り合い関係は認められないが、小穴群（233SX203）とも重複する。梁行２間×桁行３間の南北棟の建物と推定され、柱心々間の桁行総長は6.3m、梁行総長は3.45mを測る。桁行の柱間はすべて（b～c・e～f・f～g間）2.1m（７小尺）等間で収まり、南側梁行は東からc～d間は1.8m（６小尺）、d～e間は1.65m（5.5小尺）となる。また、柱穴bとfを結んだ線上の中央から柱穴hが検出され、遺構間の重複により全容が不明なことから判断は難しいが、束柱を有する側柱建物ないし間仕切りを有する建物の可能性が考えられる。主軸方位は桁行（柱穴a～c）を基準とするとN－16°－Eを指針する。柱穴の掘り方は略円形または楕円形を呈し、規模は長径で33～50cm、深さは10～30cmを測る。覆土は暗灰褐色土→暗褐色土の順に形成され、12世紀中頃に形成されたと考えられる褐色土（整地層）との先後関係や出土遺物の様相から、11世紀前後（大宰府Ⅹ期）頃のものと考えられる。

４）柵　列

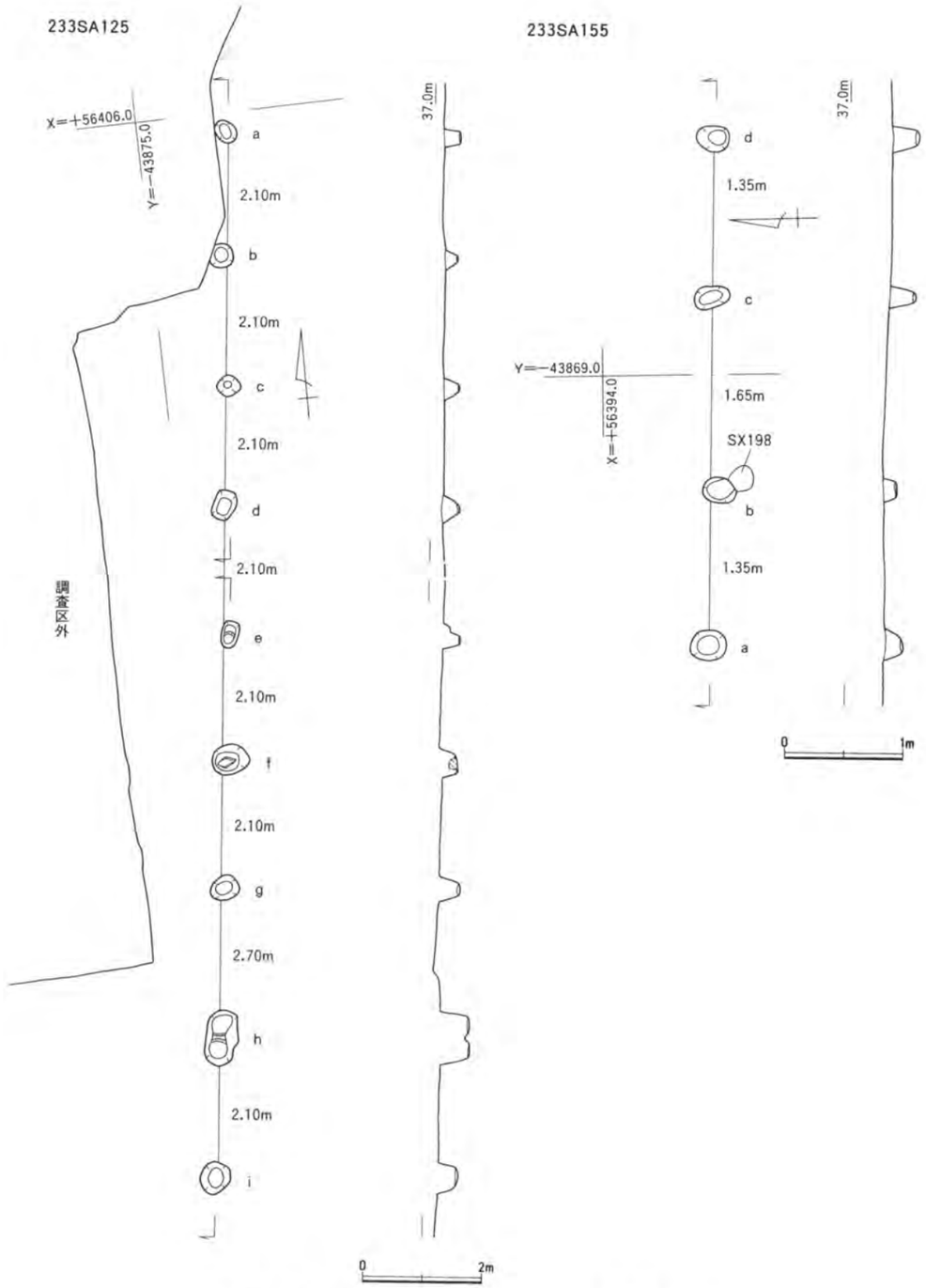
今回の調査で検出された柵列は２列である。第Ⅰ面の調査区西側から１列（233SA125）が確認されたが、調査区の制約や遺構間重複により全容は把握されていない。また第Ⅱ面の調査区中央のやや南側から１列（233SA155）が発見されている。

233SA125（第６・21図、図版９）

調査区の西側に位置し、第Ⅰ面のI５区からC６区にかけて８間が検出された。小穴群（233SX057）を切って構築されているが、南側の柱穴上部がたまり状遺構（233SX126）により削られている。また直接的な切り合い関係はないが、掘立柱建物（233SB130）と重複する。南北方向に延びるが、北側は調査区外に展開すると考えられ、南側は遺構間の重複により確認されず、全容は捉えきれていない。最終的に検出された長さは17.4mを測り、柱穴間の距離は北からa～g間は2.1m（７小尺）等間、g～h間は2.25m（7.5小尺）、h～i間は2.55m（8.5小尺）となるが、柱穴hには重複が認められ、g～h間2.7m（９小尺）、h～i間2.1m（７小尺）となる可能性も想定される。主軸方位はN－７°－Eを指針し、溝（233SD005）に並行する。柱穴の掘り方は、略円形または楕円形を呈し、規模は長径で35～92cm、深さは12～50cmを測る。覆土は暗灰褐色土・暗褐色土・褐色土で構成され、遺物は検出されていない。

233SA155（第７・21図）

調査区の南側に位置し、第Ⅱ面のD３・４区から３間が検出された。小穴群（233SX198）に一部を壊されているが、小穴群（233SX200）の一部を切って構築されている。東西方向に延び、全長は4.35mを測る。柱穴間の距離は西からa～b間は1.35m（4.5小尺）、b～c間は1.65m（5.5小尺）、c～d間は1.35m（4.5小尺）であり、主軸方位はN－87°－Wを指針する。柱穴の掘り方は、略円形または楕円形を呈し、規模は長径で28～32cm、深さは13～24cmを測る。覆土は黒褐色土で構成され、出土遺物は僅少である。



第21図　233SA125（1/100）、233SA155（1/50）

5）土　坑

今回の調査で検出された土坑は22基（第Ⅰ面19基、第Ⅱ面３基）である。ここでは７基（233SK014・037・055・075・088・095・110）について述べることとする。特に２基（233SK055・095）からは大量の遺物が出土している。

233SK014（第６図）

調査区第Ⅰ面北側のＫ２・３区から検出され、溝（233SD018）、たまり状遺構（233SX013・016）を切って構築されている。平面形は楕円形を呈し、規模は長径（東西）1.95m、短径（南北）1.4m、深さは４～17cmを測る。覆土は暗褐色土で構成される。出土遺物は僅少であるが、土師器坏aの法量から13世紀中頃（大宰府XⅧ期）の埋没と考えられる。

233SK037（第６図）

調査区第Ⅰ面中央のやや東南側に位置し、Ｆ１・２区から検出された。南側をたまり状遺構（233SX036）に壊されているが、溝（233SD005）の上部を切って構築されている。平面形は楕円形と推定され、最終的に検出された範囲は、長径方向（北東－南西）2.35m、短径（北西－南東）1.73m、深さは８～34cmを測る。底面には凹凸が認められ、覆土は暗褐色土で構成されている。埋没時期は溝（233SD005）より後の13世紀後半～14世紀前半とすべきか。

233SK055（第６・22図、図版９）

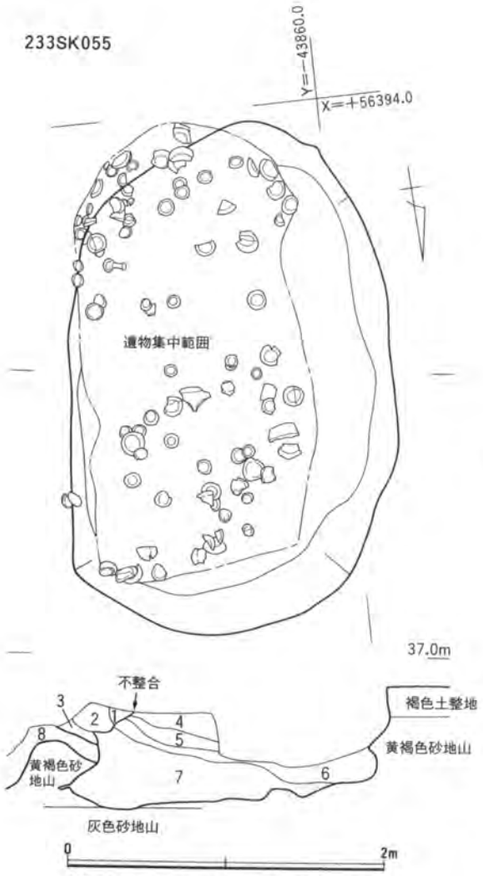
調査区第Ⅰ面中央のやや南側に位置し、Ｅ２区から検出された。たまり状遺構（233SX036）に切られ、溝（233SD005）を切って構築される。平面観察時には溝（233SD005）が新しいと判断されたが、本遺構と溝（233SD005）の埋没後に溝（233SD005）側の下位層に不等沈下が生じ、本遺構東側の一部が溝（233SD005）側に円弧状に滑り落ちたと考えられ、最終的には本遺構が新しいと判断された。平面形は楕円形を呈し、規模は長径（南北）6.2m、短径（東西）3.7m、深さ60～90cmを測る。覆土は下層から黄褐色土→褐色土→黒褐色土→褐灰色土→暗褐色土→黒褐色土→明褐色土→褐灰色土の順に形成され、覆土全体に遺物は包含されているが、特に黄褐色土と褐色土には遺物が多量に含まれ、その上面に形成される黒色土は炭化物主体層である。出土遺物の様相から、F期（13世紀後半～14世紀前半、大宰府XⅦ～XⅨ期）以降の埋没と推定される。

233SK075（第６図）

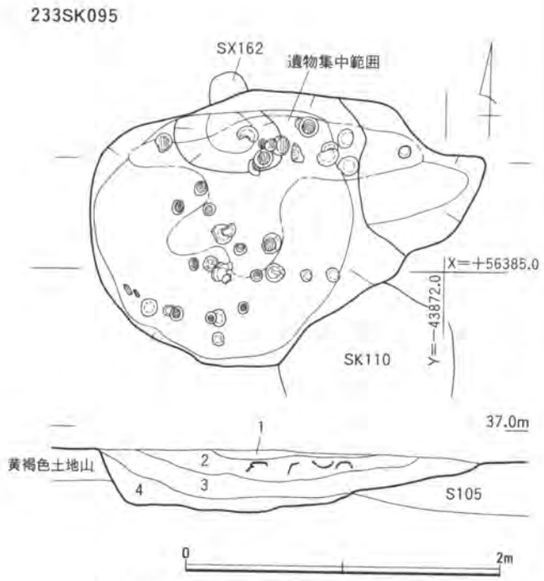
調査区第Ⅰ面南東隅のＢ０・１区から検出された。土坑（233SK088）と小穴（233SX089）に切られ、南側から東側は調査区外に展開することから平面形および規模については不明であるが、深さは38cmほどを測る。覆土は下層から暗灰色土→褐色土→黒褐色土→暗褐色土の順に形成されている。埋没時期は出土遺物の土師器供膳具から、13世紀前後（大宰府XⅦ）頃と考えられる。

233SK088（第６図）

調査区第Ⅰ面の南端に位置し、Ａ・Ｂ１区から検出された。土坑（233SK075）、たまり状遺構（233SX094）を切って構築されているが、南側は調査区外に展開している。平面形は楕円形と推定され、最終的に検出された範囲は、東西方向で1.90m、深さは30cmほどを測る。覆土は下層から暗灰色土→暗灰褐色土の順で形成される。出土遺物の土師器供膳具から、13世紀前半～後半（大宰府XⅦ～XⅧ期）以降の



第22図　233SK055実測図（1/40）



第23図　233SK095実測図（1/40）

233SK055
1層　褐灰色土　粒径５㎜の花崗岩粒多量、粒径10㎜の炭化物を微量含む。
2層　明褐色土　粒径10㎜の灰白色土ブロック、粒径５㎜の炭化物少量、粒径５㎜以下の花崗岩粒を微量含む。
3層　黒褐色土　炭化物主体層。
4層　褐灰色土　層相は１層と同じ。
5層　黒褐色土　層相は３層と同じ。
6層　褐色土　粒径20㎜の炭化物を少量含む。
7層　黄褐色土　最大粒径150㎜の黄褐色粘土ブロック、最大粒径20㎜の炭化物を多量含む。
8層　茶色土　233SD005茶色土。

233SK095
1層　黒褐色土①　粒径３～10㎜の炭化物・粒径３～５㎜の礫・遺物を包含する。
2層　黒褐色土②　多量の遺物が包含される。
3層　黒褐色土③　粒径３～10㎜の炭化物を少量、遺物を多く含む。
4層　灰褐色土　粒径３～８㎜の炭化物を微量含む。

埋没と考えられる。

233SK095（第６・23図、図版９）

調査区第Ｉ面の南端に位置し、Ａ・Ｂ５から検出された。土坑（233SK110）、小穴（233SX162）に一部を壊されているが、溝（233SD070・105・115・120）、小穴（233SX164）を切って構築されている。平面形は不整楕円形を呈し、規模は長径（東西）2.5m、短径（南北）1.75m、深さは10～40㎝を測る。覆土は灰褐色土→黒褐色土③→黒褐色土②→黄灰色土→黒褐色土①の順に形成され、黒褐色土②中には遺物が多量に包含されている。出土遺物の様相から、13世紀後半（大宰府XⅧ期）以降の埋没と考えられる。

233SK110（第６図）

調査区第Ｉ面の南端に位置し、Ａ４・５区から検出された。土坑（233SK095）、たまり状遺構（233SX222）、小穴（233SX221）を切って構築されているが、南側は調査区外に展開している。平面形は楕円形と推定され、最終的に検出された範囲は、東西方向で1.12m、深さは40㎝ほどを測る。覆土は下層から灰色土→黒褐色土→暗灰色土の順で形成されている。出土遺物の土師器供膳具から、14世紀初頭～後半（大宰府XIX～XX期）頃の埋没と考えられる。

６）その他の遺構

ここでは、たまり状遺構６基（233SX001・012・036・090・126・180）、小穴群４ヵ所（233SX028・030・093・221）、不明遺構（233SX117）について述べる。

ａ）たまり状遺構

233SX001（第６図）

調査区第Ｉ面の北端に位置し、Ｌ１～Ｍ２区にかけて検出された。溝（233SD005）、井戸（233SE011）、土坑（233SK006）、たまり状遺構（233SX016）、小穴および小穴群（233SX007・009・024・026）の上面に構築され、北西側は調査区外に展開する。最終的に検出された範囲は、長軸（北西－南東）5.0m、短軸（北東－南西）2.5m、深さは５㎝ほどを測る。覆土は暗褐色土を呈し、出土遺物の様相から、Ｆ期（13世紀前後～14世紀初頭、大宰府XⅦ～XIX期）以降の埋没と考えられる。

233SX012（第６図）

調査区第Ｉ面の北側に位置し、Ｉ～Ｋ１・２区から検出された。溝（233SD005・018）、井戸（233SE060）、たまり状遺構（233SX016・033・034）、小穴（233SX027・041・042）を切って構築されている。平面形は不整形を呈する。規模は長軸（南北）6.60m、短軸（東西）4.25m、深さは２～18㎝を測る。覆土は下層から褐色土→黒褐色土→暗褐色土・褐白色土の順に形成されている。出土遺物の様相から、Ｆ期（13世紀前後～14世紀初頭、大宰府XⅦ～XIX期）以降の埋没と考えられる。

233SX036（第６図）

調査区第Ｉ面の南側に位置し、Ｄ・Ｅ１・２区から検出された。溝（233SD005）、土坑（233SK037・055）を切って構築され、南側は昭和53年度の九州歴史資料館の調査地点に及んでいる。平面形は長円形と推定され、最終的に検出された範囲は、長軸方向（南北）5.35m、短軸（東西）3.50m、深さは７～37㎝を測る。底面には凹凸が認められ、覆土は下層から黒褐色土→黒灰黄色土の順に形成されている。出土遺物の土師器供膳具から、14世紀初頭～後半（大宰府XIX～XX期）以降の埋没と考えられる。

233SX090（第６図）

調査区第Ｉ面の南端に位置し、Ａ４区から検出された。たまり状遺構（233SX222）を切って構築されているが、南側が調査区外に展開し、全容は捉えきれていない。形態および規模は不明であるが、深さは５～30㎝を測る。覆土は下層から灰色土→黒褐色土→暗灰色土の順で形成され、出土遺物の様相から、Ｆ期（13世紀前後～14世紀初頭、大宰府XⅦ～XIX期）以降の埋没と考えられる。

233SX126（第６図、図版９）

調査区第Ｉ面の南側に位置し、Ｂ～Ｄ６区から検出された。溝（233SD070）、柵列（233SA125）、小穴群（233SX133）の上面に構築されている。平面形は不整形を呈し、長軸（南北）5.0m、短軸（東西）1.5～2.5m、深さは10㎝ほどを測る。覆土は暗褐色土で構成され、出土遺物の土師器供膳具から、13世紀前半（大宰府XⅦ期）頃の埋没と考えられる。

233SX180（第７図）

調査区第Ⅱ面中央のやや西側のＦ４・５区から検出され、一部を小穴群（233SX201）に切られている。平面形は不整形を呈し、長軸（北西－南東）3.25m、短軸（北東－南西）0.9～2.45m、深さは２～10cmを測る。覆土は下層から暗褐色土→暗黄褐色土→暗褐色土の順に形成され、出土遺物はない。

b）小　穴

233SX028（第６図）

調査区第Ⅰ面北側のＪ２・３区から検出された９穴の小穴である。井戸（233SE015）を囲むように確認されていることから井戸の上屋施設の可能性が考えられ、たまり状遺構（233SX033）を切って構築されている。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、長径15～35cm、深さは２～23cmを測る。覆土は暗褐色土で構成され、出土遺物の様相から、12世紀中頃以降の埋没と考えられる。

233SX030（第６図）

調査区第Ⅰ面西端のＩ４・５区から検出された３穴の小穴で、一部は調査区外へ展開し、たまり状遺構（233SX019）、小穴（233SX031）に切られている。いずれも平面形は楕円形を呈し、規模は長径で約75cm、深さは12～53cmを測る。３穴の配置は鉤の手状を呈することから掘立柱建物を構成する可能性も考えられる。覆土は暗褐色土→灰褐色土→暗灰色土の順に形成され、出土遺物の様相から、Ｆ期（13世紀前後～14世紀初頭、大宰府ⅩⅦ～ⅩⅨ期）以降の埋没と考えられる。

233SX093（第６図）

調査区第Ⅰ面南東側のＢ１・２区から検出された６穴の小穴で、溝（233SD005）を切って構築されている。平面形は略円形または楕円形を呈し、規模は長径で25～50cm、深さは13～24cmを測る。覆土は黒褐色土で構成され、出土遺物の様相から、平安時代中期頃の埋没と考えられる。

233SX221（第６図）

調査区第Ⅱ面南端のＡ・Ｂ４区から検出された１穴の小穴で、第Ⅰ面の溝（233SD105）、土坑（233SK095・110）に切られている。平面形は楕円形と推定され、規模は東西方向で50cm、深さは35cmほどを測る。覆土は暗褐色土で構成される。出土遺物は土師器と黒色土器Ａ類の小片が僅かに出土したに留まり、詳細は不明。

c）不明遺構

233SX117（第６図）

調査区第Ⅰ面の南西端に位置し、Ａ８区から検出された。西側から南側は調査区外に展開し、東側はコンクリート基礎により壊され、全容は捉えきれていない。調査し得た範囲が狭く、形態および規模については不明であるが、深さは42cmを測る。覆土は暗褐色土で構成され、出土遺物の様相から、11世紀前後（大宰府Ⅹ期）頃の埋没と考えられる。

2．遺　物

1）溝出土遺物

233SD005暗褐色土出土遺物（第24・25図）

土師器

坏ａ（１～６）　口径14.0～15.0cm、器高2.6～3.4cm、底径9.3～10.7cmを計測し、いずれも底部は糸切り離し。１・３～６の内面見込みには螺旋状の回転ナデが施される。２の胎土には白雲母を多く含む。

坏ａ（遺物計測表）　口径11.8～15.6cm、器高2.2～3.5cm、底径7.6～11.6cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。Ｍ－002・007・012・022・034・040・043・046・047・048・055・058の見込みには細線状を呈する螺旋状の回転ナデが残る。

小皿ａ（７～13）　７～11の法量は口径8.2～9.2cm、器高0.7～1.4cm、底径6.0～7.0cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。９の内面見込みには糸原体（単節Ｒ）が弧状に付着した痕が観察される。11の底面中央には径0.6cmの孔が焼成後に穿たれる。12は口径8.6cm、器高1.4cm、底径6.0cmに復原され、底部は手捏ねによって仕上げられる。13は手捻りによって口縁部を波状に仕上げた資料であり、口径8.0cm、器高1.5cm、底径6.2cmに復原される。底部は糸切り離し。

小皿ａ（遺物計測表）　口径6.8～9.5cm、器高0.8～1.4cm、底径6.0～8.0cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。Ｍ－090・102の見込みには螺旋状の回転ナデが残る。

小皿（14～16）　14はコースター状を呈し、口径6.0cm、器高0.8cm、底径5.4cmに復原される。15は口縁部が内湾する器形を呈し、口径7.0cm、器高1.1cm、底径6.7cmを測る。16は体部が内傾する器形を呈し、口径7.3cm、器高0.9cm、底径8.4cmを計測する。14・15の底部は糸切り離し。16の底面調整は不明である。

瓦器

椀ｃ（17）　体部から高台の破片で、現存高4.6cm、底径7.0cmに復原される。外面は指頭調整ののち回転ナデが施され、内面は指頭調整が観察される。

須恵質土器

鉢（18）　口縁部から体部下端の破片で片口部が遺存する。口径28.4cm、現存高10.0cm、底径9.6cmに復原される。東播系であり、第Ⅱ期２段階に属する。

瓦質土器

鉢（19）　口縁部から体部上半の破片で、現存高4.8cmを計測する。Ａ１類。

白磁

椀（20）　口縁部から体部上半の破片で、口縁端部は屈折し、外方に尖る。現存高2.4cmを計測する。Ｖ－４類あるいはⅧ－１・３類と考えられる。

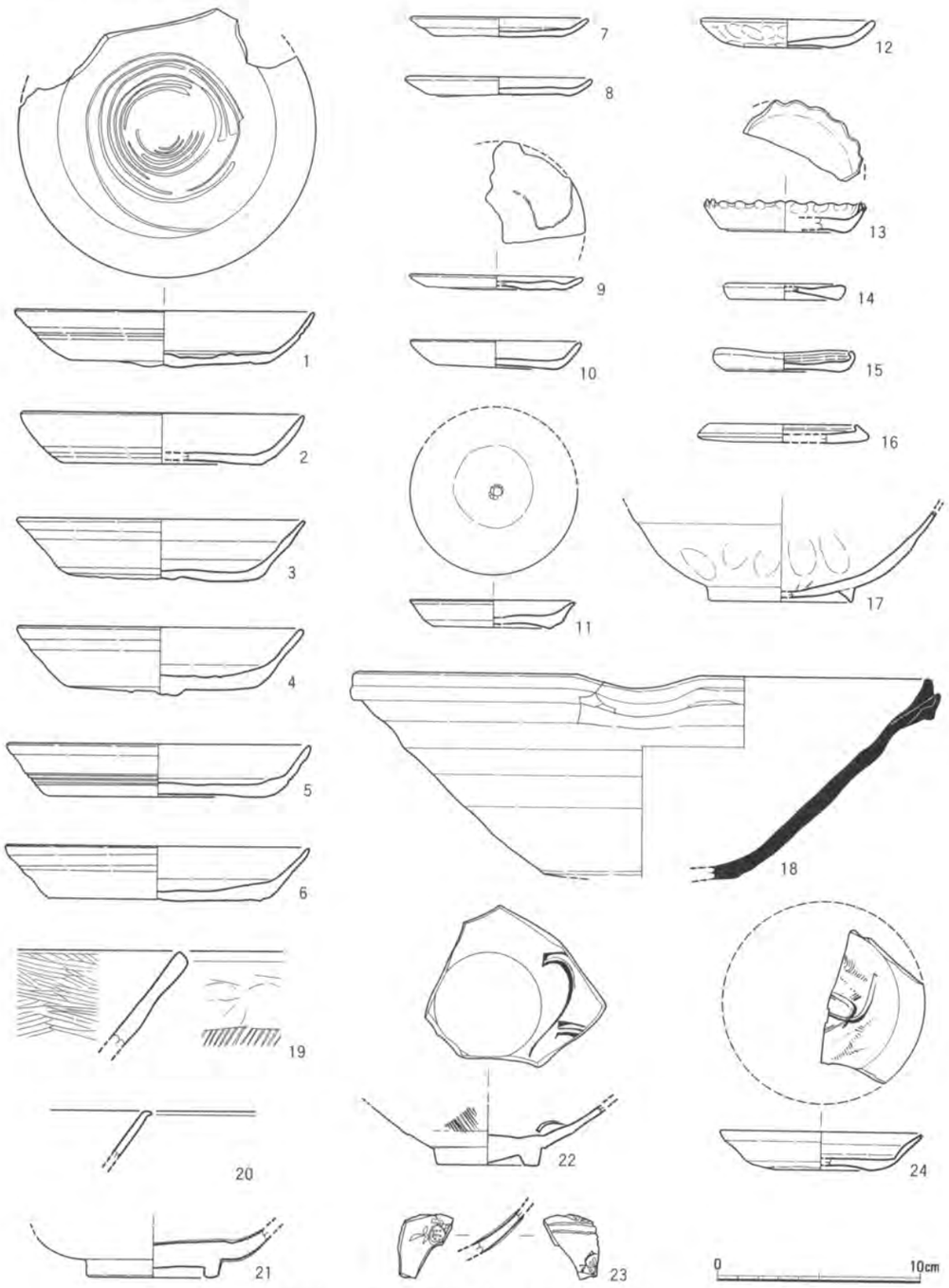
青磁

椀（21・22）　21は現存高2.5cm、底径6.5cmを計測する。龍泉窯系青磁Ⅰ類。22は現存高3.1cm、底径5.0cmを計測する。同安窯系青磁Ⅰ－Ⅰｂ類。

椀か（23）　現存高2.2cmを計測する椀の体部と推定される破片。胎土は堅緻で黒色微粒子を含み、暗灰色を呈する。外面には圏線と花を黒・白象嵌し、内面には花果と葉が白象嵌される。暗青緑色に発色する釉は内外面に施され、柔らかな光沢を持つ。象嵌高麗青磁。

皿（24）　口径10.0cm、器高2.1cm、底径5.2cmに復原される。同安窯系青磁Ⅰ－１ｂ類。

233SD005暗褐色土



第24図　233SD005遺物実測図１（1/3）

瓦製品

瓦玉（25）　明灰色を呈する瓦片を研磨し円柱状に成形する。径2.5～2.6cm、厚さ1.7cm、重量11.4gを計測する。

金属製品

釘（26・27）　鉄素材を鍛造により成形。26・27とも先端部を欠損する。26は現存長3.3cm、重量5.0g、27は現存長6.6cm、重量7.5gをそれぞれ計測する。

椀形鍛冶滓（28）　断面上半の色調は茶褐色で鉄錆状、断面下半の色調は黒灰色で多孔質構造の金属状を呈する。底部は比較的平滑で、小孔はみられないことから炉底部に接していたと推定される。非磁着。規模6.8×11.2cm、厚さ4.2cm、重さ390gを量る。

233SD005暗灰褐色土出土遺物（第25・26図）

土師器

坏ａ（29）　口縁部から体部上半約½を欠損する。口径15.2cm、器高3.0cm、底径10.8cmを計測し、底部は回転糸切り離し。見込みには螺旋状の細い条線を残す回転ナデが施される。

坏ａ（土師器計測表）　口径13.6～15.2cm、器高2.4～3.4cm、底径8.2～11.0cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。M－002・013・024の見込みには螺旋状の回転ナデが残る。M－011の外面には油煙が観察される。

大椀ｃ（30）　高台部が遺存する。現存高3.6cm、高台径11.2cmを計測する。

小皿ａ（31・32）　いずれも底部は糸切り離し。31の内底面は螺旋状の回転ナデののち、横ナデを施す。底部中央には径0.6cmの円孔が焼成後に穿たれる。口径7.8cm、器高1.2cm、底径5.6cmを測る。32は外面体部から底部にかけて墨跡が観察される。口径9.4cm、器高1.1cm、底径7.2cmに復原される。

小皿ａ（土師器計測表）　口径6.4～9.3cm、器高0.6～1.7cm、底径5.0～7.6cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。M－024・032の見込みには螺施状の回転ナデが残り、M－019の外面には油煙が観察される。

小坏（33）　口縁部から底部外周が遺存する破片で、現存高3.4cmを計測する。胎土は緻密で白色微粒子をやや多く含む。底部は糸切り離し。焼成は良好で黒灰色を呈する。体部外面と内底面には油煙が付着する。未分類資料。

瓦器

椀ｃ（34）　体部下半から高台の破片。現存高1.8cmを計測する。高台周辺は高台貼り付けにともなう回転ナデ、その他の器面にはミガキが施される。

菊皿（35）　底部を欠損する破片。口径10.0cm、現存高2.8cmに復原される。菊花状の内型による成形ののち、弱い回転ナデが内外面に加わる。胎土は堅緻。焼成は良好で灰白色を呈する。

須恵質土器

鉢（36）　口縁部から体部上半の破片で現存高4.8cmを計測する。胎土は堅緻。焼成は良好で暗灰青色を呈する。東播系であり、第Ⅱ期２段階に属する。

瓦質土器

鉢（37）　口縁部から体部上半の破片で現存高4.0cmを計測する。内外面ハケ目ののち、口縁部横ナデ、体部外面に指頭調整を施す。胎土は堅緻で、白色粒子をやや多く含み、角閃石も含有する。焼成は良好。ＡⅠ類。

緑釉陶器

椀×皿（38） 体部下端から高台が遺存する。現存高1.6cm、高台径6.5cmを計測する。高台は削り出し。器面はミガキののち、高台内から畳付を除いて、非常に薄い釉を施す。胎土は軟質緻密で薄黄灰色を呈し、釉は光沢質で薄黄白色に発色する。京都系。

壺（39） 高台部の破片で現存高2.9cmを計測する。高台は貼り付け。胎土は堅緻、須恵質で暗灰色を基本とするが、部分的に酸化焔焼成気味で黄橙色を呈する。釉は濃緑色に発色し光沢がある。産地不明。

灰釉陶器

壺（40） 頸部付近の破片とみられ、現存高3.9cmを計測する。胎土は緻密で暗青灰色あるいは灰黄色を呈する。外面は頸部下半に横位のカキ目が８条遺存し、外面には暗緑色に発色する釉が薄く施される。内面は摩耗が著しく調整不明。

白磁

椀（41・42） いずれもⅧ－２類あるいはⅧ－３類の体部下半から高台が遺存する資料で、41の見込み釉剥ぎ部分には重ね焼きによる白土が付着する。42の高台内には「十」であろうか、墨書が観察される。41は現存高3.6cm、高台径7.0cm、42は現存高2.6cm、高台径6.2cmをそれぞれ計測する。

皿（43） 約⅔遺存し、口径10.0cm、器高2.2cm、底径3.7cmに復原される。Ⅷ－ｂ類。

青磁

壺（44） 体部と推定される破片で、現存高3.4cmを計測する。外面上位にヘラ状工具による施文が観察される。胎土は粘質緻密で灰黄色を呈し、半光沢質の釉は暗緑色に発色する。越州窯系青磁Ⅲ系か。

椀（45） 口径16.4cm、器高6.4cm、底径5.9cmを計測する。遺存部位から体部内面に施される略花文は３単位と考えられる。体部内外面には横方向の微細な擦痕が観察される。龍泉窯系青磁Ⅰ－２ａ類。

青白磁

椀（46） 体部下半から高台にかけて遺存する。現存高1.6cmを計測し、高台径3.2cmに復原される。内面にはヘラ状工具によって花弁あるいは葉状の施文がなされる。胎土は堅緻で灰白色を呈するが、高台は酸化焔焼成気味に暗黄橙色を呈する。釉は高台を除いて施され、釉調は光沢質で青緑灰色に発色し、貫入が生じる。

皿（47） 口縁部破片で、現存高1.5cmを計測する。鋭利な口縁端部には輪花と推定されるキザミが１ヵ所遺存する。胎土は堅緻で灰白色を呈し、光沢質で緑白灰色に発色する釉が内外面に施される。

合子蓋（48） 現存高2.2cmを計測する破片。胎土は堅緻で灰白色を呈し、光沢質で青緑灰色に発色する釉は下端部を除いて施される。

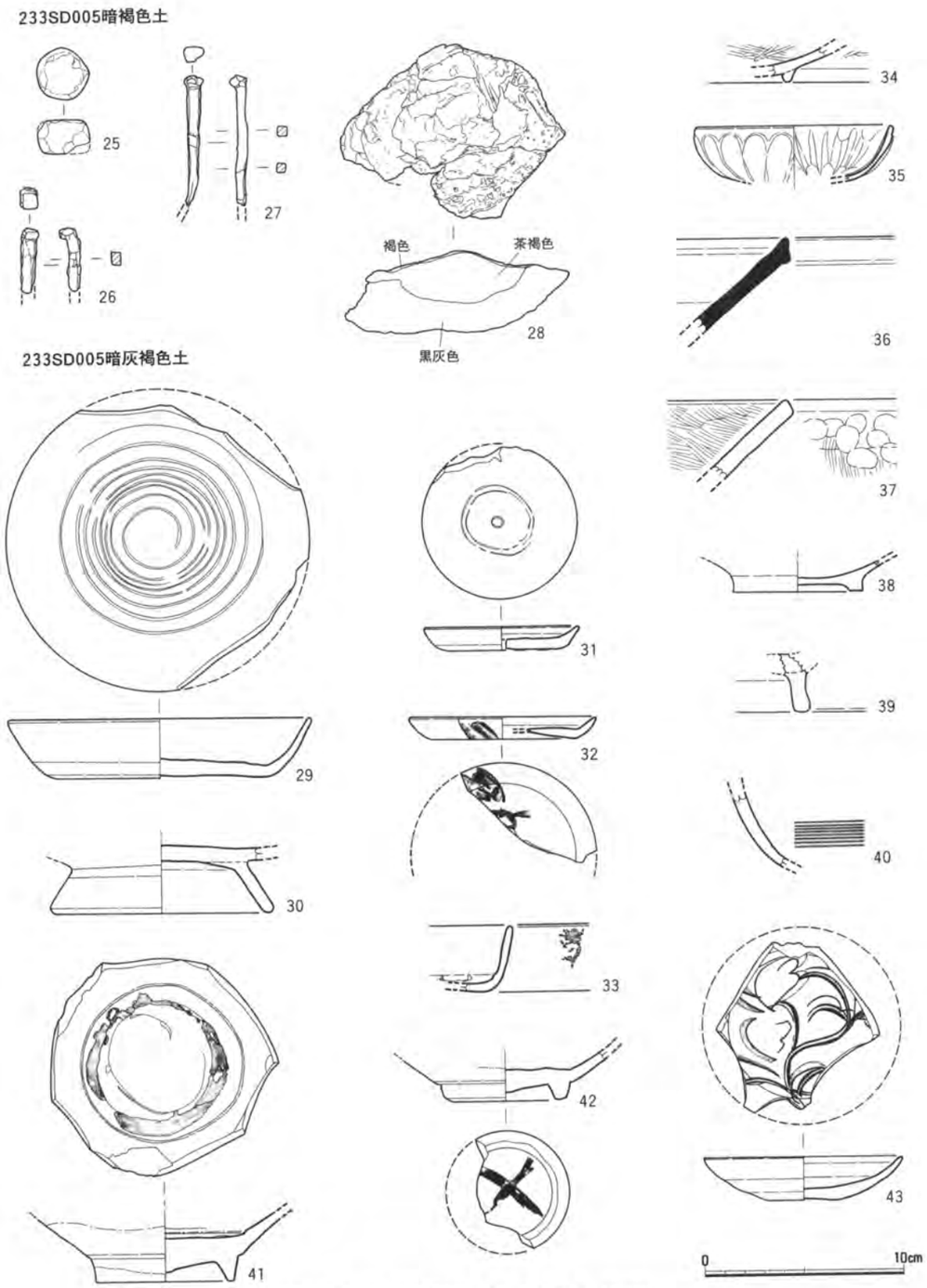
中国陶器

盤（49） 口縁部から体部上半の破片で、口縁部上面が湾曲し先端を曲げる。現存高3.8cmを計測する。Ⅰ－１′類。

耳壺（50） 胴部上半の破片で横耳が１個遺存し、耳の上部には横沈線が２条入る。現存高は5.4cmを計測する。胎土は堅緻で黒・白色粒子を含み、暗灰青色を呈し、外面には暗緑灰色の釉に濃茶色の釉が掛け流される。胎土、釉の特徴からＢ群に属する。

耳壺×壺（51） 体部下半から底部が遺存し、現存高2.5cm、底径7.6cmを計測する。底部には判読困難な墨書が書かれる。胎土は堅緻で黒色粒をやや多く含み、明青灰色を呈するが、底部付近の焼成は酸化焔焼成気味で黄橙色を呈する。内面底部に茶灰色から緑灰色に発色する釉が観察される。Ｂ群。

壺（ミニチュア）（52） 体部から底部が遺存する資料で、現存高1.7cmを計測し、底径1.7cmに復原さ



第25図　233SD005遺物実測図２（1/3）

れる。胎土は砂質で堅緻だが、酸化焔焼成気味で薄い赤橙色を呈する。釉は黄緑灰色から白灰色に発色し、内面と外面上位に施される。胎土、釉の特徴からＢ群に属する。

瓦類

軒平瓦（53） 瓦当左側が遺存し、現存長5.5cm、現存瓦当幅8.7cm、瓦当面の厚さ4.0cmを計測する。内区には唐草文、上外区には鋸歯文、下外区には珠文が配置される。焼成は良好で須恵質を呈する。

瓦玉（54～57） いずれも瓦を研磨し、略円柱状に成形する。54には瓦凸面の格子目が残り、55・56には瓦凹面の布目が残る。57は全面が顕著に研磨される。各法量は、54は径2.2～3.0cm、厚さ2.3cm、重量16.8g。55は重量2.0～2.8cm、厚さ1.4cm、重量8.8g。56は径2.3～3.0cm、厚さ2.0cm、重量14.8g。57は径2.2～2.35cm、厚さ1.9cm、重量9.5gをそれぞれ計測する。

土製品

柱状土製品（58・59） 板状粘土を丸めて角柱状に成形し、表面をナデ仕上げする。58は端部に向けやや反り気味に幅・厚さを減じる。現存長14.8cm、最大幅・厚さは4.0×3.8cmを計測する。胎土は砂質で白色礫を多く含み、淡黄橙色を呈する。59は現存長6.2cm、最大幅・厚さは4.0×4.0cmを計測する。胎土は砂質で白色礫をやや多く含み、暗茶灰色を呈する。

鞴羽口（60） 羽口端部付近の破片。現存長4.8cm、厚さ1.7cmを計測する。端部付近外面は外面が発泡し多孔質となり黒灰色を呈し、基部側は灰色を呈する。内面送風部は淡黄灰色を呈する。

金属製品

鉄滓（61） 長さ5.5cm、最大幅2.65cm、重量17.2gを計測する。表面には0.5～1.0mmの円孔が多く生じ、内部も発泡している。実測図左側の面は流動痕跡が顕著で暗灰色を呈し、同右側の面は凹凸が少なく鉄錆化した茶色を呈する。非磁着。

石製品

硯（62） 黒灰色を呈する粘板岩系の石材を素材とする。硯面は使用により凹み、墨が部分的に付着する。現存長8.5cm、現存幅4.2cm、最大厚1.8cmを計測する。

233SD005灰色土出土遺物（第26図）

土師器

坏ａ（63） 口径14.0cm、器高2.7cm、底径10.2cmに復原される。底部は糸切り離し。

坏ａ（土師器計測表） 口径15.6cm、器高2.2cm、底径12.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿ａ（土師器計測表） 口径8.8cm、器高1.1cm、底径6.8cmを計測する。底部は糸切り離し。

青磁

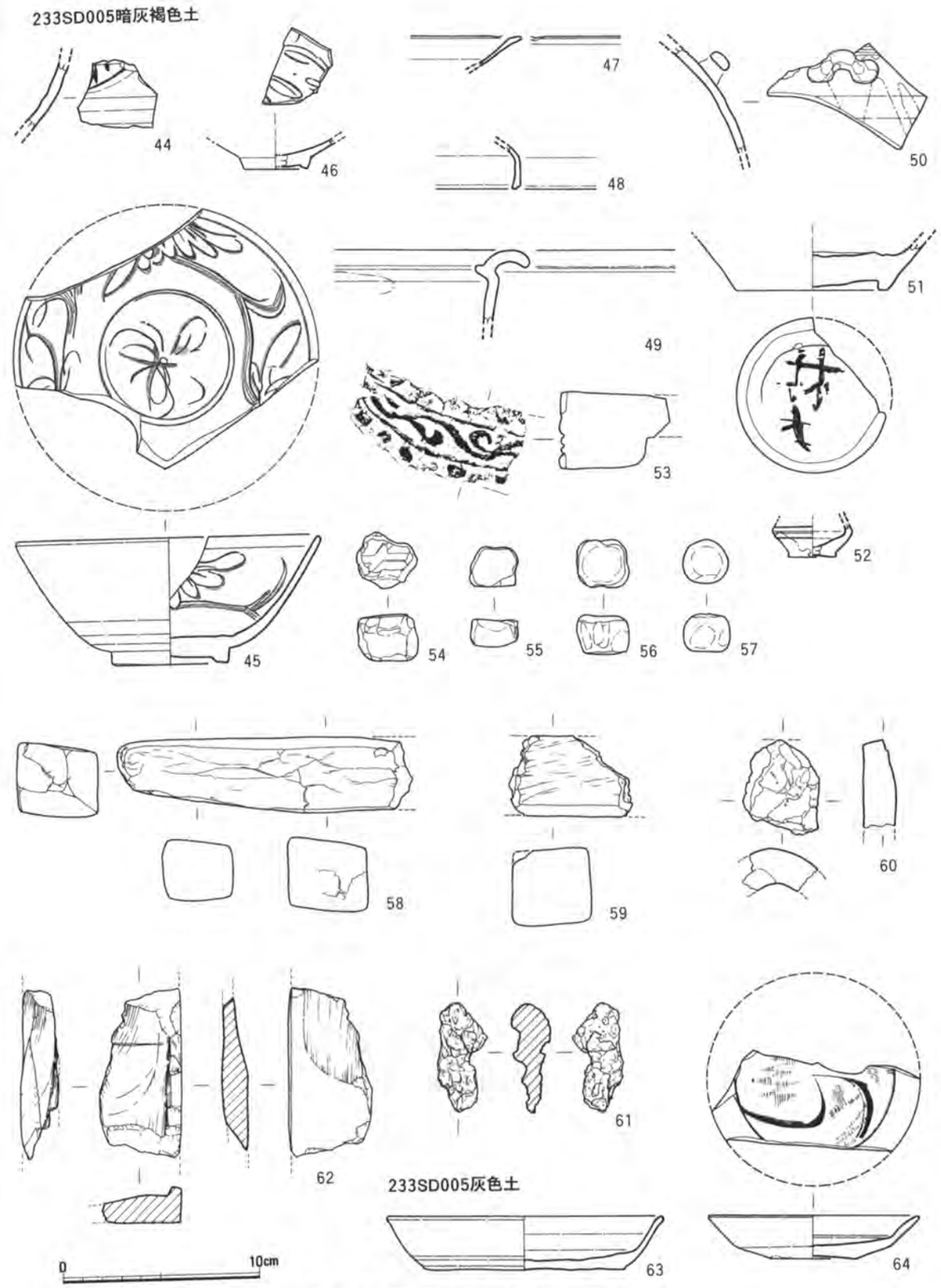
皿（64） 口径10.6cm、器高2.2cm、底径4.4cmに復原される。同安窯系青磁Ｉ－２ｂ類。

233SD005暗茶褐色土出土遺物（第27図）

土師器

坏ａ（土師器計測表） 口径14.4～15.2cm、器高2.1～3.3cm、底径8.5～12.0cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。M－002・003・004の見込みには螺旋状の回転ナデが施される。

坏（65） 口縁部から底部外周の破片。現存高3.3cmを測る。内面調整は口縁部に向けナデ上げられており、手持ちでの成形が考えられる。京都系。



第26図　233SD005遺物実測図３（1/3）

小皿ａ（土師器計測表） 口径8.6～9.4cm、器高0.9～1.4cm、底径6.6～7.6cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。M－011の内面には油煙が付着する。

小皿（66） 口縁部から底部の破片で、コースター状の器形を呈し、口径5.2cm、器高0.9cm、底径5.6cmに復原される。底部は糸切り離し。

土師質土器

鍋（67・68） 67は口縁部から体部上半の破片。現存高は7.8cmを計測する。歪みのある口縁部上端面には疎らな縄の圧痕が観察される。外面には煤が付着する。A類。68も口縁部から体部上半の破片。現存高は3.4cmを計測する。体部は口縁に向かって内湾し、口縁下1.5cmの部位に断面三角形の鍔を貼付する。鍔の下面には煤が付着する。CⅢ類。

須恵質土器

鉢（69） 口縁部から体部下端の資料で片口部が遺存する。口径27.2cm、現存高10.3cmを計測する。東播系であり、第Ⅱ期２段階に属する。

白磁

椀（70） Ⅷ－１類の体部下半から高台にかけての破片で、現存高2.8cmを計測する。内面見込み釉剥ぎ部分に茶色を呈する膜状の付着物が観察される。

青磁

椀（71） 口縁から体部下端にかけての破片で、口径12.4cmに復原され、現存高5.2cmを計測する。龍泉窯系青磁Ⅰ－６ａ類。

青白磁

合子蓋（72） 直径6.4cm、器高1.7cmに復原される。型成形により、外面に花文を打ち出す。胎土は堅緻で黒色粒子を含み、白灰色を呈する。光沢質で青緑色に発色する釉は外面および内面天井部に施され、内面の釉は細貫入を生ずる。

土製品

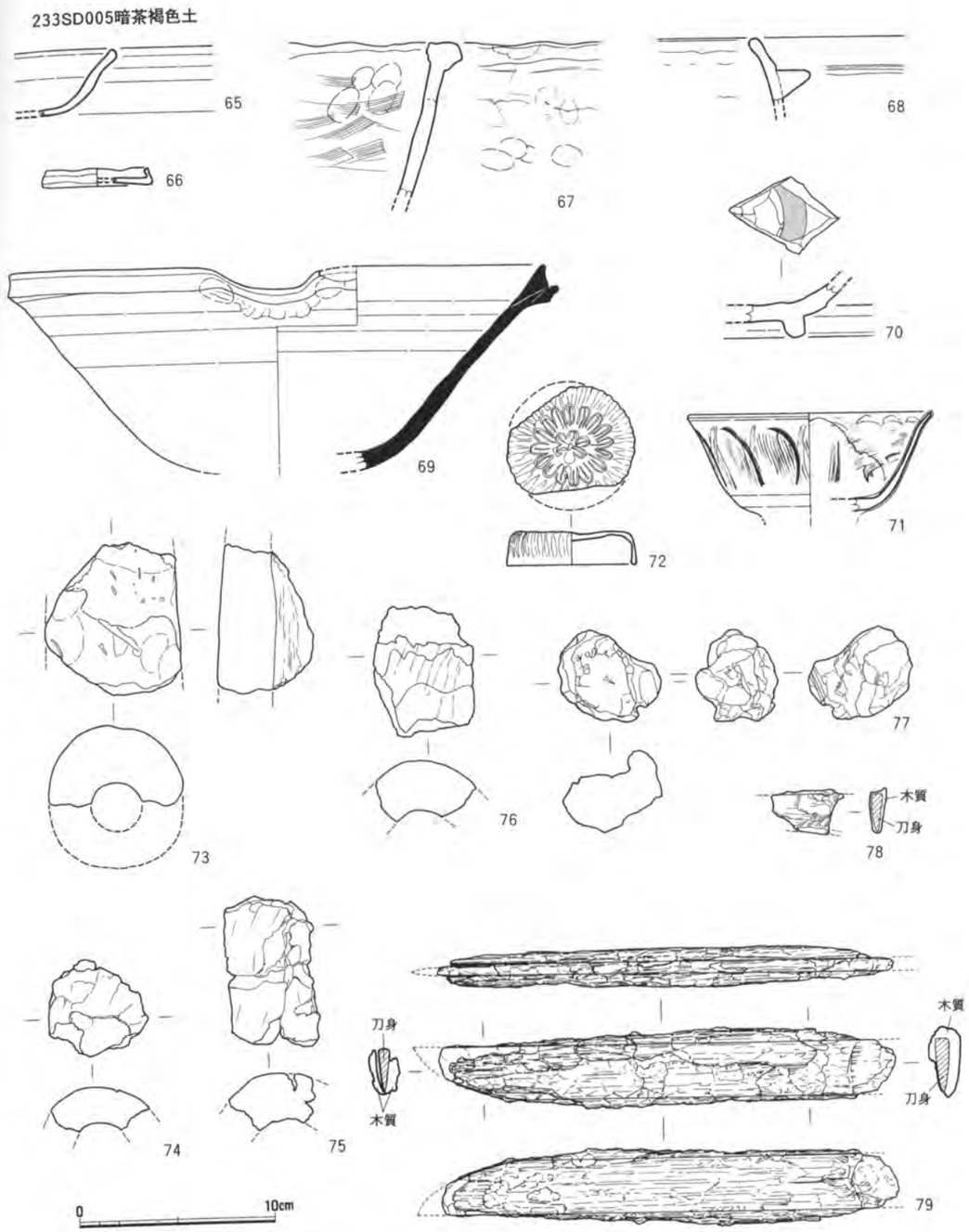
鞴羽口（73～76） いずれも送風方向は実測図上方と推定される。73は現存長7.7cmを計測し、送風孔径2.7cm、外径6.8cmに復原される。送風孔内面には縦方向の条痕が観察され、芯棒の抜き取り跡と推察される。胎土は白色礫を多く含み、先端部付近外面は暗灰色を呈し、基部側に向け灰白色に色相変化する。内面送風部は淡橙色を呈する。74は現存長4.9cmを計測し、送風孔径3.0cm、外径7.0cmに復原される。外面は灰色を呈し、内面送風部は淡赤橙色を呈する。75は現存長7.65cmを計測し、送風孔径2.0cm、外径7.0cmに復原される。外面端部側は黒灰色を呈し、基部側に向け灰白色に色相変化する。内面送風部は橙色を呈する。76は現存長6.6cmを計測し、送風部径2.0cm、外径7.0cmに復原される。先端部付近外面は暗灰色を呈し、基部側に向け灰白色から褐色に色相変化する。内面送風部は橙色を呈する。

焼土塊（77） 規模は4.6×5.2×4.1cmを計測する。芯材の痕跡と推定される器面の滑らかな部位が１ヵ所観察される。胎土中にはスサの痕跡を包含する。胎土は淡赤褐色から黄灰色を呈する。

金属製品

刀子（78） 切先付近とみられ、現存長3.6cm、身幅2.0cmを計測する。刀身は平造り両刃で、錆化し褐色を呈する。刀身は全体を木質に覆われている。

刀（79） 切先を欠損した刀身の一部で、現存長23.0cm、身幅2.6cm、棟幅0.7cmを計測する。刀身は平造り両刃で、ほぼ全体を木質に覆われている。



第27図　233SD005遺物実測図４（1/3）

233SD005明灰色土出土遺物（第28図）

白磁

皿（80） 明灰色土最上端面から出土した。口縁から体部上半約½を欠損している。口径8.8cm、器高1.7cm、底径5.4cmに復原される。やや青味がかる釉が内外面に施されるが、体部外面下位以下は露胎となる。Ⅷ－1′類。

233SD005明茶色土出土遺物（第28図）

土師器

坏a（81～83） いずれも底部は糸切り離し。81は口径14.2cm、器高2.9cm、底径9.9cm。82は口径14.4cm、器高3.2cm、底径10.1cm。83は口径14.4cm、器高2.9cm、底径10.0cmをそれぞれ計測する。

丸底坏a（84） 口縁部から体部の小片で、現存高2.9cmを計測する。口縁部回転ナデ、体部内外面にはナデが施され、体部外面下位には指頭痕が僅かに認められる。

小皿a（85～88） 85は口径8.8cm、器高1.1cm、底径7.2cmで、底部は糸切り離し。86は口径8.9cm、器高1.5cm、底径7.3cm。87は口径8.8cm、器高1.5cm、底径6.8cm。88は口径9.9cm、器高1.6cm、底径7.1cmをそれぞれ測り、底部調整はいずれも手捏ね。

小皿a 2（89） 口径8.8cm、現存高1.7cm、底径7.0cmを計測する。底部調整は不明。

土製品

土馬（90） 土馬の頭部から胴部前半の左半身が遺存する資料で、現存長10.6cm、現存最大幅2.8cmを計測する。指頭調整で粗形を作ったのちヘラケズリにより頭部を成形し、鼻先にヘラ状工具で真一文字のキザミを入れ口吻部を表現する。胴部下端には略円形の器面剥離が観察されるが、この部位に左前脚が貼付されていたものと推定され、脚の貼付位置から頭を垂れる姿勢が想定される。胎土は堅緻であり、瓦質焼成で器面は暗青灰色を呈する。

233SD005茶色土出土遺物（第28図）

土師器

坏a（91） 口径15.4cm、器高3.1cm、底径10.8cmを計測する。底部は糸切り離し。

坏（92） 口径13.8cm、器高2.7cm、底径9.4cmを計測する。内面は不定方向のナデで仕上げられ、体部下半には指頭調整が観察されることから、手持ちでの成形が考えられる。京都系。

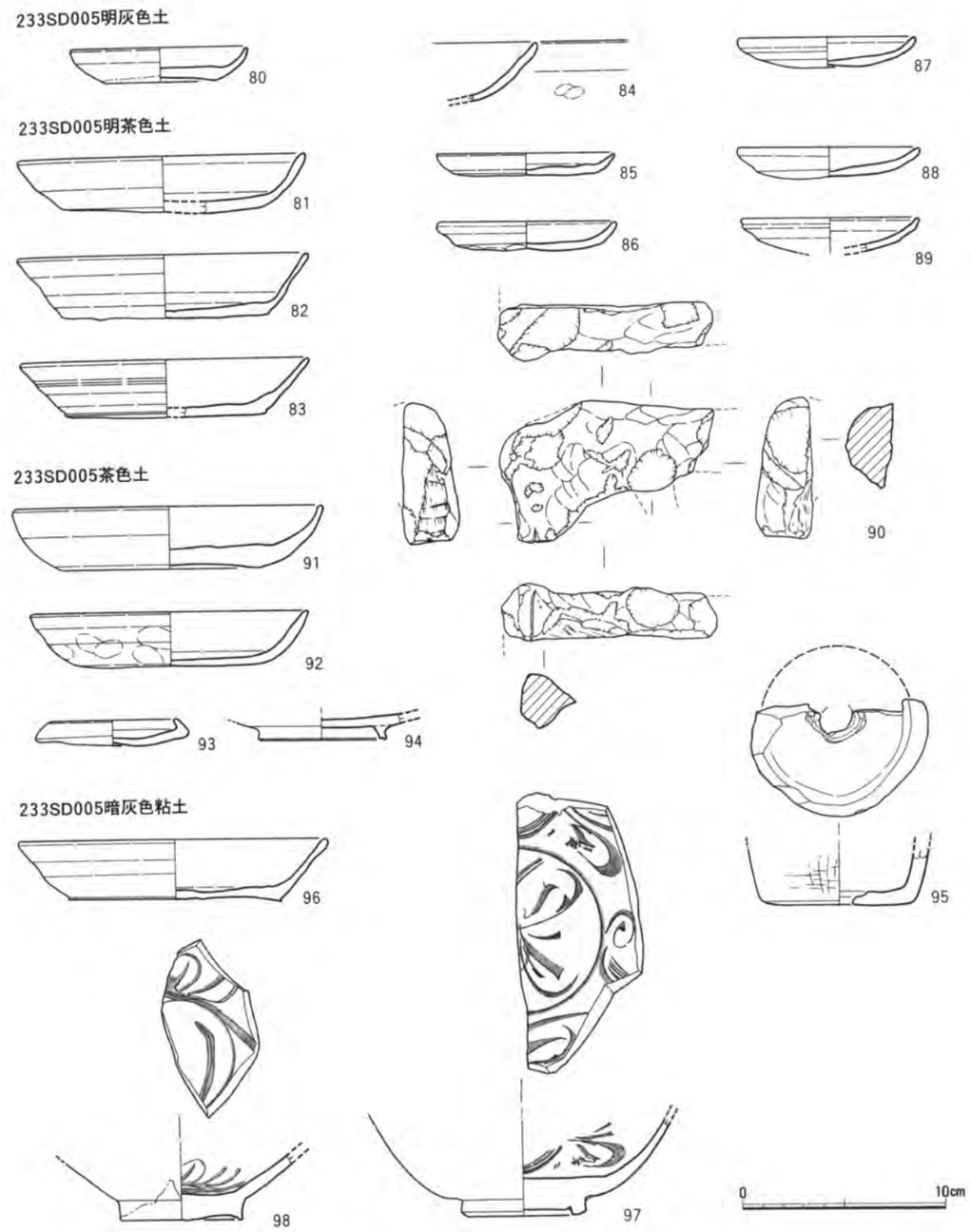
小皿（93） 体部が内傾しコースター状を呈する。体部は回転ナデ、底部内外面はナデ調整。口径6.2cm、器高1.3cm、底径7.6cmを計測する。

緑釉陶器

椀×皿（94） 体部下端から高台の破片。現存高1.3cmを計測し、高台径6.4cmに復原される。底部内面はヘラミガキ、底部外面は回転ナデののち高台貼り付け。胎土は緻密。焼成はやや酸化焔焼成気味で部分的に薄赤橙色を呈する。光沢質で緑黄色に発色する釉は全面に施されるが、剥落が著しい。防長系。

石製品

滑石製坏状製品（95） 暗灰色を呈する滑石を素材とし、切削により成形し、底部の中心に径1.5cmの孔を穿つ。体部外面には煤が付着する。現存高2.8cm、底径7.6cmを計測する。



第28図 233SD005遺物実測図5（1/3）

233SD005暗灰色粘土出土遺物（第28・29図）

土師器

坏a（96） 口径15.4cm、器高3.1cm、底径10.6cmを測る。底部は糸切り離し。内面見込みには螺旋状のナデが施されるが、中心部は一方向のナデによって消される。

青磁

椀（97） 体部下半から高台が遺存し、現存高4.7cmを計測し、高台径6.2cmに復原される。龍泉窯系青磁Ⅰ－2類。

青白磁

椀（98） 体部下半から高台が遺存し、現存高3.3cmを計測し、高台径6.2cmに復原される。高台内の削り込みは浅く、体部は高台脇から直線的に立ち上がる。内面には片彫による略花文が施される。施釉は内外面に及ぶが高台部は露胎。半光沢で濁化した釉は灰白色に発色し、細貫入やピンホール状の釉切れを生じる。胎土は堅緻であるが、焼成は酸化焔焼成気味で高台付近露体部は黄灰色を呈する。

木製品

火鑽臼（99） 現存長12.4cm、最大幅3.1cm、厚さ1.4cmを計測し、針葉樹材の側端部表裏交互片側に合計12個の火鑽孔が遺存する。孔内は炭化し、孔形成に先行してV字の切り込みが入れられる。

箸（100） 端部を欠損する。先端を尖らすように削り、断面を略円形に仕上げる。現存長10.4cmを計測する。

扇（101・102） 檜扇の要付近と推定される針葉樹素材の薄板で、101は現存長4.9cm、最大幅1.7cm、厚さ0.3cm、孔径0.3cm。102は現存長7.5cm、幅1.7cm、厚さ0.3cm、孔径0.3cmを測る。

下駄の歯（103） 露卯下駄の歯と考えられる。形状は撥形を呈し、上部には枘を2ヵ所削り出す。遺存する片側の枘上面には、台との接続を強固にするため、硬木素材の楔が3回打ち込まれている。接地部は斜めに磨滅し、花崗岩粒が木質内に食い込んでいる。接地部幅14.7cm、上端幅10.1cm、最大厚1.9cm、高さ6.5cmを計測する。

毬杖の球（104） 最大径4.5cmを測る幹の上下端部を切り刻み、略球形に仕上げる。高さ4.3cmを計測する。摩耗等の使用痕はみられない。

板状製品（105・106） いずれも針葉樹素材の薄板で、105は長さ10.5cm、幅3.4cm、厚さ0.6cmを計測する。下端面が摩耗している。106は現存長13.9cm、幅3.6cm、厚さ0.4cmを計測する。上部を圭頭状に成形する。

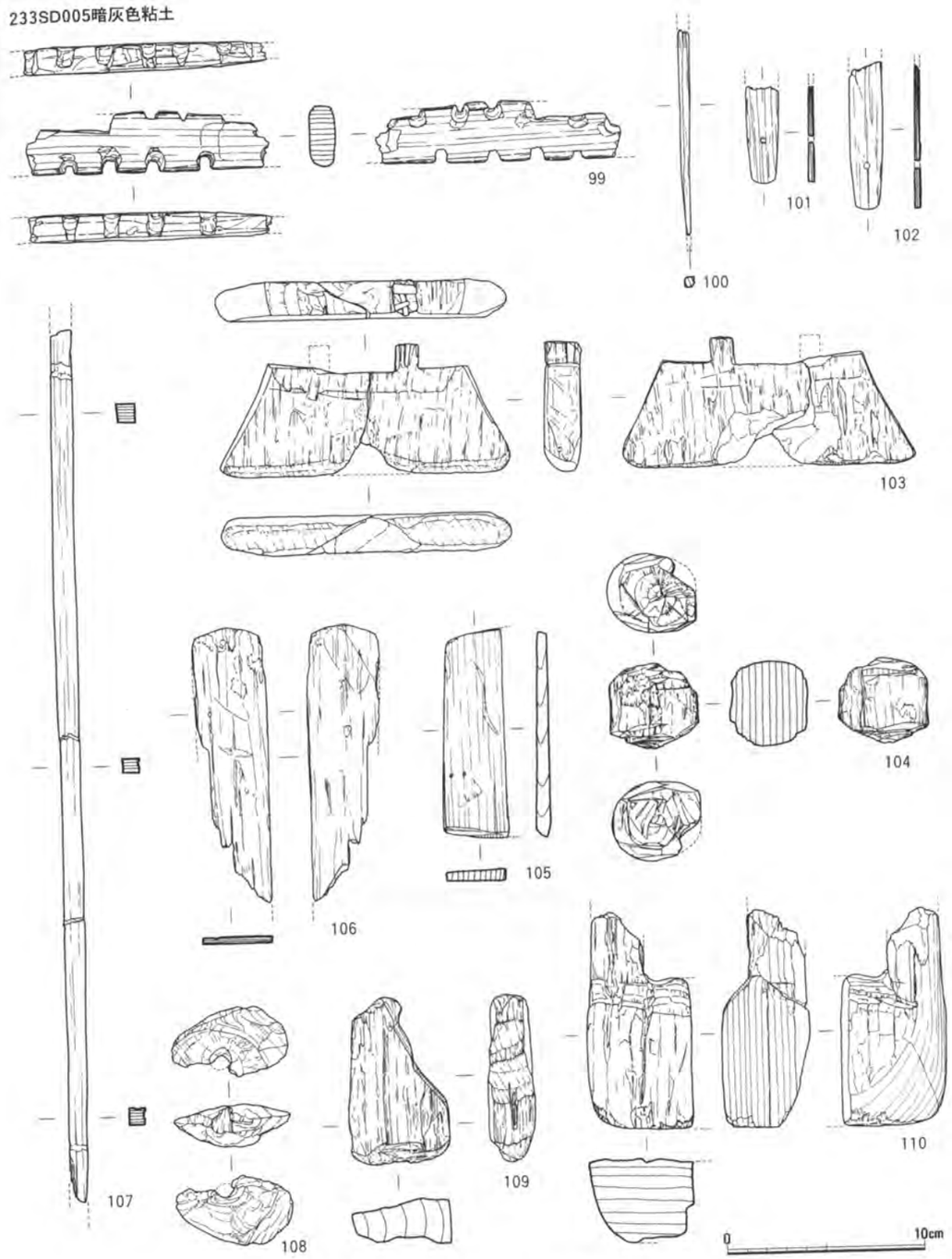
棒状製品（107） 断面矩形の棒状製品で端部は欠損している。現存長44.0cm、幅1.0cmを計測する。

用途不明木製品（108～110） 108は切削により、最大径5.9cm、厚さ2.0cmのソロバン玉状に成形し、中央部付近に径1.0cmの円孔を穿つ。109は厚さ2.3cmの板材側面を階段状に切削している。下端には炭化が観察される。現存長8.4cm、最大幅5.2cmを計測する。110は最大厚4.2cmの材を切削により船底形に成形する。上部には両面から切り込みを入れ枘穴を穿つ。現存長10.9cm、最大幅5.3cmを計測する。器面摩耗が著しい。

233SD018暗灰褐色土出土遺物（第30図）

白磁

床置物か（1） 小片であり、現存高は1.4cmを計測する。型成形とみられ、外面には突起が欠損した痕跡が観察される。薄い胎土は堅緻で灰色を呈し、淡緑灰色に発色する釉が外面と内面上半に施される。



第29図　233SD005遺物実測図6（1/3）

染付磁器

瓶（2） 肩部と推定される破片で、現存高3.1cmを計測する。成形は回転ナデ。胎土は堅緻で黒色微粒子を含み白灰色を呈する。染付は光沢質で微細な気泡が疎らに生じる透明釉の下に施されており、唐草文風文様の外形線を黒紺色の釉で線描したのち、同質の釉で内部を塗りつぶす技法で描かれる。内面には透明釉が施される。類例の少ない希少品である。

土製品

鞴羽口（3・4） いずれも送風方向は実測図上方と推定される。3は基部付近と考えられる破片で、現存長3.3cmを計測する。外面は黒褐色を呈し発泡著しい。内面送風部は橙色を呈する。4は先端部と考えられる破片で、現存長4.0cmを計測する。先端部外面には黒灰色を呈するガラス質付着物が観察される。内面送風部は橙色を呈する。

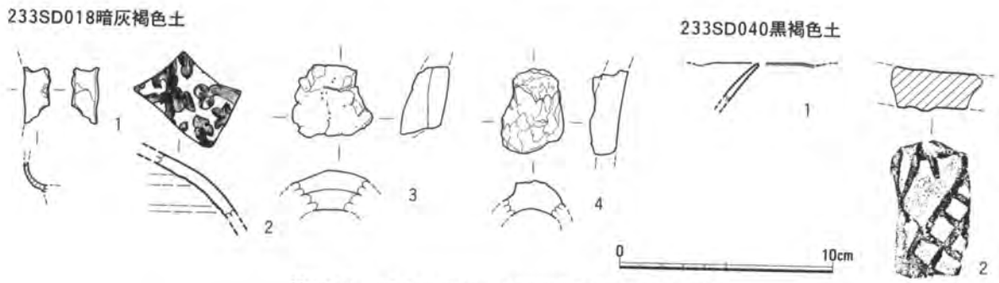
233SD040黒褐色土出土遺物（第30図）

青磁

坏×椀（1） 口縁部から体部上半の破片で、現存高1.8cmを計測する。鋭利な口縁端部には輪花とみられるキザミが1ヵ所遺存する。胎土は堅緻で灰青色を呈し、焼成は良好。内外面に施される光沢質の釉は緑灰色に発色し、貫入を生じる。越州窯系青磁Ⅰ系。

瓦類

平瓦（2） 太線の斜格子目と「佐」字の下半が観察される。Ⅱ－3類。



第30図　233SD018・040遺物実測図（1/3）

233SD070黒褐色土出土遺物（第31図）

土師器

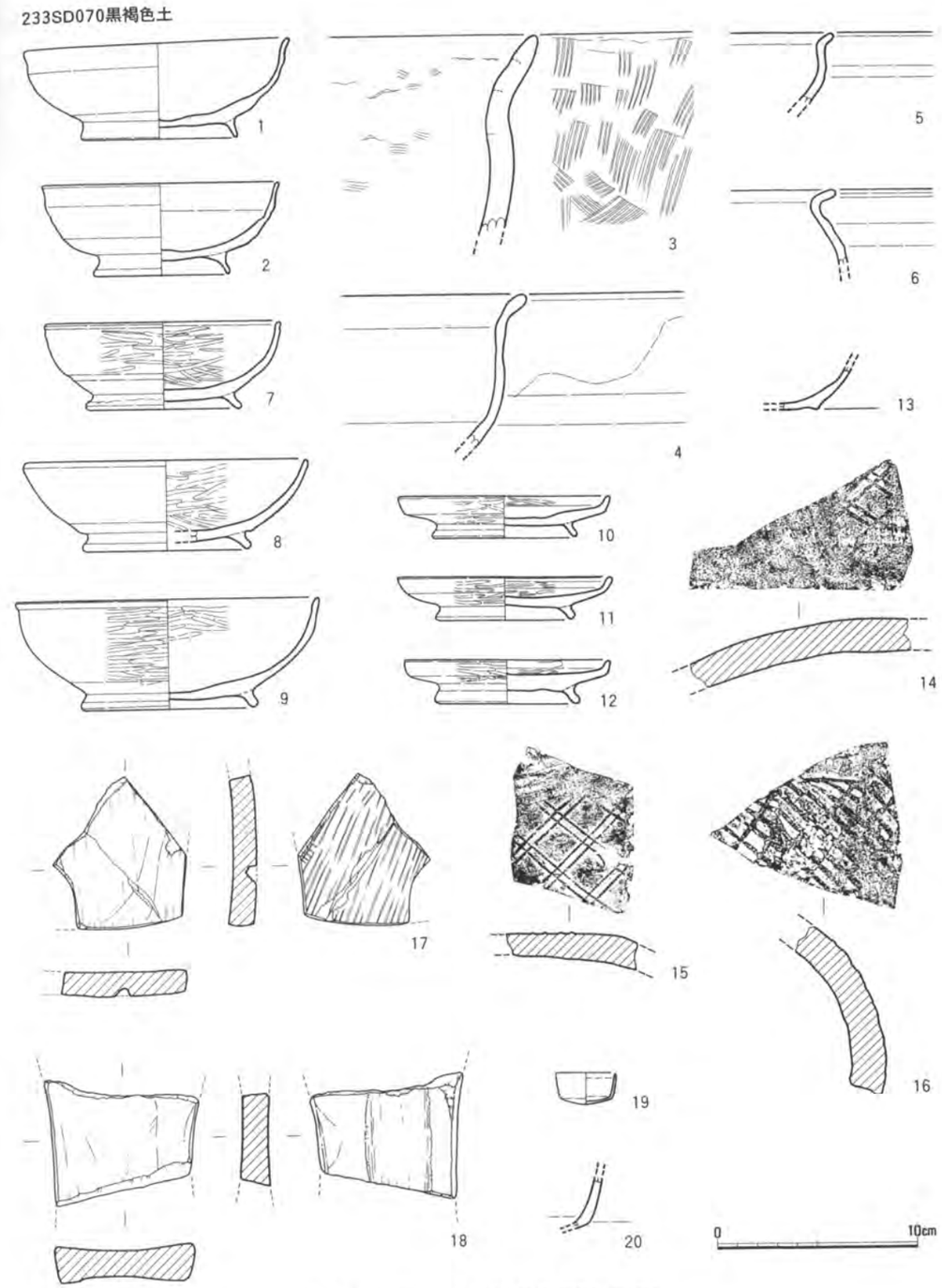
坏a（遺物計測表） 口径10.0～11.1cm、器高1.9～2.3cm、底径6.6～8.4cmを計測する。いずれも底部はヘラ切り離し。

椀c（1・2） 1は口径13.2cm、器高5.0cm、底径7.8cmを計測する。2は口径11.8cmに復原され、器高4.6cm、底径6.8cmを計測する。

小皿a2（土師器計測表） 口径8.6～9.6cm、器高1.1～1.2cm、底径5.4～5.6cmを計測する。底部はヘラ切り離し。

甕a（3） 口縁部から体部の破片で、現存高10.1cmを計測する。外面は縦位から斜位のハケ目、内面は器面が摩耗するが僅かにハケ目が残る。

鉢（4～6） いずれも口縁部から体部上半の破片で、現存高は4が7.7cm、5は3.6cm、6は3.8cmをそれぞれ計測する。4・5は丸みを帯びた体部から口縁部が緩やかに屈曲する器形を有する。内外面と



第31図　233SD070遺物実測図（1/3）

もに横ナデ調整が施され、4の外面下位および5の外面には煤が付着する。6は内傾気味の体部から口縁部が「く」字状に屈曲する器形を有する。内外面ともに横ナデ調整が施され、煤が付着する。

黒色土器B類

椀c（7～9） 7は口径11.8cm、器高4.4cm、底径7.8cm。8は口径14.2cm、器高4.5cm、底径8.4cm。9は口径15.2cm、器高5.5cm、底径8.8cmにそれぞれ復原される。9の底部内面には横位の刻線状擦痕が観察される。

皿c（10～12） 10は口径10.6cm、器高2.1cm、底径7.3cm。11は口径10.8cm、器高2.2cm、底径7.0cm。12は口径10.4cm、器高2.2cm、底径7.3cmにそれぞれ復原される。

中国陶器

小盤（13） 体部下半から底部の小片で、現存高2.1cmを計測する。胎土は黄灰色を呈し粗い。内面に暗黄灰色の釉が施される。Ⅰ類。

瓦（14～16） 14・15は平瓦、16は丸瓦であり、いずれも凸面は格子目叩きである。14・15は二重斜格子目で、15の側縁には分割時裁断痕が観察される。いずれも正格子でⅡ－A類に属する。16は横長の単斜格子目で、線の太さと格子の大きさにばらつきがある。側縁に分割時裁断痕が観察される。Ⅰ－Cb類。

土製品

猿面硯（17） 須恵質土器破片の破断面を研磨、成形し内面を使用面とする。胎土は堅緻で白色粒子を多く含み、暗灰色を呈するが、部分的に暗赤褐色に発色する。裏面には須恵器製作時のハケ目調整が残る。現存長7.6cm、幅6.7cm、厚さ1.2cmを計測する。

石製品

砥石（18） 灰色を呈する硬砂岩を素材とし、4面を使用し摩耗する。現存長7.6cm、幅6.3cm、最大厚1.8cmを計測する。

坏形ミニチュア滑石製品（19） 口縁部⅓、体部から底部½が残存し、口径3.0cm、器高1.6cm、底径2.5cmに復原される。切削による成形後に研磨され、薄く滑らかに仕上げられる。

坏形滑石製品（20） 体部から底部外周の破片で現存高2.6cmを計測する。内外面に研磨が施される。

233SD077暗灰褐色土出土遺物（第32図）

土師器

小皿a（1） 口縁部から底部外周の小片で、現存高0.9cmを計測する。底部は糸切り離し。

233SD105暗褐色土出土遺物（第32図）

土師器

坏a（遺物計測表） 口径12.8～14.2cm、器高2.4～3.3cm、底径7.0～10.2cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿a（遺物計測表） 口径8.0～9.2cm、器高0.9～1.2cm、底径6.4～7.4cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿（1） 口縁部から底部外周の小片で、コースター状の器形を呈し、現存高1.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

青磁

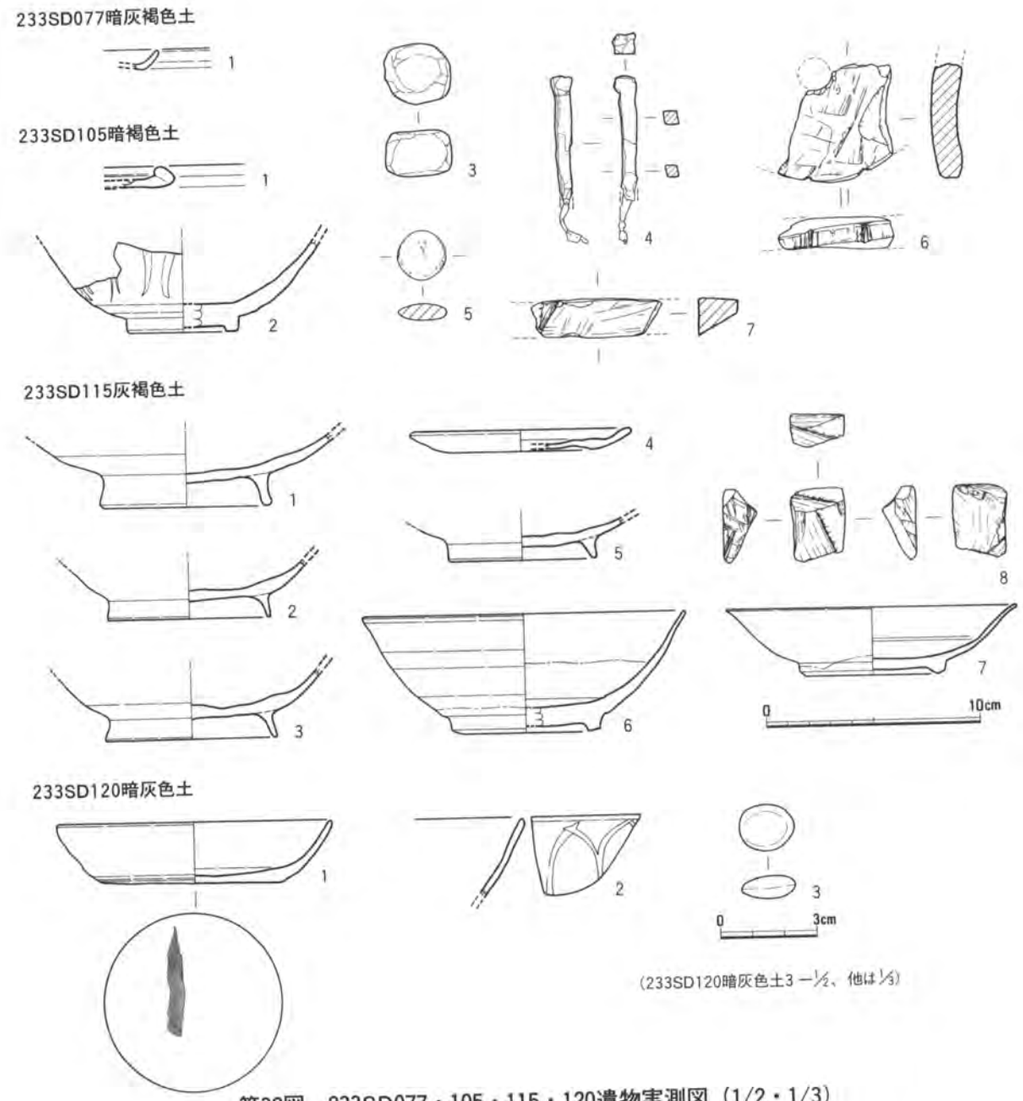
椀（2） 体部下半から高台部の破片で、現存高4.3cmを計測し、底径5.2cmに復原される。体部に片彫蓮弁文が観察される。胎土は堅緻で焼成は良好、灰色を基本とするが、部分的に酸化焔焼成となり黄橙灰色に発色する。龍泉窯系青磁Ⅱ－a類。

瓦製品

瓦玉（3） 黄灰色を呈する土師質の瓦を打割、研磨し略円柱状に成形する。径2.8～3.3cm、厚さ2.1cmを計測する。

金属製品

釘（4） 鉄素材を鍛造で成形、先端が折れ曲がる。現存長7.9cmを計測し、重量は14.2gを量る。



第32図 233SD077・105・115・120遺物実測図（1/2・1/3）

石製品

棊子（5） 明灰色を呈する玄武岩を素材とする。全面研磨。径2.3cm、厚さ0.8cmを計測する。

円盤状滑石製品（6） 外面に煤の付着する石鍋体部を転用したとみられる。円盤状に成形し、中心部に円孔を穿つ。外周側面にはキザミが2ヵ所観察される。現存規模5.6×5.3cm、厚さ1.3cmを計測し、重量は58.5gを量る。

滑石製用途不明品（7） 形状から下面に煤が付着した石鍋の鍔部を転用したとみられ、両端部を欠損し、転用時に体部側を研磨する。現存長6.2cmを計測し、重量は15.4gを量る。

233SD105灰褐色土出土遺物

土師器

坏a（遺物計測表） 口径13.0～13.8cm、器高2.6cm、底径8.2～8.8cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿a（遺物計測表） 口径8.2～8.8cm、器高1.0～1.1cm、底径6.8～7.0cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

233SD115灰褐色土出土遺物（第32図）

土師器

坏a（遺物計測表） 口径10.6cm、器高1.7～2.3cm、底径7.0～7.6cmを計測する。底部はヘラ切り離し。

椀c（1～3） いずれも体部下半から高台が遺存する。1は現存高3.5cm、高台径8.0cm。2は現存高2.7cm、高台径7.5cm。3は現存高3.2cm、高台径8.0cmをそれぞれ計測する。

皿（4） 口縁部から底部の破片で、口径10.4cm、器高1.0cm、底径6.6cmに復原される。底部はヘラ切り離し。

皿c（5） 口縁部から高台部の破片で、口径12.3cm、器高2.2cm、高台径7.6cmに復原される。

灰釉陶器

椀（6） 口縁部から高台まで遺存し、口径15.2cm、器高5.6cm、高台径7.0cmに復原される。口縁部から体部は回転ナデ。低い角高台は削り出し。胎土は堅緻であるがやや粗く砂味があり灰青色を呈し、白色微粒子と径1～2㎜の白色礫を含む。半光沢質で細貫入を生じる釉は暗緑灰色から暗黄緑灰色に発色し、体部内面上位から体部外面下半まで薄く不均一に施される。産地不明。

白磁

皿（7） 口縁部から高台まで遺存し、口径13.6cm、器高3.2cm、高台径6.8cmに復原される。胎土は堅緻で黒色微粒子を含み、白灰色を呈する。光沢質の釉は青白色に発色し、内面から外面体部下位まで施される。高台内に焼台痕と推定される煤が付着する。XI類。

石製品

楔状滑石製品（8） 滑石小片を切削および研磨によって楔状に成形する。表面には煤が部分的に付着する。長さ3.4cm、幅2.5cm、最大厚1.7cmを計測し、重量は15.4gを量る。

233SD120暗灰色土出土遺物（第32図）

土師器

坏a（1） 口縁部から底部が遺存し、口径12.9cm、器高3.0cm、底径8.4cmを計測する。底部は糸切り離し。底部外面に「一」文字の墨書が施される。

坏a（遺物計測表） 口径12.4cm、器高2.8cm、底径7.4～8.2cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿a（遺物計測表） 口径8.2～9.6cm、器高1.0～1.1cm、底径6.5～7.8cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。M－004の胎土には白雲母が多く含まれる。

青磁

椀（2） 口縁部から体部上半の小片で、現存高3.7cmを計測する。外面に片彫蓮弁文が施される。龍泉窯系青磁Ⅱ－a類。

石製品

棊子（3） 黒灰色を呈する片岩系の石材を素材とする。径1.45～1.7cm、厚さは0.7cmを計測する。

2）井戸出土遺物

233SE010褐色土出土遺物（第33図）

土師器

丸底坏a（1） 口縁部⅛、底部¼弱が遺存する資料で、口径15.0cm、器高4.2cm、底径5.6cmに復原される。調整は口縁部内外面回転ナデ、内面はナデ、体部外面下半には指頭調整痕が観察される。胎土は白色を呈し、白雲母と小礫を少量含有する。

233SE011暗灰色土出土遺物（第33図）

土師器

小皿a（土師器計測表） 口径10.3cm、器高1.4cm、底径8.0cmを計測する。底部はヘラ切り離し。

黒色土器B類

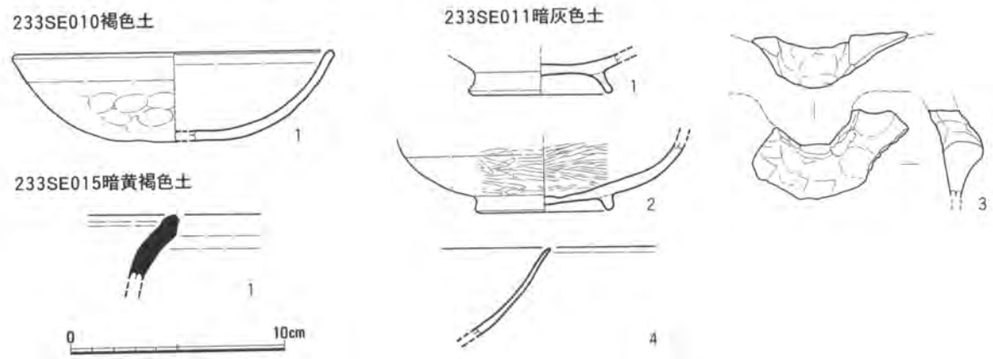
椀c（1・2） ともに口縁部を欠く資料で、1は現存高1.9cm、高台径6.8cm、2は現存高3.2cm、高台径6.4cmを測る。体部内外面ともにミガキ、高台周囲は貼り付け後に回転ナデ調整が施される。

土師質土器

鉢（3） 片口部の資料で、現存高7.2cmを計測する。手捻りによって注ぎ口を作出したのち、器面にナデ調整を施す。焼成は良好であり、胎土はやや粗く3㎜以下の白色粒子を多く含み、茶褐色から橙色に発色する。

白磁

椀（4） 口縁部から体部が遺存し、現存高は4.1cmを計測する。緻密で灰白色を呈する胎土には黒色細粒子を含有し、内外面に施された光沢質の釉には細貫入が生じる。XI類。



第33図 233SE010・011・015遺物実測図（1/3）

233SE015暗黄褐色土出土遺物（第33図）

須恵質土器

甕（1） 口縁部から頸部の資料で、現存高3.1cmを測る。内外面を回転ナデで仕上げる。胎土には黒色・白色細粒子を含み、焼成は良好で還元化が進み明青灰色に発色する。産地不明。

233SE020黒褐色土出土遺物（第34図）

土師器

坏a（1） 口径10.8cm、器高2.0cm、底径7.5cmを計測する。底部はヘラ切り離し。

小皿a 2（土師器計測表） 口径11.6cm、現存高1.3cm、底径8.2cmに復原される。底部はヘラ切り離し。

黒色土器B類

椀c（2） 口縁から底部にかけて約⅓が残存する資料で、口径15.6cm、器高5.4cm、高台径9.3cmに復原される。体部内外面にヘラミガキが施され、底部ヘラ切りののち、高台貼り付けに伴う回転ナデが施される。

緑釉陶器

椀×皿（3） 口縁から体部上半を欠く資料で、現存高1.3cm、高台径6.4cmを計測する。底部は回転糸切り後に高台貼り付け。胎土は灰色から淡橙色を呈し緻密。暗緑色から緑黄色に発色する釉は高台内を除いて施される。近江系。

233SE020暗灰色土出土遺物（第34図）

土師器

椀c（4） 口縁部約¼を欠くがほぼ完形の資料。口径13.0cm、器高5.0cm、底径7.8cmを計測する。口縁部と高台内に油煙が付着する。

緑釉陶器

皿（5） 口縁部から体部上半の資料で、現存高1.3cmを計測する。胎土は緻密で灰青色を呈し、白色微粒子を含有する。光沢質で暗緑色から緑灰色に発色する釉は薄く施されており、剥離しやすい。京都系と推定される。

木製品

櫛（6・7） いずれも黒褐色を呈する硬木を素材とした挽歯式横櫛。歯の挽き出し位置は背部に平行して比較的直線的であり、歯は密に挽き出される。6は歯を一部欠損するのみで全形を把握でき、幅11.3cm、高さ3.8cm、背の厚さは0.9cmを計測する。7は両端を欠損し、現存幅4.7cm、高さ3.1cm、背の厚さは1.1cmを計測する。

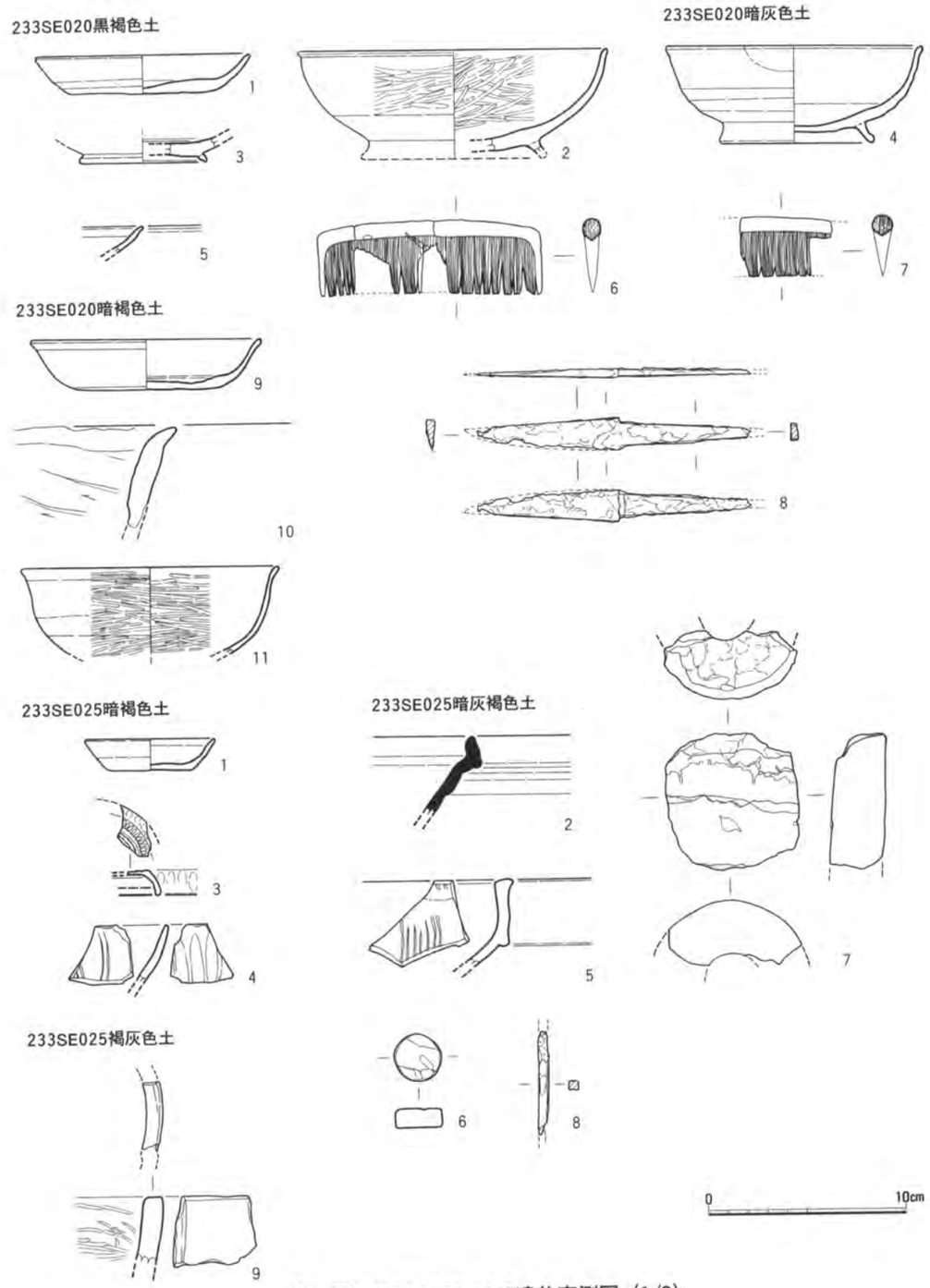
金属製品

刀子（8） 鉄素材を鍛造により成形。錆化が進行し切先、刃部、中子端部が欠損している。刃部は両刃と推定される。現存長13.8cm、刃部の最大幅1.7cm、厚さ0.4cm。中子部は最大幅1.1cm、厚さ0.3cmを計測する。

233SE020暗褐色土出土遺物（第34図）

土師器

坏a（9） 口径11.7cm、器高2.6cm、底径7.8cmに復原される。底部はヘラ切り離し。内面見込みには同心円状の回転ナデ痕が残る。



第34図 233SE020・025遺物実測図（1/3）

鉢（10） 口縁部から体部上半の小片であり、現存高5.1cmを計測する。口縁部内外面を横ナデ、体部内面は斜位のナデが施される。体部外面は摩耗し調整が不明瞭であるが、口縁部直下に指頭痕跡が観察される。胎土に角閃石を含有する。

黒色土器B類

椀ｃ（11） 底部を欠損する資料で口径13.0cm、現存高4.4cmに復原される。内外面にヘラミガキが施される。

233SE025暗褐色土出土遺物

土師器

小皿ａ（遺物計測表）口径7.8～8.9cm、器高1.0cm、底径5.8～6.5cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿ｂ（１）約½弱が遺存する資料。口径6.6cm、器高1.6cm、底径4.2cmに復原される。底部は糸切り離し。

233SE025暗灰褐色土出土遺物（第34図）

土師器

坏ａ（遺物計測表） 口径11.4cm、器高2.2～2.5cm、底径7.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿ａ（遺物計測表） 口径8.4cm、器高1.1cm、底径6.4cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿ｂ（遺物計測表） 口径6.6～7.0cm、器高1.4～1.5cm、底径4.0～5.2cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

須恵質土器

鉢（２） 口縁部から体部上半の破片資料。現存高4.0cmを計測する。器面調整は回転ナデであり、口縁端部を内側へ屈折させる。胎土はやや粗く、焼成は堅緻で青灰色を呈する。口縁端部外面は黒灰色に発色する。東播系であり、第Ⅲ期１段階に属する。

青白磁

合子蓋（３） 現存高1.3cmを計測する。胎土は酸化焔焼成気味で淡橙色に発色し、釉には焼成不良のため白濁がみられる。

椀（４） 口縁部から体部の破片であり、現存高3.0cmを計測する。外面にはヘラ状工具による蓮弁文、内面にはクシ状工具による縦沈線が施され、口縁端部に輪花とみられるキザミが１ヵ所遺存する。胎土は灰白色を呈し堅緻。光沢質で薄青緑色に発色する釉は内外面に施され、細密な貫入を生ずる。

中国陶器

鉢（５） 口縁部の破片資料。現存高4.4cmを計測する。内面には１単位７本以上の櫛目が施される。胎土は白色細粒子を含有し、灰赤茶色を呈する。暗褐色に発色する釉は口縁端部内側から外面にかけて施される。Ⅱ－１ａ類。

土製品

円盤状加工土器片（６） 暗橙色を呈する土師器片を転用、研磨し円盤状に成形した資料であり、直径2.4cm、厚さ1.0cmを計測する。

鞴羽口（７） 先端部の破片資料であり、黒灰色、黄白色を呈する残滓が送風口に付着する。胎土は外面が灰白色、内面は淡橙色に発色する。現存長6.9cm、送風部径8.0cm、外径10.8cmに復原される。

金属製品

銭貨（第50図１） 開元通寶（唐、621年初鋳）。法量は「銭貨計測表」に掲載した。

釘（８） 鉄素材を鍛造により成形する。両端部が欠損し、現存長5.3cm、重量3.7gを計測する。

233SE025褐灰色土出土遺物（第34図）

土師器

小皿ａ（遺物計測表） 口径8.0cm、器高0.8～1.0cm、底径6.0～6.4cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

瓦質土器

火鉢（９） 口縁部の破片であり、現存高3.5cmを計測する。摩耗のため外面の器面調整は不明瞭であるが、外面から縦方向の押圧を加えている。内面には疎らなミガキが施される。ＢⅢ類。

233SE035黒褐色土出土遺物（第35図）

土師器

坏ａ（遺物計測表） 口径11.0～13.6cm、器高2.3～2.8cm、底径5.8～8.2cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿ａ（遺物計測表） 口径8.2～11.0cm、器高0.8～1.2cm、底径6.4～9.4cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

須恵質土器

鉢（１） 現存高4.3cmを計測する口縁部破片。外面回転ナデ、内面不定方向のナデが施される。胎土は堅緻で、外面は灰褐色を呈するが、内面は酸化焔焼成のため赤褐色に発色する。東播系であり、第Ⅱ期２段階に属する。

白磁

皿（２） 器高2.2cmを計測する。全面施釉後に底部の釉を削り取る。胎土は精良で灰白色を呈し、釉は半光沢質。Ⅷ－１′類。

青白磁

合子蓋（３） 約⅓遺存し、径7.0cm、器高1.7cmに復原される。型成形により上面に鶴の意匠、側面に花文を打ち出す。胎土は精良で灰白色を呈し、明緑灰色に発色する。

合子身（４） 小片で現存高1.7cmを計測する。焼成不良で、胎土は灰白色を呈し、釉は明緑灰色に発色する。

土製品

円柱状土製品（５） 径3.5cm、器高4.0cmを計測する。表面はナデ調整されるが、下端面は特に平滑に仕上げられる。胎土は粗く白色・黒色粒子・礫を多量に含む。焼成は良好で淡黄色に発色する。製品に付属する獣脚と推定される。

土錘（６） 一端を欠損し、現存長2.4cm、最大径0.9cm、孔径0.35cm、重量2.5gを計測する。胎土はやや粗く白色粒子を少量含む。焼成は良好で褐色から赤褐色に発色する。

233SE035黒灰色土出土遺物（第35図）

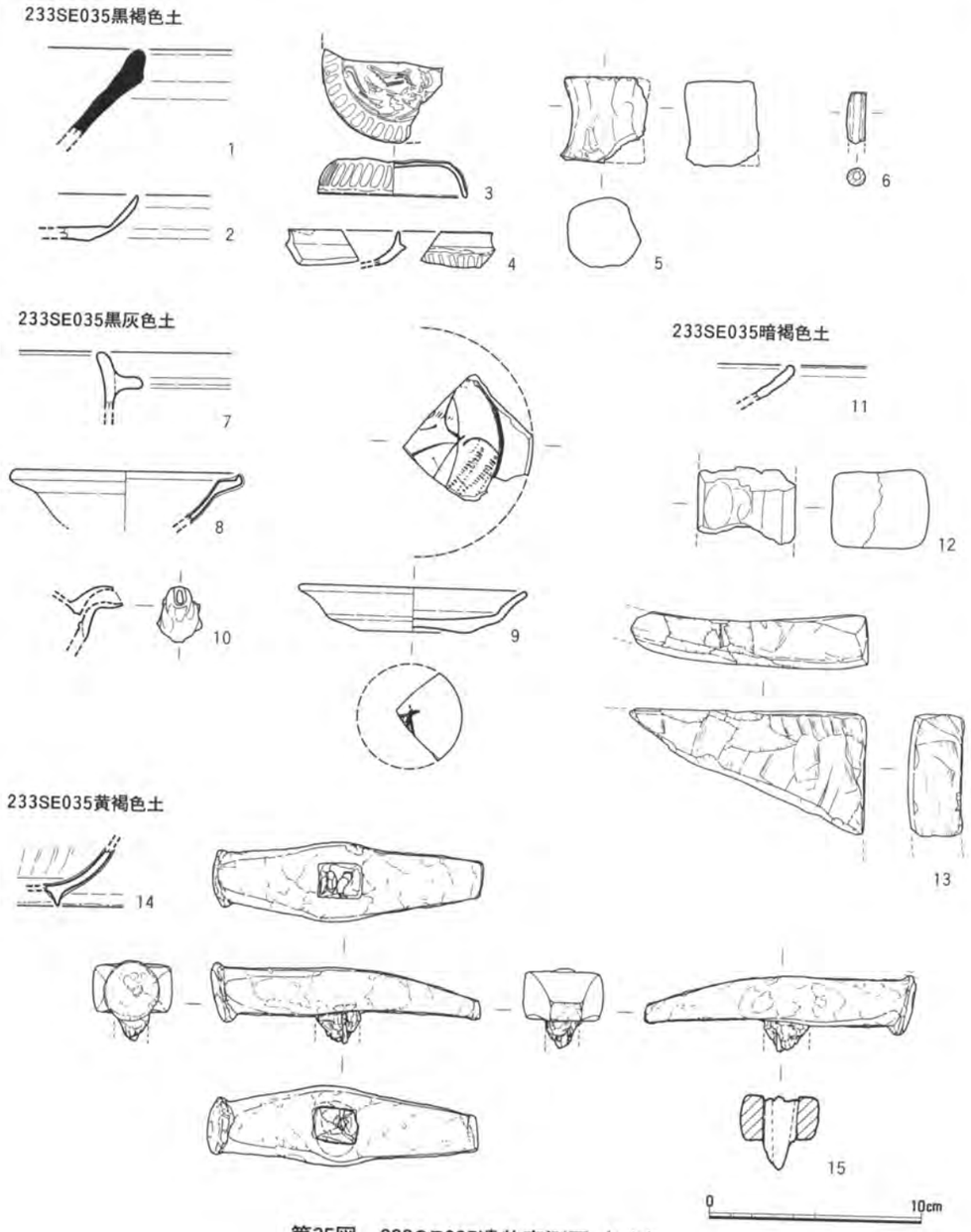
土師器

鍋（７） 口縁部から体部上半の破片で、現存高は2.7cmを測る。内湾する体部外面には鍔を貼付しナ

デ調整される。胎土は白色粒子小礫を含み、焼成は良好で灰褐色から灰黄色を呈する。外面には煤が付着する。CⅢb類。

青磁

坏（8） 口縁から体部上半の破片で、口径11.0cmに復原され、現存高2.5cmを計測する。龍泉窯系青磁Ⅲ－3類。



第35図　233SE035遺物実測図（1/3）

皿（9） 口縁から底部の破片で、口径10.8cm、器高2.1cm、底径5.0cmに復原される。底部に墨跡が観察できる。同安窯系青磁Ⅰ－2b類。

青白磁

水注（10） 注ぎ口の破片で、現存高2.6cmを計測する。胎土は堅緻で黒色細粒子を含む。焼成は良好。光沢質の釉は外面に施され、薄い青白色に発色する。

233SE035暗褐色出土遺物（第35図）

土師器

坏a（遺物計測表） 口径12.4cm、現存高2.4～2.6cm、底径7.8～8.4cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿a（遺物計測表） 口径7.6～9.0cm、器高0.8～1.4cm、底径5.8～7.8cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

中国陶器

皿（11） 口縁部から体部の破片で、現存高1.7cmを測る。胎土は緻密で薄い赤橙色を呈し、暗褐色に発色する釉は内外面に施される。胎土特徴と釉調からB群と考えられる。

土製品

柱状土製品（12） 幅3.8×4.6cm、現存長3.6cmを測る。器面は瓦質焼成で暗灰色を呈する。

金属製品

銭貨（第50図2） 皇宋通寶（北宋、1038年初鋳）。法量は「銭貨計測表」に掲載した。

石製品

滑石製用途不明品（13） 石鍋を転用したものとみられ、口縁部破片の破断面を平滑に研磨する。現存規模5.8×11.2cm、厚さ2.5cm、重量190gを計測する。表面には煤が付着する。

233SE035黄褐色土出土遺物（第35図）

土師器

坏a（遺物計測表） 口径12.4～12.8cm、器高2.4～2.6cm、底径7.2～8.6cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿a（遺物計測表） 口径9.0cm、器高0.9～1.0cm、底径6.8～7.2cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

青磁

坏（14） 体部下位から高台にかけての破片で、現存高2.8cmを計測する。龍泉窯系青磁Ⅲ－3b類。

金属製品

金鎚（15） 金鎚の頭であり、鉄素材を鍛造によって片尖りの形態に成形する。全長は12.9cm、最大幅3.8cmを計測し、重量は400gを量る。主要敲打面は径2.8cmを測る円形を呈し、片面は1.5×0.9cmを測る長方形を呈す。両面とも使用によってめくれているが、特に円形敲打面は著しく、打面が鉛直方向に対して傾いている。上面観は舟形を呈し、重心位置に2.0cm角の方孔を設ける。方孔内には柄の木質が遺存し、鉄素材の楔が2個打ち込まれる。

233SE045黒灰色土出土遺物

土師器

小皿ａ（遺物計測表） 口径8.8～9.0cm、器高0.9～1.0cm、底径5.8～6.6cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

233SE045黄灰色砂出土遺物（第36図）

土師器

坏ａ（遺物計測表） 口径12.4～13.1cm、器高2.9cm、底径8.0～9.4cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿ａ（遺物計測表） 口径8.2～8.7cm、器高1.1～1.4cm、底径6.8～7.0cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

金属製品

用途不明金具（１） コの字状に遺存する銅素材の鋳造品であり、断面形は半円形を呈する。幅2.6cm、現存高0.6cmを計測し、重量は2.4gを量る。

233SE045暗褐色土出土遺物（第36図）

土師器

小皿ａ（遺物計測表） 口径9.0～9.6cm、器高1.3～1.8cm、底径6.6～6.8cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

青白磁

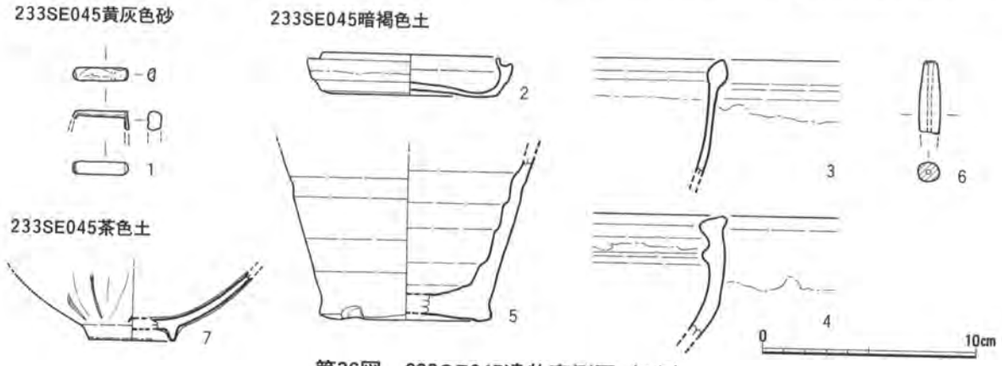
合子身（２） 口縁から底部まで残存する資料。口径8.2cm、器高1.9cm、底径8.2cmに復原される。胎土は堅緻。薄い青灰色から青白色に発色する釉は光沢質であるが、失透気味で貫入が入る。

中国陶器

盤（３） 口縁部から体部にかけての破片で、現存高は5.5cmを測る。口縁部はにぶい玉縁状。胎土はやや粘質で黄橙色を呈する。灰黄褐色に発色する釉を口縁部内外面に施す。Ⅰ－２′類。

鉢（４） 口縁部から体部にかけての破片で、現存高5.5cmを計測する。胎土は粗く暗赤橙色を呈し、薄い緑黄色に発色する釉を口縁部内外面に施す。Ⅰ－２ｂ類。

耳壺×壺（５） 体部下半から底部にかけて遺存する。現存高7.8cm、底径8.0cmを計測する。体部外面から底部にかけては回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ、底部脇には指頭痕が観察される。胎土特徴と



第36図 233SE045遺物実測図（1/3）

釉調からＢ群と判断される。

土製品

土錘（６） 一端を欠損し、現存長3.4cm、最大径1.0cm、孔径0.2cm、重量3.5gを計測する。胎土は緻密で黒色細粒子、白雲母、小礫を含む。焼成は良好で薄い黄橙色に発色する。

233SE045暗灰色土出土遺物

土師器

坏ａ（遺物計測表） 口径15.6cm、器高2.3cm、底径10.6cmを計測する。底部は糸切り離し。

233SE045茶色土出土遺物（第36図）

青磁

椀（７） 体部から高台が遺存し、現存高3.4cmを計測し、高台径4.0cmに復原される。外面に鎬蓮弁文が観察される。龍泉窯系青磁Ⅲ－２類。

233SE050暗褐色土出土遺物（第37図）

土師器

坏ａ（遺物計測表） 口径13.4cm、器高2.4cm、底径9.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

瓦質土器

鉢（１） 口縁部から体部上半の破片で片口が遺存する。現存高7.9cmを計測する。器面は指頭調整後ハケ目、横ナデで片口を作出する。焼成は良好で灰白色を呈する。ＡⅡ類。

金属製品

釘（２） 鉄素材を鍛造により成形。頭部と先端部を欠損し、現存長6.6cm、重量4.3gを計測する。

233SE050褐色砂出土遺物（第37図）

土師器

坏ａ（遺物計測表） 口径12.6cm、器高2.9cm、底径8.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

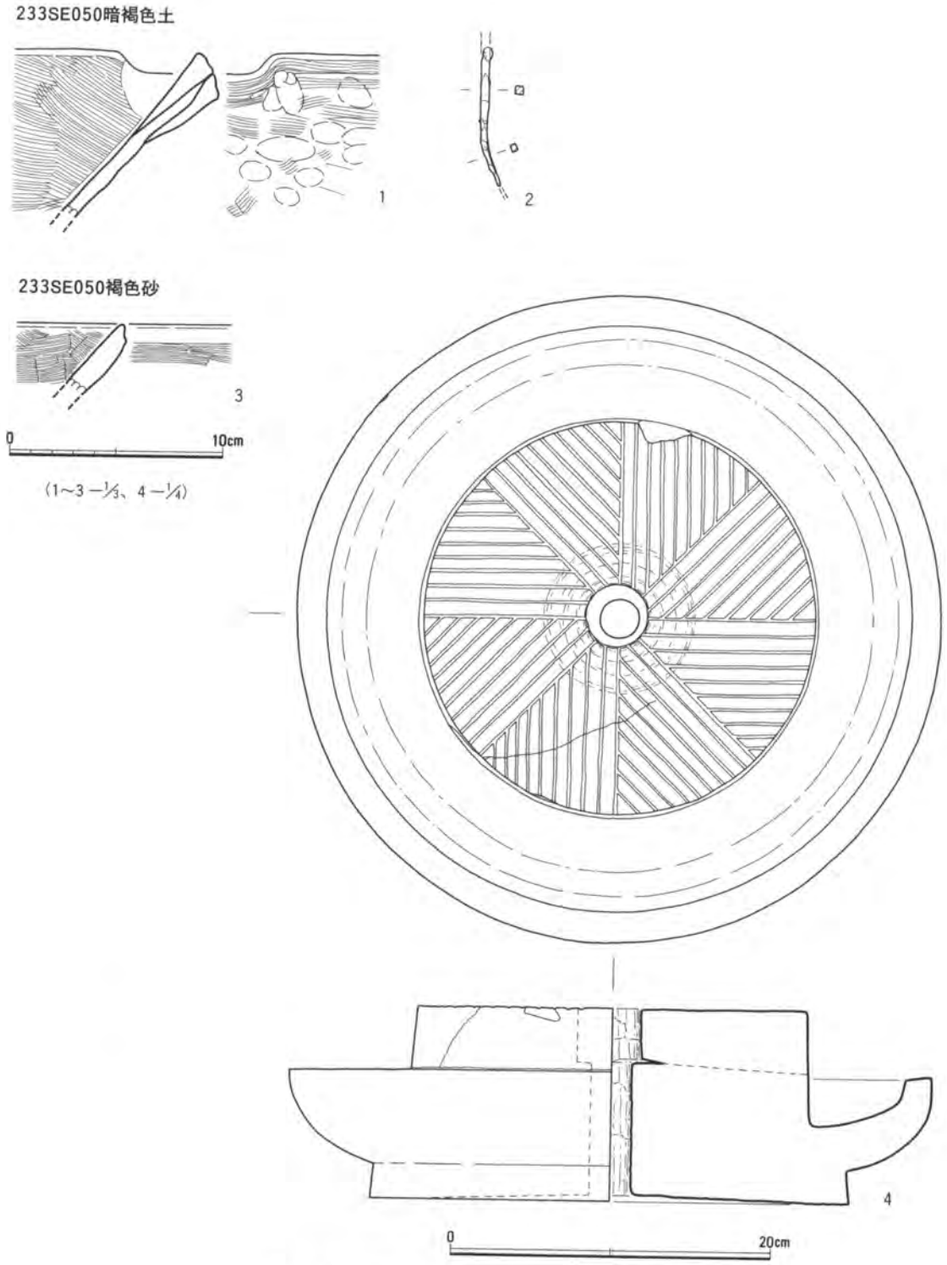
小皿ａ（遺物計測表） 口径7.4cm、器高1.5cm、底径4.8cmを計測する。底部は糸切り離し。

瓦質土器

鉢（３） 口縁部から体部上半の破片で、現存高3.3cmを計測する。口縁部横ナデ、体部はハケ目調整。ＡⅡｃ類。

石製品

すり臼（４） 茶臼下臼と考えられ、灰色を呈する砂岩系素材を成形する。臼面から側面にかけて一部欠けているがほぼ完形。円筒形臼部の外側を同心円に受皿が巡り底部が高台状となる形状を呈し、外面は丁寧に研磨仕上げされて滑らかであるが、底面は粗仕上げで凹凸が目立つ。平坦な臼面には断面U字状の目が外周まで刻まれ、８分画10溝を基本とするが、１区画のみ９溝になっており変則的である。中心付近に同心円状の擦痕が残る。中心部を貫通する軸孔は、臼面から3.6cm下位で段差を持ち、底面側軸孔は臼面側より小径化、且つ偏芯する。軸孔段差上には黒色を呈すタール状物質が付着する。また臼面から約3.8cm下位の外側面には細密な条線が１条巡り、その空隙にも軸孔段差に付着するものと同質の黒色タール物質が観察される。この条線を境にして上下で石材構成物の粒度に差違がみられ、臼面から側面上位にかけて生じるひび割れが条線部分で断絶している。このような現象から本資料は、軸孔



第37図　233SE050遺物実測図（1/3・1/4）

段差と側面条線を結ぶラインで上下に分かれる可能性があり、個別に粗加工された部材を製作の過程で合体したか、あるいは使用時に破断したため補修を施したものと考えられ、付着する黒色タール状物質は接着剤と推定される。臼面径24.5cm、受皿径40.2cm、底径30.1cm、軸孔径は臼面側3.9cm、底面側2.5cm、高さ12.0cmを計測し、重量は20.1kgを量る。表面には欠損面も含め茶色を呈す酸化被膜が付着する。

233SE050黄褐色土出土遺物

土師器

小皿ａ（遺物計測表）　口径8.0cm、器高0.8cm、底径6.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

233SE060暗褐色土出土遺物（第38図）

土師器

小皿ａ（遺物計測表）　口径9.8cm、器高0.9cm、底径7.8cmを計測する。底部は糸切り離し。

瓦器

椀ｃ（１）　体部下半から高台にかけての破片で、現存高2.3cmを計測する。体部外面には指頭調整痕が残る。内面調整は摩耗著しく不明瞭。焼成は良好で暗灰色から明灰色を呈する。

瓦質土器

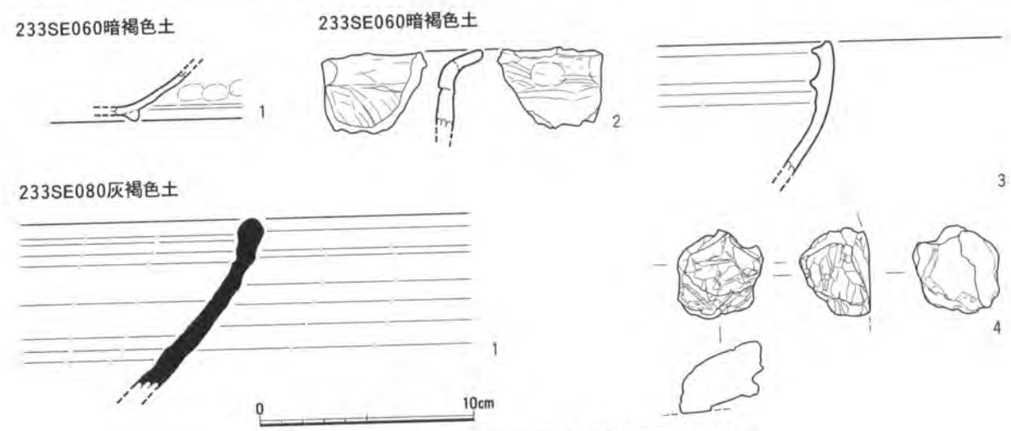
鉢（２）　口縁部から体部上半の破片で、現存高3.8cmを計測する。口縁部は横ナデ、外面口縁部直下にはナデと指頭調整が施される。体部内面にはケズリ調整が施される。焼成は良好で灰白色から暗灰黒色を呈する。未分類資料。

中国陶器

鉢（３）　口縁部から体部上半の破片。現存高6.2cmを測る。胎土は白色粒子をやや多く含み、暗赤褐色に発色する。Ｉ－１ｂ類。

土製品

焼土塊（４）　規模は4.2×4.0×3.3cmを計測する。壁面と推定される、赤橙色に発色する平坦面が１面観察される。胎土中にはスサの痕跡を多量に包含する。焼成はやや軟質で暗黄橙色に発色する。



第38図　233SE060・080遺物実測図（1/3）

233SE080暗褐色土出土遺物

土師器

坏ａ（遺物計測表） 口径12.0～13.6cm、器高2.5～2.7cm、底径8.0～9.0cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿ａ（遺物計測表） 口径8.6～9.0cm、器高0.8～1.3cm、底径6.6～7.4cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

233SE080灰褐色土出土遺物（第38図）

土師器

坏ａ（遺物計測表） 口径14.2cm、器高2.6cm、底径9.8cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿ａ（遺物計測表） 口径7.4～8.6cm、器高0.9～1.1cm、底径5.2～6.6cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

須恵質土器

鉢（１） 口縁部から体部に破片で、現存高7.9cmを測る。器面は回転ナデで仕上げられる。胎土は堅緻で黒色微粒子を含む。焼成は良好で灰青色に発色する。篠窯系。

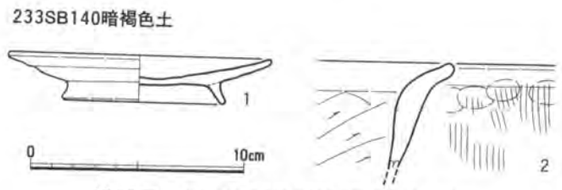
３）掘立柱建物出土遺物

233SB140暗褐色土出土遺物（第39図）

土師器

皿ｃ（１） 柱穴cから出土。口縁部から高台が遺存する。口径12.3cm、器高2.2cmを計測し、高台径7.6cmに復原される。

甕ａ×鉢（２） 柱穴bから出土。口縁部から体部上半の小片で、現存高5.0cmを計測する。口縁部内外面を横ナデ、体部外面にハケ目を施し、口縁部直下に指頭調整が残る。体部内面はヘラケズリが施される。外面には煤が付着する。



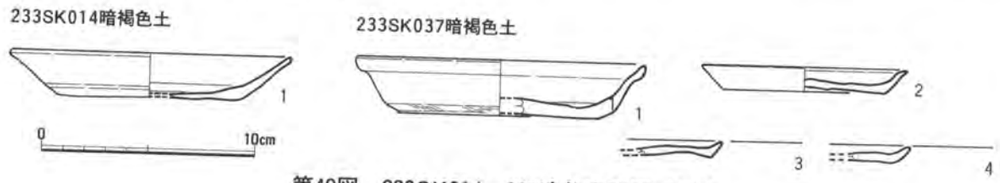
第39図　233SB140遺物実測図（1/3）

４）土坑出土遺物

233SK014暗褐色土出土遺物（第40図）

土師器

坏ａ（１） 口縁部から底部が遺存し、口径13.2cm、器高2.1cm、底径8.4cmに復原される。底部は糸切り離し後に一部ケズリが施される。



第40図　233SK014・037遺物実測図（1/3）

233SK037暗褐色土出土遺物（第40図）

土師器

坏ａ（１） 口縁部から底部が遺存し、口径13.6cm、器高2.6cm、底径9.6cmに復原される。底部は糸切り離しで、体部外面下端に焼成前に生じた擦痕が観察される。

小皿ａ（２～４） いずれも底部は糸切り離し。２は½遺存し、口径9.6cm、器高1.2cm、底径7.6cmに復原される。３・４は口縁部から底部まで遺存する小片で、いずれも器高0.8cmを計測する。

233SK055暗褐色土出土遺物

土師器

坏ａ（遺物計測表） 口径11.8～14.6cm、器高2.4～3.0cm、底径7.0～10.2cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿ａ（遺物計測表） 口径8.0～9.0cm、器高0.8～1.6cm、底径5.8～7.4cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

233SK055褐灰色土出土遺物

土師器

小皿ａ（遺物計測表） 口径9.0cm、器高1.0cm、底径7.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

233SK055褐色土出土遺物（第41・42）

土師器

坏ａ（遺物計測表） 口径11.8～14.5cm、器高2.2～3.2cm、底径7.3～11.7cmを計測する。M－032・042の見込みには螺旋状の回転ナデが残る。M－023・027・036の内面には油煙が付着する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿ａ（遺物計測表） 口径8.0～9.7cm、器高0.8～1.4cm、底径5.6～8.6cmを計測する。M－059・064・121の見込みには螺旋状の回転ナデが残る。いずれも底部は糸切り離し。

瓦器

椀ｃ（１） 口縁部から高台が遺存し、口径14.3cm、器高5.3cm、高台径5.5cmに復原される。内面から外面上半にかけては回転ナデで、内面にこてあて痕が観察される。外面体部下位から底部は回転ヘラケズリ、高台周辺は貼付にともなう回転ナデが施され、体部外面下位には指頭調整痕が観察される。胎土は堅緻で、焼成は良好。器面色相は口縁部内側から体部外面上半は黒灰色、以外は明灰色に発色する。

瓦質土器

火鉢（２） 口縁部から体部上半の破片で、現存高4.5cmを計測する。器面は回転ナデ。口縁部は内側へ肥厚させる。胎土は堅緻。焼成は良好であるがやや酸化焔焼成気味で、器面色相は口縁端部から外面は黒灰色、内面は暗橙色に発色する。未分類資料。

白磁

皿（３・４） いずれもⅨ－１ａ類。口縁部から底部が遺存し、３は口径9.8cm、器高1.9cm、底径5.8cmを計測する。口縁部内側には油煙が付着する。４は口径9.6cm、器高1.7cm、底径6.2cmに復原される。

中国陶器

盤（５） 口縁部から体部上半の破片で、内外面に光沢質の緑釉を施す。現存高は4.2cmを計測する。Ⅰ－２類。

瓦製品

瓦玉（6～19） いずれも瓦片を打割、研磨して成形する。器形は略円柱状を呈するものから、全面が顕著に研磨され偏球状を呈するものがある。6・7には瓦凸面の格子目が残り、8・9・16・17には瓦凹面の布目が残る。各法量は、6は径2.3～2.9cm、厚さ2.2cm、重量21.0g。7は径2.55cm、厚さ1.55cm、重量14.8g。8は径3.05～3.1cm、厚さ2.0cm、重量22.6g。9は径2.8～2.9cm、厚さ1.8cm、重量16.6g。10は径3.2～3.6cm、厚さ2.35cm、重量29.6g。11は径2.3～2.7cm、厚さ2.3cm、重量16.6g。12は径2.3～2.5cm、厚さ1.6cm、重量8.6g。13は径2.7～2.75cm、厚さ1.3cm、重量11.2g。14は径2.3～2.5cm、厚さ1.9cm、重量14.6g。15は径2.2～2.5cm、厚さ2.0cm、重量13.2g。16は径2.2～2.3cm、厚さ2.3cm、重量13.4g。17は径2.6～2.8cm、厚さ1.85cm、重量13.8g。18は径2.1～2.3cm、厚さ2.0cm、重量9.7g。19は径2.2～2.6cm、厚さ2.0cm、重量11.0gをそれぞれ計測する。

土製品

おはじき（20） 暗橙色を呈する土師器片を研磨し、円盤状に成形する。径1.7～1.85cm、厚さ0.6cmを計測し、重量2.2gを量る。

金属製品

銭貨（第50図3・4） 3は皇宋通寶（北宋、1038年初鋳）。4は大観通寶（北宋、1107年初鋳）。それぞれ法量は「銭貨計測表」に掲載した。

釘（21・22） いずれも鉄素材を鍛造して成形する。21は両端部を欠損し、現存長4.3cm、重量6.7g。22は先端部を欠損し、現存長3.7cm、重量1.2gをそれぞれ計測する。

石製品

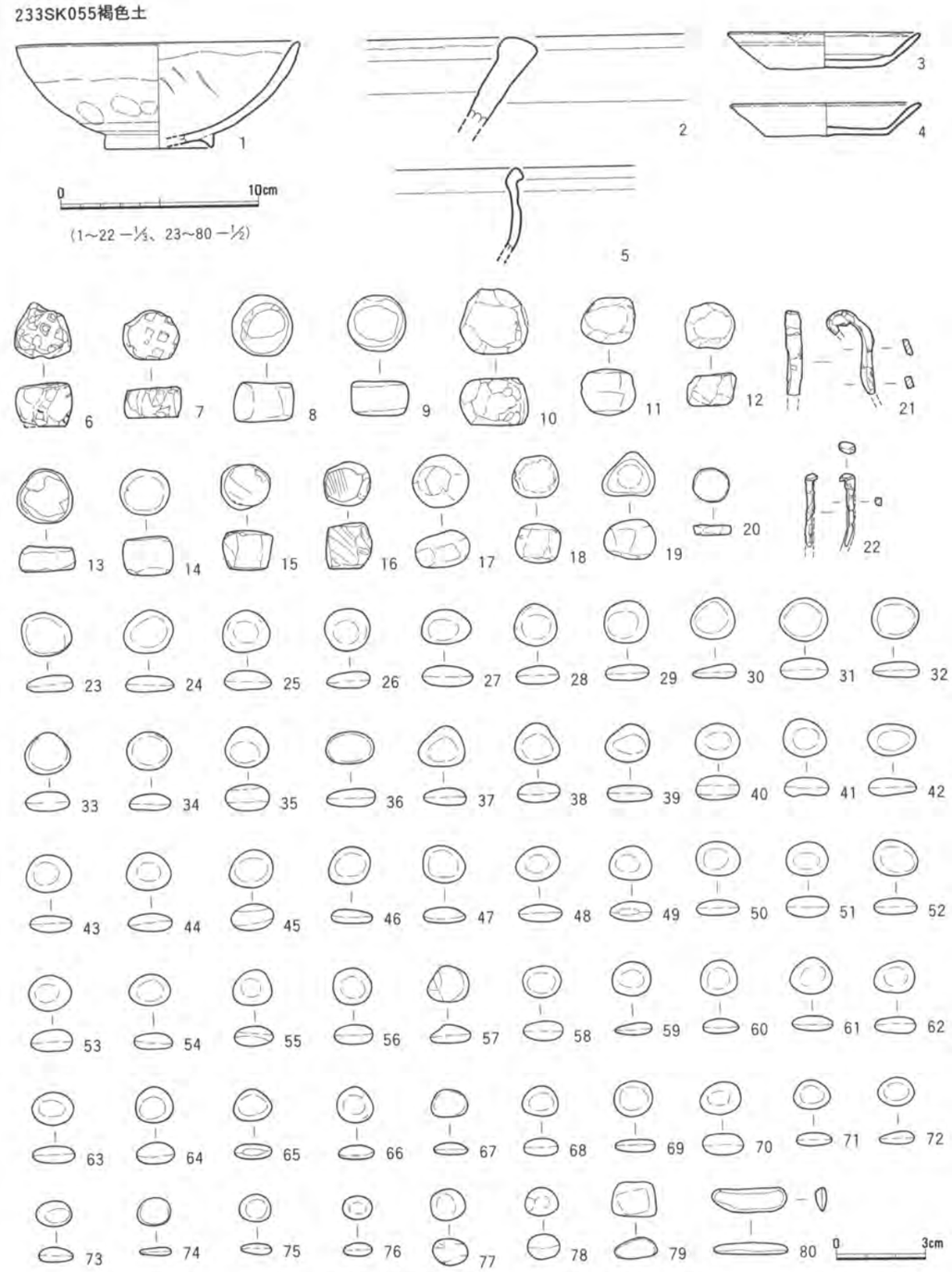
碁子（23～80） 黒灰色基調の片岩を素材とする。23～76は偏平な円形状を呈し、径0.8～1.4cm、厚さ0.75cmを計測する。77・78は球状を呈し、径0.9～1.2cmを計測する。79は偏平な方形状を呈し、石材中には灰白色の斑晶がみられる。長さ1.2～1.5cm、厚さ0.7cmを計測する。80は偏平な棒状形で、色相は緑灰色を呈する。長さ2.5cm、厚さ0.35cmを計測する。

砥石（81～83） 81は黄白色を呈す細粒砂岩を素材とし、長方形を呈し、一端を欠損する。4面を使用し顕著な擦痕が残り、下端面は自然面あるいは1次成形面と推定される。現存長9.7cm、最大幅3.6cmを計測する。82は黒灰色を呈する粘板岩を素材とし、側面を使用し、顕著な擦痕が観察される。表裏面は剥離する。現存長12.25cm、現存幅7.9cm、最大厚1.7cmを測る。83は灰白色を呈する砂岩を素材とし、円筒形状を呈する。長さ5.3cm、最大厚2.0cmを計測し、重量は24.4gを量る。表面には、研磨による半截円錐状の凹みが側面に多数形成され、下端には自然面が残る。

滑石製用途不明品（84～86） 84は断面台形を呈し、中央部に半円状の切り込みを入れる。表面には煤が付着する。全長4.3cm、幅1.35cm、厚さ0.9cmを計測し、重量は7.5gを量る。85・86は石鍋を転用したものとみられる。85は石鍋口縁部破片の破断面を平滑に研磨する。現存幅15.7cm、現存高9.55cm、厚さ2.6cmを計測し、重量は540gを量る。86は底部付近の破片に鋸状の工具で切削を加える。現存幅19.55cm、現存高2.3cmを計測し、重量は225gを量る。

ガラス製品

小玉（87・88） 鮮やかな青色に発色するガラスを素材とし、巻き上げ技法によって成形する。素材は光沢質で不透明。87は径0.3cm、厚さ0.3cm、孔径0.15cm。88は径0.3cm、厚さ0.2cm、孔径0.2cmをそれぞれ計測する。



第41図　233SK055遺物実測図1（1/2・1/3）

233SK055黄褐色土出土遺物（第43図）

土師器

坏ａ（遺物計測表） 口径11.5～13.8cm、器高2.0～3.2cm、底径7.0～9.6cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。R－027は体部が直立気味に高く立ち上がる器形を有し、口径11.3～11.6cm、器高3.5cm、底径7.6～9.6cmを計測する。底部は糸切り離し。R－027、M－010・033・044の見込みには螺旋状の回転ナデが残る。M－001の内面には油煙が付着する。

小皿ａ（遺物計測表） 口径7.6～9.6cm、器高0.8～1.5cm、底径5.4～8.0cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。M－061・108・112・136・138・155・158・171・208・214の見込みには螺旋状の回転ナデが残る。M－054・061・106・110の内面およびM－239の内外面には油煙が付着し、M－209の内面には籾殻圧痕が観察される。

土師質土器

鍋（89） 口縁部から底部外周が遺存する。口径28.0cm、現存高10.7cm、底径22.4cmに復原される。口縁部内外面横ナデ。体部外面は指頭調整ののち、縦位のハケ目と横ナデ調整が施され、体部下端の屈曲部にはヘラケズリが加わる。体部内面には横位のハケ目ののち、横ナデ調整が施される。口縁端部から外面にかけて煤が付着する。ＤＩａ類に属すが、直線的な体部など、より金属製品を意識したものと思われる。

白磁

椀（90） 口縁部から高台まで遺存する。口径15.0cm、器高6.9cm、高台径5.1cmに復原される。やや青味がかる釉が高台脇まで施され、高台内には偶発的に釉が付着するⅨ－２ａ類。

皿（91・92） 口縁から底部まで遺存する。91は口径9.7cm、器高1.6cm、底径6.3cmでⅨ－１ａ類。92は口径11.6cm、器高2.4cm、底径7.2cmでⅨ－１ｂ類。

青白磁

小皿（93） 口縁部から高台まで遺存する。口径6.6cm、器高1.2cm、高台径2.4cmに復元される。型成形であり、内面に花文を打ち出す。胎土は堅緻で黒色微粒子を含み、明灰色を呈する。焼成は良好であるが、高台部外面は橙黄色に発色する。半光沢質で微細な気泡を生ずる釉は明青灰色に発色し、内面から高台外面まで施される。

中国陶器

盤（94） 口縁部から体部上半の破片で、現存高4.9cmを計測する。Ｉ－２類。

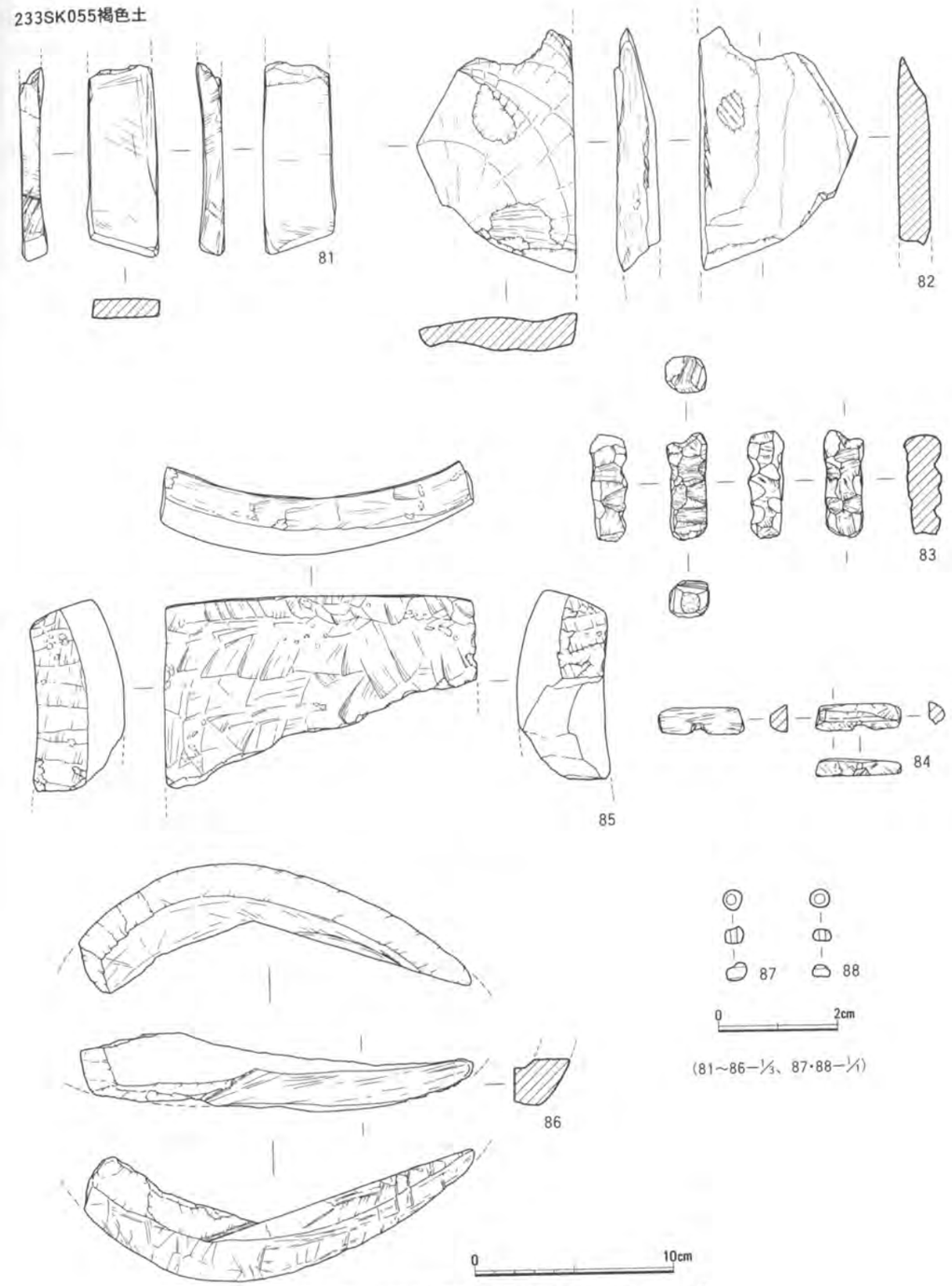
瓦類

瓦玉（95～99） いずれも瓦片を打割、研磨し成形する。98・99は酸化焔焼成で土師質。他は須恵質である。器形は略円柱状を呈するものから、全面が顕著に研磨され偏球状を呈するものがある。95・97には瓦凹面の布目が微かに残る。各法量は、95は径2.3～2.6cm、厚さ2.2cm、重量14.6g。96は径2.4～2.6cm、厚さ2.0cm、重量14.4g。97は径2.9～3.0cm、厚さ1.8cm、重量17.6g。98は径2.8～3.0、厚さ1.9cm、重量19.8g。99は径2.7～2.9cm、厚さ1.9cm、重量10.2gをそれぞれ計測する。

金属製品

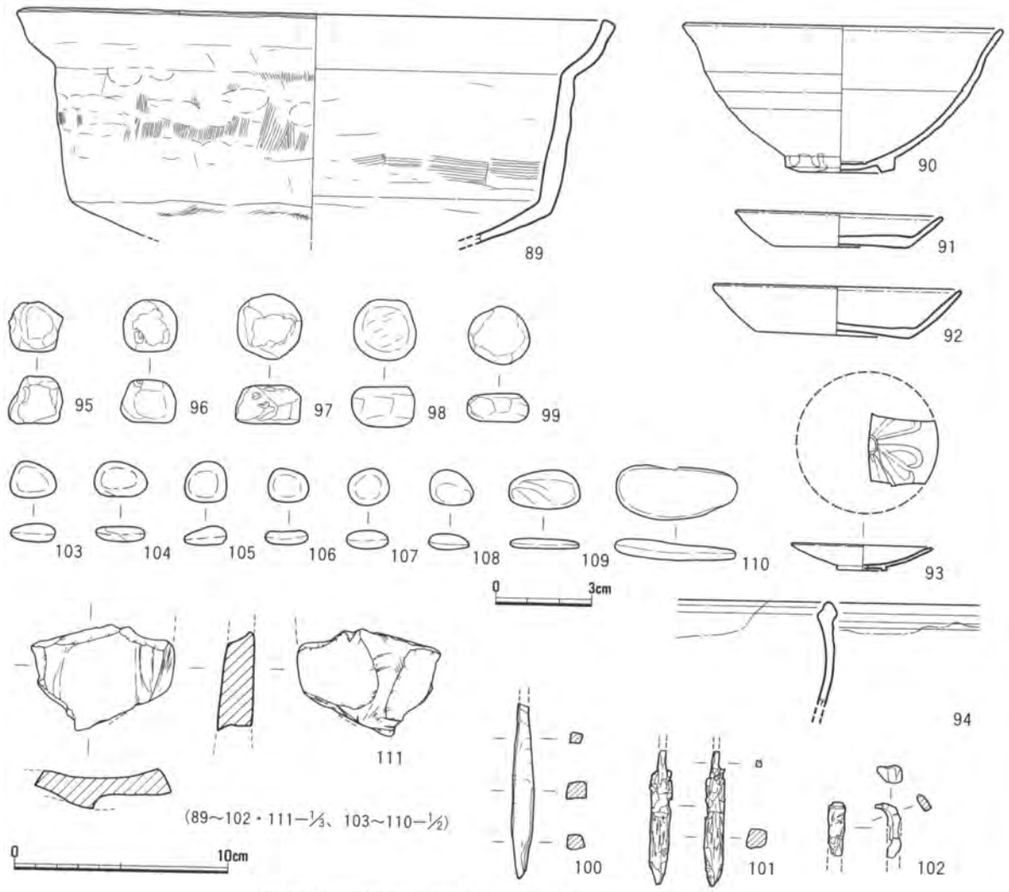
銭貨（第50図５） 紹定通寶（南宋、1228年初鋳）。背文は「四」。法量は「銭貨計測表」に掲載した。

釘（100～102） 鉄素材を鍛造により成形。100は基部側を欠損し、中膨らみの形態を持つ。現存長8.2cm、重量18.0gを計測する。101も基部側を欠損し、木質部に覆われている。現存長6.3cm、重量4.5gを計測する。102は先端側を欠損し、現存長2.5cm、重量1.0gを計測する。



第42図　233SK055遺物実測図２（1/1・1/3）

233SK055黄褐色土



第43図　233SK055遺物実測図３（1/2・1/3）

石製品

棊子（103～110）　黒灰色基調の片岩を素材とする。103～108は偏平な円形状を呈し、径1.1～1.6cm、厚さ0.5～0.6cmを計測する。109・110は偏平な楕円形を呈し、色相は灰色から灰褐色を呈する。長さ2.2～3.8cm、厚さ0.3～0.6cmを計測する。

砥石（111）　黒灰色を呈する粘板岩を素材とし、２面が使用され、摩耗する。現存長5.0cm、最大幅6.4cm、厚さ1.7cmを計測する。

233SK075暗褐色土出土遺物

土師器

坏ａ（遺物計測表）　口径13.0cm、器高2.6～3.0cm、底径8.0～8.4cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿ａ（遺物計測表）　口径7.8～8.0cm、器高0.9～1.1cm、底径5.6～6.2cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

233SK075褐色土出土遺物

土師器

小皿ａ（遺物計測表）　口径8.2cm、器高1.2cm、底径5.8cmを計測する。底部は糸切り離し。

233SK088暗灰褐色土出土遺物（第44図）

土師器

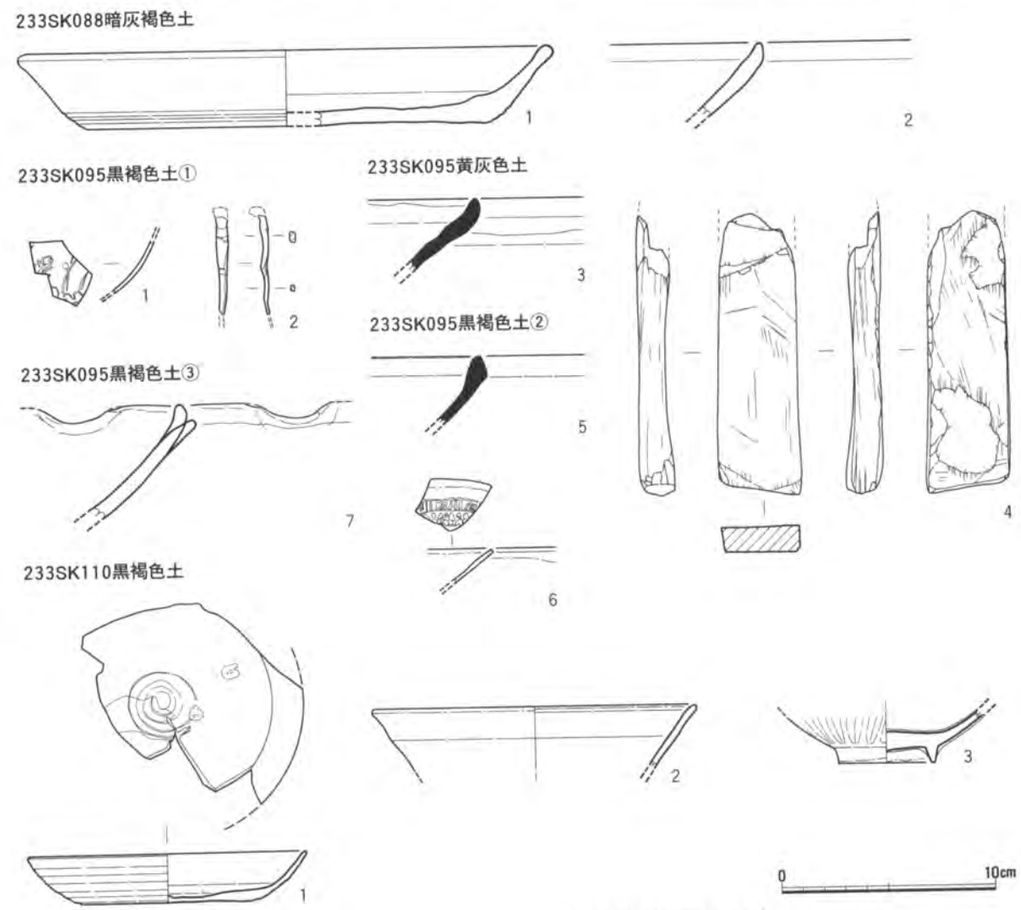
坏ａ（遺物計測表）　口径12.3～13.9cm、器高2.4～3.4cm、底径8.0～9.3cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

大坏ａ（１）　口縁部から底部が遺存し、口径25.0cm、器高3.6cm、底径18.8cmに復原される。口縁部から体部内外面は回転ナデ、内底面は不定方向のナデが施される。底部は糸切り離し。

小皿ａ（遺物計測表）口径8.6～9.0cm、器高1.2～1.4cm、底径6.2～7.2cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

瓦質土器

鉢（２）　口縁部から体部上半の破片。現存高3.5cmを計測し、内外面にナデが施される。ＡＩ類。



第44図　233SK088・095・110遺物実測図（1/3）

233SK088暗灰色土出土遺物

土師器

坏a（遺物計測表） 口径11.8～13.3cm、器高2.6～2.9cm、底径8.4～9.0cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿a（遺物計測表） 口径8.2～9.2cm、器高1.1～1.9cm、底径6.8～7.5cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

233SK095黒褐色土①出土遺物（第44図）

土師器

坏a（遺物計測表） 口径11.0～12.8cm、器高2.1～2.9cm、底径7.2～8.0cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿a（遺物計測表） 口径7.8～8.2cm、器高1.2～1.4cm、底径5.8～6.2cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

青白磁

椀か（1） 体部の破片で、現存高2.5cmを計測する。内型成形によって草花文を打ち出す。薄い胎土は堅緻で白灰色を呈する。光沢質の釉は内外面に施され、白青灰色に発色する。

金属製品

釘（2） 鉄素材を鍛造により成形。頭部と先端部を欠損し、現存長4.6cmを計測し、重量は2.2gを量る。

233SK095黄灰色土出土遺物（第44図）

土師器

坏a（遺物計測表） 口径12.2cm、器高2.5cm、底径8.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿a（遺物計測表） 口径7.8～8.2cm、器高1.2～1.5cm、底径5.2～6.0cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

須恵質土器

鉢（3） 口縁部から体部上半の破片で、現存高3.4cmを計測する。体部内面は酸化焔焼成気味で赤橙色に発色する。東播系であり、第Ⅱ期2段階に属する。

石製品

砥石（4） 長方形を呈し一端を欠損する。現存長13.2cm、最大幅4.0cm、厚さ1.3cmを計測する。桂質泥岩と考えられる石材は淡黄褐色を呈する。

233SK095黒褐色土②出土遺物（第44図）

土師器

坏a（遺物計測表） 口径11.8～12.8cm、器高2.3～3.0cm、底径7.2～8.8cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿a（遺物計測表） 口径7.4～9.6cm、器高1.0～1.4cm、底径5.6～7.2cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

須恵質土器

鉢（5） 口縁部から体部上半の破片で、現存高3.2cmを計測する。焼成は良好とみられ、胎土は還元化しているがやや軟質。東播系であり、第Ⅱ期2段階に属する。

青白磁

皿（6） 口縁部から体部上半の破片で、現存高1.6cmを計測する。型成形で内面に文様を打ち出す。胎土は堅緻で黒色微粒子をやや多く含み白灰色に発色する。光沢質の釉は青白色に発色し内外面に施されるが、口縁部は露胎となる。ごく薄い製品である。

233SK095黒褐色土③出土遺物（第44図）

土師器

坏a（遺物計測表） 口径11.8～14.8cm、器高2.5～3.2cm、底径7.0～10.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿a（遺物計測表） 口径7.7～8.8cm、器高0.9～1.4cm、底径5.6～7.2cmを計測する。底部糸切り離し。

瓦質土器

鉢（7） 片口が遺存する口縁部から体部上半の破片。現存高5.3cmを計測する。胎土はやや粗く白色微粒子を多く含む。内外面は横ナデ調整。焼成は良好で口縁部外面から体部内面にかけては還元化し黒灰色、体部外面は灰白色を呈する。口縁端部は肉厚とならない形態を有する。

金属製品

銭貨（第50図6） 皇宋通寶（北宋、1038年初鋳）。法量は「銭貨計測表」に掲載した。

233SK110黒褐色土出土遺物（第44図）

土師器

坏a（1） 口縁部から底部が遺存し、口径13.0cm、器高2.3cm、底径8.0cmに復原される。口縁部から体部内外面は回転ナデ、内面見込み中央部には螺旋状のナデが施される。内面には斑点状の油じみが付着する。底部は糸切り離し。

坏a（遺物計測表） 口径12.0～13.0cm、器高2.4～2.9cm、底径7.5～8.5cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿a（遺物計測表） 口径7.6～8.8cm、器高1.0～1.5cm、底径5.6～6.5cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

白磁

椀（2） 口縁部から体部上半が遺存し、口径15.2cmに復原され、現存高3.0cmを計測する。Ⅸ類。

青磁

椀（3） 体部下半から高台が遺存し、現存高2.5cm、高台径4.5cmを計測する。体部外面に鎬蓮弁文が観察される。龍泉窯系青磁Ⅲ－2類。

5）その他の遺構出土遺物

a）たまり状遺構

233SX001暗褐色土出土遺物（第45図）

中国陶器

盤（1） 口縁部から底部外周が遺存する小片で、現存高9.0cmを計測する。盤Ⅰ－2類。

土製品

玉状土製品（2） 表面に一部剥離がみられるがほぼ完形である。ナデにより球形に成形する。径2.4～2.6cmを計測し、重量は14.2gを量る。

233SX012黒褐色土出土遺物（第45図）

土師器

坏a（1・2） 1は口径14.5cm、器高2.8cm、底径10.3cm。2は口径14.6cm、器高2.7cm、底径11.1cmをそれぞれ計測する。いずれも底部は糸切り離し。1の内面見込みには螺旋状の条線を伴う回転ナデが施される。

坏a（遺物計測表） 口径12.2～14.4cm、器高2.2～3.2cm、底径6.8～10.4cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

坏×椀（3） 体部下端から底部の破片で、現存高1.5cmを計測する。底径は3.1cmに復原される。体部内外面は回転ナデ、底部は中実の円盤高台状に仕上げる。底部は回転糸切り離し。焼成は良好で薄い茶灰色を呈する。搬入品か。

小皿a（遺物計測表） 口径7.6～9.0cm、器高0.9～1.4cm、底径5.6～7.0cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

土師質土器

鍋（4） 口縁部から体部上半の破片で、現存高5.4cmを計測する。直立する体部の外面に鍔を貼付する。口縁部から鍔下端までナデ調整が施され、以下は縦位のハケ目が施される。内面は横位から斜位のハケ目調整ののち、指頭調整が施される。胎土は白色粒子・小礫を多く含む。焼成は良好で、茶褐色を呈する。外面鍔部以下に煤が付着する。ＣＩｂ類。

火鉢（5） 口縁部から体部上半および底部が遺存し、口径20.0cm、器高20.5cm、底径14.0cmに復原される。器形は口径・底径比の小さい逆台形状を呈し、ナデ調整で成形される。口縁内側には逆L字状に突帯を巡らす。口縁より約3.7cm下位の体部内面には断面矩形の棒状粘土を貼り付けて桟としており、遺存部位と器面剥離痕のあり方から、3本が平行して貼付されていたものと推定される。体部中位には窓と考えられる切り欠きが観察される。胎土は粗く白色礫を多量に含んでおり、焼成は良好で外面は赤橙色、内面は黄橙色を呈する。

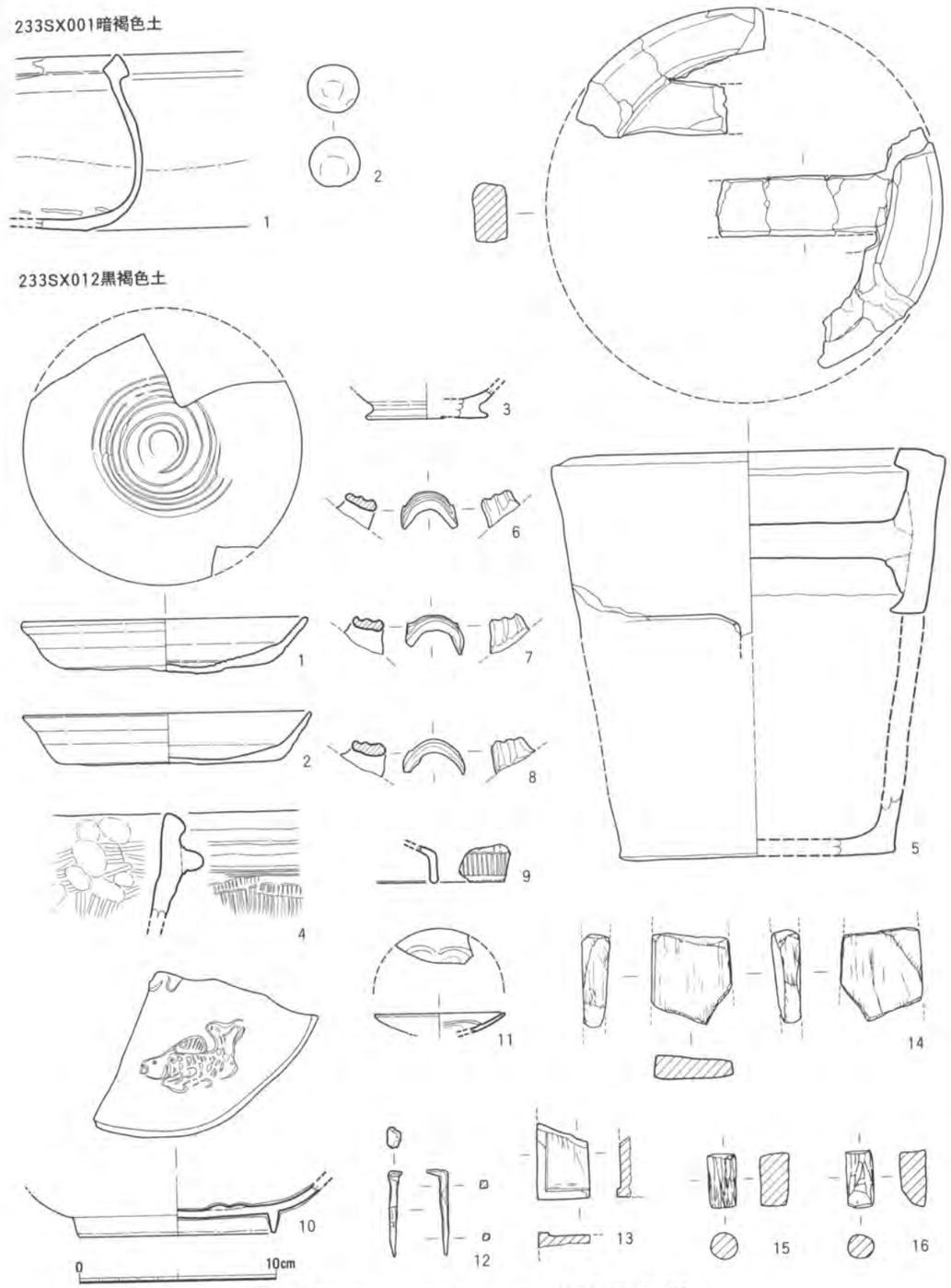
白磁

壺×水注（6～8） いずれも壺あるいは水注Ⅲ類系の耳。現存高は1.9～2.0cmを計測する。胎土は堅緻で、灰色を呈し光沢質の釉は暗緑灰色から緑青色に発色する。

合子蓋（9） 小片で、現存高1.9cmを計測する。酸化焔焼成のため、胎土は淡橙色を呈し軟質。外面に施された釉は黄褐色に発色する。

青磁

盤（10） 体部下端から高台が遺存し、現存高2.5cmを計測し、高台径10.0cmに復原される。見込みには双魚文が貼付される。龍泉窯系青磁Ⅲ類系。



第45図 233SX001・012遺物実測図（1/3）

青白磁

皿（11） 口縁部から体部下半が遺存し、口径6.6cmに復原され、現存高1.0cmを計測する。内型により花文と推定される文様を打ち出す。胎土は堅緻で白灰色を呈し、光沢質で青白色を呈する釉は内外面に薄く施され、微細な発泡が生じる。

金属製品

釘（12） 鉄素材を鍛造で成形する。先端部を欠損し、現存長4.4cmを計測し、重量は2.2gを量る。

石製品

硯（13） 暗赤褐色を呈する粘板岩を素材として、切削により成形。裏面は層状に剥離する。現存長3.9cm、現存幅2.6cm、最大厚は0.8cmを計測する。遺存部位から方形硯と類推される。

砥石（14） 褐色を呈する細粒砂岩を素材とし、4面を使用する。現存長4.8cm、現存幅4.2cm、厚さ1.5cmを計測する。

円柱状滑石製品（15・16） いずれも滑石を切削により円柱状に成形する。15は径1.4cm、高さ2.7cmを計測し、重量は10.6gを量る。16は径1.3cm、高さ2.9cmを計測し、重量は8.7gを量る。上面から側面上位に黒色を呈すタール状付着物が観察される。

233SX036黒灰黄色土出土遺物（第46図）

土師器

坏a（1・2） いずれも口縁部から底部が遺存する。1は口径15.6cm、器高3.2cm、底径10.6cmを計測する。内面見込みには一定方向のナデが施されるが、一部螺旋状ナデが残る。2は口径12.2cm、器高3.2cm、底径8.4cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿a（遺物計測表） 口径8.0cm、器高0.9～1.2cm、底径6.2cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

233SX036黒褐色土出土遺物（第46・47図）

土師器

坏a（遺物計測表） 口径12.0～16.2cm、器高2.2～3.4cm、底径7.6～10.4cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿a（遺物計測表） 口径7.4～9.6cm、器高0.8～1.5cm、底径5.4～8.4cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿b（遺物計測表） 口径6.6cm、器高1.7cm、底径5.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

土師質土器

鉢（3） 口縁部から体部上半の小片で、現存高6.9cmを計測する。口縁部横ナデ、体部外面は縦位のハケ目で、指頭調整痕が残る。体部内面は横位のハケ目調整が施される。胎土は白色礫を多く含む。

須恵質土器

鉢（4～6） いずれも口縁部から体部上半の破片。4・5は東播系第Ⅲ期1段階の製品と考えられ、4は現存高6.3cmを計測し、体部内面に摩耗がみられる。5は現存高3.7cmを計測する。6は現存高6.3cmを計測し、口縁部外面から体部内面上位を回転ナデ。体部外面外は指頭調整ののち、弱い回転ナデ。体部内面下位は斜位のナデののち、擂り目であろうか3条の浅い沈線が斜位に施される。胎土は堅緻で白色粒子を少量含み、焼成は良好で灰色に発色する。産地不明。

甕（7） 体部下半から底部の破片で、現存高5.4cmを計測する。体部外面は回転ナデ、内面はナデ調

整が施される。胎土は堅緻で白色粒子を多く含み、焼成不良で淡黄橙色に発色する。

瓦質土器

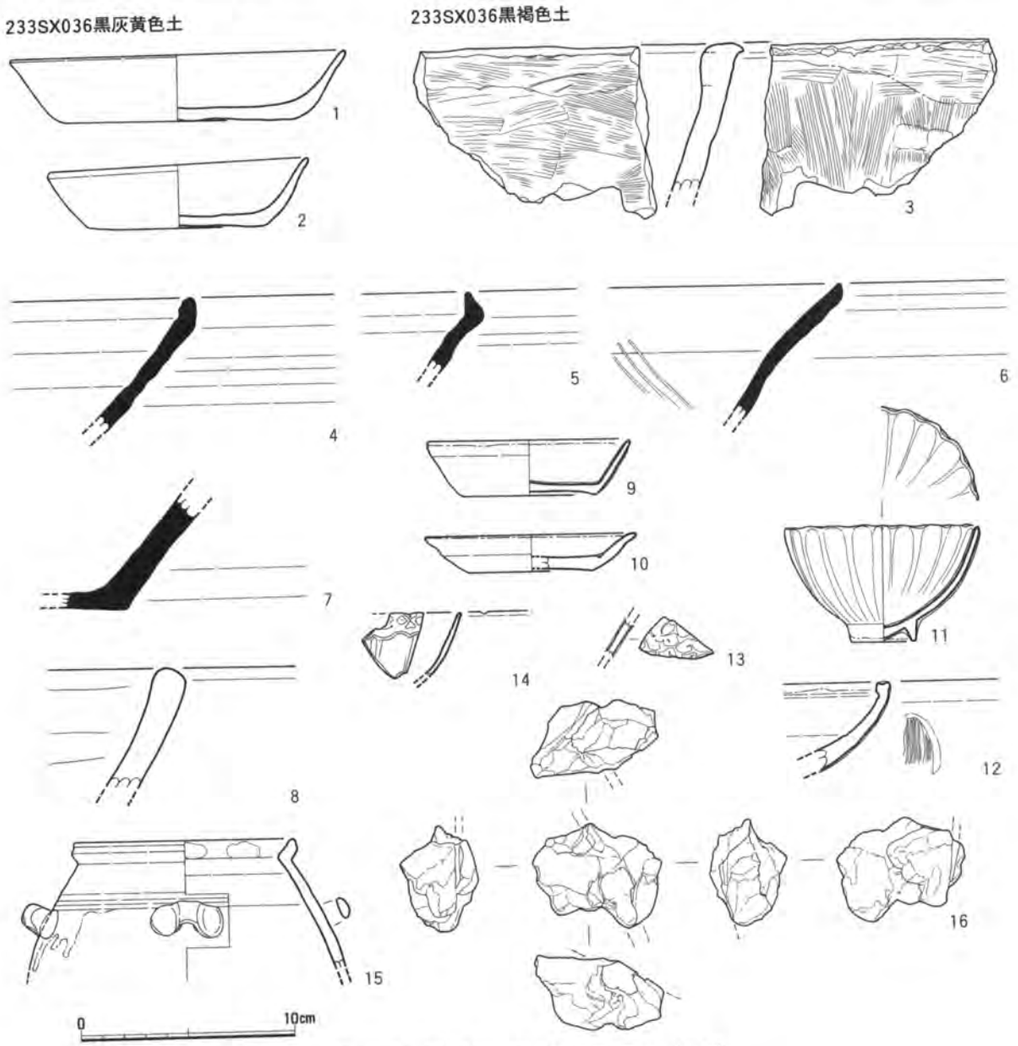
火鉢（8） 口縁部から体部上半の破片で、現存高5.5cmを測る。口縁部上面横ナデ、体部外面ナデ、内面はケズリ調整が施される。BⅠa類。

白磁

皿（9・10） 9は口径9.4cm、器高2.6cm、底径6.2cmに復原される。Ⅸ－1b類。10は口径9.8cm、器高1.7cm、底径5.8cmに復原される。Ⅸ－1a類。

青磁

小椀（11） 口縁部から高台が遺存し、口径9.2cm、器高5.4cm、高台径3.2cmを計測する。口縁部から体部を襞状に捻り、上面観が花弁状の意匠とする。胎土は堅緻で灰白色を呈し、明緑灰色に発色する釉



第46図 233SX036遺物実測図1 (1/3)

を内外面に厚く施したのち、高台周辺の釉を掻き取る。露胎部は淡橙色に発色する。胎土、釉調は龍泉窯系青磁Ⅲ類の特徴を有する。未分類。

香炉（12） 口縁部から体部の破片。現存高4.2cmを計測する。体部外面には片彫蓮弁文を刻み、蓮弁内に縦の櫛目を施す。内面は回転ヘラケズリ。黒色微粒子を少量含む胎土は堅緻で灰色を呈し、微細な空隙を生じる。緑灰色に発色する釉は口縁内面から外面にかけて厚く施される。内面露胎部には煤が付着する。胎土、釉調は龍泉窯系青磁Ⅲ類の特徴を有する。未分類。

壺×椀（13） 体部と推定される小片で、現存高1.6cmを計測する。胎土は堅緻で黒色微粒子含み、灰色を呈する。外面には宝相華唐草文が白色土で背地象嵌される。半光沢質で緑灰色に発色する釉は内外面に施され、細貫入を生じる。象嵌高麗青磁。

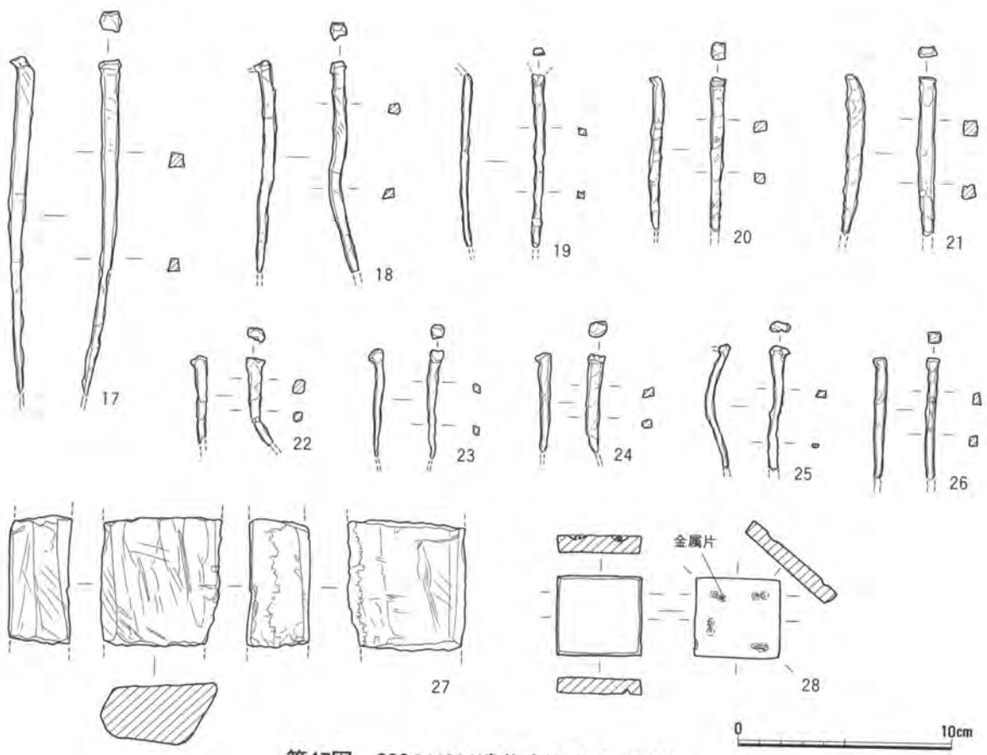
青白磁

椀（14） 口縁部から体部が遺存する小片で、現存高3.0cmを計測する。型成形で口縁端部に輪花を刻み、内面上位に4弁からなる花文、その下位に如意頭と推定される文様が打ち出される。胎土は堅緻で黒色微粒子を少量含み、乳白色を呈する。青白色に発色する釉は内外面に薄く施され、外面にはピンホール状の微小な釉切れが生じる。

中国陶器

耳壺（15） 口縁部から体部上半が遺存し、口径10.2cmに復原され、現存高6.1cmを計測する。横形の耳が1ヵ所遺存し、外面上位には沈線が2条施される。胎土は堅緻で黒色および白色微粒子を含み、灰

233SX036黒褐色土



第47図 233SX036遺物実測図2（1/3）

色に呈し、釉は灰白色に発色する。口縁部内傾面に目跡が2ヵ所残る。Ⅵ類。

土製品

焼土塊（16） 規模は5.9×5.0×3.7cmを計測する。芯材の痕跡と推定される器面の滑らかな部位が1ヵ所観察される。胎土は軟質で角閃石とスサ痕を含み、黒灰色から灰色を呈する。

金属製品

銭貨（第50図7） 元豊通寶（北宋、1078年初鋳）。法量は「銭貨計測表」に掲載した。

釘（17～26） いずれも鉄素材を鍛造して成形。いずれも先端部を欠損する。各法量は、17は現存長15.8cm、重量31.4g。18は現存長10.0cm、重量11.2g。19は現存長8.1cm、重量1.9g。20は現存長7.2cm、重量8.0g。21は現存長7.5cm、重量14.2g。22は現存長4.1cm、重量3.5g。23は現存長5.1cm、重量3.2g。24は現存長4.7cm、重量4.0g。25は現存長5.8cm、重量3.5g。26は現存長5.7cm、重量5.6gをそれぞれ計測する。

石製品

砥石（27） 暗灰色を呈する硬砂岩を素材とし、3面を使用する。表面には条線状の太い擦痕が顕著に残る。

石銙（28） 巡方。閃緑岩を素材とする。色相は白色基調で黒灰色の斑晶がみられる。裏面には2個1対の装着孔がランダムに4ヵ所穿たれ、うち1つの孔内には留め金具と推定される緑青を生じた管状の金属片が観察される。縦3.7cm、横3.9cm、厚さは0.7cmを計測する。

233SX090黒褐色土出土遺物（第48図）

土師器

坏a（遺物計測表） 口径11.8～12.4cm、器高2.4～2.7cm、底径8.0～8.8cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

小皿a（遺物計測表） 口径8.2～8.6cm、器高1.0～1.3cm、底径6.0～7.2cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

白磁

皿（1） 体部下半から底部が遺存し、現存高3.0cmを計測し、底径6.0cmに復原される。外面体部下半から底部にかけては施釉されない。Ⅸ－2類。

青磁

椀（2） 口縁部から体部が遺存し、口径13.0cmに復原され、現存高は4.2cmを計測する。外面に鎬蓮弁文が施される。龍泉窯系青磁Ⅲ－2類。

233SX126暗褐色土出土遺物（第48図）

土師器

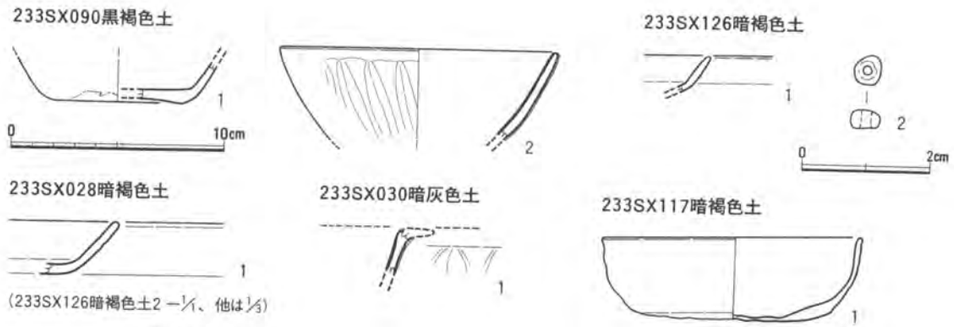
小皿a（遺物計測表） 口径8.6cm、器高1.1cm、底径6.6cmを計測する。底部は糸切り離し。

青磁

皿（1） 口縁部から体部の小片で、現存高1.7cmを計測する。酸化焔焼成気味で胎土は暗橙色を呈する。同安窯系青磁Ⅰ類。

ガラス製品

小玉（2） 鮮やかな青色に発色するガラスを素材とし、巻き上げ技法によって成形する。ガラスは光沢質で不透明。径0.45cm、厚さ0.3cm、孔径0.1cmを計測する。



第48図　233SX028・030・090・117・126遺物実測図（1/1・1/3）

b）小　穴

233SX028暗褐色土出土遺物（第48図）

土師器

坏a（1）　口縁部から底部外周が遺存し、現存高2.5cmを計測する。底部は糸切り離し。

233SX030暗灰色土出土遺物（第48図）

青磁

坏（1）　体部が遺存し、現存高2.3cmを計測する。体部外面には鎬蓮弁文が施される。龍泉窯系青磁Ⅲ－4類。

233SX093黒褐色土出土遺物

土師器

小皿a（遺物計測表）　口径7.0～8.6cm、器高1.1～1.3cm、底径5.0～6.6cmを計測する。いずれも底部は糸切り離し。

c）不明遺構

233SX117暗褐色土出土遺物（第48図）

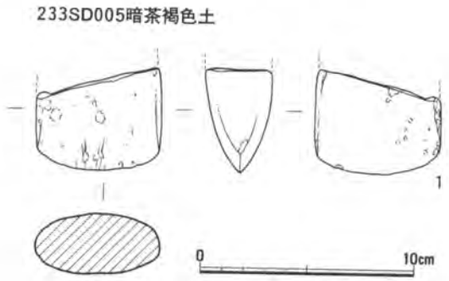
土師器

丸椀a（1）　口縁部から底部が遺存し、口径12.2cm、器高4.1cm、底径8.9cmを計測する。底部はヘラ切り離し。

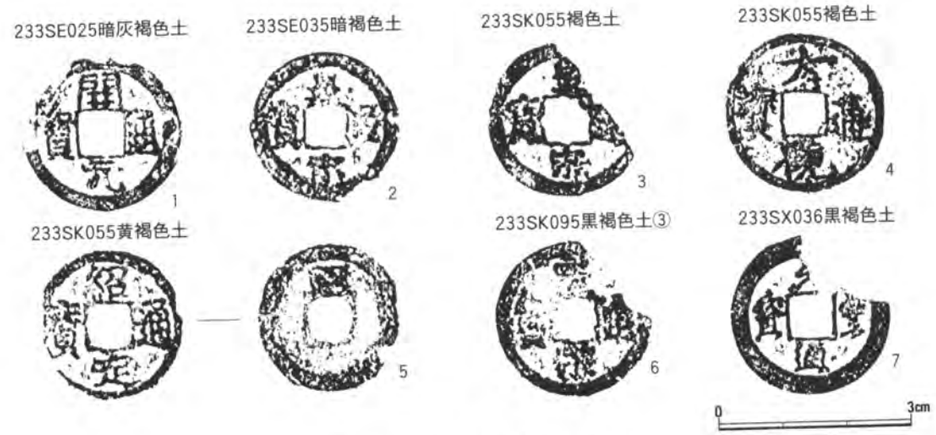
6）その他の遺物（第49図）

石製品

石斧（1）　灰白色を呈する黒色粒子を含む玄武岩製の磨製石斧であり、基部側を欠損する。表面は風化し粉味を帯びる。玄武岩製であることから弥生時代の所産と考えられるが、断面が偏平で薄い傾向にあることから、縄文系の可能性も考えられる。幅5.9cm、現存長4.8cm、最大厚3.2cmを測る。233SD005暗茶褐色土から出土。



第49図　その他の遺物（1/3）



第50図　出土銭貨拓影図（1/1）

銭貨計測表

径・厚さの単位：cm　重量：g

番号	遺構名	銭名	天地外径	天地内径	左右外径	左右内径	厚さ	重量	備考
1	233SE025暗灰褐色	開元通寶	2.3+α	2.0	2.4+α	2.0	0.09～0.11	1.9	
2	233SE035暗褐色土	皇宋通寶	2.3	1.9	2.3+α	1.8	0.09	2.0	
3	233SK055褐色土	皇宋通寶	2.4	2.0	1.9+α	1.4+α	0.11～0.13	1.4	
4	233SK055褐色土	大観通寶	2.45	2.2	2.45	2.2	0.14～0.17	3.0	
5	233SK055黄褐色土	紹定通寶	2.3	2.0	2.2+α	2.0	0.08～0.12	2.0	背文「四」
6	233SK095黒褐色土③	皇宋通寶	2.4	2.0	2.4	2.0	0.11～0.13	1.4	
7	233SX036黒褐色土	元豊通寶	2.4	1.8	2.4	1.8	0.11	2.8	

Ⅶ 小　結

今回の大宰府条坊跡第233次調査により、五条地区に新たな調査事例を追加することができたことは大きな成果であった。調査では、２面の遺構面と整地層が確認され、第Ⅰ面からは溝７条、掘立柱建物１棟、柵列１列、井戸12基、土坑19基、たまり状遺構、小穴群などが検出された。また、第Ⅱ面からは溝３条、掘立柱建物２棟、柵列１列、土坑３基、たまり状遺構、小穴群などが発見された。

以下、第Ⅰ面および第Ⅱ面で検出された主な遺構を取り上げ、現時点で考えられる幾つかの点を整理しておきたい。

はじめに、調査区内の全体的な様相について述べることにする。調査区内では、表土（盛土･耕作土）直下の様相が場所によって異なることが確認された。調査区の中央から南側では、褐色土で形成された整地層が存在するが、北側と南西隅では地山が露出し、整地層が削平された可能性が考えられる。調査では便宜的に第Ⅰ面・第Ⅱ面として調査を実施しているが、第Ⅰ面の北側から検出された井戸（233SE010・011・020）と第Ⅱ面から検出された掘立柱建物（233SB140）は、いずれも11世紀前後（大宰府Ⅹ期）から12世紀中頃の間には形成されていたと考えられ、第Ⅰ面の北側地山層と第Ⅱ面は同一面の可能性が高いと判断される。また、褐色土整地層には律令的な食器相を示す遺物なども看取されたが、底部処理に糸切り離し技法を用いた土師器の供膳具が含まれていたことから整地層形成時の定点と考えた。さらに整地層を切り込む最も古い遺構が12世紀中頃の溝（233SD077）であることから、整地層形成の下限は12世紀中頃と推測される。

つぎに主だった遺構について、南北溝より見ていきたい。南北溝（233SD005）は幅1.8～3.5mを測り、検出位置・遺構形状・覆土の堆積状況などから推測して、昭和49年度に九州歴史資料館によって調査が実施された大宰府史跡第33次補足調査時発見の溝（SD600）と同一と判断された。最終的な埋没時期は、13世紀中頃～14世紀前半（大宰府ⅩⅦ～ⅩⅩ期）と推測される。この南北溝と直交する形で検出された東西溝（233SD070）は、埋没時期が11世紀後半から12世紀前半（大宰府ⅩⅡ～ⅩⅢ期）と考えられ、両者の間に時間差が存在するものの、その方向性や規模ならびに配置状況から、平安時代後期から中世にかけての当地区における土地区割の一つの基準線になっていたものと考えられる。方位については、南北溝（233SD005）はN－6°－Eを測り、東西溝（233SD018・040・070・105・120）はN－77～87°－Wとやや数値にばらつきがあるものの、平均ではN－81°－Wを指針し、南北溝と東西溝はほぼ直交関係にあるといえよう。

井戸は、12基のうち井戸枠が残存していたものが８基を数え、石組は３基（233SE003・233SE011・015）、木枠組は５基（233SE020・025・035・045・050）となる。石組の233SE011は11世紀前後（大宰府Ⅹ期）、同様に233SE015は13世紀前後から前半（大宰府ⅩⅥ～ⅩⅦ期）の埋没と考えられる。また、233SE015では、周囲を取り囲むように小穴９穴（233SX028）が検出され、上屋施設を構成した柱穴群と推測した。なお、233SE003は大半が調査区外にかかることから不明瞭であるが、遺存状況より判断して石組井戸として取り扱った。一方、木枠組の井戸は、方形木枠組が１基（233SE020）、円筒形結物組が４基（233SE025・035・045・050）となる。最古の木枠井戸は、縦板組隅柱横桟組構造の233SE020で、11世紀前後（大宰府Ⅹ期）頃の埋没と判断される。また、結物組４基（233SE025・035・045・050）の埋没時期は13世紀前後から14世紀後半（大宰府ⅩⅥ～ⅩⅩ期）と推測され、中世段階では結物組が一般化しており、本地域に通有なあり方として追認することとなった。なお、結物は下端の部材の長さが不ぞろいで板底のはめ込み痕跡がなくなったことから、木桶の転用ではなく、井戸専用の枠であったと考えられる。

井戸の深度では、底面が砂礫層で止まったものと、黄褐色粘土層（風化花崗岩）まで到達したものに分けられる。前者は６基（233SE010・011・015・060・064・080）を数え、底面標高は34.9～35.8mを測り、主に調査区の北側に分布する。後者は５基（233SE020・025・035・045・050）を数え、底面標高は33.1～34.6mを測り、調査区の中央付近に集中する。いずれの井戸も調査時には顕著な湧水は認められず、後世の環境変化による水位の低下が原因と考えられる。

掘立柱建物は、側柱建物２棟（233SB130・135）と、床束ないし間仕切りの可能性を有する建物（233SB140）１棟の計３棟である。前者の２棟は東西棟（233SB130・135）で、主軸方位はN－82°－WとN－89°－W、後者は南北棟（233SB140）で、N－16°－Eを指針する。

柵列（233SA125・155）は２列あり、両者の明確な埋没時期は判然としないが、前者の233SA125は南北溝（233SD005）と約10.5m（35小尺）の間隔で並行関係にあり、両者の関連性が推測される。主軸方位は前者の南北柵列（233SA125）がN－７°－W、後者の東西柵列（233SA155）がN－87°－Wを指針する。

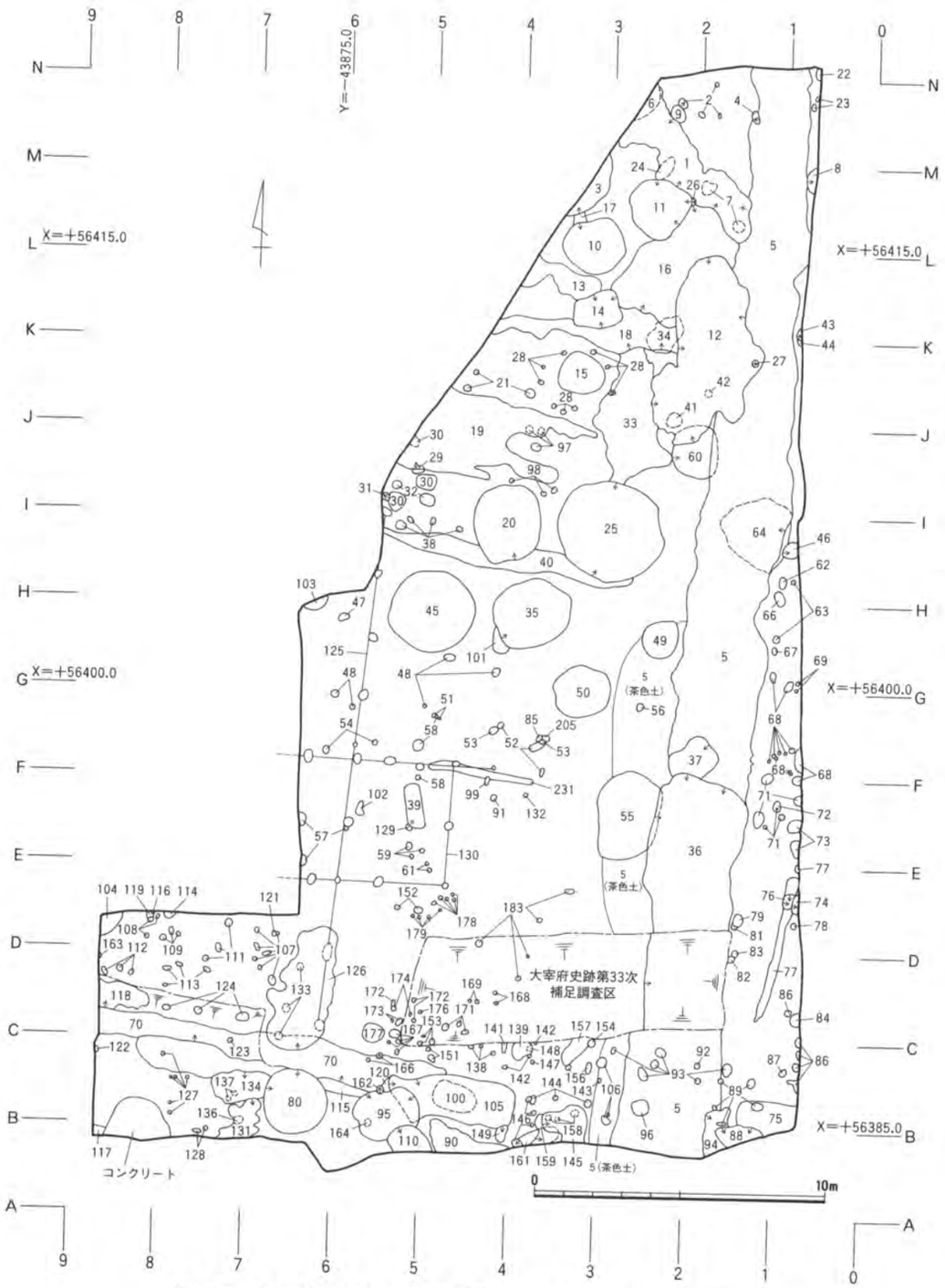
土坑は22基が検出されているが、特に233SK055およびSK095からは土師器の供膳具を中心とした遺物の多量廃棄がみられ、五条地区における中世都市的な様相が本地点においても把握された。埋没時期は233SK055が13世紀前後から14世紀初頭（大宰府ⅩⅦ～ⅩⅨ期）、233SK095が13世紀後半（大宰府ⅩⅧ期）以降と推測される。

最後に、今回特記される事項としては、正方位を基準とする条坊プランとは異なる７度前後東偏またはそれと直交する平安時代後期から中世にかけての溝、建物、柵列を検出したことが挙げられる。

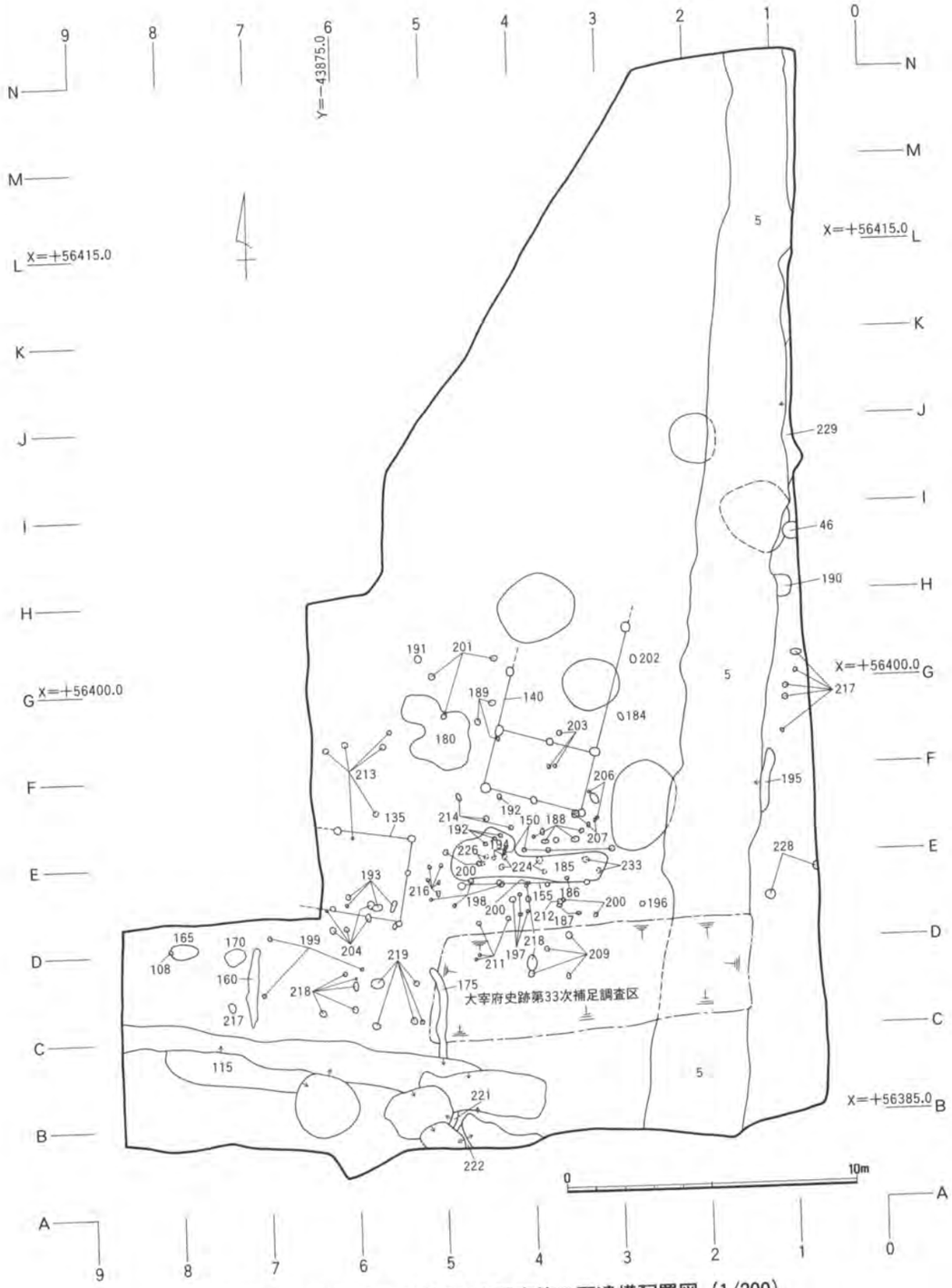
本地点北東近隣の大宰府条坊跡第156・158次調査では、従来の条坊プランを下敷きに、中世の街区割がなされたと指摘される遺構（156SD065、158SD001）が検出されており（井上2002）、五条地区内には、条坊の遺制を踏襲した正方位地割りに加え、新たな基準による斜行地割りが成立しているとみられる。この斜行地割りに関連する事象としては、大宰府条坊域北東の想定郭外から天満宮安楽寺に至る範囲で、平安時代後期の12世紀代に、北に対し東に６度ほど傾く土地区割りが想定されており（井上・山村2006）、これと近似する地割りが、想定郭内にあたる本地点の同時期あるいは先行する11世紀後半から12世紀前半段階の遺構（233SD070）に認められた点は、重要な問題提議と考えられる。今後、周辺の調査資料蓄積を通して、本地域における斜行地割りの始原の時期や意味、分布範囲の把握、および条坊制との関わりなどの究明が課題となろう。

引用・参考文献

九州歴史資料館　1975『大宰府史跡　昭和49年度発掘調査概報』
九州歴史資料館　1979『大宰府史跡　昭和53年度発掘調査概報』
太宰府市史編纂委員会　1992『太宰府市史　考古史料編』太宰府市
狭川真一他　1998『大宰府条坊跡Ⅹ』太宰府市教育委員会
井上信正　2002『まとめ』「大宰府条坊跡21　－第156・157・158次調査－」太宰府市教育委員会
山村信榮　2002『大宰府－平安の地方都市と集落』「季刊考古学」第93号　雄山閣
井上信正・山村信榮　2006『大宰府の条坊プラン』「第32回　古代城柵官衙遺跡検討会」古代城柵官衙検討会



第51図　大宰府条坊跡第233次調査第Ⅰ面遺構配置図（1/200）



第52図　大宰府条坊跡第233次調査第Ⅱ面遺構配置図（1/200）

大宰府条坊跡第233次調査　遺構番号台帳（1）

S-番号	遺構番号	種　別	備　考	埋積土状況(古→新)	遺構間切合(古→新)	時　期	地区番号
1	233SX001	たまり		暗褐色土	5～7・9・11・16・24・26→1	F期	L1～M2
2		攪乱	4穴	暗灰色土	9→2		M1・2
3	233SE003	井戸？	石組？	褐色土→暗褐色土	17→3	12世紀中頃～	L・M3
4		攪乱	1穴	暗灰色土	5→4		M1
5	233SD005	溝		灰色土→黄灰色土→暗灰褐色土→暗褐色土　暗茶褐色土→暗灰褐色土→暗褐色土　暗灰色土→暗灰褐色土→暗褐色土　暗灰色粘土・暗灰色粘土②→茶色土→明茶色土→灰色砂→明灰色土	60・64→5→4・12・27・36・37・55・89・92～94・96	13世紀中頃～14世紀前半	A2～N0
6	233SK006	土坑？		暗褐色土→暗灰褐色土	1→6	12世紀中頃～	M2
7		小穴群	2穴	灰褐色土	7→1	12世紀中頃～	L1
8		小穴	1穴	暗褐色土	5→8		L0
9		小穴	1穴	灰褐色土	9→1・2		M2
10	233SE010	井戸		灰褐色土→褐色土→黒褐色土→暗灰褐色土	17→10	X～XⅢ期	K・L2・3
11	233SE011	井戸	石組	暗灰褐色土→暗褐色土→暗灰色土	16・24・26→11→1	X期	L2
12	233SX012	たまり		褐色土→黒褐色土→暗褐色土・褐白色土	5・16・18・27・33・34・41・42・60→12	F期	I～K1・2
13		たまり		暗褐色土	13→14	E期～	K3
14	233SK014	土坑		暗褐色土	13・16・18→14	XⅧ期	K2・3
15	233SE015	井戸	石組	暗茶色土→褐色土→暗黄褐色土→灰色砂→茶色土→暗黄褐色土→褐色土→暗褐色土		13世紀後～14世紀前	J3
16		たまり		暗褐色土	5・18・26・34→16→1・11・12・14	F期	K・L1・2
17		小穴	1穴	暗褐色土	3・10→17		L3
18	233SD018	溝		暗灰褐色土	33・34→18→12・14	XⅦ～XIX期	J・K2～4
19		たまり		暗褐色土	29・30・97→19	近世～	I・J3～5
20	233SE020	井戸		暗褐色土→暗灰色土→黒褐色土	40→20	X期	H・I3・4
21		小穴群	3穴	暗灰褐色土			J3・4
22		小穴	1穴	暗茶色土			N0
23		攪乱	2穴	暗灰色土			M0
24		小穴	1穴	暗灰褐色土	24→11→1		L・M2
25	233SE025	井戸		褐灰色土→暗黄褐色土→灰色土→暗灰褐色土→暗褐色土→黒灰色土→黒褐色土	33・40→25	XX期～	H・I2・3
26		小穴	1穴	暗灰色土	26→16→11→1	12世紀中頃以前	L2
27		小穴	1穴	暗灰褐色土	5→12→27	12世紀中頃～	J1
28	233SX028	小穴群	9穴（S-15の上屋施設の可能性有り）	暗褐色土	33→28	12世紀中頃～	J2・3
29		小穴	1穴	暗灰褐色土	29→19		I5
30	233SX030	小穴群	3穴	暗褐色土→灰褐色土→暗灰色土	30→19・31	F期	I4・5
31		小穴	1穴	黒褐色土	30→31	平安時代後期～	I5
32		小穴群	3穴（1穴はS-125に変更）	暗灰褐色土		平安時代前期？	I5
33		たまり		暗褐色土	33→12・18・25・28・60	平安時代前期（Ⅶ～Ⅷ期）	I・J2・3
34		たまり		暗黄褐色土	34→18→16→12	12世紀中頃～	J・K2
35	233SE035	井戸		黄褐色土→暗褐色土→黒灰色土→暗灰色土→黒褐色土	101→35	F期	G・H3・4
36	233SX036	たまり		黒褐色土→黒灰黄色土	5→55→37→36	XIX～XX期	D・E1・2
37	233SK037	土坑		暗褐色土	5→37→36	13世紀後～14世紀前？	F1・2
38		小穴群	4穴	暗褐色土			H4・5
39		攪乱	重機のツメ跡有り	暗黄褐色土	129→39		E5
40	233SD040	溝		黒褐色土	40→20・25	平安時代後期	H2～5
41	233SK041	土坑		暗褐色土	41→12	平安時代前期？～	J2
42		小穴	1穴	暗黄褐色土	42→12		J1
43		小穴	1穴	暗灰褐色土	44→43	E期	K0
44		小穴	1穴	暗褐色土	44→43	明治時代～	K0
45	233SE045	井戸		灰色土→茶色土→暗灰色土→暗褐色土→黄灰色土→黒灰色土→黒褐色土		F期	G・H4・5
46	233SK046	土坑		暗茶褐色土	64→46		
47		小穴	1穴	暗灰褐色土		12世紀中頃～	H0
48		小穴群	7穴（2穴はS-125に変更）	暗褐色土			G5・6
49	233SK049	土坑		茶色土		平安時代中期～	F・G4～6
50	233SE050	井戸		黄褐色土→暗灰褐色土→褐色砂→暗灰褐色土→暗褐色土		平安時代後期～	G2
51		小穴群	2穴	暗灰褐色土	58→51	F期～	F・G2・3
52		小穴群	3穴	黒褐色土	52→53		F4
53		小穴群	2穴	暗褐色土	52・205→53	F期～	F3・4
							F3・4

大宰府条坊跡第233次調査　遺構番号台帳（2）

S-番号	遺構番号	種　別	備　考	埋積土状況(古→新)	遺構間切合(古→新)	時　期	地区番号
54		小穴群	2穴	暗褐色土			F5・6
55	233SK055	土坑	暗褐色土は土層断面図になし	黄褐色土→褐色土→黒褐色土→明褐色土→褐灰色土→黒褐色土→褐灰色土→暗褐色土	5→55→36	F期～	E2
56		小穴	1穴	黒褐色土			F2
57		小穴群	6穴（1穴はS-130に変更、2穴はS-125に変更）	暗褐色土		12世紀中頃～	D・E5・6
58		小穴群	3穴	暗灰褐色土	58→51		E・F4・5
59		小穴群	4穴（1穴はS-130に変更）	暗褐色土			D・E5
60	233SE060	井戸	井戸枠無し	灰色土→暗褐色土	33→60→5→12	12世紀中頃～	I1・2
61		小穴群	2穴	暗灰褐色土			D4
62	233SK062	土坑		暗褐色土			H1
63		小穴群	2穴	黒褐色土		12世紀中頃～	G・H0・1
64	233SE064	井戸	井戸枠無し	茶色土→暗青灰色土→暗褐色土	64→5・46	D期	H・I0・1
65		小穴群	6穴（1穴はS-125に変更、3穴はS-130に変更）	褐色土			F3～6
66	233SK066	土坑		暗褐色土			G・H0・1
67		小穴	1穴	暗茶褐色土			G1
68		小穴群	12穴	暗灰褐色土			F・G0・1
69		小穴群	2穴	灰褐色土			G0
70	233SD070	溝		灰褐色土→暗褐色土→黒褐色土	115→70→95・100・105・118・120・123・126・133・162・166	C期～	B4～C8
71		小穴群	6穴	暗褐色土	72→71		E・F0・1
72		小穴	1穴	黒褐色土	72→71		E0・1
73		小穴群	2穴	暗灰褐色土			D・E0
74		小穴	1穴	暗褐色土	77→76→74		D0
75	233SK075	土坑		暗灰色土→褐色土→黒褐色土→暗褐色土	75→88・89	XⅦ期	A・B1・2
76		小穴	1穴	灰褐色土	77→76→74		D0
77	233SD077	溝		暗灰褐色土	77→76→74	12世紀中頃～	C1～D0
78		小穴	1穴	暗褐色土			D0
79		小穴	1穴	暗黄褐色土	81→79	12世紀中頃～	D1
80	233SE080	井戸		暗灰褐色土→灰褐色土→暗褐色土→黒褐色土→暗褐色土	115→70・134→80	XⅦ～XⅧ期	A・B6
81		小穴	1穴	暗褐色土	81→79		D1
82		小穴	1穴	暗褐色土	83→82	12世紀中頃～	C1
83		小穴	1穴	暗灰褐色土	83→82		D1
84		小穴	1穴	灰褐色土			C0
85		小穴	1穴	暗褐色土	205→85		F3
86		小穴群	5穴	黒褐色土		12世紀中頃～	B・C0
87		小穴	1穴	灰褐色土			B0
88	233SK088	土坑		暗灰色土→暗灰褐色土	75・94→88	XⅦ～XⅧ期	A1
89		小穴群	5穴	黒褐色土	5・75・94→89	12世紀中頃～	B1
90	233SX090	たまり		灰色土→黒褐色土→暗灰色土	222→90	F期～	A4
91		小穴	1穴	暗褐色土		平安時代前期？～	E4
92		小穴	1穴	暗黄褐色土	5→92	平安時代前期～	B1
93	233SX093	小穴群	6穴	黒褐色土	5→93	XⅦ～XIX期	B1・2
94		たまり		暗褐色土	5→94→88・89	12世紀中頃～	A・B1
95	233SK095	土坑	黄灰色土は土層断面図になし	灰褐色土→黒褐色土③→黒褐色土②→黄灰色土→黒褐色土①	70・105・115・120・164→95→110・162	XⅧ期～	A・B5
96		小穴	1穴	茶褐色土	5→96	12世紀中頃～	B2
97		小穴群	3穴	暗褐色土	97→19	12世紀前～	I3
98		小穴群	3穴	暗褐色土		12世紀中頃～	I3・4
99		小穴	1穴	黒褐色土	231→99	平安時代前期？～	E4
100	233SK100	土坑		暗灰色砂	100→105		B4
101	233SK101	土坑		茶褐色土	101→35	12世紀中頃～	G4
102		小穴	1穴	暗灰褐色土			E5
103	233SK103	土坑？		暗褐色土→褐色土		D期～	G6
104		土坑？		暗褐色土→褐色土		平安時代中期～	D8
105	233SD105	溝		灰褐色土→暗褐色土	70・100・120・221→105→95・149	E期～	B4・5
106		小穴群	3穴	暗褐色土		D期～	B2
107		小穴群	7穴	褐色土	121→107	平安時代中期～	C・D6
108		小穴群	3穴	褐色土	119→108		D8
109		小穴群	3穴	褐色土			D7
110	233SK110	土坑		灰色土→黒褐色土→暗灰色土	95・221・222→110	XIX～XX期	A4・5
111		小穴群	3穴	褐色土		平安時代中期～	C・D7
112		小穴群	3穴	黒褐色土		平安時代前期～	C8

大宰府条坊跡第233次調査　遺構番号台帳（3）

S-番号	遺構番号	種　別	備　考	埋積土状況(古→新)	遺構間切合(古→新)	時　期	地区番号
113		小穴群	4穴	暗褐色土		平安時代前期～	C7
114		小穴	1穴	暗褐色土		平安時代中期～	D7
115	233SD115	溝？		灰白色土→灰褐色土	115→70·80·127·134	B期	B5～8
116		小穴	1穴	褐色土	119→116		D8
117	233SX117	不明		暗褐色土		X期	A8
118		たまり		黒褐色土	70→118	12世紀中頃～	C8
119		小穴	1穴	暗褐色土	119→108·116		D8
120	233SD120	溝？		暗灰色土	70→120→95·105·162	E期	B4·5
121		小穴	1穴	暗茶褐色土	121→107		D6
122		小穴	1穴	暗褐色土			B8
123		小穴	1穴	褐色土	70→123	12世紀中頃～	B7
124		小穴群	3穴	暗褐色土		D期～	C6·7
125	233SA125	柵列	9穴（S-32の1穴、S-48の2穴、S-57の2穴、S-65e、S-133の2穴、S-182はS-125に変更）	暗灰褐色土·暗褐色土·褐色土	57→125→126		I5～C6
126	233SX126	たまり		暗褐色土	125·133→126	XⅦ期	B～D6
127		小穴群	6穴	黒褐色土	115→127	平安時代中期～	B7
128		小穴群	2穴	黒褐色土		12世紀中頃～	A7
129		小穴	1穴	褐色土	129→39		E5
130	233SB130	建物址	S-57の1穴、S-59の1穴、S-65b·d·f、S-132の1穴、S-181はS-130に変更	暗褐色土·褐色土·暗赤褐色土	231→130		D～F4～6
131		たまり		黒褐色土	134·136→131	D期～	A·B6·7
132		小穴群	2穴（1穴はS-130に変更）	暗赤褐色土		平安時代前期～	E3·4
133		小穴群	5穴（2穴はS-125に変更）	暗褐色土	133→126	平安時代中期～	C·D6
134		たまり		灰褐色土	115·137→134→80·131	D期～	B6·7
135	233SB135	建物址	第Ⅱ面	暗褐色土			D·E5·6
136		小穴	1穴	暗褐色土	136→131		A·B7
137		小穴群	2穴	暗褐色土	137→134		B7
138		小穴群	3穴	暗褐色土		12世紀中頃～	B4
139	233SK139	土坑？		灰褐色土	148→139	12世紀中頃～	B3
140	233SB140	建物址	第Ⅱ面	暗灰褐色土→暗褐色土	140→35·50·207	X期	E～G3·4
141		小穴	1穴	灰褐色土		平安時代中期～	B4
142		小穴群	3穴	褐色土			B3
143		小穴	1穴	灰黄色土			B2
144		小穴群	3穴	灰褐色土	146→144	12世紀中頃～	B3
145		たまり		暗茶色土→暗灰褐色土→暗褐色土	158·159→145	12世紀中頃～	A3
146		小穴群	4穴	暗灰色土	161→146→144	12世紀中頃～	A·B3
147		小穴	1穴	灰褐色土			B3
148		小穴	1穴	暗褐色土	148→139		B3
149		小穴	1穴	褐色土	105→149	12世紀中頃～	A4
150		小穴群	4穴(第Ⅱ面)	暗褐色土	185·226→150		E3·4
151		小穴群	2穴	暗褐色土			B4
152		小穴群	2穴	暗褐色土			D4
153		小穴群	3穴	暗褐色土			B4
154		小穴	1穴	褐灰色土	157→154	12世紀中頃～	B3
155	233SA155	柵列	4穴(第Ⅱ面)	黒褐色土	185·200→155→198		D3·4
156		小穴群	2穴	灰色土	157→156	C期～	B3
157		たまり		灰色土	157→154·156		B3
158		小穴群	3穴	褐色土	158→145		B3
159		たまり		灰色土	161→159→145	12世紀中頃～	A·B3
160	233SD160	溝	第Ⅱ面	暗褐色土			C7
161		たまり		明灰色土	161→146·159		A3
162		小穴	1穴	暗褐色土	70·95·120→162	12世紀中頃～	B5
163		小穴	1穴	黒褐色土			C8
164		小穴	1穴	暗灰褐色土	164→95		A·B5
165	233SK165	土坑	第Ⅱ面	暗褐色土	165→108		C7
166		小穴群	2穴	黒褐色土	70→166	E期～	B5
167		小穴群	4穴	暗褐色土		C期～	B·C5
168		小穴群	2穴	黒褐色土		12世紀中頃～	C4
169		小穴群	2穴	黒褐色土			C4
170	233SK170	土坑	第Ⅱ面	暗褐色土			C7
171		小穴群	3穴	暗褐色土			C4
172		小穴群	3穴	茶色土	172→174	平安時代中期～	C5
173		小穴群	2穴	黒褐色土		12世紀中頃～	C5
174		小穴群	2穴	黒褐色土	172→174	12世紀中頃?～	C5
175	233SD175	溝	第Ⅱ面	暗褐色土	175→70		B·C4·5

大宰府条坊跡第233次調査　遺構番号台帳（4）

S-番号	遺構番号	種　別	備　考	埋積土状況(古→新)	遺構間切合(古→新)	時　期	地区番号
176		小穴	1穴	黄褐色砂			C5
177	233SK177	土坑		暗褐色土		D期～	B·C5
178		小穴群	5穴	黒褐色土			D4
179		小穴群	4穴	暗褐色土			D4·5
180	233SX180	たまり	第Ⅱ面	暗褐色土→暗黄褐色土→暗褐色土	180→201		F4·5
181		小穴	1穴(S-130に変更)	暗褐色土→褐色土		12世紀中頃?～	D4
182		小穴	1穴(S-125に変更)	暗褐色土			H5
183		小穴群	5穴	暗褐色土			C·D3·4
184		小穴	1穴(第Ⅱ面)	黒褐色土			F2
185		たまり	第Ⅱ面	暗褐色土	223·224·226→185·→150·155·192·194·198·200		D·E3·4
186		小穴	1穴(第Ⅱ面)	黒褐色土	185→186		D3
187		小穴群	2穴(第Ⅱ面)	黒褐色土	187→212		D3
188		小穴群	6穴(第Ⅱ面)	黒褐色土			E3
189		小穴群	3穴(第Ⅱ面)	黒褐色土			F4
190	233SK190	土坑	第Ⅱ面	暗褐色土	190→5		G·H1
191		小穴	1穴(第Ⅱ面)	黒褐色土			G5
192		小穴群	4穴(第Ⅱ面)	黒褐色土	185→192		E4
193		小穴群	4穴(第Ⅱ面)	黒褐色土	204→193		D5
194		小穴群	3穴(第Ⅱ面)	黒褐色土	224→185→194		E4
195	233SD195	溝	第Ⅱ面	暗褐色土	195→5		E·F1
196		小穴	1穴(第Ⅱ面)	黒褐色土			D2
197		小穴群	4穴(第Ⅱ面)	黒褐色土			D3·4
198		小穴群	4穴(第Ⅱ面)	黒褐色土	155·185→198		D4·5
199		小穴群	3穴(第Ⅱ面)	黒褐色土			C·D6·7
200		小穴群	5穴(第Ⅱ面)	暗褐色土	185·226→200→212·226		D3～E4
201		小穴群	3穴(第Ⅱ面)	暗褐色土	180→201		F·G4
202		小穴	1穴(第Ⅱ面)	暗褐色土			G2
203		小穴群	3穴(第Ⅱ面)	暗褐色土			F3
204		小穴群	5穴(第Ⅱ面)	暗褐色土	204→193		D5·6
205		小穴	1穴	黒褐色土	205→53·85		F3
206		小穴群	2穴(第Ⅱ面)	暗褐色土			E3
207		小穴群	4穴(第Ⅱ面)	暗褐色土		平安時代～	E3
208		小穴群	2穴(第Ⅱ面)	暗褐色土	209→208		C·D3·4
209		小穴群	4穴(第Ⅱ面)	暗褐色土	209→208		C·D3·4
210				暗褐色土			C·D4
211		小穴群	4穴(第Ⅱ面)	暗褐色土	187·200→212		D3
212		小穴	1穴(第Ⅱ面)	暗褐色土			E·F5·6
213		小穴群	6穴(第Ⅱ面)	暗褐色土			E4
214		小穴群	3穴(第Ⅱ面)	暗褐色土			
215				暗褐色土			D4·5
216		小穴群	5穴(第Ⅱ面)	暗褐色土			C7
217		小穴	1穴(第Ⅱ面)	暗褐色土			C5·6
218		小穴群	5穴(第Ⅱ面)	暗褐色土			C5
219		小穴群	5穴(第Ⅱ面)	暗褐色土			
220				暗褐色土	221→105→95→110		B4
221	233SX221	小穴	1穴(第Ⅱ面)	暗褐色土	222→90·110	12世紀中頃?～	A·B4
222		たまり?	第Ⅱ面	黒褐色土	223→185		D3
223		小穴群	2穴(第Ⅱ面)	黒褐色土	224→185→194		D·E3·4
224		小穴群	4穴(第Ⅱ面)				
225				黒褐色土	226→185→200		D·E4
226		小穴群	2穴(第Ⅱ面)	暗褐色土			F·G0·1
227		小穴群	5穴(第Ⅱ面)	暗褐色土			D0·1
228		小穴群	2穴(第Ⅱ面)	暗褐色土→暗黄褐色土→暗褐色土	5→229		I·J0
229		不明					
230				黒褐色土	99·231→130		E·F4
231		溝？					

大宰府条坊跡第233次調査　土師器計測表（1）

233SD005暗褐色土

単位cm、（ ）：復原値、＋α：現存高、○有　×無　－不明

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-057	(11.8)	2.4	(8.0)	イト	○	○		
	坏a	M-054	(12.6)	2.8	(9.4)	イト	○	－		
	坏a	M-053	(13.0)	2.6	(8.6)	イト	○	○		
	坏a	M-055	13.6	3.0	7.6	イト	×	×	○	
	坏a	M-004	(13.8)	2.4	(8.8)	イト	○	○		
	坏a	M-052	13.8	3.0	9.0	イト	○	○		
	坏a	M-029	13.8～14.3	3.2	9.5～10.0	イト	○	○		
	坏a	R-013	(14.0)	2.5	(9.8)	イト	×	×		
	坏a	M-044	(14.0)	2.6	(9.0)	イト	○	○		旧M-059　白雲母含有
	坏a	M-058	(14.0)	2.6	(10.8)	イト	×	○	○	
	坏a	M-007	14.0	2.8	10.6	イト	×	○	○	
	坏a	M-050	(14.0)	2.9	(9.6)	イト	－	○		
	坏a	M-018	14.0	3.3	9.2	イト	○	○		
	坏a	M-010	14.0～14.7	3.0	9.6～10.1	イト	○	○		
	坏a	M-038	14.2	2.5	10.2	イト	○	○		
	坏a	M-048	14.2	2.8	10.0	イト	○	○	○	
	坏a	M-011	(14.2)	2.9	(10.2)	イト	－	○		
	坏a	R-010	14.2	3.1	9.5	イト	○	○	○	
	坏a	R-012	14.2	3.4	9.3	イト	○	○	○	旧M-032
	坏a	M-047	14.2	3.5	8.0	イト	○	○	○	旧M-033
	坏a	M-026	14.3～14.8	3.2	10.0	イト	○	○		
	坏a	M-030	(14.4)	2.6	10.0	イト	○	○		
	坏a	M-043	(14.4)	2.7	8.7	イト	○	○		
	坏a	M-034	14.4	2.7	10.4	イト	○	○	○	
	坏a	M-036	(14.4)	2.9	(10.4)	イト	○	○	○	
	坏a	M-001	14.4～15.0	2.7	9.2～10.1	イト	○	○		
	坏a	M-014	14.5	3.1	10.2	イト	○	○		
	坏a	M-005	(14.6)	2.4	(10.4)	イト	○	○		
	坏a	M-132	(14.6)	2.7	(8.2)	イト	○	○		
	坏a	M-027	14.6	3.0	9.8	イト	○	○		
	坏a	M-041	(14.6)	3.0	10.8	イト	○	○		
	坏a	M-022	14.6～15.3	2.7	10.5	イト	○	○		
	坏a	M-039	14.7	2.9	11.2	イト	○	○	○	
	坏a	M-035	14.8	2.5	10.5	イト	○	○		
	坏a	M-019	14.8	2.7	10.8	イト	○	○		
	坏a	M-017	14.8	2.8	9.4	イト	○	○		
	坏a	R-011	14.8	2.8	9.8	イト	○	○		
	坏a	M-020	14.8	2.8	10.6	イト	○	○	○	旧M-031
	坏a	M-045	14.8	2.9	8.6～9.4	イト	○	○		
	坏a	M-046	14.8	3.1	9.4	イト	○	○		
	坏a	M-021	14.8	3.2	10.8	イト	○	○	○	
	坏a	M-023	(14.8)	3.4	(11.0)	イト	○	○		
	坏a	M-016	14.9	2.7	10.6	イト	○	－		
	坏a	M-003	14.9～15.3	3.1	9.6	イト	○	○		
	坏a	M-051	(15.0)	2.3	(11.2)	イト	○	○		
	坏a	M-028	(15.0)	2.6	(10.0)	イト	－	○		
	坏a	M-013	15.0	2.6	10.6	イト	○	○		
	坏a	R-009	15.0	2.6	10.7	イト	×	×		
	坏a	R-008	15.0	2.7	10.5	イト	○	○	○	旧M-024
	坏a	M-042	15.0	2.8	9.8	イト	○	○	○	旧M-009
	坏a	M-002	15.0	3.0	10.2	イト	○	○		
	坏a	M-040	15.2	2.2	10.6	イト	○	○	○	
	坏a	M-049	(15.2)	2.3	11.0	イト	○	○	○	
	坏a	M-025	15.2	2.9	11.6	イト	○	○		
	坏a	M-006	15.2	3.1	10.8	イト	○	○		
	坏a	M-037	15.3	2.8	10.5	イト	○	○		
	坏a	M-008	(15.4)	2.8	11.1	イト	○	○		
	坏a	M-012	(15.4)	2.9	(11.6)	イト	－	○		
	坏a	M-056	(15.6)	2.8	(11.6)	イト	○	○	○	
	坏a	M-015	(15.6)	2.9	(11.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-118	(6.8)	1.3	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-083	(8.0)	0.9	(6.2)	イト	○	－		
	小皿a	M-102	(8.0)	1.3	6.2	イト	○	○		
	小皿a	M-121	(8.2)	1.0	(6.2)	イト	○	○	○	
	小皿a	M-122	(8.2)	1.3	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-082	(8.2)	0.9	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-078	(8.4)	1.0	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-097	(8.4)	1.1	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-114	8.4	1.1	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-128	(8.4)	1.1	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-111	8.4	1.2	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-123	(8.4)	1.2	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-106	(8.4)	1.2	(6.8)	イト	○	－		
	小皿a	R-016	8.4	1.4	6.0	イト	○	○		
	小皿a	M-127	(8.6)	0.8	(6.4)	イト	○	－		旧M-110
	小皿a	M-088	(8.6)	0.9	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-108	(8.6)	1.0	(6.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-075	(8.6)	1.0	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-130	(8.6)	1.0	(7.0)	イト	○	○		

大宰府条坊跡第233次調査　土師器計測表（2）

233SD005暗褐色土

単位cm、（ ）：復原値、＋α：現存高、○有　×無　－不明

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-066	8.6	1.0	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-060	8.6	0.9～1.1	6.9	イト	○	－		
	小皿a	M-074	(8.6)	1.1	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-131	(8.6)	1.2	(6.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-119	(8.6)	1.2～1.7	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-071	8.7	0.9	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-086	8.7	1.3	6.7	イト	○	○		
	小皿a	M-077	(8.8)	0.9	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-091	(8.8)	0.9	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-129	(8.8)	0.9	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-069	8.8	0.9～1.2	6.8	イト	○	○		
	小皿a	R-014	8.8	1.0	6.3	イト	○	○		旧M-068
	小皿a	M-076	(8.8)	1.0	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-092	(8.8)	1.0	(6.6)	イト	○	－		
	小皿a	M-093	(8.8)	1.1	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-090	(8.8)	1.1	(7.0)	イト	○	○	○	
	小皿a	M-112	(8.8)	1.1	(7.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-081	(8.8)	1.2	(6.6)	イト	○	－		
	小皿a	M-100	(8.8)	1.2	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-073	(8.8)	1.2	7.5	イト	○	○		
	小皿a	M-085	8.9	0.8	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-103	(9.0)	1.0	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-116	(9.0)	1.0	7.0	イト	○	－		
	小皿a	M-096	(9.0)	1.0	(7.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-104	(9.0)	1.0	(8.0)	イト	－	○		
	小皿a	M-101	(9.0)	1.1	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-087	(9.0)	1.1	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-105	(9.0)	1.1	(7.0)	イト	○	－		
	小皿a	M-109	9.0	1.1	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-113	(9.0)	1.1	(7.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-089	(9.0)	1.1	(7.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-099	(9.0)	1.2	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-079	(9.0)	1.2	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-080	(9.0)	1.2	(6.6)	イト	○	－		
	小皿a	M-115	(9.0)	1.2	6.7	イト	○	○		
	小皿a	M-061	(9.0)	1.2	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-107	(9.0)	1.2	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-126	(9.0)	1.2	(7.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-120	(9.0)	1.2	(7.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-067	9.0～9.4	1.2	7.1～7.8	イト	○	○		
	小皿a	M-064	9.1	1.2	7.2	イト	○	○		
	小皿a	M-084	9.1	1.3	7.4	イト	○	○		
	小皿a	R-015	9.2	1.0	7.0	イト	○	○		旧M-070
	小皿a	M-065	9.2	1.0	7.6	イト	○	○		
	小皿a	M-094	(9.2)	1.1	(7.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-072	9.2	1.2	7.5	イト	○	○		
	小皿a	M-063	(9.2)	1.2	7.2	イト	○	○		
	小皿a	M-095	(9.2)	1.4	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-098	9.2～9.5	1.2	6.6～7.1	イト	○	○		
	小皿a	M-117	9.3	1.2	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-062	9.5	1.3	7.2	イト	○	－		
	小皿a	M-124	(8.8)	1.4	(7.0)	手捏ね	○	－		
	小皿a	R-017	(8.6)	1.4	(6.0)	手捏ね	○	－		旧M-125

233SD005暗灰褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-017	(13.6)	2.7	9.6	イト	○	○		
	坏a	M-016	(14.0)	2.4	8.2	イト	○	－		
	坏a	M-014	(14.0)	2.8	9.2	イト	○	○		
	坏a	M-013	14.0	3.1	8.8	イト	○	－	○	
	坏a	M-015	(14.0)	3.1	(9.0)	イト	○	－		
	坏a	M-011	14.1	3.1	8.4	イト	○	○		油煙
	坏a	M-010	14.2	2.7	9.8	イト	○	－		
	坏a	M-007	14.2	2.7	10.4	イト	○	○		
	坏a	M-008	14.2	2.9	(9.2)	イト	○	○		
	坏a	M-009	14.2	2.8＋α	10.6	イト	○	○		
	坏a	M-004	14.2～14.6	2.7	9.6～11.0	イト	○	○		
	坏a	M-012	14.4	3.0	9.0	イト	○	○		
	坏a	M-003	14.6	2.9～3.4	11.0	イト	○	○		
	坏a	M-005	(14.6)	2.7	9.8～10.4	イト	○	○		
	坏a	M-006	(14.6)	2.9	8.2	イト	○	－		
	坏a	M-002	(15.0)	2.7	(11.0)	イト	○	○	○	
	坏a	M-001	15.2	3.4	11.0	イト	○	○		
	小皿a	M-034	(6.4)	1.3	(5.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-032	(8.2)	0.8	(6.2)	イト	○	○	○	
	小皿a	M-033	(8.2)	0.9	6.6	イト	○	－		
	小皿a	M-031	(8.4)	1.3	(5.4)	イト	○	－		
	小皿a	M-030	8.6	1.3	7.0	イト	○	－		
	小皿a	M-029	(8.8)	1.2	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-022	9.0	0.6～1.0	7.4	イト	○	○		
	小皿a	M-024	(9.0)	0.8～1.1	5.8	イト	○	○	○	

大宰府条坊跡第233次調査　土師器計測表（3）

単位cm、（ ）：復原値、＋α：現存高、○有　×無　－不明

233SD005暗灰褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-021	9.0	0.8～1.1	7.2	イト	○	○		
	小皿a	M-027	(9.0)	1.0	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-020	9.0	1.0	7.6	イト	○	－		
	小皿a	M-023	9.0	1.0～1.2	7.4	イト	○	○		
	小皿a	M-028	(9.0)	1.2	(6.0)	イト	○	－		
	小皿a	M-025	(9.0)	1.2	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-026	(9.0)	1.7	(6.8)	イト	○	－		
	小皿a	M-019	(9.2)	1.1	7.4	イト	○	○		
	小皿a	M-018	9.3	1.4	6.8	イト	○	○		油煙

233SD005灰色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-001	(15.6)	2.2	(12.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-002	(8.8)	1.1	(6.8)	イト	○	○		

233SD005暗茶褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-005	(14.4)	2.7	(9.2)	イト	○	○		
	坏a	M-006	(14.4)	2.7	(10.4)	イト	○	○		
	坏a	M-002	14.5	2.9～3.3	8.5	イト	○	○	○	
	坏a	M-015	14.8～15.2	2.8～3.2	10.4	イト	○	○		
	坏a	M-001	14.9	2.1～2.8	9.2～10.0	イト	○	○		
	坏a	M-003	(15.0)	2.5	(9.2)	イト	○	○		
	坏a	M-004	(15.0)	2.6	(12.0)	イト	×	×	○	
	小皿a	M-014	(8.6)	1.2	(7.0)	イト	○	×	○	
	小皿a	M-013	(8.8)	0.9	(7.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-011	(9.0)	0.9	(7.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-010	(9.0)	1.1	6.6	イト	○	○		油煙
	小皿a	M-012	(9.0)	1.0～1.4	(7.2)	イト	○	－		
	小皿a	M-009	9.0	1.5	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-008	(9.1)	1.0	7.4	イト	○	○		
	小皿a	M-007	9.4	1.0	7.6	イト	○	○		

S-5茶色土②

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-001	(8.8)	1.2	(6.8)	イト	○	○		

233SD011暗灰色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-001	10.3	1.4	8.0	ヘラ	○	○		

233SD012黒褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-001	(12.2)	2.5	9.0	イト	○	○		
	坏a	M-006	(12.2)	3.2＋α	(8.4)	イト	○	○		
	坏a	M-002	(12.4)	2.8	8.1	イト	○	×		
	坏a	M-003	(12.4)	2.2	(6.8)	イト	○	○		
	坏a	M-004	(12.6)	2.2	(9.2)	イト	○	○		
	坏a	M-005	(12.6)	2.2	(8.8)	イト	○	○		
	坏a	M-007	(14.4)	2.2	(10.4)	イト	×	×		
	小皿a	M-024	(7.6)	1.0	(5.6)	イト	○	－		
	小皿a	M-023	(8.0)	0.9	(6.2)	イト	○	×		
	小皿a	M-020	(8.0)	1.0	(5.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-021	(8.0)	1.0	(6.2)	イト	○	×		
	小皿a	M-019	8.0	1.2	6.7	イト	○	○		
	小皿a	M-022	(8.0)	1.2	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-017	(8.2)	1.0	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-018	(8.2)	1.1	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-016	(8.4)	1.1	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-015	(8.4)	1.2	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-013	8.4	1.3	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-014	(8.4)	1.4	(5.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-012	(8.6)	1.2	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-009	(8.8)	0.9	(6.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-010	(8.8)	1.2	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-011	(8.8)	1.0～1.2	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-008	(9.0)	1.0	(7.6)	イト	○	○		

233SD020黒褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a 2	M-001	(11.6)	1.3＋α	(8.2)	ヘラ	－	×		

233SE025暗褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-002	(7.8)	1.0	(5.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-001	8.9	1.0	6.5	イト	○	○		
	小皿b	R-001	(6.6)	1.6	(4.2)	イト	○	×		旧M-003

233SE025暗灰褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-001	(11.4)	2.2～2.5	(7.0)	イト	－	○		
	小皿a	M-005	(8.4)	1.1	(6.4)	イト	○	×		
	小皿b	M-002	6.6	1.5	5.2	イト	○	×		
	小皿b	M-003	7.0	1.5	4.0～4.4	イト	○	×		
	小皿b	M-004	(7.0)	1.4	(5.2)	イト	○	×		

大宰府条坊跡第233次調査　土師器計測表（4）

単位cm、（ ）：復原値、＋α：現存高、○有　×無　－不明

233SE025褐灰色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-001	(8.0)	1.0	(6.0)	イト	○	×		
	小皿a	M-002	(8.0)	0.8	(6.4)	イト	○	○		

233SE035黒褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-007	(11.0)	2.3	(5.8)	イト	○	○		
	坏a	M-001	(12.2)	2.6	(8.2)	イト	○	×		
	坏a	M-006	(13.6)	2.8	(7.4)	イト	○	×		
	小皿a	M-008	(8.2)	1.1	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-005	(8.4)	1.2	(7.2)	イト	○	×		
	小皿a	M-004	(8.8)	1.2	(6.6)	イト	○	×		
	小皿a	M-011	(8.6)	1.2	(6.6)	イト	○	×		
	小皿a	M-009	(9.0)	0.9	(7.2)	イト	○	×		
	小皿a	M-013	(9.0)	1.1	(6.6)	イト	－	×		
	小皿a	M-010	(9.0)	1.1	(7.6)	イト	○	×		
	小皿a	M-014	(9.4)	1.1	(7.4)	イト	○	×		
	小皿a	M-003	(9.4)	1.2	(8.2)	イト	○	×		
	小皿a	M-012	(10.0)	1.0	(7.4)	イト	○	×		
	小皿a	M-002	(11.0)	1.1	(9.4)	イト	○	×		
	小皿a	M-015	－	0.8	－	イト	－	○		

233SE035暗灰色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-002	(12.4)	2.7＋α	(7.4)	イト	○	○		
	坏a	M-001	(12.4)	2.8＋α	(7.4)	イト	－	－		
	小皿a	M-004	(8.2)	0.9	(5.8)	イト	－	○		
	小皿a	M-003	(8.6)	1.0	(6.6)	イト	○	○		

233SE035暗褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-001	(12.4)	2.6＋α	(8.4)	イト	○	○		
	坏a	M-002	(12.4)	2.4＋α	(7.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-021	(7.6)	1.0	(5.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-018	(7.8)	0.9	(6.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-019	(7.8)	1.1	(6.0)	イト	○	－		
	小皿a	M-020	(7.8)	1.2	(5.8)	イト	○	－		
	小皿a	M-017	(8.0)	0.9	(6.0)	イト	○	－		
	小皿a	M-016	(8.0)	1.0	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-015	(8.0)	1.2	(6.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-014	(8.2)	1.1	(7.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-013	(8.4)	0.8	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-012	(8.4)	1.2	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-011	(8.4)	1.3	6.3	イト	○	○		
	小皿a	M-008	(8.6)	1.0	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-010	(8.6)	1.0	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-009	(8.6)	1.2	(6.8)	イト	○	－		
	小皿a	M-006	(8.8)	1.0	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-007	(8.8)	1.2	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-004	(9.0)	0.9	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-005	(9.0)	1.1	(7.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-003	(9.0)	1.4	(7.0)	イト	○	○		

233SE035黄褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-003	(12.4)	2.6	(7.2)	イト	－	－		
	坏a	M-002	(12.4)	2.6	8.6	イト	○	○		
	坏a	M-001	(12.8)	2.4	(8.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-004	(9.0)	0.9	(7.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-005	(9.0)	1.0	(6.8)	イト	○	○		

233SX036黒灰黄色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-001	8.0	1.2	6.2	イト	○	○		
	小皿a	M-002	－	0.9	－	イト	－	×		
	小皿a	M-003	－	1.1	－	イト	○	×		

233SX036黒褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-048	(12.0)	2.7	8.8	イト	○	○		
	坏a	M-041	(12.4)	2.4	8.2	イト	○	○		
	坏a	M-047	12.6	2.4	9.2	イト	○	○		
	坏a	M-046	(12.8)	2.7	(7.6)	イト	○	×		
	坏a	M-034	(13.0)	2.4	(8.8)	イト	○	×		
	坏a	M-015	(13.2)	2.2	(9.4)	イト	○	×		
	坏a	M-014	(13.2)	2.8	(9.0)	イト	－	×		
	坏a	M-033	(15.0)	2.4	(10.4)	イト	－	×		
	坏a	M-001	(16.2)	3.4	(9.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-040	(7.4)	0.8	6.0	イト	－	○		
	小皿a	M-011	(7.6)	1.1	(6.0)	イト	○	×		
	小皿a	M-044	(7.6)	1.1	(6.2)	イト	○	×		
	小皿a	M-017	7.6	1.2	5.8	イト	－	○		
	小皿a	M-028	(7.8)	1.0	(6.0)	－	○	○		
	小皿a	M-013	(7.8)	1.0	(6.4)	イト	－	×		
	小皿a	M-051	(7.8)	1.1	(5.8)	イト	－	○		
	小皿a	M-036	(7.8)	1.3	(6.0)	イト	○	○		

大宰府条坊跡第233次調査　土師器計測表（5）

単位cm、（ ）：復原値、＋α：現存高、○有　×無　－不明

233SX036黒褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-035	(8.0)	1.1	(5.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-038	8.0	1.1	6.6	イト	－	○		
	小皿a	M-018	(8.0)	1.2	5.4	イト	○	○		
	小皿a	M-021	(8.0)	1.3	6.2	イト	－	○		
	小皿a	M-005	(8.2)	0.9	(6.4)	イト	○	×		
	小皿a	M-026	(8.2)	1.1	(6.4)	－	○	○		
	小皿a	M-006	(8.2)	1.2	(6.8)	イト	－	×		
	小皿a	M-052	(8.2)	1.3	(6.0)	イト	－	○		
	小皿a	M-003	8.2	1.5	5.5	イト	－	○		
	小皿a	M-050	(8.4)	0.8	(6.8)	イト	○	×		
	小皿a	M-007	(8.6)	0.8	(7.2)	－	－	○		
	小皿a	M-022	(8.6)	1.0	(6.8)	イト	－	×		
	小皿a	M-002	(8.6)	1.0	(7.2)	－	○	○		
	小皿a	M-030	8.6	1.2	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-009	(8.6)	1.2	(7.0)	イト	－	×		
	小皿a	M-043	8.6	1.3	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-045	(8.6)	1.3	(7.0)	イト	○	×		
	小皿a	M-008	(8.6)	1.3	(7.2)	イト	○	×		
	小皿a	M-037	(8.8)	1.1	(7.2)	イト	－	○		
	小皿a	M-024	(8.8)	1.4	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-020	(9.0)	1.0	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-049	(9.0)	1.0	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-042	9.2	1.2	7.4	イト	○	○		
	小皿a	M-031	(9.2)	1.3	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-016	(9.4)	1.0	(7.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-023	(9.4)	1.0	(8.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-010	(9.4)	1.1	(7.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-032	(9.6)	1.0	(7.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-029	(9.6)	1.1	(8.4)	イト	○	×		
	小皿a	M-039	(9.6)	1.2	(7.4)	イト	－	○		
	小皿a	M-027	－	1.0	－	イト	○	×		
	小皿a	M-004	－	1.1	－	イト	○	×		
	小皿a	M-019	－	1.2	－	イト	－	×		
	小皿a	M-025	－	1.2	－	イト	○	×		
	小皿a	M-053	－	1.4	－	イト	－	○		
	小皿b	M-012	(6.6)	1.7	(5.0)	イト	○	○		

233SE045黒灰色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-002	(8.8)	0.9	(5.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-001	(9.0)	1.0	(6.6)	イト	○	－		

233SE045黄灰色砂

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-002	12.4	2.9	8.0	イト	○	○		
	坏a	M-001	13.1	2.9	9.4	イト	○	○		
	小皿a	M-004	8.2	1.1	6.8	イト	○	－		
	小皿a	M-003	8.7	1.4	7.0	イト	○	○		

233SE045暗褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-002	9.0	1.3	6.6	イト	○	－		
	小皿a	M-001	9.6	1.8	6.8	イト	○	○		油煙

233SE045暗灰色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-001	(15.6)	2.3	(10.6)	イト	○	○		

S-50暗褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-001	(13.4)	2.4	(9.0)	イト	○	－		

233SE050褐色砂

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-001	(12.6)	2.9	(8.0)	イト	○	－		
	小皿a	M-002	(7.4)	1.5	(4.8)	イト	○	○		

233SE050黄褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-001	(8.0)	0.8	(6.0)	イト	○	○		

233SK055暗褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-005	(11.8)	2.4	8.4	イト	○	○		
	坏a	M-004	(12.0)	2.4	(8.4)	イト	－	－		
	坏a	M-003	(12.0)	2.4～2.6	(7.0)	イト	○	－		
	坏a	M-002	(13.4)	3.0	(9.0)	イト	○	○		
	坏a	M-001	(14.6)	2.7	(10.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-027	(8.0)	1.0	(6.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-026	(8.0)	1.2	(5.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-025	(8.0)	1.2	(6.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-024	(8.2)	1.4	(6.4)	イト	○	×		
	小皿a	M-016	8.4	0.9	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-022	(8.4)	1.1	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-015	8.4	1.1	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-023	(8.4)	1.3	(6.4)	イト	○	○		

大宰府条坊跡第233次調査　土師器計測表（6）

単位cm、（ ）：復原値、＋α：現存高、○有　×無　－不明

233SK055暗褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-013	8.5	0.9	7.4	イト	○	○		
	小皿a	M-014	8.5	1.1	7.0	イト	○	×		
	小皿a	M-021	(8.6)	0.8	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-011	8.6	1.1	6.8	イト	○	×		
	小皿a	M-012	8.6	1.2	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-010	8.7	1.2	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-007	8.9	1.1	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-009	8.9	1.3	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-020	(9.0)	1.0	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-018	(9.0)	1.1	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-017	9.0	1.2	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-008	9.0	1.2	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-006	9.0	1.3	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-019	(9.0)	1.6	6.8	イト	○	－		

233SK055褐灰色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-001	(9.0)	1.0	(7.0)	イト	○	○		

233SK055褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-041	(11.8)	2.7	(7.8)	イト	○	○		
	坏a	M-036	(12.0)	2.6	(7.8)	イト	○	○		油煙
	坏a	M-024	12.0	2.8	7.7	イト	○	○		
	坏a	M-020	12.0～12.7	2.5	7.9	イト	○	○		
	坏a	M-015	12.1～12.9	2.9	8.0	イト	○	○		
	坏a	M-022	12.3	2.2	7.3	イト	○	○		
	坏a	M-021	12.3	2.9	7.8	イト	○	○		
	坏a	M-023	12.4	2.6	7.9	イト	○	○		油煙
	坏a	M-044	(12.4)	2.3	(7.8)	イト	○	○		
	坏a	M-034	(12.4)	2.5	8.2	イト	○	○		
	坏a	M-035	(12.4)	2.8	7.4	イト	○	－		
	坏a	M-016	12.4～12.9	2.7	8.5	イト	○	○		
	坏a	M-039	12.6	2.5	9.2	イト	○	○		
	坏a	M-033	(12.6)	2.6	9.4	イト	○	○		
	坏a	M-038	12.6	2.8	7.7	イト	○	○		
	坏a	M-045	12.6	2.9	7.8	イト	○	○		
	坏a	M-019	12.7	2.6	7.3	イト	○	○		
	坏a	M-043	(12.8)	2.2	(7.8)	イト	○	○		
	坏a	M-027	(12.8)	2.2	8.8	イト	○	○		油煙
	坏a	M-026	(12.8)	2.2	9.2	イト	○	○		
	坏a	M-028	(12.8)	2.4	(8.8)	イト	○	○		
	坏a	M-030	(12.8)	2.4	(8.6)	イト	○	○		
	坏a	M-029	(12.8)	2.7	8.4	イト	○	○		
	坏a	M-031	(12.8)	2.8	(9.0)	イト	○	○		
	坏a	M-040	(12.8)	2.8	(8.6)	イト	○	○		
	坏a	M-032	(12.8)	2.8	(8.2)	イト	○	○	○	
	坏a	M-042	(12.8)	2.8	7.8	イト	○	○	○	
	坏a	M-017	12.8	2.9	8.3	イト	○	○		
	坏a	M-018	12.8	3.1	7.5	イト	○	○		
	坏a	M-011	12.8～13.2	2.7	9.1～9.5	イト	○	○		
	坏a	M-014	12.9	2.2	8.3	イト	○	○		
	坏a	M-006	13.0～13.4	2.8	9.6	イト	○	○		
	坏a	M-007	13.0～13.5	3.1	8.2～9.0	イト	○	○		
	坏a	M-002	13.0～13.9	2.9	9.5	イト	○	○		
	坏a	M-005	13.0～14.0	3.2	8.4	イト	○	○		
	坏a	M-013	13.1	2.6	8.6	イト	○	○		
	坏a	M-037	13.2	2.3	8.8	イト	○	○		
	坏a	M-012	13.2	2.7	8.5	イト	○	○		
	坏a	M-009	13.3	2.5	8.7～9.5	イト	○	○		
	坏a	M-010	13.3	2.8	8.4	イト	○	○		
	坏a	M-008	13.3～13.8	2.9	9.0～9.6	イト	○	○		
	坏a	M-004	13.3～13.9	2.9	8.4	イト	○	○		
	坏a	M-003	13.3～13.9	3.1	8.4	イト	○	○		
	坏a	M-001	13.8～14.5	2.4	10.6～11.7	イト	○	○		
	坏a	M-025	(14.2)	2.5	8.6	イト	○	○		
	小皿a	M-134	8.0	0.9	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-135	(8.0)	1.0	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-141	(8.0)	1.0	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-136	(8.0)	1.0	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-133	(8.2)	0.8	(6.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-154	(8.2)	0.9～1.2	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-153	(8.2)	1.0～1.3	6.2	イト	○	○		
	小皿a	M-091	8.2	1.1	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-152	(8.2)	1.1～1.4	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-092	8.2	1.2	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-090	8.2	1.3	6.0	イト	○	○		
	小皿a	M-140	8.3	1.1	6.7	イト	○	○		
	小皿a	M-073	8.3～8.6	1.2	6.5	イト	○	○		
	小皿a	M-079	8.3～8.6	0.9～1.1	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-132	(8.4)	1.0	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-122	8.4	1.0	6.4	イト	○	○		

大宰府条坊跡第233次調査　土師器計測表（7）

233SK055褐色土

単位cm、（ ）：復原値、＋α：現存高、○有　×無　－不明

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-089	8.4	1.3	6.3～6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-109	(8.4)	1.0	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-131	(8.4)	1.1	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-106	(8.4)	1.1	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-111	(8.4)	1.1	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-110	(8.4)	1.1	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-108	(8.4)	1.2	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-139	(8.4)	1.2	7.0	イト	○	×		
	小皿a	M-107	(8.4)	1.3	(5.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-129	(8.4)	1.3	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-130	(8.4)	1.3	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-085	8.4	1.4	7.2	イト	○	○		
	小皿a	M-075	8.4～8.7	1.2	6.9	イト	○	○		
	小皿a	M-149	8.5	1.0	6.0	イト	○	○		
	小皿a	M-148	(8.5)	1.0	6.2	イト	○	－		
	小皿a	M-150	8.5	1.1～1.4	7.2	イト	○	○		
	小皿a	M-078	8.5	1.2	6.2	イト	○	○		
	小皿a	M-088	8.5	1.2	7.1	イト	○	○		
	小皿a	M-072	8.5	1.3	6.7～7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-077	8.5	1.3	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-083	8.5	1.3	6.9	イト	○	○		
	小皿a	M-082	8.5	1.4	6.5	イト	○	○		
	小皿a	M-138	(8.6)	0.8～1.2	6.2～6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-094	(8.6)	1.0	6.1～6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-104	(8.6)	1.0	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-121	8.6	1.0	7.3	イト	○	○	○	
	小皿a	M-084	8.6	1.1	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-128	(8.6)	1.1	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-151	(8.6)	1.1	(6.6)	イト	○	－		
	小皿a	M-103	(8.6)	1.1	(6.8)	イト	○	－		
	小皿a	M-087	8.6	1.1	7.2	イト	○	×		
	小皿a	M-076	8.6	1.2	6.3	イト	○	○		
	小皿a	M-080	8.6	1.2	6.7	イト	○	○		
	小皿a	M-105	(8.6)	1.2	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-086	8.6	1.2	6.9	イト	○	○		
	小皿a	M-020	8.7	0.9	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-081	8.7	1.0	7.1	イト	○	○		
	小皿a	M-147	8.7	1.0	7.1	イト	○	○		
	小皿a	M-074	8.7	1.1	5.8～6.2	イト	○	○		
	小皿a	M-069	8.7	1.1	6.5	イト	○	○		
	小皿a	M-070	8.7	1.1	6.5	イト	○	○		
	小皿a	M-071	8.7	1.1	6.5～7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-068	8.7	1.1	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-126	8.7	1.1	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-065	8.7	1.2	6.3	イト	○	○		
	小皿a	M-066	8.7	1.2	6.3	イト	○	○		
	小皿a	M-127	(8.7)	1.3	6.7	イト	○	○		
	小皿a	M-054	8.7～9.1	1.1	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-125	(8.8)	0.9	(7.4)	イト	○	×		
	小皿a	M-097	(8.8)	1.0	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-056	8.8	1.0	7.2	イト	○	○		
	小皿a	M-100	(8.8)	1.0	(7.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-118	8.8	1.2	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-124	(8.8)	1.2	(7.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-053	8.8	1.2～1.7	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-061	8.8	1.3	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-067	8.8	1.3	7.0	イト	○	×		
	小皿a	M-119	(8.8)	1.3	(7.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-064	8.9	1.0	7.2	イト	○	○	○	
	小皿a	M-116	8.9	1.1	6.7	イト	○	○		
	小皿a	M-063	8.9	1.2	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-057	8.9	1.2	7.1	イト	○	○		
	小皿a	M-144	(9.0)	0.8～1.1	7.4	イト	○	○		
	小皿a	M-055	9.0	0.9	6.5	イト	○	○		
	小皿a	M-117	(9.0)	0.9	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-060	9.0	0.9	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-123	9.0	1.0	6.3	イト	○	○		
	小皿a	M-098	(9.0)	1.1	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-101	(9.0)	1.1	(7.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-146	9.0	1.1	7.3	イト	○	○		
	小皿a	M-102	(9.0)	1.1	(7.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-096	(9.0)	1.2	(5.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-099	(9.0)	1.2	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-115	9.0	1.2	6.7～7.1	イト	○	○		
	小皿a	M-059	9.0	1.2	6.9	イト	○	×	○	
	小皿a	M-093	(9.0)	1.3	6.1～6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-145	9.0	1.3	7.0	イト	○	×		
	小皿a	M-058	9.0	1.3	7.2～7.6	イト	○	○		
	小皿a	M-052	9.0～9.3	1.2	6.0～6.7	イト	○	○		
	小皿a	M-114	9.1	1.0	7.2	イト	○	○		

大宰府条坊跡第233次調査　土師器計測表（8）

単位cm、（ ）：復原値、＋α：現存高、○有　×無　－不明

233SK055褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M－062	9.1	1.1	6.9	イト	○	○		
	小皿a	M－050	9.1	1.2	6.7	イト	○	○		
	小皿a	M－051	9.1	1.2	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M－049	9.1	1.2	7.1	イト	○	○		
	小皿a	M－113	9.1～9.6	1.2	7.4～8.0	イト	○	○		
	小皿a	M－095	(9.2)	0.8	(7.2)	イト	○	○		
	小皿a	M－142	(9.2)	1.1	(7.8)	イト	○	○		
	小皿a	M－048	9.2	1.2	7.5	イト	○	○		
	小皿a	M－143	9.2	1.4	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M－047	9.4	1.1	7.8	イト	○	○		
	小皿a	M－137	(9.6)	1.1	(8.6)	イト	○	○		
	小皿a	M－046	9.6	1.3	7.5	イト	○	○		
	小皿a	M－112	9.7	1.3	7.4	イト	○	○		

233SK055黄褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	R-027	11.3～11.6	3.5	7.6～8.0	イト	○	－	○	旧M-009　異質
	坏a	M-045	11.5	2.4	7.6	イト	○	○		
	坏a	M-019	(12.0)	2.4	(7.8)	イト	○	×		
	坏a	M-030	(12.0)	2.6	(7.0)	イト	○	○		
	坏a	M-020	(12.0)	2.5＋α	(8.8)	イト	○	○		
	坏a	M-043	12.0～12.4	2.6	8.3～8.7	イト	○	○		
	坏a	M-038	12.1～12.7	2.5	7.8	イト	○	○		
	坏a	M-018	(12.2)	2.5	8.2	イト	○	○		
	坏a	M-008	12.2～12.5	2.6	7.5	イト	○	○		
	坏a	M-037	12.3	2.5	8.1	イト	○	○		
	坏a	M-007	12.3～12.8	2.8	8.0	イト	○	○	○	
	坏a	M-044	12.4	3.0	8.2	イト	○	○		
	坏a	M-029	(12.4)	2.7	(8.2)	イト	○	○		
	坏a	M-016	(12.4)	2.8	(7.2)	イト	○	×		
	坏a	M-017	(12.4)	2.9	7.8	イト	○	－		
	坏a	M-011	(12.4)	2.9	8.0	イト	○	○		
	坏a	M-035	12.4～12.7	2.7	8.3	イト	○	○		
	坏a	M-006	12.4～12.7	2.7	8.5～9.0	イト	○	○		
	坏a	M-005	12.4～12.8	2.4	8.2～8.9	イト	○	×		
	坏a	M-034	12.5～12.9	2.6	8.8	イト	○	○		
	坏a	M-023	12.5～13.2	2.2～2.7	7.6～8.0	イト	○	○		
	坏a	M-021	12.5～13.3	3.2	8.8	イト	○	○		
	坏a	M-036	12.6	2.5	8.5	イト	○	○		
	坏a	M-015	(12.6)	2.7	(8.8)	イト	○	○		
	坏a	M-003	12.6～13.0	2.8	8.2～9.0	イト	○	○		
	坏a	M-002	12.6～13.0	2.9	8.5～9.4	イト	○	○		
	坏a	M-025	12.7～13.2	2.8	7.7	イト	○	○		
	坏a	M-028	(12.8)	2.6	(9.6)	イト	○	○		
	坏a	M-014	(12.8)	2.6	9.0	イト	○	×		
	坏a	M-042	(12.8)	2.7	(7.4)	イト	○	○		
	坏a	M-012	12.8	2.8	8.0	イト	○	○		
	坏a	M-022	12.8～13.4	2.4～2.7	8.3～9.0	イト	○	○		
	坏a	M-032	12.9～13.2	2.0～2.7	7.4	イト	○	○		
	坏a	M-261	(13.0)	2.6	(8.0)	イト	○	○		
	坏a	M-004	13.0	2.6	9.2～9.6	イト	○	○	○	
	坏a	M-010	(13.0)	2.7	8.6	イト	○	－		
	坏a	M-024	13.0	2.9	7.7	イト	○	○	○	
	坏a	M-033	13.0	2.9	8.2	イト	○	×		
	坏a	M-013	(13.0)	3.0	(8.0)	イト	○	○		油煙
	坏a	M-001	13.2	2.5	9.0	イト	○	○		
	坏a	M-040	(13.2)	2.7	(7.6)	イト	○	○		
	坏a	M-041	(13.2)	2.7	(8.0)	イト	○	○		
	坏a	M-027	(13.2)	2.7	(8.8)	イト	○	－		
	坏a	M-026	(13.2)	2.8	8.6	イト	○	○		
	坏a	M-031	13.2～13.6	2.6～2.9	9.0	イト	○	○		
	坏a	M-039	(13.8)	2.1～2.7	7.8	イト	○	○		
	小皿a	M-199	(7.6)	1.2	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-197	7.8	1.2	6.5	イト	○	○		
	小皿a	M-198	(7.8)	1.3	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-194	7.9	1.0	6.4～7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-195	7.9	1.2	6.2	イト	○	－		
	小皿a	M-196	7.9	1.3	5.8	イト	○	×		
	小皿a	M-260	(8.0)	1.0	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-193	(8.0)	1.1	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-246	8.1	1.3	5.6	イト	○	○		
	小皿a	M-077	8.1	1.3	6.6～7.1	イト	○	○		
	小皿a	M-187	(8.2)	0.9	(6.8)	イト	○	－		
	小皿a	M-188	8.2	1.0	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-247	8.2	1.1	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-248	(8.2)	1.0	(6.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-249	(8.2)	1.0	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-252	(8.2)	1.0	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-258	(8.2)	1.0	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-259	(8.2)	1.1	6.2	イト	○	○		
	小皿a	M-117	(8.2)	1.1	(6.2)	イト	○	○		

大宰府条坊跡第233次調査　土師器計測表（9）

233SK055黄褐色土

単位cm、（　）：復原値、＋α：現存高、○有　×無　－不明

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-189	(8.2)	1.1	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-251	(8.2)	1.1	(6.4)	イト	○	×		
	小皿a	M-190	(8.2)	1.1	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-186	(8.2)	1.1	7.4	イト	○	○		
	小皿a	M-192	(8.2)	1.2	(6.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-118	(8.2)	1.2	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-250	(8.2)	1.2	6.5	イト	○	○		
	小皿a	M-116	(8.2)	1.2	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-191	(8.2)	1.3	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-245	(8.2)	1.5	6.0	イト	○	○		
	小皿a	M-225	8.2～8.6	1.3	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-102	8.2～8.7	1.1	6.2～6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-221	8.2～8.7	1.4	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-240	8.3	1.0	6.5	イト	○	○		
	小皿a	M-179	8.3	1.0	6.6	イト	○	－		
	小皿a	M-178	8.3	1.1	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-109	8.3	1.2	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-103	8.3	1.3	6.5	イト	○	○		
	小皿a	M-076	8.3	1.4	5.4	イト	○	○		
	小皿a	M-224	8.3～8.6	0.9～1.3	6.1	イト	○	○		
	小皿a	M-066	8.3～8.7	1.4	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-244	(8.4)	0.8	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-074	8.4	0.8～1.1	6.1～6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-111	(8.4)	0.8～1.2	7.1	イト	○	○		
	小皿a	M-072	8.4	0.8～1.1	6.2	イト	○	○		
	小皿a	M-184	(8.4)	0.9	(6.2)	イト	○	－		
	小皿a	M-183	(8.4)	0.9	(7.0)	イト	○	－		
	小皿a	M-104	8.4	0.9～1.2	6.9	イト	○	○		
	小皿a	M-114	(8.4)	1.0	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-115	(8.4)	1.0	(6.4)	イト	○	×		
	小皿a	M-069	8.4	1.0	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-073	8.4	1.0	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-257	(8.4)	1.0	(7.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-176	8.4	1.0～1.3	6.1	イト	○	○		
	小皿a	M-175	8.4	1.0～1.4	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-239	8.4	1.1	6.2	イト	○	○		
	小皿a	M-112	(8.4)	1.1	(6.4)	イト	○	○	○	油煙
	小皿a	M-177	8.4	1.1	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-242	(8.4)	1.1	6.6	イト	○	×		
	小皿a	M-185	(8.4)	1.1	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-113	(8.4)	1.2	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-241	8.4	1.2	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-243	(8.4)	1.2	7.0	イト	○	－		
	小皿a	M-110	(8.4)	1.2	7.1	イト	○	○		
	小皿a	M-075	8.4	1.2	7.1	イト	○	○		油煙
	小皿a	M-182	(8.4)	1.2	(7.4)	イト	○	－		
	小皿a	M-108	8.4	1.3	6.6	イト	○	○	○	
	小皿a	M-180	(8.4)	1.3	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-181	(8.4)	1.4	6.2	イト	○	○		
	小皿a	M-065	8.4～8.6	1.0～1.3	5.9	イト	○	○		
	小皿a	M-059	8.4～8.7	1.2	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-068	8.4～8.8	1.2	6.6～7.1	イト	○	○		
	小皿a	M-238	8.5	0.9	7.0	イト	○	－		
	小皿a	M-160	8.5	0.9～1.1	6.2	イト	○	○		
	小皿a	M-161	8.5	0.9～1.2	6.2	イト	○	○	○	油煙
	小皿a	M-106	8.5	1.0	6.2	イト	○	○		油煙
	小皿a	M-158	8.5	1.0～1.3	5.8～6.2	イト	○	○	○	
	小皿a	M-105	8.5	1.0～1.3	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-107	8.5	1.2	6.3	イト	○	○		
	小皿a	M-159	8.5	1.2	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-228	8.6	0.9	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-232	(8.6)	0.9	6.6	イト	○	－		
	小皿a	M-173	(8.6)	0.9	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-223	8.6	0.9～1.2	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-235	(8.6)	1.0	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-100	(8.6)	1.0	6.4	イト	○	－		
	小皿a	M-101	(8.6)	1.0	(6.4)	イト	○	－		
	小皿a	M-171	(8.6)	1.0	(6.4)	イト	○	○	○	
	小皿a	M-255	(8.6)	1.0	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-151	8.6	1.0	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-233	(8.6)	1.0	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-234	(8.6)	1.0	(6.6)	イト	○	×		
	小皿a	M-236	(8.6)	1.0	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-229	(8.6)	1.0	6.7	イト	○	○		
	小皿a	M-156	(8.6)	1.0	7.2	イト	○	○		
	小皿a	M-256	(8.6)	1.0	(7.4)	イト	○	－		
	小皿a	M-226	8.6	1.1	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-071	8.6	1.1	6.7	イト	○	○		
	小皿a	M-153	8.6	1.1	6.7	イト	○	○		
	小皿a	M-227	8.6	1.1	7.2	イト	○	○		

大宰府条坊跡第233次調査　土師器計測表（10）

233SK055黄褐色土

単位cm、（　）：復原値、＋α：現存高、○有　×無　－不明

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-174	(8.6)	1.1	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-231	(8.6)	1.1	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-237	(8.6)	1.1	(6.4)	イト	○	－		
	小皿a	M-155	(8.6)	1.1	6.6	イト	○	○	○	
	小皿a	M-157	(8.6)	1.1	6.7	イト	○	×		
	小皿a	M-154	(8.6)	1.2	6.1	イト	○	－		
	小皿a	M-230	(8.6)	1.2	6.1	イト	○	○		
	小皿a	M-150	8.6	1.2	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-172	(8.6)	1.2	(6.6)	イト	○	×		
	小皿a	M-222	8.6	1.2	6.6～7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-163	(8.6)	1.2	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-169	(8.6)	1.2	(7.0)	イト	○	－		
	小皿a	M-170	(8.6)	1.2	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-168	(8.6)	1.2	(7.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-164	(8.6)	1.2	(7.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-098	8.6	1.3	6.0	イト	○	○		
	小皿a	M-070	8.6	1.3	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-097	8.6	1.3	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-099	(8.6)	1.3	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-162	(8.6)	1.3	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-063	8.6	1.3	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-149	8.6	1.5	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-084	8.6～8.9	1.0	6.5～7.1	イト	○	○		
	小皿a	M-126	8.6～8.9	1.2～1.4	7.2～7.4	イト	○	○		
	小皿a	M-096	8.7	1.0	6.3	イト	○	○		
	小皿a	M-152	8.7	1.0	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-085	8.7	1.0	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-061	8.7	1.0	7.0	イト	○	○	○	油煙
	小皿a	M-094	8.7	1.1	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-095	8.7	1.1	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-137	8.7	1.1～1.4	6.1～6.7	イト	○	○		
	小皿a	M-060	8.7	1.3	6.2	イト	○	○		
	小皿a	M-201	8.7～9.1	1.1	6.4～6.9	イト	○	○		
	小皿a	M-062	8.7～9.1	1.1	6.8～7.4	イト	○	○		
	小皿a	M-046	8.7～9.2	1.3	6.6～7.2	イト	○	○		
	小皿a	M-220	(8.8)	0.9～1.2	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-058	8.8	1.0	6.0	イト	○	○		
	小皿a	M-083	8.8	1.0	6.0	イト	○	○		
	小皿a	M-254	8.8	1.0	6.2	イト	○	○		
	小皿a	M-213	8.8	1.0	6.2～6.7	イト	○	○		
	小皿a	M-219	(8.8)	1.0	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-218	(8.8)	1.0	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-166	(8.8)	1.0	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-167	(8.8)	1.0	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-139	(8.8)	1.0	7.1	イト	○	○		
	小皿a	M-093	(8.8)	1.0～1.2	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-064	8.8	1.0～1.3	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-143	(8.8)	1.1	(6.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-144	(8.8)	1.1	6.8	イト	○	－		
	小皿a	M-138	8.8	1.1	6.9	イト	○	○	○	
	小皿a	M-214	8.8	1.1	6.9	イト	○	○	○	
	小皿a	M-140	(8.8)	1.1	6.9	イト	○	－		
	小皿a	M-056	(8.8)	1.1～1.3	(7.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-146	(8.8)	1.2	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-145	(8.8)	1.2	6.7	イト	○	○		
	小皿a	M-135	8.8	1.3	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-055	(8.8)	1.3	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-217	(8.8)	1.3	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-148	(8.8)	1.3	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-067	8.8	1.4	6.6	イト	○	－		
	小皿a	M-147	(8.8)	1.4	(6.8)	イト	○	－		
	小皿a	M-049	8.8～9.0	1.0	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-211	8.9	0.9	7.3	イト	○	○		
	小皿a	M-082	8.9	1.0	6.2	イト	○	○		
	小皿a	M-086	8.9	1.0	6.2	イト	○	○		
	小皿a	M-131	8.9	1.0	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-079	8.9	1.0	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-078	8.9	1.1	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-136	8.9	1.1	7.0	イト	○	○	○	
	小皿a	M-057	8.9	1.1	7.2	イト	○	○		
	小皿a	M-081	8.9	1.1	7.2	イト	○	－		
	小皿a	M-209	8.9	1.2	6.3～6.7	イト	○	○		籾殻痕
	小皿a	M-134	8.9	1.2	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-210	8.9	1.0～1.3	7.4	イト	○	○		
	小皿a	M-212	8.9	1.4	6.7～7.2	イト	○	○		
	小皿a	M-051	8.9～9.2	0.8～1.3	6.8	イト	○	×		
	小皿a	M-125	9.0	0.9	7.4	イト	○	○		
	小皿a	M-054	(9.0)	0.9～1.1	6.6	イト	○	○		油煙
	小皿a	M-202	(9.0)	0.9～1.4	7.4	イト	○	○		
	小皿a	M-080	9.0	1.0～1.2	6.8	イト	○	○		

大宰府条坊跡第233次調査　土師器計測表（11）

単位cm、（　）：復原値、＋α：現存高、○有　×無　－不明

233SK055黄褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-129	9.0	1.0~1.5	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-141	(9.0)	1.1	6.6	イト	○	－		
	小皿a	M-165	(9.0)	1.1	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-215	(9.0)	1.1	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-203	(9.0)	1.1	6.7	イト	○	○		
	小皿a	M-092	(9.0)	1.1	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-206	(9.0)	1.1	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-052	9.0	1.1	7.0	イト	○	－		
	小皿a	M-207	(9.0)	1.1	(7.0)	イト	○	－		
	小皿a	M-091	(9.0)	1.1	(7.2)	イト	○	－		
	小皿a	M-253	(9.0)	1.1	(7.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-142	(9.0)	1.1	7.6	イト	○	－		
	小皿a	M-208	(9.0)	1.2	(6.6)	イト	－	○	○	
	小皿a	M-128	9.0	1.2	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-216	(9.0)	1.2	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-127	9.0	1.2	7.3	イト	○	○		
	小皿a	M-132	9.0	1.2	7.6	イト	○	－		
	小皿a	M-090	(9.0)	1.2~1.4	(6.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-205	(9.0)	1.4	(6.8)	イト	○	－		
	小皿a	M-050	9.1	0.8~1.2	6.9	イト	○	○		
	小皿a	M-130	9.1	1.0	7.4	イト	○	×		
	小皿a	M-124	9.1	1.1~1.5	7.2	イト	○	○		
	小皿a	M-088	(9.2)	0.9~1.1	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-089	(9.2)	1.0	(7.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-200	9.2	1.1	6.7~7.4	イト	○	○		
	小皿a	M-047	9.2	1.1~1.4	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-123	9.2	1.2	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-048	9.2	1.2~1.4	6.6~7.3	イト	○	○		
	小皿a	M-121	9.2	1.3	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-133	(9.2)	1.3	7.3	イト	○	○		
	小皿a	M-053	(9.2)	1.3	(7.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-122	9.3	1.0	7.1	イト	○	○		
	小皿a	M-087	(9.4)	1.1~1.3	(7.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-120	9.5	1.1	7.2	イト	○	○		
	小皿a	M-119	9.6	1.2	8.0	イト	○	○		

233SE060暗褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-001	(9.8)	0.9	(7.8)	イト	○	○		

233SD070黒褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-008	(10.0)	2.2	(7.2)	ヘラ	○	－		
	坏a	M-007	(10.6)	2.1	(6.6)	ヘラ	○	○		
	坏a	M-006	10.7	2.1	8.1	ヘラ	○	×		
	坏a	M-005	(10.8)	1.9	(8.4)	ヘラ	○	○		
	坏a	M-004	10.9	2.0	8.3	ヘラ	○	○		
	坏a	M-003	10.9	2.1	7.0	ヘラ	○	×		
	坏a	M-002	10.9	2.2	7.6	ヘラ	○	○		
	坏a	M-001	11.1	2.3	8.4	ヘラ	○	×		
	小皿a2	M-010	(8.6)	1.1	(5.6)	ヘラ	－	×		
	小皿a2	M-009	(9.6)	1.2+α	(5.4)	ヘラ	○	×		

233SD075暗褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-001	13.0	2.6	8.4	イト	○	○		
	坏a	M-002	(13.0)	3.0+α	(8.0)	イト	○	－		
	小皿a	M-004	(7.8)	1.1	(5.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-003	(8.0)	0.9	(6.2)	イト	○	○		

233SD075褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-001	(8.2)	1.2	5.8	イト	○	○		

233SE080暗褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-003	(12.0)	2.5	(8.4)	イト	○	○		
	坏a	M-002	(13.6)	2.6	9.0	イト	○	○		
	坏a	M-001	(13.6)	2.7	8.0	イト	○	○		
	小皿a	M-005	(8.6)	1.3	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-004	(9.0)	0.8	(7.4)	イト	○	－		

233SE080灰褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-001	(14.2)	2.6	(9.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-003	(7.4)	0.9	(6.6)	イト	○	－		
	小皿a	M-002	(8.6)	1.1	(5.2)	イト	○	○		

233SK088暗灰褐色土

種別	器種	遺物暗号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M－011	12.3	2.9	8.1	イト	○	－		
	坏a	M－007	12.6~13.0	2.8	8.4	イト	○	○		
	坏a	M－010	12.9	2.7~3.4	8.8	イト	○	○		
	坏a	M－009	(13.0)	3.1	(8.8)	イト	○	○		
	坏a	M－008	13.0	3.4	8.2	イト	○	○		
	坏a	M－006	13.0	3.4	8.5	イト	○	○		

大宰府条坊跡第233次調査　土師器計測表（12）

単位cm、（　）：復原値、＋α：現存高、○有　×無　－不明

233SK088暗灰褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-005	13.2	2.6	9.2	イト	○	○		
	坏a	M-004	13.2	3.1	9.2	イト	○	○		
	坏a	M-003	13.3	3.4	9.1~9.3	イト	○	○		
	坏a	M-002	(13.6)	2.4	(8.0)	イト	○	－		
	坏a	M-001	13.9	3.1	8.4	イト	○	○		
	小皿a	M-014	(8.6)	1.2	7.2	イト	○	○		
	小皿a	M-015	(8.6)	1.3	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-013	(9.0)	1.2	(7.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-012	9.0	1.4	6.6	イト	○	○		

233SK088暗灰色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-003	11.8	2.6~2.9	8.4	イト	○	○		
	坏a	M-002	12.8	2.6	9.0	イト	○	－		
	坏a	M-001	13.3	2.8	8.7	イト	○	－		
	小皿a	M-006	(8.2)	1.1	(7.2)	イト	○	－		
	小皿a	M-005	8.6	1.4	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-004	9.2	1.9	7.0~7.5	イト	○	－		

233SX090黒褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-005	11.8	2.6	8.0	イト	○	○		
	坏a	M-006	(11.8)	2.7+α	(8.2)	イト	○	○		
	坏a	M-004	(12.0)	2.5	(8.2)	イト	○	○		
	坏a	M-003	12.1	2.4	8.5	イト	○	×		
	坏a	M-002	12.2	2.7	8.8	イト	○	○		
	坏a	M-001	12.4	2.5	8.2	イト	○	○		
	小皿a	M-010	(8.2)	1.0	6.5	イト	○	－		
	小皿a	M-009	(8.2)	1.0	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-011	(8.2)	1.0	(6.8)	イト	○	－		
	小皿a	M-008	8.2	1.3	6.0	イト	○	○		
	小皿a	M-007	(8.6)	1.1	7.2	イト	○	○		

233SX093黒褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-003	(7.0)	1.3	(5.0)	イト	○	－		
	小皿a	M-002	(8.4)	1.1	(6.6)	イト	○	－		
	小皿a	M-001	(8.6)	1.2	(6.6)	イト	○	－		

S－95黒褐色土（本層は233SK095黒褐色土①と同一層）

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-001	(12.8)	2.8	(8.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-002	8.2	1.1	6.2	イト	○	○		

233SK095黒褐色土①

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-004	(11.0)	2.9	7.6	イト	○	○		
	坏a	M-003	(12.0)	2.6	7.7	イト	○	○		
	坏a	M-002	12.1	2.9	7.2	イト	○	○		
	坏a	M-001	(12.6)	2.1	(8.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-007	(7.8)	1.4	5.8	イト	○	○		
	小皿a	M-006	(8.0)	1.3	(6.2)	イト	○	－		
	小皿a	M-005	(8.2)	1.2	6.2	イト	○	○		

233SK095黄灰色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-001	(12.2)	2.5	8.0	イト	○	○		
	小皿a	M-004	(7.8)	1.5	5.2	イト	○	○		
	小皿a	M-002	8.2	1.2	5.8	イト	○	○		
	小皿a	M-003	(8.2)	1.2	6.0	イト	○	○		

233SK095黒褐色土②

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-025	(11.8)	2.6	(8.4)	イト	○	○		
	坏a	M-024	(12.0)	2.4	(8.0)	イト	○	－		
	坏a	M-020	(12.0)	2.5	7.2	イト	○	○		
	坏a	M-022	(12.0)	2.5	(7.6)	イト	○	－		
	坏a	M-023	(12.0)	2.5	(7.8)	イト	○	○		
	坏a	M-021	(12.0)	2.6	8.4	イト	○	○		
	坏a	M-019	(12.0)	2.7	7.3	イト	○	○		
	坏a	M-018	12.0	2.7	7.6	イト	○	○		
	坏a	M-017	12.2	2.7	8.5	イト	○	○		
	坏a	M-015	12.2	2.8	7.4	イト	○	○		
	坏a	M-016	12.2	2.8	7.7	イト	○	○		
	坏a	M-013	12.3	2.8	7.7	イト	○	○		
	坏a	M-014	12.3	2.8	8.0	イト	○	○		
	坏a	M-011	(12.4)	2.3	7.6	イト	○	○		
	坏a	M-010	(12.4)	2.5	(7.6)	イト	○	○		
	坏a	M-012	(12.4)	2.7	(8.4)	イト	○	－		
	坏a	M-008	12.4	2.7	7.6	イト	○	○		
	坏a	M-009	12.4	3.0	8.4	イト	○	○		
	坏a	M-007	12.5	2.8	8.0	イト	○	○		
	坏a	M-006	(12.6)	2.3	8.0	イト	○	○		
	坏a	M-004	12.6	2.6	8.2	イト	○	○		
	坏a	M-005	12.6	2.9	8.0	イト	○	○		
	坏a	M-003	12.7	2.7	8.2	イト	○	○		

大宰府条坊跡第233次調査　土師器計測表（13）

単位cm、（　）：復原値、＋α：現存高、○有　×無　－不明

233SK095黒褐色土②

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-002	12.7	2.7	8.8	イト	○	○		
	坏a	M-001	(12.8)	2.8	8.5	イト	○	○		
	小皿a	M-047	(7.4)	1.2	6.0	イト	○	○		
	小皿a	M-044	(7.8)	1.1	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-043	(7.8)	1.2	6.0	イト	○	○		
	小皿a	M-045	(7.8)	1.3	(6.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-046	(7.8)	1.3	(6.0)	イト	○	－		
	小皿a	M-042	7.9	1.0	5.8	イト	○	○		
	小皿a	M-039	7.9	1.0	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-040	7.9	1.2	5.6	イト	○	○		
	小皿a	M-041	7.9	1.2	6.0	イト	○	○		
	小皿a	M-037	(8.0)	1.1	6.0	イト	○	○		
	小皿a	M-035	8.0	1.2	5.6	イト	○	○		
	小皿a	M-036	(8.0)	1.3	5.6	イト	○	○		
	小皿a	M-038	(8.0)	1.3	(5.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-034	8.0	1.4	6.4	イト	○	－		
	小皿a	M-033	8.1	1.3	6.2	イト	○	×		
	小皿a	M-032	(8.2)	1.2	(6.0)	イト	○	×		
	小皿a	M-030	8.2	1.3	6.2	イト	○	○		
	小皿a	M-031	8.2	1.4	6.2	イト	○	○		
	小皿a	M-029	(8.4)	1.2	(7.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-028	8.7	1.2	6.1	イト	○	○		
	小皿a	M-027	8.8	1.3	6.7	イト	○	○		
	小皿a	M-026	9.6	1.3	6.5	イト	○	－		

233SK095黒褐色土③

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-014	11.8～12.4	2.6	8.2	イト	○	○		
	坏a	M-019	(12.0)	2.5	(7.0)	イト	○	○		
	坏a	M-018	(12.0)	2.6	7.4	イト	○	○		
	坏a	M-007	12.1～12.7	2.7	8.4～9.0	イト	○	○		
	坏a	M-017	(12.2)	2.5	8.0	イト	○	○		
	坏a	M-016	(12.2)	2.6	8.0	イト	○	○		
	坏a	M-015	12.2	2.8	8.2	イト	○	○		
	坏a	M-011	12.4	2.6	8.2	イト	○	×		
	坏a	M-013	(12.4)	2.6	8.6	イト	○	○		
	坏a	M-012	(12.4)	2.7	8.0	イト	○	○		
	坏a	M-010	(12.6)	2.5	8.2	イト	○	○		
	坏a	M-009	12.6	2.6	8.6	イト	○	○		
	坏a	M-008	12.6	2.8	8.2	イト	○	○		
	坏a	M-006	(12.8)	2.5+α	(8.4)	イト	○	－		
	坏a	M-005	12.8	2.9	8.1	イト	○	○		
	坏a	M-003	13.0	2.6	7.5	イト	○	－		
	坏a	M-004	(13.0)	2.6	7.5	イト	○	○		
	坏a	M-002	13.1	2.6	8.4	イト	○	○		
	坏a	M-001	(14.8)	3.2	10.0	イト	○	○		
	小皿a	M-038	7.7	1.0	5.8	イト	○	○		
	小皿a	M-037	(7.8)	1.1	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-036	7.8	1.2	5.8	イト	○	○		
	小皿a	M-035	7.9	0.9～1.3	6.0	イト	○	○		
	小皿a	M-034	7.9	1.0	6.6	イト	○	○		
	小皿a	M-033	(8.0)	0.9	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-032	8.0	1.3	5.6	イト	○	○		
	小皿a	M-031	8.1	1.0	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-029	8.1	1.4	5.8	イト	○	○		
	小皿a	M-030	8.1	1.4	6.0	イト	○	○		
	小皿a	M-028	(8.2)	1.2	(6.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-026	8.2	1.2	6.2	イト	○	○		
	小皿a	M-027	(8.2)	1.2	6.2	イト	○	○		
	小皿a	M-025	8.3	1.0	6.3	イト	○	○		
	小皿a	M-024	8.4	1.2	5.8	イト	○	○		
	小皿a	M-023	(8.6)	1.2	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-022	8.6	1.2	7.2	イト	○	○		
	小皿a	M-021	8.7	1.4	7.0	イト	○	○		
	小皿a	M-020	(8.8)	1.2	7.0	イト	○	○		

233SD105暗褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-013	(12.8)	2.7	(8.4)	イト	○	○		
	坏a	M-012	12.9	2.5	10.2	イト	○	○		
	坏a	M-011	12.9	2.7	8.7	イト	○	○		
	坏a	M-010	(13.0)	2.4	(7.4)	イト	○	－		
	坏a	M-008	13.0	2.6	8.0	イト	○	○		
	坏a	M-009	(13.0)	2.7	7.0	イト	○	○		
	坏a	M-007	13.3	2.9	8.2	イト	○	○		
	坏a	M-006	13.5	2.9	9.0	イト	○	○		
	坏a	M-005	(13.6)	2.7	8.3	イト	○	－		
	坏a	M-004	13.7	3.1	9.2	イト	○	○		
	坏a	M-003	13.9	3.3	9.2	イト	○	○		
	坏a	M-002	(14.0)	3.2	10.2	イト	○	○		
	坏a	M-001	(14.2)	2.8	(9.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-022	(8.0)	1.2	(6.6)	イト	○	○		

大宰府条坊跡第233次調査　土師器計測表（14）

単位cm、（　）：復原値、＋α：現存高、○有　×無　－不明

233SD105暗褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-021	8.4	0.9	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-020	8.4	1.1	6.8	イト	○	○		
	小皿a	M-019	(8.6)	1.1	(6.6)	イト	○	○		
	小皿a	M-018	(8.8)	1.1	(6.6)	イト	○	－		
	小皿a	M-017	(8.8)	1.2	(7.4)	イト	○	○		
	小皿a	M-015	(9.0)	1.0	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-016	(9.0)	1.0	(7.0)	イト	○	○		
	小皿a	M-014	9.2	1.1	7.4	イト	○	○		

233SD105灰褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-002	13.0	2.6	8.2	イト	○	×		
	坏a	M-001	(13.8)	2.6	(8.8)	イト	○	○		
	小皿a	M-004	(8.2)	1.0	(6.8)	イト	○	×		
	小皿a	M-003	(8.8)	1.1	(7.0)	イト	○	○		

233SK110黒褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-003	12.0	2.4	7.5	イト	○	○		
	坏a	M-002	(12.6)	2.7	(8.0)	イト	○	○		
	坏a	M-001	13.0	2.9	8.0～8.5	イト	○	○		
	小皿a	M-014	(7.6)	1.2	(5.6)	イト	○	－		
	小皿a	M-013	7.8	1.2	5.8	イト	○	○		
	小皿a	M-012	7.9	1.1	6.0	イト	○	○		
	小皿a	M-011	(8.2)	1.2	6.5	イト	○	○		
	小皿a	M-010	8.3	1.2	5.8～6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-009	(8.4)	1.0	(6.4)	イト	○	－		
	小皿a	M-008	(8.4)	1.1	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-007	8.4	1.5	6.4	イト	○	○		
	小皿a	M-006	(8.6)	1.2	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-005	(8.8)	1.0	(6.2)	イト	○	○		
	小皿a	M-004	(8.8)	1.2	(6.2)	イト	○	－		

233SD115灰褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-001	(10.6)	2.3	(7.6)	ヘラ	○	○		
	坏a	M-002	(10.6)	1.7	(7.0)	ヘラ	○	－		

233SD120暗灰色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	坏a	M-001	12.4	2.8	8.2	イト	○	○		
	坏a	M-002	(12.4)	2.8	(7.4)	イト	○	－		
	小皿a	M-005	8.2	1.0	6.5	イト	○	○		
	小皿a	M-004	8.8	1.1	6.8	イト	○	○		白雲母含有
	小皿a	M-003	(9.6)	1.1	(7.8)	イト	○	－		

233SX126暗褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナデ	板状圧痕	内底螺旋状ナデ	備考
土師器	小皿a	M-001	(8.6)	1.1	(6.6)	イト	○	○		

大宰府条坊跡第233次調査　出土遺物一覧表（1）

※陶磁器分類の後の（　）は破片点数

S-1暗褐色土

須恵器	甕、蓋3、供膳具
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)、椀c、煮炊具(角閃石)
黒色土器A	椀c
黒色土器B	破片
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	他器種；破片(1)
同安窯系青磁	皿；I-b(1)
石製品	平玉石(白)、円盤状滑石製品
須恵質土器	鉢(東播系)
瓦質土器	破片
白磁	椀；Ⅳ(1)、Ⅴ(1)、V-4×Ⅶ-1・3(1)、破片(1) 皿；V-2(1)、Ⅶ(1)、Ⅸ(1)
青白磁	破片(1)
中国陶器	他器種；盤I(1)、盤I-2(1)、B(1)
土製品	土状土製品

S-2暗灰色土

土師器	供膳具(ヘラ)、甕？(角閃石)

S-3暗褐色土

土師器	椀c、供膳具

S-3褐色土

須恵器	甕
土師器	椀c、供膳具(イト、ヘラ)、甕？
黒色土器A	？破片
瓦器	類；平瓦(格子叩I-Aa)
緑釉陶器	椀×皿(東海？)(1)

S-4暗灰色土

土師器	坏、供膳具(イト)
龍泉窯系青磁	他器種；破片(2)
中国陶器	甕；？破片(1)

S-5暗褐色土

須恵器	坏a、坏c、坏c2、坏c3、坏c4、蓋、蓋1、蓋3、高坏、壺 壺I×d、小鉢、甕、甕
土師器	坏a(イト、白雲母)、丸底坏、丸底坏c、椀c(油煙) 小皿a(イト、手捏ね、穿孔、波状口縁、イト付着、搬入)、小皿a2 小皿c、小皿(コースター状)、大皿、高坏、器台、甕a、甕b 煮炊具(角閃石)、破片(被熱発泡)
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀c
瓦器	椀c
越州窯系青磁	椀；I(1)、I-1(1)、Ⅱ(1)、破片(2)
龍泉窯系青磁	椀；I(13)、I-1c(1)、I-2(4)、I-4(14)、I-6(2)、Ⅱ(1) Ⅱ-b(1)、小椀(1)、破片(13) 皿；I(1)、I-1c(1)、破片(3) 他器種；破片(3)
同安窯系青磁	椀；I(2)、I-1b(18)、I-1c(1)、Ⅱ(1)、Ⅲ×Ⅳ(1) Ⅲ-2？(1)、破片(5) 皿；I(1)、I(3)、I-b(2)、I-1b(4)、I-2b(6)、破片(15) 他器種；破片(6)
高麗青磁	象嵌；椀(1)
青磁(未分類)	高麗×李朝；椀×坏(1)、龍泉窯系×同安窯系；椀(1)
瓦類	丸瓦(I-c)、軒丸瓦(珠文)、平瓦(格子叩I-Aa、I-Ab、I-Ba I-Bc、I-Ca、I-Cb、I-Cc、I-D、縄目叩) 破片(格子叩、縄目叩)、瓦玉
石製品	砥石、滑石製石鍋、平玉石(白、黒)、ob-F(5)
土師質土器	煮炊具
須恵質土器	鉢(東播系Ⅱ-2)、甕
瓦質土器	鉢A I
瀬戸	椀×皿(1)、破片(1)
白磁	椀；Ⅱ(1)、Ⅳ(3)、Ⅳ-1a(1)、Ⅳ-1b(1)、Ⅴ(1) V-4×Ⅶ-1・3(3)、Ⅶ(6)、破片(14) 皿；Ⅲ(2)、Ⅳ(1)、Ⅵ(1)、Ⅵ×Ⅶ(1)、Ⅸ(1)、破片(1) 壺他；壺×水注(1)、壺×水注Ⅲ(1)、壺×水注Ⅲ系(1) 合子蓋×小壺蓋(1)、破片(12)
青白磁	白磁×青白磁椀(1)、破片(1)
中国陶器	壺；壺×耳壺B(2) 鉢；I(2)、I-1(1)、I-1b(2)、Ⅳ-1(2) 他器種；盤I-b(1)、盤I-2(2)、小盤I-2'b(1)、A-2(2)、B(6) 破片(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器壺(1)、壺×甕(1)、破片(5)
黒釉陶器	耳壺(1)
金属製品	椀形鍛冶滓、鉄釘
土製品	土玉、焼土塊

S-5暗灰褐色土

須恵器	坏c3、坏c4、蓋1、蓋3、蓋c、小蓋、壺a×c、壺b×鉢b 鉢b、甕b、大甕
土師器	坏a(イト、鎬状付着物)、坏(穿孔、油煙、墨状付着物)、小坏(未分類) 椀c、大椀c、小皿a(イト、墨跡、穿孔、油煙、)、甕b、甕(角閃石) 甕把手、鍋
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀c
瓦器	椀c、菊皿(型成形)
越州窯系青磁	椀；I(1)、I-2ア(1)、Ⅱ(1)、I×Ⅲ(1) 壺；破片Ⅲ系？(未分類)(1) 風鐸；小壺(1)
龍泉窯系青磁	椀；I(12)、I-1(1)、I-2(4)、I-2a(1)、I-3a(1)、I-4(5) Ⅱ-b(1)、破片(18) 皿；I-1b(2)、I-2a(1)、I-2b(1) 他器種；小坏(1)、破片(7)
同安窯系青磁	椀；I-1(1)、I-1a(2)、I-b(1)、I-1b(9)、I-1c(2)、Ⅱ(3) Ⅱ×Ⅲ(1)、破片(12) 皿；I(5)、I-1a(1)、I-b(1)、I-1b(2)、I-2b(7)、破片(1) 他器種；破片(5)
瓦類	丸瓦(格子叩I-Cc)、軒平瓦(瓦当)、平瓦(格子叩I-Aa、I-Ab 文字VI-3、縄目叩)、破片(格子叩、縄目叩)、瓦玉

石製品	砥石、硯、平玉石(黒、白、緑)、滑石製石鍋、滑石製品 スクレイパー(and)、石鍛(ob)、ob-RF(1)、ob-F(2)
土師質土器	鍋CI
須恵質土器	鉢(東播系Ⅱ-2)、甕
瓦質土器	鉢AI a、鉢AI a、甕
緑釉陶器	椀×皿(京都系)(1)、壺(産地不明)(1)、破片(京都)(1)
灰釉陶器	壺(1)
白磁	椀；Ⅳ(7)、Ⅳ-1(1)、Ⅴ(5)、V-4×Ⅶ-1・3(4)、Ⅶ(1)、Ⅶ-b(1) Ⅶ(5)、Ⅶ-2×3(1)、Ⅶ-2×3(墨書)(1)、破片(23) 皿；Ⅲ-1(2)、Ⅶ-b(1)、破片(2) 壺他；鉢(2)、壺×水注(1)、壺×水注Ⅲ(3)、壺×水注Ⅲ系(1) 破片(12)
青白磁	椀(3)、皿(輪花)(1)、合子蓋(1)、破片(1)
中国陶器	壺；耳壺B(1)、壺×耳壺B(6)、壺×耳壺B(墨書)(1) 壺(ミニチュア)B(1) 鉢；I(4)、I-2b(1)、Ⅲ(1)、鉢×水注B(1) 甕；破片(1) 他器種；盤I(1)、盤I-1'(1)、盤I-2(3)、盤I-b(1) 水注A-2(1)、A-2(1)、B(18)、C(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器壺×甕(4)、破片(2)
金属製品	鉄釘、板状鉄製品、鉄滓
土製品	土玉、輪羽口、柱状製品、焼土塊

S-5灰色土

須恵器	供膳具、甕
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)、甕a、甕b、甕把手
瓦器	椀c
越州窯系青磁	椀；破片I(1)
同安窯系青磁	椀；Ⅱ(1) 皿；I-2b(1)
瓦類	丸瓦(格子叩I-Ca)
須恵質土器	甕
白磁	壺他；壺×水注Ⅲ系(1)
中国陶器	他器種；盤(緑釉)(1)、B(2)

S-5黒褐色土

須恵器	甕
土師器	坏a(イト、油煙)、小皿a(イト)、甕
龍泉窯系青磁	椀；I-4(3)、破片(1)
同安窯系青磁	皿；破片(1)
須恵質土器	鉢(東播系)
金属製品	鉄釘
その他	獣骨

S-5暗茶褐色土

須恵器	坏a、坏c1、坏c4、小坏a、蓋1、蓋c、壺I、壺f～e(二重口縁) 甕a、甕？(高台付、裏面同心円叩)
土師器	坏a(イト)、坏(京都系)、坏c、丸底坏a、椀c、小皿a(イト、油煙) 小皿(コースター状)、蓋c、高坏、器台脚、供膳具(油煙、鉱滓状付着物) 鉢、甕a、甕(玄界灘式)、破片(角閃石)
黒色土器A	椀c、皿
黒色土器B	坏a？、椀c
瓦器	椀c
越州窯系青磁	椀；I(1)、Ⅲ(1)
龍泉窯系青磁	椀；I(11)、I-2(1)、I-4(2)、I-6a(1)、小椀I-1(1)、破片(3) 皿；I-1c(1)、I-2(1)
同安窯系青磁	椀；I(1)、I-1a(1)、I-1b(10)、Ⅱ(2)、Ⅲ(2)、破片(3) 皿；I-2b(1)、破片(1)
瓦類	丸瓦(格子叩I-Ab)、平瓦(格子叩I-Bb、I-Cc)、鐘
石製品	平玉石(黒、白)、滑石製石鍋、滑石製品、石斧(磨製)、ob-F(4)
土師質土器	鍋A、鍋CⅢ
須恵質土器	鉢(東播系Ⅱ-2)、甕
瓦質土器	鉢a、火鉢×釜
白磁	椀；I-1(1)、Ⅱ(1)、Ⅳ(3)、Ⅴ(5)、V-1×Ⅶ-2(2) V-4×Ⅶ-1・3(4)、V×Ⅵ(2)、V～Ⅶ(1)、Ⅶ(4) Ⅶ(茶色付着物)(1)、Ⅶ-1(茶色付着物)(2)、椀×皿(1)、破片(10) 皿；Ⅲ-1(2) 壺他；壺×水注(1)、壺×水注Ⅲ系(2)、耳壺×水注Ⅲ系(2)、破片(7)
青白磁	椀(1)、合子蓋(1)
中国陶器	鉢；I-1(1) 他器種；盤I(1)、A-2(3)、B(2)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器壺(1)、破片(2)
金属製品	刀、刀子、鉱滓
土製品	土玉、輪羽口、焼土塊

S-5明灰色土

須恵器	甕、坏c4
土師器	坏a(イト)、丸底坏、小皿a(イト)、供膳具(ヘラ)
黒色土器A	供膳具
瓦器	供膳具
龍泉窯系青磁	椀；I(4)、I-4(3)、I-6b(1)、Ⅱ-a(2)、破片(2) 皿；破片(1) 他器種；破片(4)
同安窯系青磁	皿；破片(3)
瓦類	丸瓦、平瓦、瓦玉
石製品	滑石製石鍋(縁付き)、滑石製品、石石？
須恵質土器	破片
白磁	皿；Ⅶ(1)、Ⅶ-1'(1)

S-5灰色砂

須恵器	坏c2
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)、甕
黒色土器A	供膳具
越州窯系青磁	壺；壺×水注Ⅱ(1)
龍泉窯系青磁	椀；I-4(1)

大宰府条坊跡第233次調査　出土遺物一覧表（2）

※陶磁器分類の後の（　）は破片点数

S-5明茶色土

須恵器	坏a、蓋1、甕、甕(器面摩耗)
土師器	坏a(イト)、丸底坏a、椀c、小皿a(イト、手捏ね)、小皿a2 小皿(搬入？)、器台、甕a、甕b
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀c
龍泉窯系青磁	椀；I(3)、破片(1)
瓦類	丸瓦(格子叩I-Ca)、平瓦(縄目叩-被熱発泡)、破片(被熱)、破片(格子叩)
石製品	滑石製品、ob-F(1)
瓦質土器	鉢A
白磁	椀；V-4×Ⅶ-1・3(1)、破片(2) 皿；破片(1) 壺他；破片(1)
青白磁	皿(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器(1)
土製品	土馬(瓦質)、土玉

S-5茶色土

須恵器	供膳具、壺、甕
土師器	坏a(イト)、大坏a(イト)、坏(京都系)、丸底坏a(刻書？)、椀c 小皿a(イト)、小皿(コースター状)、高坏、器台、蓋？、甕a、甕b、鍋
黒色土器A	供膳具
黒色土器B	供膳具
瓦器	椀c
越州窯系青磁	椀；Ⅱ(1)
龍泉窯系青磁	椀；I-4(1)、小椀I(1)
同安窯系青磁	椀；I-1b(1)、破片(1) 皿；I-2b(1)
青磁(未分類)	破片(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、破片(格子叩I-Cc)
石製品	滑石製坏状製品、滑石破片、ob(縦長剥片)(1)
須恵質土器	鉢(東播系)
緑釉陶器	椀×皿(防長系)(1)
白磁	椀；Ⅳ(2)、V-1×Ⅶ-2(1)、破片(2)
中国陶器	壺；壺×耳壺B(1) 他器種；A-2(1)
土製品	土玉

S-5暗灰色粘土

須恵器	甕
土師器	坏a(イト、煤付着)、椀×皿c、小皿a(イト)、煮炊具
龍泉窯系青磁	椀；I(1)
	他器種；破片(1)
同安窯系青磁	椀；I-1b(1)、I-1c(1)、椀×皿(1)
瓦類	丸瓦(格子叩I-Ab、I-Ca？)、平瓦、破片
石製品	滑石製石鍋A
木製品	箸、下駄の歯、穂状の球、板状製品、用途不明製品
須恵質土器	鉢
白磁	椀；V(1)、Ⅶ(1)
	皿；破片(1)
中国陶器	壺；壺×耳壺B(1)
	他器種；盤I(1)
土製品	用途不明製品(内面煤付着)
その他	獣骨

S-5暗灰色粘土②(本層は暗灰色粘土と同一層)

土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	椀；I(1)、I-2(1)
青磁(未分類)	龍泉窯系×同安窯系椀？(1)
木製品	漆椀、扇、火鑽臼、板状製品、棒状製品、用途不明製品
白磁	椀；V-1×Ⅶ-2(1)
青白磁	椀(1)
その他	獣骨

S-5茶色土②(本層はS-5灰色土に切られる整地層)

須恵器	蓋、甕
土師器	坏a(イト)、丸底坏、椀c、小皿a(イト)、供膳具(ヘラ)、煮炊具
黒色土器A	破片
黒色土器B	破片
瓦器	椀
同安窯系青磁	皿；I-1b(1)
白磁	壺他；壺Ⅲ系(1)
金属製品	鉱滓
土製品	土玉

S-6暗灰褐色土

須恵器	破片
土師器	坏a(イト)、小皿a
黒色土器A	供膳具
瓦類	破片(縄目叩)
須恵質土器	鉢
白磁	皿；V～Ⅶ(1)

S-7灰褐色土

土師器	小皿a(イト)

S-10暗灰褐色土

須恵器	坏a、鐘、壺b、小甕、大甕(ヘラ記号あり)
土師器	坏a(ヘラ)、丸底坏c、丸底坏、椀c、小皿a2、甕a、甕(角閃石)
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；I(1)、I(外反)(1)
	鉢他；破片I(2)
瓦類	丸瓦(格子叩I-Ab)、平瓦(縄目叩)
緑釉陶器	椀×皿(東海)(1)
灰釉陶器	壺？(1)

S-10褐色土

須恵器	供膳具
土師器	丸底坏a
石製品	ob-F(1)

S-11暗灰色土

須恵器	椀c、円面硯、壺、甕
土師器	丸底坏、椀c、小皿a(ヘラ)、器台、甕a、甕×鉢、煮炊具(角閃石) カマド
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；I-2b(1)、I-2ア、I(4)、Ⅱ(1)
瓦類	丸瓦(格子叩I-Cc、I-Bc)、平瓦(縄目叩、無文) 平瓦(格子叩I-Aa、I-Ba、I-Ca、I-Cc)
石製品	ob-F(2)
土師質土器	鉢
白磁	椀；XI(1)

S-11暗褐色土

須恵器	坏c、坏c3、坏c4、蓋3、鉢(篷？)、小壺、壺e～f(肥後？)、甕
土師器	丸底坏、椀c(油煙)、椀c(Ⅵ期)、小皿a、小皿a2、椀×皿c(8c) 供膳具(ヘラ)、甕a
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；I-2ア(1)
	鉢他；I(1)
青磁(未分類)	龍泉窯系×同安窯系椀×皿(1)(混入か)
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(縄目叩)、瓦玉
石製品	平玉石(白)、ob-F(1)
緑釉陶器	椀×皿(産地不明)(1)
灰釉陶器	椀×皿(1)
土製品	破片(柱状)

S-11暗灰褐色土

須恵器	甕
土師器	甕b
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(格子叩I-Ab)
土師質土器	鉢(片口)

S-12褐白色土

須恵器	甕
土師器	供膳具(イト)

S-12暗褐色土

須恵器	甕
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)、甕a
同安窯系青磁	皿；I(1)、I-2b(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器(1)

S-12黒褐色土

須恵器	供膳具、甕
土師器	坏a(イト)、坏c、坏×椀(搬入品？)、小皿a(イト)、甕a、カマド
黒色土器A	破片
黒色土器B	皿
瓦器	椀c
龍泉窯系青磁	椀；I(1)、I-2(1)、I-4(2)、Ⅱ-a(4)、Ⅱ-b(12)、Ⅲ(3) 破片(1)
	他器種；坏(1)、坏Ⅲ-1(1)、坏Ⅲ-3(1)、盤(1)、盤Ⅲ系(1)、破片(6)
同安窯系青磁	I-1b(6)、I-1c(1)、破片(1)
瓦類	破片
石製品	平玉石(黒)、砥石、硯、円柱状滑石製品、スクレーパー(片岩系) ob-F(1)
土師質土器	鍋A、鍋CIb、鉢、火鉢
瓦質土器	破片
瀬戸	壺子(1)
白磁	椀；V-2×Ⅶ-4(1)、V-4×Ⅶ-1・3(1)、破片(4) 皿；V-1(1)、Ⅸ(7)、Ⅸ-1(3)、Ⅸ-2(1)、破片(1) 壺他；合子蓋(1)、壺×水注(1)、壺×水注Ⅲ(32)、水注Ⅲ(2)、破片(4)
青白磁	皿(1)
中国陶器	鉢；I-1b(1) 甕；破片(4) 他器種；盤I-1b(1)、B(2)、C(2)、破片(7)
金属製品	鉄釘
土製品	焼土塊、円盤状加工土器片

S-13暗褐色土

須恵器	壺、甕
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)
黒色土器A	破片
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	椀；Ⅱ-a(1)、破片(1)
瓦類	破片
石製品	平玉石(白)
白磁	壺他；壺×水注Ⅲ(5)、破片(1)

S-14暗褐色土

須恵器	甕
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)
須恵質土器	鉢

S-15暗褐色土

須恵器	壺×甕
土師器	小皿a(イト)、煮炊具
黒色土器A	供膳具
黒色土器B	供膳具
龍泉窯系青磁	椀；Ⅱ-b(1)
青磁(未分類)	破片(1)
須恵質土器	甕？
土製品	焼土塊

大宰府条坊跡第233次調査　出土遺物一覧表（3）

※陶磁器分類の後の（　）は破片点数

S-15褐色土

須恵器	坏c、蓋、鉢b、壺、甕
土師器	丸底坏、椀c、小皿a(イト)、煮炊具
黒色土器B	破片
瓦類	平瓦(縄目叩)
石製品	o b-F(1)
緑釉陶器	破片(産地不明)(1)
灰釉陶器	破片(1)
白磁	椀；Ⅳ(1)、破片(1)
	壺他；破片(1)

S-15茶色土

土師器	椀×皿c、煮炊具

S-15暗黄褐色土

土師器	供膳具
瓦類	平瓦(縄目叩)
石製品	o b-F(3)
須恵質土器	甕(産地不明)
白磁	椀；破片(1)
	壺他；破片(1)

S-16暗褐色土

須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、供膳具(イト)
黒色土器A	供膳具
黒色土器B	供膳具
龍泉窯系青磁	椀；Ⅱ-b(1)
	他器種；坏×椀Ⅲ(1)
同安窯系青磁	皿；破片(1)
中国陶器	他器種；B(2)

S-18暗灰褐色土

須恵器	坏c 4、甕
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)、煮炊具
黒色土器A	供膳具
須恵質土器	鉢(東播系)
国産磁器	皿？(1)
白磁	椀；V-4×甕-1・3(1)
	壺他；床置物？(祭成形)(1)、破片(1)
染付(輸入)	瓶(未分類)(1)
中国陶器	他器種；B(1)
土製品	羽口

S-19暗褐色土

須恵器	坏c、甕
土師器	坏a(イト)、椀c、小皿a(イト)、高坏、甕、鍋G？、カマド
黒色土器A	椀c
龍泉窯系青磁	椀；Ⅱ-b×Ⅲ(1)、破片(1)
	皿；Ⅰ-2d(1)
	他器種；椀×坏Ⅲ(1)、別付壺(1)、破片(1)
同安窯系青磁	皿；Ⅰ-1(1)、破片(1)
青磁(未分類)	破片(1)
瓦類	丸瓦(縄目叩)、平瓦(格子叩)
石製品	平玉石(黒)
土師質土器	白七輪(近世～)
国産陶器	行平鍋、瓶×徳利(近世～)
国産磁器	椀×皿
白磁	椀；破片(1)
	壺他；破片(2)

S-20黒褐色土

須恵器	供膳具、壺、甕
土師器	坏a(ヘラ)、椀c、小皿a(ヘラ)、小皿a 2、甕a
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀c
瓦類	丸瓦(格子叩Ⅰ-Ca)、平瓦(格子叩Ⅰ-Ab、Ⅰ-Bb、Ⅰ-Cc、Ⅱ-A文字Ⅱ-8、Ⅳ-4、縄目叩)、磚×製瓦
石製品	平玉石(白)
須恵質土器	甕
緑釉陶器	椀×皿(近江系)(1)
金属製品	鉄釘

S-20暗灰色土

須恵器	椀c、甕
土師器	坏a(ヘラ、油煙)、椀c、甕a、甕b、甕？(被熱)
黒色土器A	椀
瓦類	破片(大形)
瓦類	丸瓦(格子叩Ⅰ-A、Ⅰ-Ab、Ⅰ-Bc、Ⅰ-Ca、Ⅰ-Cb、Ⅱ、無文) 平瓦(文字Ⅰ-2、格子叩)、磚
石製品	滑石製石鍋
木製品	櫛
緑釉陶器	皿(京都系)(1)、破片(防長)(1)
金属製品	刀子、鉄釘
その他	獣骨、種子(桃)

S-20暗褐色土

須恵器	蓋3、壺、甕、甕(摩耗)
土師器	坏a(ヘラ)、椀c、椀c×小皿c、小皿a(イト)、供膳具(ヘラ、イト、油煙)、甕a、甕b、甕(角閃石)、鉢(角閃石)
製塩土器	焼塩壺
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；Ⅰ(4)、Ⅰ-2ア(1)
	壺；壺×水注Ⅰ(1)、壺×水注Ⅱ(1)
瓦類	丸瓦(格子叩Ⅰ-Aa)、平瓦(格子叩Ⅰ-Aa、Ⅰ-Ab、Ⅰ-Ba、Ⅰ-CbⅡ-B、文字Ⅱ-4、無文、縄目叩)、磚
石製品	滑石製石鍋、o b-F(5)
緑釉陶器	椀×皿(京都)(1)、破片(防長)(1)、破片(京都)(1)、破片(産地不明)(2)
金属製品	鉛滓

土製品	焼土塊
その他	種子(桃)

S-24暗灰褐色土

土師器	坏c

S-25黒褐色土

須恵器	甕
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)、小皿b
瓦類	平瓦(格子叩)
土師質土器	鍋
須恵質土器	鉢
瓦質土器	鉢

S-25黒灰色土

須恵器	破片(酸化焔焼成)
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)
石製品	平玉石(黒)
須恵質土器	甕

S-25暗褐色土

須恵器	坏、壺、甕
土師器	坏a(ヘラ、イト、油煙)、坏a×b(イト)、椀c、小皿a(イト)、小皿b 煮炊具(角閃石)
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀c
瓦器	椀c
龍泉窯系青磁	椀；Ⅱ(1)、Ⅱ-a(1)、Ⅱ-b(9)、Ⅲ-2(3)、小椀Ⅰ(1)、小椀Ⅲ(1)
	他器種；壺(1)、壺Ⅲ(1)、破片(1)
同安窯系青磁	椀；Ⅰ-1b(1)
石製品	平玉石(黒)、o b-F(1)
土師質土器	鍋D、鍋×鉢
須恵質土器	鉢、鉢(東播系)
瓦質土器	鉢
白磁	椀；破片(1)
	皿；IX(2)、破片(1)
	壺；破片(2)
中国陶器	壺；耳壺XⅡ(1)、壺×耳壺B(1)
	鉢；Ⅰ(1)
	甕；破片(4)
	他器種；盤Ⅰ(2)、盤Ⅰ-2(1)、盤Ⅰ-b(1)、B(1)、D-3(1) 破片(2)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器(1)
縄文土器	浅鉢(後～晩期)
土製品	羽口、焼土塊

S-25暗灰褐色土

須恵器	供膳具、甕
土師器	坏a(イト)、椀c、小皿a(イト)、小皿b、盤×大皿(イト)、甕a 煮炊具(角閃石)
黒色土器A	椀c
黒色土器B	供膳具
瓦器	椀
越州窯系青磁	椀；Ⅰ-2ア(1)、Ⅲ-1(1)
	坏；Ⅰ(1)
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(4)、Ⅰ-3(1)、Ⅰ-4(1)、Ⅱ(12)、Ⅱ-a(3)、Ⅱ-b(24) 小椀Ⅱ-b(1)、破片(8)
	他器種；皿(1)、坏Ⅲ(1)、盤(1)、破片(11)
同安窯系青磁	椀；Ⅰ-1b(2)、破片(3)
	皿；Ⅰ-2b(1)、破片(1)
青磁(未分類)	龍泉窯系×同安窯系破片(1)、破片(1)
瓦類	丸瓦(格子叩Ⅱ-A)、平瓦(格子叩Ⅰ-Cc、縄目叩)
石製品	平玉石(黒)、o b-F(1)
土師質土器	鉢
須恵質土器	鉢(東播系Ⅲ-1)、鉢(東海)、甕
緑釉陶器	椀×皿(防長)(1)
国産陶器	破片(1)
白磁	椀；V(1)、V-4×甕-1・3(2)、V～甕(1)、甕(2)、IX(1)、破片(3)
	皿；IX(3)、IX-1(1)、破片(1)
	壺他；壺Ⅲ(1)、破片(6)
青白磁	椀(1)、合子蓋(1)、合子身(2)、破片(1)
中国陶器	壺；壺×耳壺B(2)
	鉢；Ⅰ(1)、Ⅰ-2(1)、Ⅱ-1a(1)
	甕；破片(8)
	他器種；盤Ⅰ(2)、盤Ⅰ-2(1)、A-2(1)、B(2)、C(2)、破片(7)
銭貨	開元通寶(1)
金属製品	鉛滓、鉄釘
土製品	円盤状加工土器片、羽口、焼土塊

S-25褐灰色土

須恵器	供膳具、甕
土師器	坏a(ヘラ<イト)、椀c、小皿a(イト)、小皿b、甕
黒色土器A	皿
龍泉窯系青磁	椀；Ⅱ-a(1)、Ⅱ-b(2)
	他器種；破片(1)
青磁(未分類)	龍泉窯系×同安窯系破片(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)
土師質土器	鍋×鉢
須恵質土器	鉢(東播系)
瓦質土器	火鉢B Ⅲ、鉢
国産陶器	甕(1)
白磁	椀；Ⅳ(1)
	皿；IX(1)、IX-1(1)
	壺他；壺Ⅲ(1)、破片(1)
中国陶器	甕；破片(1)
	他器種；盤Ⅰ(1)
黒釉陶器	壺(1)
縄文土器	？破片

大宰府条坊跡第233次調査　出土遺物一覧表（4）

※陶磁器分類の後の（　）は破片点数

S-26暗灰色土

須恵器	甕
土師器	小皿a(ヘラ)、坏×皿c、供膳具(ヘラ)

S-27暗灰色土

土師器	小皿a(イト)、供膳具(油煙)
黒色土器B	供膳具
瓦器	供膳具
同安窯系青磁	椀；Ⅰ-1b(2)

S-28a暗褐色土

土師器	供膳具

S-28b暗褐色土

土師器	破片

S-28d暗褐色土

土師器	坏a(イト)

S-28h暗褐色土

土師器	煮炊具

S-28i暗褐色土

土師器	供膳具

S-30a暗灰色土

土師器	坏a(イト)
龍泉窯系青磁	他器種；坏Ⅲ-4(1)
同安窯系青磁	他器種；破片(1)

S-30b暗灰色土

土師器	供膳具(イト)

S-30c暗灰色土

石製品	o b-F(1)

S-31黒褐色土

土師器	破片
緑釉陶器	椀×皿(東海？)(1)

S-32暗灰褐色土

須恵器	甕
土師器	破片
瓦類	平瓦

S-33暗褐色土

須恵器	坏c 3、大蓋3、甕
土師器	坏a(ヘラ・8c代)、坏×小皿a(ヘラ)、椀c、甕b
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	鉢他；破片Ⅰ(2)
瓦類	丸瓦(縄目叩)、丸瓦(格子叩Ⅰ-B)、破片(縄目叩)
石製品	滑石製品、o b-F(1)
縄文土器	破片
土製品	不明土製品(カマドか)

S-34暗黄褐色土

土師器	供膳具(イト)

S-35黒褐色土

須恵器	蓋c、甕
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)、甕a、鍋
黒色土器A	椀c
黒色土器B	皿
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(2)、Ⅱ(4)、Ⅱ-a(5)、Ⅱ-b(20)、Ⅲ(5)、破片(1)
	他器種；坏Ⅲ(1)、壺Ⅲ系(1)、破片(2)
同安窯系青磁	椀；Ⅰ-1b(1)、Ⅰ-1c(1)
	皿；Ⅰ-1b(1)
石製品	滑石製品、平玉石(黒)
須恵質土器	鉢(東播系Ⅱ-2)
瓦質土器	鉢
国産陶器	甕
白磁	椀；破片(4)、IX(4)
	皿；甕-1？(1)、IX(2)
	壺他；椀×皿(2)、壺×水注Ⅲ系(1)
青白磁	合子身(1)、合子蓋(1)
中国陶器	壺；耳壺×壺B(3)、耳壺D(5)、壺×耳壺×水注B(1) 耳壺×水注A-2(2)
	鉢；Ⅰ(2)
	甕；？D(1)、破片(3)
	他器種；盤(2)、盤Ⅰ-2(1)、小盤Ⅰ-2？(1)、水注？A-2(1) 水注B(1)、B(1)、D(1)、D-3(23)、破片(2)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器(1)
銭貨	元豊通寶(1)
金属製品	鉄釘
土製品	円柱状土製品(獣脚か)、土錘

S-35暗灰色土

土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)
瓦器	供膳具
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ-1a(1)、破片(2)
白磁	皿；IX(1)、破片(1)
中国陶器	他器種；D-3(2)

S-35黒灰色土

須恵器	破片
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)、供膳具(油煙)、甕、鍋CⅢb
黒色土器A	椀c
黒色土器B	供膳具
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(1)、Ⅱ(1)、Ⅱ-a(2)、Ⅱ-b(7)、Ⅲ-2b(1)、小椀Ⅲ(1) 浅形椀Ⅲ系(1)、破片(1)
	皿；破片(1)
	他器種；坏Ⅲ-3(1)、鉢Ⅱ(1)
同安窯系青磁	皿；Ⅰ-2b(黒跡)、Ⅰ-2b(1)
瓦類	破片
石製品	滑石製石鍋
白磁	皿；甕-1(1)、IX(1)
	壺他；壺×水注Ⅲ系(6)、壺(未分類)(1)
青白磁	水注(1)
中国陶器	壺；耳壺(1)、B(1)
	鉢；Ⅰ(1)
	甕；破片(10)
	他器種；盤Ⅰ-2(1)、D-3(24)
その他	獣骨

S-35暗褐色土

須恵器	坏c 4、蓋3、甕
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト、油煙)、椀c、甕b、カマド？
黒色土器A	供膳具
黒色土器B	椀c
瓦器	供膳具
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ-1a(1)、Ⅰ-4(1)、Ⅱ(5)、Ⅱ-a(5)、Ⅱ-b(20) 浅形椀Ⅲ系(3)、浅形椀？Ⅲ系(1)、破片(4)
	皿；破片(2)
	他器種；坏Ⅲ-1(1)、坏Ⅲ-3(2)、坏Ⅲ-3b(1)、破片(5)
同安窯系青磁	皿；破片(2)
瓦類	破片(格子叩)
石製品	滑石製用途不明品、不明石製品、滑石製品破片、平玉石
須恵質土器	鉢(東播系)、片口破片
白磁	椀；椀×皿(未分類)(1)、破片(2)
	皿；甕(3)、甕-1(1)、IX(2)
	壺他；破片(1)
中国陶器	壺；耳壺D(3)、耳壺(6)、壺×耳壺×水注B(3)、壺×水注A-2(4) 壺×耳壺×水注A-2(2)、壺×水注B(1)
	鉢；Ⅱ-a(3)、Ⅰ(2)
	甕；Ⅳ(1)、破片(1)
	他器種；盤(1)、盤Ⅰ-2(1)、盤Ⅰ-b×Ⅱ-b(4)、盤C-1(3) 皿B(2)、D-3(1)
銭貨	皇宋通寶(1)、銭名不詳(1)
金属製品	鉄釘
土製品	柱状土製品、焼土塊

S-35黄褐色土

須恵器	甕？(平行叩)
土師器	坏a(イト)、椀c、小皿a(イト)、供膳具(油煙)、煮炊具
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ-2(1)、Ⅰ-4(1)、Ⅱ(3)、Ⅱ-a(2)、破片(1)
	他器種；坏Ⅲ-3b(1)
同安窯系青磁	皿；Ⅰ(1)
石製品	平玉石(黒)
須恵質土器	鉢
中国陶器	壺；耳壺D(1)
	他器種；D-3(2)
金属製品	金鋼

S-36黒灰黄色土

土師器	坏a(イト)、大坏a(イト)、小皿a(イト)
黒色土器B	供膳具
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(3)、Ⅱ(1)、Ⅱ-a(1)、Ⅱ-b(8)
同安窯系青磁	椀；Ⅰ(1)、Ⅰ-1b(1)
石製品	平玉石(黒)
須恵質土器	破片
白磁	椀；X-b(1)
	皿；IX(2)、IX-1(1)
	壺他；破片(1)
中国陶器	壺；壺×耳壺B(1)

S-36黒褐色土

須恵器	供膳具、壺b、甕、甕(肥後)
土師器	坏a(イト)、椀c、小皿a(イト)、小皿b、小皿a 2×蓋3、供膳具(油煙) 甕a、鍋、脚、カマド
黒色土器A	供膳具
黒色土器B	坏a
瓦器	椀c
越州窯系青磁	椀；Ⅰ-2ア(1)、椀×坏(1)
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(8)、Ⅰ-1b(1)、Ⅰ-2(15)、Ⅰ-4(2)、Ⅱ(12)、Ⅱ-a(6) Ⅱ-b(38)、Ⅲ(7)、Ⅲ-1b(1)、Ⅲ-2b(3)、Ⅲ-2c(1) 小椀Ⅲ(未分類)(3)、破片(19)
	他器種；坏(1)、坏Ⅲ(3)、坏Ⅲ-1(6)、坏Ⅲ-4(2)、坏Ⅲ-5d？(1) 青磁Ⅲ(1)、盤(1)、破片(17)
同安窯系青磁	椀；Ⅰ(1)、Ⅰ？(1)、Ⅰ-1b(7)、破片(1)
	皿；Ⅰ-1(1)、Ⅰ-1a(1)、破片(2)
高麗青磁	象嵌；壺×椀(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)
石製品	砥石、平玉石(黒>白)、滑石製石鍋、石錘、o b-RF(1)
須恵質土器	鉢(東播系Ⅲ-1、産地不明-擂り目有)、甕
瓦質土器	鉢、火鉢B Ⅰa、火鉢(脚)、鉢×火舎、破片(大形品)
国産陶器	壺(瓷焼)、甕(東海系)
白磁	椀；V-1×甕-2(1)、V-4×甕-1・3(3)、V-b(2)、V-4(1) V-4d？(1)、甕(1)、IX(5)、X-b(1)、破片(11)
	皿；甕×甕(2)、甕(2)、IX(8)、IX-1(4)、IX-1a(1)、IX-1b(1)
	壺他；壺×水注Ⅲ系(3)、破片(6)
青白磁	椀(1)、梅瓶(1)、壺×水注(1)
中国陶器	壺；壺Ⅳ(1)、耳壺Ⅵ(1)、耳壺D(1)、壺×耳壺(5)、壺×耳壺A-2(1) 水注×壺A-2(1)、耳壺×水注A-2(5)、壺B(1)、壺×耳壺B(6) 壺×水注B(1)、壺×耳壺×水注B(2)、耳壺×甕B(1) 耳壺×甕D(3)
	他器種；盤Ⅰ(9)、盤Ⅰ-2(1)、盤C-1(2)、蕃南三彩盤？(2) 水注V(2)、椀C-1(1)、皿B(3)、A-2(3)、B(1) D-3(4)
銭貨	元豊通寶(1)
金属製品	鉄釘
土製品	円盤状土製品、焼土塊

大宰府条坊跡第233次調査　出土遺物一覧表（5）

※陶磁器分類の後の（　）は破片点数

S-37暗褐色土

須恵器	供膳具、甕
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト>ヘラ)、甕
瓦器	椀
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(1)、Ⅰ-6(1)
白磁	椀；Ⅴ(1)、破片(2)
	壺他；合子身(1)、破片(5)
中国陶器	壺；壺×水注A-2(1)
	他器種；盤Ⅰ(1)
金属製品	鉱滓

S-38暗褐色土

土師器	破片
石製品	ｏｂ-F(3)
縄文土器	破片(粗製、精製)

S-40黒色土

須恵器	供膳具、甕、貯蔵具(カキ目)
土師器	坏a(ヘラ)、椀c、煮炊具
黒色土器A	破片
黒色土器B	破片
越州窯系青磁	鉢他；坏×椀Ⅰ(輪花)(2)、破片(5)
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(格子叩、文字Ⅱ-3)
白磁	壺他；破片(1)

S-41暗褐色土

土師器	供膳具、煮炊具

S-43暗灰褐色土

龍泉窯系青磁	椀；Ⅱ-b(1)

S-44暗褐色土

須恵器	甕
土師器	供膳具
肥前系陶磁器	染付磁器碗蓋(明治)

S-45黒褐色土

土師器	坏a(イト)
龍泉窯系青磁	椀；Ⅱ(1)
同安窯系青磁	椀；Ⅰ-1c(1)
土師質土器	鉢
須恵質土器	鉢(東播系)

S-45黒灰色土

須恵器	甕
土師器	坏a(イト)、大椀c、小皿a(ヘラ<イト)、甕b
黒色土器A	供膳具
瓦器	供膳具
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(2)、Ⅱ(1)、Ⅱ-b(2)、破片(1)
	他器種；破片(1)
同安窯系青磁	皿；Ⅰ-2(1)、破片(1)
瓦類	丸瓦、破片(格子叩)
石製品	平玉石(黒)
須恵質土器	鉢、甕
国産陶器	甕(1)
白磁	椀；破片(1)
	皿；Ⅷ-2ｂ(1)
中国陶器	鉢；Ⅰ-2ａ(1)
	他器種；C(1)
土製品	円盤状製品

S-45黄灰色砂

土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)
金属製品	用途不明金具(銅製)

S-45暗褐色土

須恵器	坏c1、蓋3、甕
土師器	坏a(イト)、椀c、小皿a(イト、油煙)、甕a、把手
黒色土器A	椀c
黒色土器B	供膳具
瓦器	椀c
越州窯系青磁	褐釉；壺×水注(1)
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(9)、Ⅰ-1a(1)、Ⅰ-4(1)、Ⅱ(6)、Ⅱ-a(3)、Ⅱ-b(2)
	破片(8)、Ⅱ?(1)
	皿；破片(1)
	他器種；破片(5)
同安窯系青磁	椀；Ⅰ-1b(2)、破片(1)
	皿；Ⅰ(6)、Ⅰ-2(2)、Ⅰ-2a(1)
瓦類	丸瓦(格子叩Ⅰ-Cｂ)、平瓦(格子叩Ⅰ-Cｃ)
石製品	滑石破片、ｏｂ-F(3)
土師質土器	鉢、鍋A
須恵質土器	鉢、鉢(東播系)
瓦質土器	破片
白磁	椀；Ⅳ(4)、Ⅴ-1×Ⅷ-2(1)、Ⅴ-4×Ⅷ-1・3(2)、破片(3)
	壺他；壺×水注(3)、破片(3)
青白磁	合子身(1)、破片(2)
中国陶器	壺；壺×耳壺B(4)
	鉢；Ⅰ(2)、Ⅰ-2(3)、Ⅰ-2b(2)
	他器種；盤Ⅰ-b(1)、盤Ⅰ-2？(1)、B(8)、C(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器壺(1)、破片(2)
黒釉陶器	壺(1)
金属製品	鉄片
土製品	土錘
その他	木炭

S-45暗灰色土

須恵器	甕
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)、甕a
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	椀；Ⅱ(1)、Ⅱ-b(2)
須恵質土器	甕

白磁	椀；Ⅳ-2(1)
	皿；破片(1)
	壺他；破片(1)
中国陶器	鉢；Ⅰ(1)
	他器種；B(1)

S-45茶色土

土師器	供膳具(イト)
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	椀；Ⅲ-2(1)

S-46暗茶褐色土

須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)

S-48暗褐色土

須恵器	供膳具
土師器	供膳具
黒色土器A	椀c

S-49茶色土

須恵器	甕
土師器	供膳具、煮炊具
黒色土器A	供膳具
黒色土器B	供膳具

S-50暗褐色土

須恵器	供膳具、甕
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)、甕
黒色土器A	椀c
瓦器	椀c
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(1)、Ⅰ-4(1)、Ⅱ-b(6)、破片(3)
	皿；Ⅰ(1)
	他器種；坏Ⅲ-1(3)
同安窯系青磁	椀；Ⅰ(1)、破片(1)
	皿；Ⅰ-b(1)
石製品	紙石×砥
須恵質土器	鉢(東播系)
瓦質土器	鉢AⅡ(片口)
白磁	椀；破片(1)
青白磁	合子身(1)
中国陶器	他器種；盤Ⅰ(1)
金属製品	鉄釘

S-50褐色砂

土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)、小皿b
石製品	すり臼(下臼)
瓦質土器	鉢AⅡc

S-50黄褐色土

須恵器	蓋1
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)、煮炊具
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(1)、Ⅰ-4(1)、Ⅱ(1)、破片(1)
同安窯系青磁	皿；Ⅰ-1a(1)、Ⅰ-1b(1)、破片(1)
白磁	皿；Ⅸ(1)
	壺他；破片(1)
青白磁	破片(1)
中国陶器	他器種；破片(1)
土製品	おはじき

S-52黒褐色土

須恵器	蓋3
土師器	小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	椀；Ⅱ-b(2)
	他器種；破片(1)
須恵質土器	破片
白磁	皿；Ⅹ-b(1)
金属製品	鉄釘

S-53暗褐色土

土師器	供膳具

S-55暗褐色土

須恵器	供膳具、甕
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)、器台、煮炊具
瓦器	椀
龍泉窯系青磁	椀；Ⅱ(1)、Ⅱ-a(2)、Ⅱ-b(5)
	他器種；破片(2)
同安窯系青磁	皿；Ⅰ-2(1)、破片(1)
石製品	基子(黒、緑)
白磁	椀；Ⅳ(1)、Ⅸ(2)、破片(1)
	皿；Ⅸ(1)
	壺他；破片(3)
中国陶器	他器種；皿(1)、盤Ⅰ(1)

S-55褐灰色土

須恵器	坏、甕
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)
瓦器	椀c
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(1)、Ⅱ-b(3)
	他器種；破片(2)
瓦類	丸瓦
石製品	基子(黒)、用途不明滑石製品
白磁	皿；Ⅸ-2(1)
	壺他；破片(3)
中国陶器	他器種；盤Ⅰ(1)

大宰府条坊跡第233次調査　出土遺物一覧表（6）

※陶磁器分類の後の（　）は破片点数

S-55黒褐色土

土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)
石製品	基子(黒)
中国陶器	他器種；盤Ⅰ(1)
土製品	焼土塊

S-55褐色土

須恵器	甕
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)、器台
瓦器	椀c
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(3)、Ⅰ-2(1)、Ⅰ-4(1)、Ⅱ-a(3)、Ⅱ-b(11)
	他器種；坏(2)、破片(5)
同安窯系青磁	皿；Ⅰ(1)、破片(2)
瓦類	丸土
石製品	基子、紙石、滑石製用途不明品
須恵質土器	鉢(東播系)
瓦質土器	火鉢(未分類)
白磁	椀；Ⅸ-1(1)、破片(2)
	皿；Ⅸ(1)、Ⅸ-1(2)、Ⅸ-1a(2)
	壺他；破片(1)
中国陶器	鉢；Ⅰ-1(1)
	他器種；盤Ⅰ-2(2)、B(1)
銭貨	皇宋通寶(1)、大観通寶(1)
金属製品	鉄釘
土製品	おはじき、焼土塊
その他	ガラス製品；小玉

S-55黄褐色土

須恵器	甕
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)
黒色土器B	供膳具
瓦器	椀c
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(2)、Ⅱ(1)、Ⅱ-a(2)、Ⅱ-b(2)、Ⅲ(1)
	皿；Ⅰ(1)
	他器種；破片(2)
瓦類	丸土、破片
石製品	基子(黒)、砥石、滑石破片
土師質土器	鍋Ⅰａ
須恵質土器	破片
灰釉陶器	椀×皿(1)
白磁	椀；Ⅸ(1)、Ⅸ-2ａ(1)、椀×皿Ⅸ(1)
	皿；Ⅸ(1)、Ⅸ-1(2)、Ⅸ-1a(1)、Ⅸ-1b(1)
	壺他；破片(1)
青白磁	小皿(1)
中国陶器	他器種；盤Ⅰ(3)、盤Ⅰ-2(1)
銭貨	紹定通寶(1)
金属製品	鉄釘
土製品	鞴羽口、焼土塊
その他	獣骨(被熱)

S-57暗褐色土

須恵器	甕
土師器	供膳具(イト)
黒色土器A	供膳具
瓦質土器	破片

S-58暗灰褐色土

土師器	椀c

S-59暗褐色土

土師器	破片
製塩土器	焼塩壺
黒色土器A	破片

S-60暗褐色土

須恵器	椀、蓋3、甕
土師器	坏a(イト)、椀c、小皿a(イト)、甕a、甕(角閃石)、鍋、器台脚
黒色土器B	供膳具
瓦器	椀c
瓦質土器	鉢
灰釉陶器	破片(1)
白磁	椀；破片(1)
中国陶器	鉢；Ⅰ-1b(1)
縄文土器	破片
土製品	鞴羽口、焼土塊

S-63黒褐色土

土師器	小皿a(イト)

S-64暗青灰色土

須恵器	壺
土師器	坏a(イト)、椀c、小皿a(イト)、供膳具(イト、油煙)、甕a
瓦器	椀
越州窯系青磁	褐釉；破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩Ⅰ-Aａ)
白磁	椀；Ⅳ-1ａ(1)、Ⅴ-4×Ⅷ-1・3(1)
	壺他；壺Ⅲ系(1)

S-64暗褐色土

須恵器	供膳具、甕
土師器	坏a(イト、油煙)、小皿a(イト)、小皿c、甕
黒色土器A	椀
瓦器	椀c
越州窯系青磁	椀；Ⅰ(2)
瓦類	平瓦
石製品	ｏｂ-F(1)
白磁	皿；破片(2)

S-65ｂ暗赤褐色土

土師器	破片

S-65ｂ褐色土

土師器	破片

S-65ｃ褐色土

須恵器	甕
土師器	供膳具

S-65ｆ暗赤褐色土

土師器	破片

S-65ｆ褐色土

須恵器	供膳具
土師器	破片

S-66暗褐色土

土師器	破片

S-70黒褐色土

須恵器	大椀c、蓋、壺
土師器	坏a(ヘラ)、丸底坏a、椀c、小皿a２(ヘラ)、甕a、甕b、鉢
黒色土器A	供膳具
黒色土器B	椀c、皿c
越州窯系青磁	椀；Ⅰ(2)
瓦類	丸瓦(格子叩Ⅰ-Cｂ)、平瓦(縄目叩、格子叩Ⅱ-A)
石製品	砥石、坏形滑石製品、坏形ミニチュア滑石製品、ｏｂ-F(1)
白磁	椀；破片(1)
中国陶器	甕；破片(4)
	他器種；小盤Ⅰ(1)
土製品	紡面硯(須恵質)

S-71暗褐色土

土師器	破片

S-73暗灰色土

土師器	破片
黒色土器A	破片

S-74暗褐色土

須恵器	破片
土師器	供膳具(イト、油煙)

S-75暗褐色土

須恵器	甕
土師器	坏a(イト)、大坏、椀c、小皿a(イト)、甕a、鍋
黒色土器B	椀
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(1)、Ⅱ-a(1)
	他器種；破片(1)
瓦類	丸瓦、平瓦(格子叩Ⅰ-Aｂ)
石製品	ｏｂ-F(1)
須恵質土器	破片
白磁	皿；Ⅸ-1(1)(混入か)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器(1)
土製品	焼土塊

S-75褐色土

須恵器	甕
土師器	小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ-4(1)
瓦類	破片

S-77暗灰褐色土

須恵器	甕
土師器	小皿a(イト)
黒色土器A	破片
瓦類	破片

S-79暗黄褐色土

土師器	小皿a(イト)
瓦類	破片(格子叩Ⅰ-Cｂ)

S-80暗褐色土

須恵器	供膳具、甕
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)
黒色土器A	破片
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	椀；破片(1)
瓦類	破片
石製品	滑石破片
灰釉陶器	壺？(1)
白磁	壺他；破片(1)
中国陶器	甕；破片(1)

S-80灰褐色土

須恵器	供膳具、甕
土師器	坏a(イト、油煙)、椀c、小皿a(イト)、甕b
黒色土器A	破片(大形品)
黒色土器B	椀c
瓦器	破片
越州窯系青磁	椀；Ⅰ(2)
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(1)、Ⅰ-2(2)、Ⅱ-b(1)
同安窯系青磁	皿；Ⅰ-1b(1)
須恵質土器	鉢(篠窯系)
白磁	椀；Ⅳ(1)、Ⅴ-4×Ⅷ-1・3(1)、Ⅱ系(1)
	皿；Ⅲ-1(1)

S-82暗褐色土

土師器	供膳具(イト)
黒色土器A	破片

S-86黒褐色土

土師器	小皿a(イト)
中国陶器	他器種；盤Ⅰ(1)

S-87灰褐色土

土師器	供膳具

大宰府条坊跡第233次調査　出土遺物一覧表（７）

※陶磁器分類の後の（　）は破片点数

S-88暗灰褐色土

土　師　器	坏a(イト)、大坏a(イト)、小皿a(イト)、甕
黒色土器A	破片
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ-2(1)
瓦　　類	破片(格子叩)
石　製　品	ｏｂ-F(1)
瓦 質 土 器	鉢AⅠ
白　　磁	椀；Ⅴ-1×Ⅷ-2(1)
中 国 陶 器	他器種；盤Ⅰ-b(3)

S-88暗灰色土

土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)

S-89黒褐色土

土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)
黒色土器A	破片

S-90黒褐色土

須　恵　器	供膳具、甕
土　師　器	坏a(イト)、坏c、小皿a(イト)、高坏、甕
黒色土器B	破片
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ-1a(1)、Ⅱ-b(6)、Ⅲ-2(2)
	他器種；破片(1)
瓦　　類	破片
石　製　品	ｏｂ-F(1)
須恵質土器	甕
瓦 質 土 器	鉢
緑 釉 陶 器	椀×皿(京都？)(1)
灰 釉 陶 器	皿(1)
瀬　　戸	破片(1)
白　　磁	椀；Ⅳ(1)
	皿；Ⅴ(1)、Ⅸ-1(2)、Ⅸ-2(1)
中 国 陶 器	甕；破片(1)
金 属 製 品	板状鉄製品
土　製　品	焼土塊
そ　の　他	二枚貝

S-91暗褐色土

土　師　器	供膳具

S-92暗黄褐色土

土　師　器	供膳具

S-93黒褐色土

須　恵　器	破片
土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	椀；Ⅱ-b(1)
瓦　　類	破片
白　　磁	壺他；破片(型成形)(1)

S-94暗褐色土

須　恵　器	甕
土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)

S-95黒褐色土(本層は黒褐色土①と同一層)

土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)

S-95黒褐色土①

土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)
瓦　　器	椀
龍泉窯系青磁	椀；Ⅱ(1)
須恵質土器	鉢(東播系)、甕
青　白　磁	椀；？破片(未分類(内型))(1)
中 国 陶 器	鉢；Ⅰ(1)
銭　　貨	皇宋通寶(1)
金 属 製 品	鉄釘
そ　の　他	木炭

S-95黄灰色土

須　恵　器	甕
土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)
瓦　　器	椀
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(1)、Ⅱ-b(2)
	他器種；鉢(1)
石　製　品	砥石、碁子(黒)
須恵質土器	鉢(東播系Ⅱ-2)
瓦 質 土 器	甕
白　　磁	壺他；耳壺×水注(1)

S-95黒褐色土②

須　恵　器	甕
土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)、脚×把手
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(2)、Ⅱ-b(2)
同安窯系青磁	椀；Ⅰ-1b(1)
	皿；Ⅰ-1b(1)、Ⅰ-2b(1)
瓦　　類	平瓦(無文、須恵質、土師質)
石　製　品	平玉石(白)、滑石製石鍋、滑石製石鍋加工品
須恵質土器	鉢(東播系Ⅱ-2)、鉢
白　　磁	椀；皿(1)
	壺他；破片(1)
青　白　磁	皿(1)
中 国 陶 器	Ⅳ？(1)
	他器種；盤？(1)
金 属 製 品	鉄釘
そ　の　他	木炭

S-95黒褐色土③

須　恵　器	坏a×c、甕
土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	坏；Ⅰ(1)
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(2)、Ⅱ(1)、Ⅱ-b(4)、？破片(1)
須恵質土器	鉢(東播系Ⅱ-2)
瓦 質 土 器	鉢
白　　磁	椀；Ⅸ(2)、破片(3)
	皿；Ⅸ(2)
	壺他；耳壺×水注(1)
青　白　磁	壺(1)
中 国 陶 器	鉢；Ⅰ-2b(1)
	甕；破片(2)
	他器種；盤Ⅰ(1)、盤Ⅰ-b(2)
銭　　貨	皇宋通寶(1)
金 属 製 品	鉄釘、板状鉄片
土　製　品	焼土塊

S-95灰褐色土

龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(1)
石　製　品	ｏｂ-F(1)

S-96茶褐色土

土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)
須恵質土器	鉢(東播系)

S-97暗褐色土

土　師　器	供膳具
瓦　　器	椀

S-98暗褐色土

土　師　器	椀×皿c、供膳具(イト)、煮炊具
瓦　　器	破片

S-99黒褐色土

土　師　器	供膳具

S-101茶褐色土

土　師　器	供膳具(イト)
瓦　　類	破片(格子叩)
土　製　品	焼土塊

S-103褐色土

須　恵　器	供膳具
土　師　器	供膳具(ヘラ)、煮炊具
同安窯系青磁	皿；Ⅰ-1b(1)

S-104褐色土

須　恵　器	蓋、壺、甕
土　師　器	椀c、供膳具(油煙)、甕
黒色土器A	破片
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；Ⅰ(2)
	皿；Ⅰ(1)
瓦　　類	丸瓦
須恵質土器	鉢
緑 釉 陶 器	椀×皿(産地不明)(1)
土　製　品	坩堝？

S-105暗褐色土

須　恵　器	甕、壺
土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)、小皿(イト、コースター状)、大皿a(イト)
	器台、甕、鍋
黒色土器B	供膳具
瓦　　器	破片
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(2)、Ⅰ-1(1)、Ⅰ-2(2)、Ⅰ-4(1)、Ⅱ(2)、Ⅱ-a(3)
	Ⅱ-b(5)、破片(7)
	他器種；破片(1)
同安窯系青磁	椀；Ⅰ-1b(2)
	皿；Ⅰ(1)、Ⅰ-1a(1)、Ⅰ-2b(2)、破片(1)
瓦　　類	丸瓦、平瓦、破片(格子叩)、瓦玉
石　製　品	円板状滑石製品、滑石製用途不明品、碁子、ｏｂ-F(1)
須恵質土器	鉢(東播系)
灰 釉 陶 器	椀(産地不明、S-115灰褐色土と接合)(1)
白　　磁	椀；Ⅴ-1×Ⅷ-2(1)、破片(1)
	壺他；破片(4)
青　白　磁	合子蓋(1)、破片(1)
中 国 陶 器	鉢；Ⅰ-2(1)
	甕；破片(3)
	他器種；盤Ⅰ(4)、盤Ⅰ-b(6)
金 属 製 品	鉄釘
土　製　品	焼土塊

S-105灰褐色土

土　師　器	坏a(イト)、椀c、小皿a(イト)

S-106暗褐色土

須　恵　器	甕
土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ-1b(1)
瓦　　類	平瓦
石　製　品	碁子

S-107褐色土

須　恵　器	甕
土　師　器	椀c
黒色土器A	破片

S-109褐色土

土　師　器	破片

大宰府条坊跡第233次調査　出土遺物一覧表（８）

※陶磁器分類の後の（　）は破片点数

S-110黒褐色土

須　恵　器	供膳具、貯蔵具
土　師　器	坏a(イト、油じみ)、椀c、小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ-2(1)、Ⅱ(1)、Ⅱ-b(3)、Ⅲ-2(2)、破片(1)
同安窯系青磁	皿；破片(1)
須恵質土器	破片
瀬　　戸	瓶子(1)
白　　磁	椀；Ⅸ(1)
	皿；Ⅸ(1)
中 国 陶 器	鉢；Ⅰ(2)
土　製　品	焼土塊

S-111褐色土

土　師　器	椀c
黒色土器B	破片

S-112黒褐色土

土　師　器	供膳具

S-113暗褐色土

土　師　器	供膳具

S-114暗褐色土

須　恵　器	破片
土　師　器	破片
黒色土器B	破片

S-115灰褐色土

須　恵　器	蓋1、蓋c、壺、甕
土　師　器	坏a(ヘラ)、椀c、皿(ヘラ)、皿c、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	鉢他；破片Ⅱ(1)
瓦　　類	平瓦(格子叩Ⅰ-Ａb、Ⅰ-Ｃa)
石　製　品	板状滑石製品
灰 釉 陶 器	椀(産地不明)(1)
白　　磁	皿；Ⅹ1(1)
土　製　品	焼土塊

S-117暗褐色土

土　師　器	丸椀a(ヘラ)、小皿a(イト？)、甕
黒色土器B	供膳具
瓦　　類	丸瓦
石　製　品	ｏｂ-F(1)

S-118黒褐色土

土　師　器	供膳具(イト)

S-120暗灰色土

須　恵　器	坏c、壺
土　師　器	坏a(イト)、椀c、小皿a(イト、白雲母)、鍋、把手、破片(籾殻圧痕)
黒色土器A	供膳具
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(1)、Ⅰ-1(1)、Ⅱ-a(1)、破片(2)
同安窯系青磁	椀；？破片(1)
	皿；Ⅰ-2b(1)
瓦　　類	平瓦(格子叩Ⅰ-Ａa、Ⅰ-Ｃb)、破片(縄目叩)
石　製　品	滑石製石鍋、碁子
須恵質土器	鉢
瓦 質 土 器	鉢
緑 釉 陶 器	皿(京都)(1)
青　白　磁	皿(1)
中 国 陶 器	他器種；盤Ⅰ-b(1)、破片(1)

S-123褐色土

土　師　器	椀c、小皿a(イト)、甕
黒色土器B	皿a

S-124暗褐色土

土　師　器	供膳具
黒色土器A	破片
龍泉窯系青磁	他器種；破片
石　製　品	滑石製品

S-126暗褐色土

須　恵　器	甕
土　師　器	椀c、小皿a(イト)、甕
黒色土器A	破片
黒色土器B	破片
龍泉窯系青磁	他器種；破片(1)
同安窯系青磁	皿；Ⅰ(1)
瓦　　類	丸瓦、平瓦(縄目叩)
白　　磁	椀；Ⅱ系(口縁外反)(1)
	壺他；水注×四耳壺Ⅲ(1)、破片(3)
金 属 製 品	鉄釘
そ　の　他	ガラス製品；小玉

S-127黒褐色土

土　師　器	坏a

S-128黒褐色土

土　師　器	供膳具(イト)
石　製　品	ｏｂ-F(1)

S-131黒褐色土

須　恵　器	供膳具
土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)
黒色土器B	供膳具
龍泉窯系青磁	椀；Ⅱ-a(1)
	他器種；破片(2)
石　製　品	平玉石
須恵質土器	破片

S-132暗赤褐色土

土　師　器	供膳具

S-133暗褐色土

須　恵　器	破片
土　師　器	椀c、甕
黒色土器A	破片

S-134灰褐色土

土　師　器	供膳具(イト)、煮炊具
黒色土器A	椀c
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(1)、破片(1)
瓦　　類	破片
白　　磁	壺他；破片(1)
土　製　品	焼土塊

S-135b暗褐色土

土　師　器	破片

S-135c暗褐色土

土　師　器	破片

S-135d暗褐色土

土　師　器	破片

S-135e暗褐色土

土　師　器	供膳具、甕a、甕b
黒色土器A	破片

S-136暗褐色土

土　師　器	丸底坏、小皿a
黒色土器B	供膳具

S-138暗褐色土

土　師　器	小皿a(イト)

S-139灰褐色土

土　師　器	坏a(イト)

S-140a暗褐色土

土　師　器	破片
黒色土器B	供膳具

S-140b暗褐色土

土　師　器	甕a×鉢

S-140c暗褐色土

土　師　器	皿c

S-140d暗褐色土

土　師　器	供膳具
黒色土器A	破片

S-140e暗褐色土

土　師　器	供膳具

S-140f暗褐色土

土　師　器	供膳具

S-140g暗褐色土

土　師　器	破片
黒色土器B	破片

S-140h暗褐色土

土　師　器	破片

S-141灰褐色土

土　師　器	供膳具

S-142褐色土

土　師　器	破片

S-143灰黄色土

須　恵　器	甕
土　師　器	破片

S-144灰褐色土

土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)

S-145暗褐色土

須　恵　器	供膳具、甕
土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)
瓦　　器	椀
龍泉窯系青磁	椀；破片(2)
同安窯系青磁	皿；破片(1)
白　　磁	椀；Ⅴ-4×Ⅷ-1・3(1)
	壺他；壺×水注皿系(1)、破片(1)
中 国 陶 器	他器種；破片(1)

S-146暗灰色土

土　師　器	小皿a(イト)

S-149褐色土

土　師　器	小皿a(イト)

S-151暗褐色土

土　師　器	供膳具

S-152暗褐色土

土　師　器	供膳具

S-153暗褐色土

土　師　器	供膳具

S-154褐灰色土

土　師　器	坏a(イト)
須恵質土器	鉢(東播系)

S-155a黒褐色土

土　師　器	破片

S-155b黒褐色土

須　恵　器	貯蔵具

大宰府条坊跡第233次調査　出土遺物一覧表（9）

※陶磁器分類の後の(　)は破片点数

S-156灰色土

土　師　器	供膳具
瓦　　器	椀
白　　磁	椀；Ⅵ(1)

S-157灰褐色土

土　師　器	供膳具

S-158灰色土

土　師　器	破片

S-159灰色土

土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)

S-162暗褐色土

土　師　器	小皿a(イト)
瓦　　類	破片(格子叩Ⅰ)

S-166黒褐色土

須　恵　器	破片
製 塩 土 器	坏a(イト)、小皿a(イト)、煮炊具
龍泉窯系青磁	椀；Ⅱ-b(1)
瓦　　類	破片(格子叩Ⅰ)、瓦玉
中 国 陶 器	鉢；Ⅲ(1)

S-167暗褐色土

土　師　器	供膳具、煮炊具
白　　磁	壺他；壺Ⅲ系(1)

S-168黒褐色土

土　師　器	供膳具(イト)

S-171暗褐色土

土　師　器	供膳具

S-172茶色土

土　師　器	供膳具、甕
黒色土器A	破片
緑 釉 陶 器	椀×皿(産地不明)(1)

S-173黒褐色土

土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)
中 国 陶 器	他器種；盤Ⅰ(1)

S-174黒褐色土

土　師　器	小皿a(イト？)

S-177暗褐色土

土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)、甕
黒色土器A	破片
瓦　　器	供膳具
龍泉窯系青磁	他器種；破片(1)

S-178黒褐色土

須　恵　器	供膳具
土　師　器	供膳具

S-181褐色土

土　師　器	供膳具(イト？)、煮炊具

S-188黒褐色土

須恵質土器	甕

S-193暗褐色土

土　師　器	破片

S-202暗褐色土

土　師　器	供膳具

S-204暗褐色土

須　恵　器	甕×壺
土　師　器	供膳具

S-207暗褐色土

土　師　器	破片

S-211暗褐色土

須　恵　器	壺

S-213暗褐色土

土　師　器	供膳具

S-219暗褐色土

土　師　器	破片

S-221暗褐色土

土　師　器	破片
黒色土器A	破片

S-222暗褐色土

須　恵　器	甕
土　師　器	供膳具(ヘラ、イト)

TP1褐色土

須　恵　器	坏c4、蓋3、甕
土　師　器	坏a、椀c、皿a(ヘラ)、供膳具(ヘラ、イト)、甕a、甕b(角閃石)
黒色土器A	破片
黒色土器B	破片
石　製　品	ob-F(1)
縄 文 土 器	?破片

TP2褐色土

須　恵　器	小壺、甕
土　師　器	供膳具、煮炊具
瓦　　類	丸瓦(格子叩Ⅰ)
石　製　品	ob-F(2)
縄 文 土 器	破片

TP3暗褐色砂

土　師　器	破片
黒色土器A	破片

2号トレンチ

須　恵　器	供膳具、甕
土　師　器	供膳具(イト)
瓦　　類	平瓦(縄目叩)
縄 文 土 器	粗製鉢、精製鉢
そ　の　他	凝灰岩

暗灰色土

須　恵　器	坏c、甕
土　師　器	坏a(ヘラ、イト)、椀c、小皿a(イト)、甕
黒色土器A	破片
黒色土器B	椀c
瓦　　器	椀
越州窯系青磁	椀；Ⅰ(1)
	鉢他；破片(1)、Ⅱ(1)
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(5)、Ⅰ-2(3)、Ⅰ-6(1)、Ⅱ(3)、Ⅱ-a(1)、Ⅱ-b(8) Ⅲ(2)、破片(4)
	皿；Ⅰ(1)
	他器種；坏Ⅲ(1)、破片(3)
同安窯系青磁	椀；Ⅰ-1b(2)、破片(1)
	皿；Ⅰ(1)、Ⅰ-1a(1)、破片(3)
	他器種；破片(1)
瓦　　類	丸瓦？、平瓦(縄目叩)、平瓦(近世～)、片(現代)、瓦玉
石　製　品	砥石、平玉石(黒)、ob-F(3)
須恵質土器	鉢、鉢(東播系)
瓦 質 土 器	擂鉢(近世？)
肥前系陶磁器	染付磁器椀、皿、仏華瓶、青磁、陶器椀(呉器手、粉引)、壺
国 産 陶 器	破片(瀬戸・美濃)
国 産 磁 器	白磁(近代～)
白　　磁	椀；Ⅴ(1)、Ⅴ-4×Ⅷ-1・3(2)、Ⅷ(2)、破片(4)
	皿；Ⅲ(1)、Ⅳ(2)、Ⅷ-1'(1)、Ⅸ(2)、Ⅸ-1(1)、Ⅸ-2(1)
	壺他；壺×水注(2)、壺×水注Ⅲ系(7)、破片(2)
青　白　磁	椀(1)、梅瓶(1)
中 国 陶 器	壺；壺×耳壺B(1)
	鉢；Ⅰ(2)
	甕；破片(1)
	他器種；盤Ⅰ(4)、小盤Ⅰ-2(1)、水注A-2(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器(2)
金 属 製 品	鉄釘
土　製　品	土玉、柱状土製品、焼土塊
そ　の　他	ガラス製品(おはじき、ボタン？)、石炭

暗褐色土

須　恵　器	蓋3、甕
土　師　器	坏a(ヘラ、イト、油煙)、椀c、小皿a(ヘラ、イト)、小皿b 煮炊具(角閃石)
黒色土器A	供膳具
黒色土器B	破片
瓦　　器	破片
越州窯系青磁	椀；Ⅰ-2aア(1)
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(1)、Ⅰ-2(2)、Ⅰ-4(1)、Ⅰ-4b(1)、Ⅱ(1)、Ⅱ-a(3) Ⅱ-b(10)、Ⅲ-2(1)、破片(2)
	他器種；破片Ⅲ(1)、破片(4)
同安窯系青磁	皿；Ⅰ-2a(1)、破片(4)
	他器種；破片(1)
瓦　　類	破片
石　製　品	平玉石(黒)、滑石製石鍋B、滑石製品、ob-F(2)
土師質土器	鉢
須恵質土器	鉢(東播系)
白　　磁	椀；Ⅳ(1)、Ⅴ-1×Ⅷ-2(1)
	皿；Ⅸ(3)
	壺他；壺×水注Ⅲ系(2)
中 国 陶 器	壺；壺×耳壺B(4)
	鉢；Ⅱ(1)
	甕；破片(2)
	他器種；B(1)、破片(2)
銭　　貨	元□□寶(1)

褐色土

須　恵　器	供膳具
土　師　器	供膳具(ヘラ、油煙)、煮炊具
石　製　品	ob-F(1)
縄 文 土 器	精製鉢

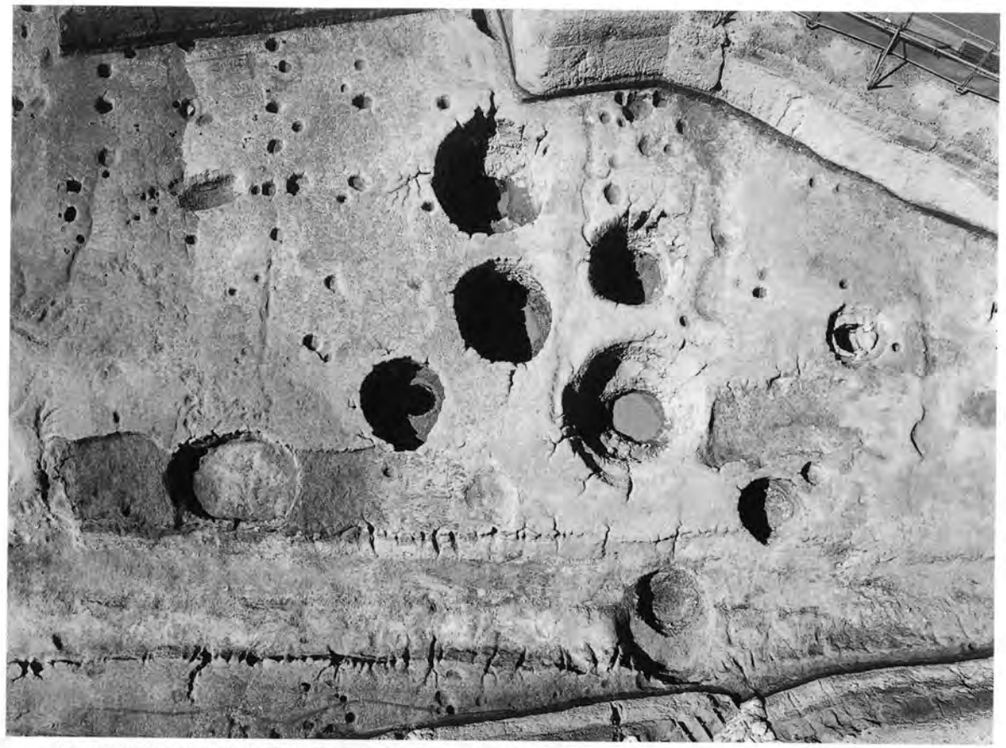
黄褐色土

土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)
瓦　　類	破片
土　製　品	焼土塊

図　版

大宰府条坊跡第233次調査第Ⅰ面全景（写真上が南西）

大宰府条坊跡第233次調査第Ⅰ面全景（写真上が西）



大宰府条坊跡第233次調査第Ⅰ面中央全景（写真上が西）

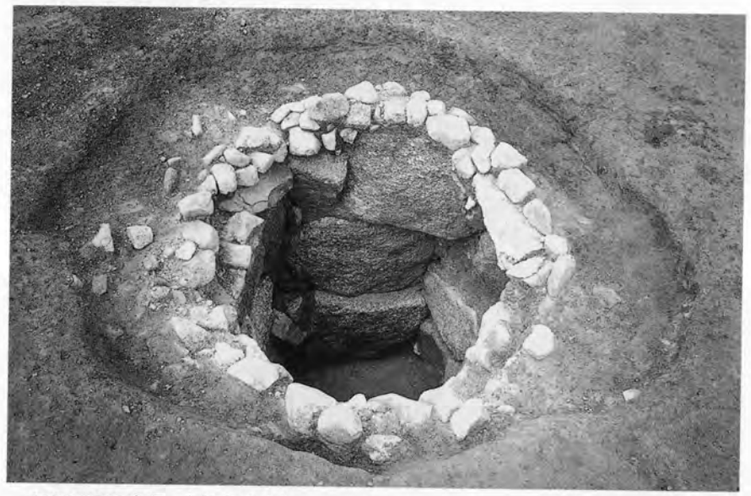
大宰府条坊跡第233次調査第Ⅱ面全景（写真上が西）

233SD005全景（北から）

233SD005遺物出土状態（K１区、北から）

233SD070・115全景（西から）

233SE011全景（東から）



233SE015全景（南東から）

233SE020全景（西から）

233SE020井戸枠詳細（西から）

233SE025全景（東から）

233SE025井戸枠詳細（西から）

233SE035全景（東から）

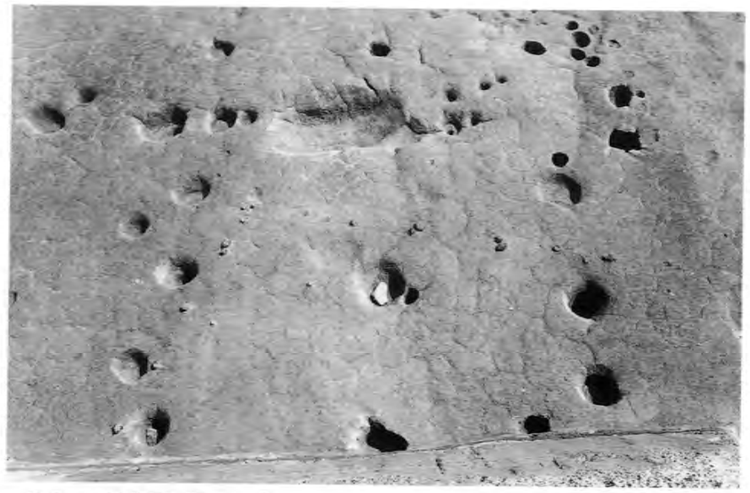
233SE035井戸枠詳細（東から）

233SE045全景（西から）

233SE045井戸枠詳細（南から）

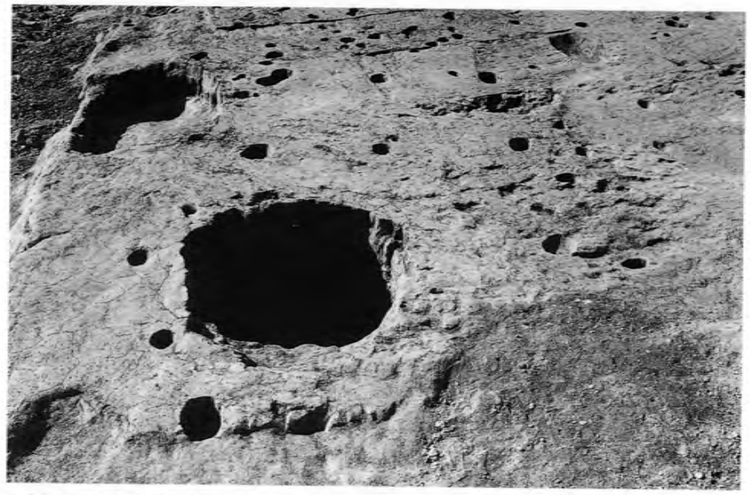
233SE050全景（東から）

233SE050井戸枠詳細（西から）



233SB130全景（西から）

233SB135全景（西から）



233SB140全景（北から）

233SA125・SX126全景（南から）

233SK055遺物出土状態（西から）

233SK095遺物出土状態（南から）

報告書抄録

ふりがな	だざいふじょうぼうあと 31
書名	大宰府条坊跡 31
副書名	第233次調査
シリーズ名	太宰府市の文化財
シリーズ番号	第89集
編著者	北平朗久・香川達郎
編集機関	太宰府市教育委員会・玉川文化財研究所
所在地	太宰府市教育委員会　〒818-0198　福岡県太宰府市観世音寺1-1-1　TEL092-921-2121 玉川文化財研究所　〒221-0822　神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1-8-9　TEL045-321-5565
発行年月日	平成18（2006）年6月20日

ふりがな 所収遺跡名	条坊 【鏡山推定案】	ふりがな 所　在　地	コード		座標		調査期間		調査面積 ㎡	調査原因
			市町村	遺跡番号	X	Y	開始	終了		
大宰府条坊跡 第233次	左郭7条9坊	太宰府市 五条2丁目 2724-30外5筆	402214	210044-233	+56400.0	−43865.0	20040522	20041027	1147.6 （延べ）	共同住宅建設

所収遺跡名	遺跡種別	時代	主要遺構	主要遺物	特記事項
大宰府条坊跡 第233次	官衙	平安時代中期～ 鎌倉時代後期	溝・掘立柱建物・柵列 井戸・土坑・小穴群	須恵器・土師器・黒色土器・瓦器・国産陶器・貿易陶磁器・瓦類・金属製品・石製品・木製品・ガラス製品	平安時代中期～鎌倉時代後期の区画施設および集落を発見

太宰府市の文化財第89集

大宰府条坊跡 31

－第233次調査－

平成18（2006）年6月

発行　太宰府市教育委員会
〒818-0198 福岡県太宰府市観世音寺1－1－1

編集協力　玉川文化財研究所
〒221-0822 神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1－8－9

印刷　株式会社アルファ
〒250-0001 神奈川県小田原市扇町5－25－23